平成31年第1回那珂市議会定例会会議録目次

○招集告示	1
○平成31年第1回那珂市議会定例会会期日程	2
○応招・不応招議員	4

第1号 (3月1日)

○議事日程	5
○本日の会議に付した事件	6
○出席議員	6
○欠席議員	6
○地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者	6
○議会事務局職員	7
○開会及び開議の宣告	8
○諸般の報告	8
○会議録署名議員の指名	10
○会期の決定	10
○施政方針説明	10
○報告第1号～議案第29号の一括上程、説明	21
○茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員一般選挙について	29
○散会の宣告	30

第2号 (3月5日)

○議事日程	31
○本日の会議に付した事件	31
○出席議員	31
○欠席議員	31
○地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者	31
○議会事務局職員	31
○開議の宣告	33
○諸般の報告	33
○一般質問	33

3番 石川 義光 君

未病対策について	34
----------	----

18番 福田 耕四郎 君

市道交差点の改良について	4 0
1 2 番 古 川 洋 一 君	
先崎市長の市政運営について	4 9
成人式について	5 5
ドローンの活用について	5 7
1 6 番 笹 島 猛 君	
市長の政治姿勢について	6 3
那珂市広域避難計画について	7 4
超高齢社会における課題について	8 1
1 3 番 萩 谷 俊 行 君	
スクールバスについて	8 4
ひまわりバスについて	8 8
区域指定について	9 1
○散会の宣告	9 4

第 3 号 (3月6日)

○議事日程	9 7
○本日の会議に付した事件	9 7
○出席議員	9 7
○欠席議員	9 7
○地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者	9 7
○議会事務局職員	9 7
○開議の宣告	9 9
○諸般の報告	9 9
○一般質問	9 9
7 番 花 島 進 君	
原子力安全対策について	1 0 0
市職員などが威圧を受けた時の対応について	1 0 3
国民健康保険について	1 0 4
1 4 番 勝 村 晃 夫 君	
平野、杉本線について	1 0 7
西室家、中道線について	1 0 9
春日川について	1 1 0
8 番 筒 井 かよ子 君	
学童保育について	1 1 4

中央公民館について……………	1 1 6
区域指定制度導入後の状況について……………	1 2 0
空き家バンクについて……………	1 2 1
市内道路の補修工事状況について……………	1 2 2
1 1 番 木 野 広 宣 君	
子育て支援について……………	1 2 5
コミュニティセンターについて……………	1 3 2
5 番 關 守 君	
コミュニティバス及びデマンド交通運行事業について……………	1 3 6
防犯事業について……………	1 3 8
避難行動要支援者支援制度について……………	1 3 9
ごみ啓発等推進事業について……………	1 4 1
空き家バンクリフォーム助成事業について……………	1 4 2
かわまちづくり支援制度活用事業について……………	1 4 4
多面的機能支払い交付金制度及び遊休農地、耕作放棄地の現状について……………	1 4 6
青少年相談員設置事業について……………	1 4 8
1 番 小 泉 周 司 君	
那珂市の公共交通について……………	1 5 0
那珂市のシティプロモーションについて……………	1 6 3
○散会の宣告……………	1 7 0

第 4 号 (3月7日)

○議事日程……………	1 7 1
○本日の会議に付した事件……………	1 7 2
○出席議員……………	1 7 2
○欠席議員……………	1 7 2
○地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者……………	1 7 2
○議会事務局職員……………	1 7 3
○開議の宣告……………	1 7 4
○諸般の報告……………	1 7 4
○一般質問……………	1 7 4
9 番 寺 門 厚 君	
市長の施政方針について……………	1 7 5
県議会議員及び市議会議員補欠選挙結果について……………	1 8 2
公用車両のドライブレコーダーの管理運営について……………	1 8 8

6番 富山 豪 君

防災無線デジタル化の進捗状況について	192
買い物弱者の対策について	194
有害鳥獣捕獲の現状と今後について	198
○議案等の質疑	204
○議案等の委員会付託	204
○請願・陳情の委員会付託	205
○散会の宣告	205

第 5 号 (3月20日)

○議事日程	207
○本日の会議に付した事件	208
○出席議員	208
○欠席議員	208
○地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者	208
○議会事務局職員	209
○開議の宣告	210
○諸般の報告	210
○議案第1号～議案第29号、請願第1号及び請願第2号の各委員会審査報告、 質疑、討論、採決	210
○報告第2号の上程、説明、質疑	219
○議案第30号の上程、説明、質疑、討論、採決	220
○議案第31号の上程、説明、質疑、採決	221
○議案第32号の上程、説明、質疑、採決	222
○議案第33号の上程、説明、質疑、採決	223
○議案第34号の上程、説明、質疑、採決	223
○委員会の閉会中の継続調査申出について	225
○閉会の宣告	225
○署名議員	227

那珂市告示第 1 1 号

平成 3 1 年第 1 回那珂市議会定例会を下記のとおり招集する。

平成 3 1 年 2 月 2 2 日

那珂市長 先 崎 光

記

1. 期 日 平成 3 1 年 3 月 1 日 (金)

2. 場 所 那珂市議会議場

平成31年第1回那珂市議会定例会会期日程

(会期20日間)

日次	月日	曜	開議時刻	区分	摘要
第1日	3月1日	金	午前10時	本会議	1. 開会 2. 諸般の報告 3. 会議録署名議員の指名 4. 会期の決定 5. 施政方針説明 6. 議案等の上程説明 7. 茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員一般選挙
第2日	3月2日	土		休会	
第3日	3月3日	日		休会	
第4日	3月4日	月		休会	(議案調査) (議案質疑通告締切、正午まで)
第5日	3月5日	火	午前10時	本会議	1. 一般質問
第6日	3月6日	水	午前10時	本会議	1. 一般質問
第7日	3月7日	木	午前10時	本会議	1. 一般質問 2. 議案質疑 3. 議案の委員会付託 4. 請願・陳情の委員会付託
第8日	3月8日	金	午前10時	委員会	1. 総務生活常任委員会
第9日	3月9日	土		休会	
第10日	3月10日	日		休会	
第11日	3月11日	月	午前10時	委員会	1. 産業建設常任委員会
第12日	3月12日	火	午前10時	委員会	1. 教育厚生常任委員会
第13日	3月13日	水	午前10時	委員会	1. 原子力安全対策常任委員会
第14日	3月14日	木		休会	(議事整理)
第15日	3月15日	金		休会	(議事整理)
第16日	3月16日	土		休会	
第17日	3月17日	日		休会	
第18日	3月18日	月		休会	(議事整理)
第19日	3月19日	火	午前9時30分	委員会	1. 議会運営委員会 (次期定例会会期日程案)

日 次	月 日	曜	開 議 時 刻	区 分	摘 要
			午前10時	全 員 協 議 会	1. 全員協議会 (討論通告締切、正午まで) (追加議案の質疑・討論通告締切は 午後5時まで)
第20日	3月20日	水	午前10時	本会議	1. 委員長報告及び質疑・討論・採決 2. 閉 会

○応招・不応招議員

応招議員（18名）

1番	小泉周司君	2番	小池正夫君
3番	石川義光君	4番	君嶋寿男君
5番	關守君	6番	富山豪君
7番	花島進君	8番	筒井かよ子君
9番	寺門厚君	10番	綿引孝光君
11番	木野広宣君	12番	古川洋一君
13番	萩谷俊行君	14番	勝村晃夫君
15番	中崎政長君	16番	笹島猛君
17番	助川則夫君	18番	福田耕四郎君

不応招議員（なし）

平成31年第1回定例会

那珂市議会会議録

第1号（3月1日）

平成31年第1回那珂市議会定例会

議事日程(第1号)

平成31年3月1日(金曜日)

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 施政方針説明
- 日程第 4 議案等の上程説明
- 報告第 1号 専決処分について(損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定)
- 議案第 1号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 2号 那珂市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 3号 那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 4号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 5号 那珂市指定地域密着型サービスの事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第 6号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 7号 那珂市特別会計設置条例の一部を改正する条例
- 議案第 8号 那珂市地区体育館の設置及び管理に関する条例
- 議案第 9号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第7号)
- 議案第10号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第8号)
- 議案第11号 平成30年度那珂市国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第4号)
- 議案第12号 平成30年度那珂市下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第13号 平成30年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第14号 平成30年度那珂市介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第3号)
- 議案第15号 平成30年度那珂市上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第16号 平成30年度那珂市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- 議案第17号 平成31年度那珂市一般会計予算

- 議案第18号 平成31年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）予算
 議案第19号 平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算
 議案第20号 平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算
 議案第21号 平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算
 議案第22号 平成31年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算
 議案第23号 平成31年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算
 議案第24号 平成31年度那珂市水道事業会計予算
 議案第25号 公の施設の広域利用に関する協議について
 議案第26号 損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について
 議案第27号 土地売買契約の一部を変更することについて
 議案第28号 市道路線の認定について
 議案第29号 市道路線の変更について

日程第 5 選挙第 1号 茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員一般選挙

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（18名）

1番	小 泉 周 司 君	2番	小 池 正 夫 君
3番	石 川 義 光 君	4番	君 嶋 寿 男 君
5番	關 守 君	6番	富 山 豪 君
7番	花 島 進 君	8番	筒 井 かよ子 君
9番	寺 門 厚 君	10番	綿 引 孝 光 君
11番	木 野 広 宣 君	12番	古 川 洋 一 君
13番	萩 谷 俊 行 君	14番	勝 村 晃 夫 君
15番	中 崎 政 長 君	16番	笹 島 猛 君
17番	助 川 則 夫 君	18番	福 田 耕四郎 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者

市 長	先 崎 光 君	副 市 長	宮 本 俊 美 君
教 育 長	大 縄 久 雄 君	企 画 部 長	今 泉 達 夫 君
総 務 部 長	川 田 俊 昭 君	市 民 生 活 部 長	小 橋 洋 司 君
保 健 福 祉 部 長	加 藤 裕 一 君	産 業 部 長	篠 原 英 二 君

建設部長	玉川秀利君	上下水道部長	中庭康史君
教育部長	高橋秀貴君	消防長	飛田裕二君
会計管理者	小澤祐一君	行財政改革 推進室長	平松良一君
農業委員会 事務局長	根本実君	総務課長	渡邊荘一君

議会事務局職員

事務局長	寺山修一君	書記	小田部信人君
書記	小泉隼君		

開会 午前10時00分

◎開会及び開議の宣告

○議長（君嶋寿男君） おはようございます。

ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、ただいまより平成31年第1回那珂市議会定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

傍聴者の皆様に申し上げます。会議中は静粛にお願いをいたします。

また、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードにしてくださいようお願いをいたします。

また、拍手等についてもご遠慮くださいますようお願いをいたします。

ご協力よろしく願いいたします。

◎諸般の報告

○議長（君嶋寿男君） 議案等説明のため、地方自治法第121条第1項の規定に基づき、別紙出席者名簿のとおり、市長、副市長、教育長ほか関係職員の出席を求めています。

職務のため、議会事務局より事務局職員が出席をしております。

本日の議事日程及び閉会中の議長職務執行報告を、別紙のとおりお手元に配付しております。

市長から行政概要報告が別紙のとおり提出されておりますので、ご報告いたします。

監査委員から平成30年11月、12月、平成31年1月、2月分の例月現金出納検査の結果について、報告書が別紙写しのとおり提出されておりますので、ご報告いたします。

会議に先立ちまして、市長の所信表明についてこれを許します。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 平成31年第1回那珂市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集賜り厚く御礼申し上げます。

ただいま議長に発言のお許しをいただきましたので、開会に当たり、市長就任のご挨拶と私の市政運営に対する所信を申し述べさせていただきます。

まずはじめに、2期8年間にわたり市政発展のためにご尽力されました海野 徹前市長のご苦勞とご功績に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。本当にご苦勞さまでした。

また、市議会議員補欠選挙において当選されました小泉周司議員、小池正夫議員、石川義光議員、關 守議員に心からお祝いを申し上げます。

君嶋議長を先頭に新たな議員を加えた議会と執行部が切磋琢磨し、那珂市の市勢進展と市民生活のさらなる向上を目指してまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、私の決意を申し上げます。

私は、このたび、無投票という形での市長就任となりました。

そして、本日市長としてこの場に立ったことで、課せられました職責の重大さに改めて身の引き締まる思いであり、市民の皆様の負託に応えるべく、那珂市のさらなる発展に向け、全力を尽くす決意でございます。

私は、平成14年に旧瓜連町の町議会議員に初当選し、平成17年には那珂市議会議員となつてから平成22年10月まで町政・市政に携わつてまいりました。平成23年には茨城県議会議員に初当選し、2期8年にわたり、那珂市と茨城県をつなぐパイプ役として、那珂市の発展に微力ながら尽くしてまいりました。

県政に携わり、県内をくまなく歩き見てきたからこそ、ほかの地域と比べた際に、まだその地の利を活かしきれていない、那珂市の高い潜在能力、まだまだ伸びしろがたくさんあると感じております。

那珂市は、平坦な土地が多く、気候も温暖で災害が少なく、農産物も大変豊富です。道路や交通機関も発達しており、人々の移動や物流も利便性が高くなっています。スーパーや飲食店も豊富で、病院や学校も整っています。また、東洋経済新報社の住みよさランキングでも県内5位という、データの的にも非常に住みやすいまちという評価をいただいています。

発展を続ける常陸那珂港、東海地区の後背地に当たり、県都水戸市とも隣接しています。そういった立ち位置をもっと活かすことにより、活力あるまちになっていくと信じております。

私は、今回の選挙に当たり、6つの柱による公約を掲げました。

6つの柱とは、「健康づくり」「安心安全づくり」「産業・観光の拠点づくり」「教育文化づくり」「発展の基盤づくり」「責任ある行政づくり」です。

子育て支援の充実や市を支える人材の育成、産業振興をはかり、地域経済を強化していかなければなりません。

地域経済を強化することは、市の財源を潤すことにつながり、財源の裏付けがあつてこそ、さまざまな施策を実現することができ、活力あるまちづくりにつながると考えています。

先日、各部から懸案事項の説明を受けました。急速な少子高齢化というこれまでに経験しなかった大きな課題に直面している中で、さまざまな改善に向け、各種施策に取り組みしておりますが、まだまだ課題がたくさん残っていることを再認識しました。課題解決のためには、ただ単に経費をかけるということだけではなく、知恵を出し合い、汗をかくことにより

改善できるものもあるのではないかと考えています。

まずは、腰を据えじっくり構え、各種施策を自分の目でも確認しながら積極的に一つひとつ丁寧に取り組み、選挙において掲げた「活力ある那珂市へ、育てよう地域の夢・未来」の実現に向け、鋭意努力してまいります。

「夢なき者に成功なし」は、幕末の思想家、吉田松陰先生の言葉ですが、皆様とともに那珂市の夢を追い求めてまいりたいと思っております。

市議会議員各位並びに市民の皆様におかれましては、格別のご理解とご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、私の市長就任に当たりましての所信表明といたします。

ご清聴ありがとうございました。

◎会議録署名議員の指名

○議長（君嶋寿男君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、1番、小泉周司議員、2番、小池正夫議員を指名いたします。

◎会期の決定

○議長（君嶋寿男君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は本日から3月20日までの20日間にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、今期定例会の会期は、本日から3月20日までの20日間に決定をいたしました。

なお、会期中の審議日程等については、議会運営委員会寺門 厚委員長から同委員会の決定事項として報告されております。その決定事項にしたがった会期日程表を配付しております。

◎施政方針説明

○議長（君嶋寿男君） 日程第3、平成31年度施政方針について市長より説明を願います。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 平成31年度那珂市一般会計をはじめ、各種特別会計及び水道事業会計の当初予算のご審議をお願いするに当たり、市政運営の基本方針と新年度における主要な施策の概要を申し上げ、議員各位をはじめ市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

さて、安倍内閣は年頭所感において、最大の課題である少子化対策として、この秋から幼児教育無償化をスタートすることにより、未来を担う子供たちに大胆に投資する方針を示しました。

このような中、本市におきましては来月、ひまわり幼稚園が開園します。現在、市内にある5つの市立幼稚園は建物の老朽化が進み、さらに園児数が減少していることから、1カ所に統合することにより、集団教育の充実を図るとともに、子供たちがのびのびと元気に育つ幼児教育環境を提供してまいります。

さらに、「第2次那珂市総合計画」に掲げた市の将来像「人と地域が輝く 安心・安全な住みよいまち 那珂」及び3つの基本理念である「すべての人が安心して住み続けられるまち」「共に助け合い支え合う、すべての人にやさしいまち」「すべての人が輝く、賑わいのあるまち」を実現するため、少子高齢化や人口減少など時代の変化に的確に対応するとともに、豊かな自然環境や地理的優位性を生かしながら、産業振興等を通じた地域の活力づくりと本市が持つ「住みよさ」のさらなる向上を図り、将来にわたって持続可能な地域の実現に取り組んでまいります。

そのためにも、私と職員が一丸となり、迅速に課題解決に取り組み、那珂市の発展のため今後も各種施策を展開してまいりたいと考えておりますので、議員の皆様におかれましては、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

以上、市政運営の基本的な考え方について申し上げます。

次に、平成31年度予算でございます。

今定例会に提出する平成31年度当初予算であります。これまで市が進めてきた施策や事業などの重要性、行政の継続性を尊重し編成をしました。

私が考える施策や思いにつきましては、今後、時機を見ながら、補正予算も視野に入れた上で、反映させることができると考えております。

それでは、当初予算の概要について申し上げます。

歳入では、根幹である市税については、国の経済対策により緩やかな回復が続くことが期待されており、増収が見込まれております。

一方、歳出につきましては、増加の一途をたどる扶助費に加え、各種事業に係る委託料や防災設備の整備費などが大きく占める中、市道の改良、補修や社会基盤の整備、さらには移住、定住事業の必要性を踏まえ、また本年度開催される国体関連経費を計上する中、徹底した経費の節減と事務事業の見直しを進め、財源の重点的かつ効率的な配分に努めた予算編成

を行いました。

その結果、一般会計については前年度比5.9%減の195億円、特別会計については、国民健康保険特別会計（事業勘定）が前年度比1.8%減の57億円、下水道事業特別会計は前年度比3.6%減の21億5,000万円、公園墓地事業特別会計が前年度比7.5%増の1,290万円、農業集落排水整備事業特別会計が前年度比1.9%増の11億2,800万円、介護保険特別会計（保険事業勘定）が前年度比0.1%減の46億300万円、後期高齢者医療特別会計が前年度比4.8%増の6億5,100万円となり、上菅谷駅前地区土地区画整備事業特別会計が事業完了により皆減となりました。

水道事業会計につきましては、収益的収入が前年度比0.2%増の11億7,573万9,000円、収益的支出が前年度比3.0%増の10億9,867万8,000円、資本的収入が前年度比15.4%増の8億1,757万円、資本的支出が前年度比2.5%減の12億2,134万8,000円となりました。

次に、重点的に取り組む主要施策の概要につきまして、「第2次那珂市総合計画」に掲げる施策体系に沿って申し上げます。

第1章、みんなで進める住みよいまちづくり。

協働によるまちづくりの推進につきましては、それぞれの地域において、自治会、地区まちづくり委員会及び市民活動団体が取り組んでいる活動を引き続き支援するとともに、まちづくり活動の必要性を市民にご理解いただくため、市民自治組織や市民活動団体に関する情報を広く発信し、まちづくりに多くの市民が参加できるよう、まちづくりリーダー養成講座や協働のまちづくり推進フォーラム等を開催するなど、啓発の機会を提供してまいります。

シティプロモーションの推進につきましては、平成31年度から秘書広聴課に「シティプロモーション推進室」を設置し、本市の魅力である「住みよさ」を市内外に広めて、市の知名度向上や交流人口の拡大、さらには移住定住につなげていくため、「那珂市シティプロモーション行動計画」において掲げた各種施策を全庁的に取り組んでまいります。

さらに、市民が参画したシティプロモーションを展開するため、市が元気になる活動を心から応援してくれる市民や市外の人で組織する「いい那珂暮らし応援団」の活動をさらに充実させていくとともに、SNSによる情報発信力を一層強化し、本市のさらなる知名度アップと活力あるまちづくりを推進してまいります。

また、定住促進として那珂市の暮らしを体験できる「お試し居住」など移住体験の実施や、少子化対策として、結婚を個人の問題ではなく地域全体の問題と捉え、結婚を希望する男女の出会いの場を提供する「ふれあいパーティー開催支援事業」や、結婚や子育て、キャリア形成等も含めた自分の将来について考える一助とする「ライフデザイン形成支援事業」を引き続き実施してまいります。さらには、空き家の売却や賃貸を希望する所有者からの申し込みにより空き家情報を登録し、利用希望者に情報を提供する「空き家バンク」を運用するとともに、空き家等の改修や家財処分の経費の一部を助成し、定住の促進を図ります。

ふるさと大使につきましては、それぞれの仕事や活動の機会を通して、全国各地で本市の

魅力を広めていただいているところであります。市としましても、ふるさと大使の活動を支援するため引き続き各種イベントや市政の情報を積極的に提供するとともに、情報交換会を開催し市政への意見や助言を聴取してまいります。あわせて、本市にゆかりがあり、さまざまな分野で活躍されている方への就任要請に努めます。

広報事業につきましては、広報紙や市ホームページを通してわかりやすい市政情報の提供に努めるとともに、フェイスブックやツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス（SNS）や情報メール一斉配信サービスを活用して積極的、効果的な情報発信を行います。

広聴事業につきましては、開かれた市政の実現を目指し、市民相談室の窓口をはじめ、市民ボックス、電子メール、市ホームページでの問い合わせなど、広く市民の意見、要望の聴取に努めてまいります。

また、市の計画等の立案に当たりましては、引き続きパブリックコメントを実施し、市民の皆様意見を市政運営に反映してまいります。

人権尊重の啓発につきましては、平成31年度に水戸・鹿嶋地域人権啓発活動ネットワーク協議会との共催による「人権啓発講演会」を計画しており、一人ひとりの人権が尊重される社会をつくるため、人権問題についての啓発、教育の推進に取り組んでまいります。また、平和事業につきましては、戦争や平和について学び考える機会を提供するため、原爆や戦争に関するパネル展等を開催します。戦争の悲惨さや平和の尊さは、特に若い世代に語り継ぐことが重要であることから、引き続き学校を通して児童・生徒に周知いたしてまいります。

男女共同参画の推進につきましては、「第2次那珂市男女共同参画プラン」及び「前期実施計画」に基づく事業を実施し、男女が社会の対等なパートナーとして、みずからの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画し、ともに喜びも責任も分かち合い認め合うことができる社会を目指してまいります。

第2章、安全で快適に暮らせるまちづくり。

防災対策につきましては、自主防災組織が結成されている自治会に対し、定期的な防災訓練の実施を呼びかけ組織の運営強化を推進します。さらに、組織及び地域の防災力向上の担い手として、防災士の資格取得及び活動を支援してまいります。

また、未結成の自治会に対しては、引き続き災害に備える重要性について説明し、認識を深めてもらうことにより結成の促進を図ってまいります。さらに、「那珂市地域防災計画」に基づき災害に強いまちづくりを推進するため、食糧や飲料水等非常用食糧の備蓄を進めるとともに、防災行政無線のデジタル化によりの確な情報を確実に住民に伝達し、災害時における市民の安全確保に努めてまいります。

木造住宅の耐震化につきましては、旧耐震基準で建築された住宅（昭和56年5月31日以前着手の木造住宅）を対象に、耐震診断及び耐震改修工事に要する費用の補助を行い、耐震化の促進を図ってまいります。

原子力防災対策につきましては、「那珂市地域防災計画（原子力災害対策編）」に基づき、

防災体制の整備、充実に努めるとともに、広域避難計画の策定に取り組んでまいります。

消防行政につきましては、複雑多様化する各種災害に対応するため、消防車両及び資機材等の更新や整備を行ってまいります。

救急業務につきましては、市民の生活を守るため、救急時の出動態勢を確保するとともに、救急車の適正な利用について周知徹底を図るほか、救急救命講習会等を開催するなど、応急手当の技術及びその重要性の普及啓発に努めてまいります。

また、火災予防につきましては、火災現場から逃げおくれる者が発生しないよう、住宅用火災警報器の設置を促進し、さらに事業所においては、火災の未然防止を図るため特定防火対象物における消防用設備等の設置、消防訓練の実施や避難経路の維持管理等、指導の強化及び防火管理者の育成指導を行ってまいります。

消防団につきましては、地域防災の要として団員一人ひとりの知識と技術を向上し、地域における消防活動の充実を図り、火災時の初期消火、地震、台風等、自然災害時の警戒出場等に備えるとともに防災を呼びかける地域巡回を強化してまいります。

防犯対策につきましては、防犯灯の設置補助など、地域の安全確保に努めてまいります。また、犯罪のない安全・安心なまちづくりへの取り組みとして、警察や防犯協会等と連携した防犯パトロールの充実を図り、地域と一体となった防犯活動を進めてまいります。

消費者行政につきましては、近年、情報化や高齢化の進展により消費者を取り巻く環境が大きく変化し、消費者トラブルも悪質かつ巧妙化しており、これらの消費者問題に適切に対応するため、引き続き消費生活センターにおける相談、あっせん、情報提供を行ってまいります。また、市広報紙やホームページ等により消費者の意識啓発に努め、被害の未然防止を図ってまいります。

交通安全対策につきましては、警察等関係機関との連携により、季節ごとに交通事故防止運動を展開し、高齢者や子供の事故、自転車事故等の未然防止に努めてまいります。また、飲酒運転や夜間の交通事故防止等の広報啓発活動を実施し、交通マナーの向上を図るとともに、高齢者や児童・生徒に重点をおいた交通安全教育を実施してまいります。

環境政策につきましては、地球温暖化の抑制と低炭素社会づくり、循環型のまちづくりを目指した廃棄物の抑制とリサイクルの促進を図るため、市広報紙やホームページを通して啓発を行うとともに、市民や事業者の主体的、自主的な取り組みと連携して地球にやさしい生活環境の保全に努めてまいります。

空き家対策につきましては、「空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、所有者に対し適切に維持管理をするよう働きかけるとともに、空き家等対策協議会で協議し、空き家等の適正管理を推進するための「那珂市空き家等対策計画」を策定してまいります。

市道整備につきましては、地域からの生活道路としての整備要望を踏まえ、継続的に道路の新設や改良、維持補修を実施し、利便性の向上と安全の確保に努めてまいります。

橋梁の維持管理につきましては、新たに策定する「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、本

格的な維持修繕に着手し適正な管理を実施してまいります。

排水路整備事業につきましては、基幹となる両宮排水路整備が完了したことから、さらに細部にわたる排水路の整備を実施し、大雨等による冠水被害を防止し、住環境の向上に努めてまいります。

都市計画道路菅谷市毛線（第3期、延長1,400メートル）につきましては、都市計画道路上宿大木内線交差点までの供用開始に向けて、引き続き整備を進めてまいります。

地域公共交通につきましては、高齢者や障がい者等の日常生活に不便を来している市民の交通手段を確保するため、ひまわりタクシー及びひまわりバスの運行を引き続き実施してまいります。特に、ひまわりタクシーにつきましては、平成31年度から、便数の増及び土曜日の運行、さらには水戸市域に乗り入れるなど、サービスの拡充を図ってまいります。

また、高齢者の交通事故防止のため、運転免許返納者に対してひまわりタクシー及びひまわりバスの共通利用割引券を交付し、引き続き移動手段の確保を図ってまいります。

地籍調査事業につきましては、南酒出（I）地区の登記完了に向けて調査を実施してまいります。

市街地の整備につきましては、下菅谷地区まちづくり事業における街区道路等の整備を地区まちづくり協議会と協議の上、進めてまいります。

上水道事業につきましては、水道水の安定供給を図るため、浄水施設の統合更新及び老朽化した配水管の更新を計画的に行うとともに、災害に備え、耐震化を進めてまいります。また、既存施設を適正に維持管理し、水質検査を定期的に行うとともに、日々浄水過程を監視し、水質の保全に努めてまいります。また、木崎浄水場更新事業につきましては、門部取水場更新工事及び木崎浄水場系送水管、芳野配水場系送水管布設工事を行い、平成34年度の完成に向けて計画的に実施してまいります。

公共下水道事業につきましては、第1次整備優先地区の額田、後台、戸多、中里地区の污水管布設工事を進めてまいります。

農業集落排水整備事業につきましては、平成32年度の供用開始に向けて、酒出地区の污水管布設工事を計画的に進めてまいります。

合併処理浄化槽の設置につきましては、下水道の認可区域以外の区域において、引き続き助成を行ってまいります。

第3章、やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり。

子育て支援につきましては、子育て世帯を対象に実施したニーズ調査の結果をもとに、平成32年度から平成36年度までの5年間を計画期間とする「第2次那珂市子ども・子育て支援計画」の策定に取り組んでまいります。

また、子育ての相談と親子の交流の場である地域子育て支援センターの事業の充実とファミリーサポートセンターの利用促進を図るなど、安心して子供を育てられるよう、社会全体で子育てを支援していく環境づくりに努めてまいります。

さらに、こども発達相談センター「すまいる」において子供の発達に不安や悩みを抱える保護者を支援するため、相談、支援事業を充実させるとともに、関係機関との連携を図ってまいります。

また、家庭児童相談室では、児童虐待への対応やひとり親家庭の相談体制の充実と自立支援のため、引き続き関係機関との連携を図ってまいります。

母子保健につきましては、乳児全戸訪問や妊婦及び乳幼児の健康相談、健康診査により、健やかな成長を支える支援と育児不安の解消に努めるほか、妊婦健康診査の助成に加えて、産婦健康診査や産後ケアの費用助成を行い、産後早期からの支援強化を図り、安心して出産、子育てできる体制を進めてまいります。

また、定期予防接種の接種勧奨を行うとともに、新たに「妊娠を希望する方等への風疹ワクチン」「ロタウイルスワクチン」の費用助成も開始し、任意予防接種の充実を図り、感染症予防と重症化の防止、感染症の蔓延防止に努めてまいります。

不妊治療につきましても、男性不妊治療も含めて助成対象として、県補助金への上乗せを継続し経済的負担の軽減を図り、子供を望む夫婦への環境づくりに引き続き取り組んでまいります。

高齢者福祉につきましては、平成30年度からの「那珂市高齢者保健福祉計画」に基づき、介護のみならず、医療や介護予防、生活支援や住まいなどの支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの充実に向け取り組んでまいります。

また、平成30年4月から活動を開始した認知症初期集中支援チームを中心に高齢者が安心して地域で暮らしていけるよう認知症対策を進めるとともに、在宅医療、介護連携の推進、虐待防止や成年後見制度など権利擁護活動に引き続き取り組んでまいります。

さらに、平成31年度には、市内3圏域ごとに新たに第2層協議体を設置し、社会福祉協議会や地域包括支援センター等の関係機関と緊密に連携を図り、高齢者が住みなれた地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援してまいります。

障がい者福祉につきましては、障がい者プランに基づき、障がいの有無にかかわらず地域の誰もがかけがえのない個人として尊重され、自立と自己決定により社会に参画しながら、地域で安心して暮らしていけるよう、支援を必要とする方に対し適切な福祉サービス等の提供に努めてまいります。

地域福祉につきましては、新たに策定する「第3次那珂市地域福祉計画」に基づき、地域共生社会の実現のため、地域住民や社会福祉事業者をはじめ社会福祉協議会や民生委員、児童委員等の関係機関との連携を深めるとともに、複合的課題に対する包括的な支援体制の整備を図り、「誰もが輝き、やさしさと支え合いで、安心して暮らせるまち」を目指してまいります。

生活保護につきましては、生活保護法に基づき生活保護の適正な認定と支給に努めるとともに、受給者の自立を促すため就労支援等をさらに推進します。また、生活困窮者自立支援

法に基づき、自立支援策の強化を図ってまいります。

国民健康保険につきましては、平成30年度から茨城県との共同運営になり、本年度は制度改正後2年目に入ります。資格の管理、国保税の賦課徴収、医療費の給付、さらには、保健事業として特定健康診査、特定保健指導等の実施など、市民の健康管理と密接な業務を展開し、接続可能な安定した制度の運営に努めてまいります。

後期高齢者医療保険につきましては、茨城県後期高齢者医療広域連合と連携を図りながら、健全な事業の運営に努めてまいります。

また、国保、高齢者医療の財政の健全化を推進するため、生活習慣病の早期発見、早期治療、重症化予防を目的とした特定健康診査、高齢者健康診査の受診率向上が図れるよう未受診者対策に積極的に取り組んでいきます。

さらに、健康に対する意識の高揚を図るため、人間ドック等の助成事業を継続して実施してまいります。

成人保健につきましては、健康寿命の延伸を図ることを目標として、「那珂市健康増進計画」に基づいた事業を進めるとともに、生活習慣病の早期発見のための健診やがん検診等の受診率の向上に努めながら、きめ細かな保健指導を実施し、生活習慣の改善や合併症の発症等の重症化予防に重点を置いた対策を行ってまいります。

また、新たに、人工透析への移行防止のため、かかりつけ医や糖尿病専門医との連携を図りながら、糖尿病性腎症重症化の予防に取り組んでまいります。

成人期以降の歯周病健診につきましては、市歯科医師会の協力のもとで引き続き実施してまいります。

そのほか、水戸市を中心とする茨城県央地域定住自立圏形成協定に基づき、初期救急医療の充実や医師及び看護師等の確保に向けた取り組みを継続して推進してまいります。

第4章、未来を担う人と文化を育むまちづくり。

学校教育につきましては、豊かな心を育む学校教育の充実を図ることを目標に、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「自分らしい生き方や自立」の育成を図ってまいります。

確かな学力を培うため、発達段階に応じた多様な指導方法の活用や、小・中一貫教育指導講師による小学校における教科担任制のほか、障がい児学習指導員の配置により児童・生徒の能力、適性に合わせたきめ細かな指導を行ってまいります。また、英語教育につきましては、次期学習指導要領により小学校における教科化等を踏まえ、小学校にALT（外国語指導助手）を増員配置して授業時数の拡充強化を図るとともに、中学校においてもALTを活用した授業改善を進め、「聞いて、話せる英語力」の育成を推進してまいります。さらに、新たな時代に対応する教育となるプログラミング教育の必修化を見据え、プロジェクト研究等をさらに推進するとともに、日本大学をはじめとした大学機関と連携し、教職員や児童・生徒との学習会や研修会を実施してまいります。

小・中一貫教育につきましては、義務教育の9年間における成長を見通した連続的、系統

的できめ細かな学習指導や生徒指導を4年間実践してまいりました。今後はさらなる学園連携の深化に向け、学びの連続性を意識した授業づくりや生活、文化面での決まりの統一、創意のある小中連携・小中連携の交流実践などに努めてまいります。

幼児教育につきましては、4月に開園するひまわり幼稚園において、幼児期の特性に応じた指導を通して小学校に向けた学習の基礎を築くため、幼稚園教育の一層の充実を図ってまいります。新たな取り組みとしましては、ALTが常駐し、園児が日常の中で自然と外国人、外国語、外国文化に触れ、グローバルな感覚の育成や国際感覚を体感できる環境を提供いたします。また、外部の専門講師による体育指導を導入し、将来の運動能力を左右する基礎運動能力を高め、小学校期の健全な発達につなげてまいります。

いじめ問題につきましては、いじめ防止に向け、いじめ問題対策連絡協議会や生徒指導懇話会等において関係機関との連携を密にし、地域と一体になっていじめ問題の克服に取り組んでまいります。また、学校生活への悩みを持つ児童・生徒のほか、保護者や教職員からの多様な相談に応じるため、教育支援センターの相談、支援機能を生かし、心の教室相談員や心理カウンセラー等、身近な相談体制の充実を図ってまいります。

教育支援センターにつきましては、いじめ問題やさまざまな悩みを持つ子供たちの相談や、教育に関する保護者の相談、登校復帰を目指した子供たちが学べる適応指導教室などの活動を行っておりますが、平成32年度には旧戸多小学校の校舎へ移転し、広く落ち着いた環境の中でさらに支援活動を充実させるため、改修工事を進めてまいります。

社会教育につきましては、引き続き市子供会育成連合会や市文化協会、青少年育成那珂市民会議などの活動を支援してまいります。

また、白鳥学園瓜連小・中学校の「コミュニティ・スクール」におきましては、地域と学校が連携した教育活動を実践し、今後も、きめ細かで特色のある那珂市らしい教育活動の推進に取り組んでまいります。

青少年健全育成につきましては、社会教育委員や青少年相談員等の関係機関と連携、協力し、学習機会の提供や啓発活動を推進するとともに、社会環境づくりと相談体制の充実を図ってまいります。また、地域、家庭、学校が一体となって青少年を育てる意識の高揚を図り、青少年が健やかに育つ環境づくりを推進してまいります。

小学生を対象とした「ふるさと教室」等につきましては、社会性を身につけながらたくましく生きる力を養うため、仲間づくりや郷土の歴史を学び、また自然に触れながらさまざまな体験をする機会を提供し、市の未来を担う青少年の育成に努めてまいります。

市立図書館につきましては、読書の意義や重要性について広く普及、啓発を図るとともに、多様化する市民ニーズに応じた図書館資料を効果的に収集し、学習環境の充実に努めてまいります。また、新たに策定しました「第3次那珂市読書活動推進計画」に基づき、市民が読書になれ親しむ機会の提供及び習慣づくりを推進してまいります。さらに、地域や学校等の関係機関と連携、協力し、子供たちの読書活動を支援してまいります。

中央公民館につきましては、市民の意向を反映した講座の充実や自主事業の積極的な展開等、多様化する市民ニーズに対応するとともに、各地区まちづくり委員会との連携を深めながら市民の生涯学習活動の活性化を図ってまいります。

スポーツの推進につきましては、「那珂市スポーツ振興基本計画」に基づき、競技力の向上や市民の健康増進、スポーツを通じた交流の促進を図ってまいります。また、スポーツ振興の中核を担っている市体育協会や運動習慣がない方に対してスポーツに取り組む機会を提供する総合型地域スポーツクラブ「ひまわりスポーツクラブ」の自主的な活動を支援するとともに、人材の育成、確保に努めてまいります。

スポーツ環境の整備につきましては、市民のニーズに応じた魅力ある教室を開講し、スポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた人材の育成を促進してまいります。また、戸多地区河川敷に「かわまちづくり支援制度」を活用した多目的広場等を整備するほか、旧戸多小学校体育館を地区体育館として整備するなど、スポーツ環境の充実に努めてまいります。

本年度本市で開催する「いきいき茨城ゆめ国体」につきましては、正式競技として県立水戸農業高等学校特設馬術競技場で行われる「馬術」、デモンストレーションスポーツとして那珂総合公園アリーナで行われる「3B体操」となっております。競技会が滞りなく運営できるよう市民や関係団体等との実施体制を強化し、大会成功に向け準備に万全を期してまいります。

歴史遺産・伝統文化につきましては、市民が郷土の歴史や伝統を身近なものと感じられるよう、歴史民俗資料館を拠点に企画展や季節展の充実に努めてまいります。また、市民との協働による額田城跡の計画的な保存管理をはじめ、郷土の歴史遺産と伝統文化を保存、継承するとともに、活用を図ってまいります。

国際交流につきましては、国籍や民族、文化の違いを認め合い、互いを尊重し合いながらともに暮らすことができる多文化共生社会の実現に向け、さまざまな事業を国際交流協会との連携により実施してまいります。また、国際親善姉妹都市であるアメリカ合衆国のオークリッジ市との交流により、国際感覚を養いながら、グローバル社会において日本文化を海外に発信することができる人材の育成に努めてまいります。さらに、欧米に限らず広く外国文化について、学ぶ機会や市民と外国人とが交流する機会の充実を図ってまいります。

友好都市交流につきましては、秋田県横手市との交流をより深めるため、友好都市交流活動支援事業補助制度を活用した市民による自主的な交流を支援してまいります。

また、平成31年度は横手市との友好都市締結15周年に当たるため、両市の友好交流の歩みを振り返るパネル展などを実施してまいります。

第5章、活力あふれる交流と賑わいのまちづくり。

農業振興につきましては、食と農の連携によるアグリビジネスを推進し、消費者のベストパートナーを目指した農業者の意識改革を図るとともに、さまざまな分野の人々と地域資源

との連携の中から新たな価値を生み出す「プラスワンの価値づくり」を目指し、販路拡大のためのPR、消費者との交流促進に努めてまいります。

農地につきましては、農地利用状況の把握と栽培品種の選定の実施や、農業委員会と連携し、農地パトロールによる遊休農地の調査及び指導を行い、農地の適切な保全管理を進めるとともに、農地中間管理事業による農地流動化を促進し農地の集積集約を図ります。

生産基盤の整備につきましては、有ヶ池地区及び芳野地区において県営事業を引き続き実施するとともに、新木崎地区などの水田ほ場再整備や畑地帯総合整備事業による畑地の整備を推進してまいります。また、既存施設の長寿命化や更新を進めながら、多面的機能支払交付金による地域共同活動を支援し、農業生産基盤の適切な保全管理に努めてまいります。

商工業の振興につきましては、商工業の活性化に向けて取り組むとともに、自治・振興金融制度による事業資金の融資支援及び雇用対策としての就職活動の支援、那珂市産業祭の開催、特産品ブランド化推進事業、さらには、企業コーディネーターを配置し、中小企業、小規模事業者からの相談窓口の設置及び支援を行う「よろず相談事業」に引き続き取り組んでまいります。

また、産業競争力強化法による「創業支援事業計画」に基づき、市と民間の事業者が連携を強化し、開業率の向上と雇用の確保を目指してまいります。

企業誘致につきましては、固定資産税の優遇対象となる業種を拡充し、県や関係機関等との連携により一層の誘致活動に取り組んでまいります。

観光振興につきましては、静峰ふるさと公園などの既存施設や、市の歴史、文化、自然、人などの地域資源を生かし、交流人口の拡大を図ります。

また、観光と商業、農業などの地域産業が連携する仕組みをつくることにより、地域経済の活性化を図るほか、市観光協会をはじめ関係機関と協力し、市の魅力や情報を積極的に発信して市のイメージアップに努めてまいります。

第6章、行財政改革の推進による自立したまちづくり。

行政組織については、市民への行政サービスの向上や効率的な行政運営を推進するために、平成32年度組織改編に向けて検討してまいります。

人事評価制度については、公正公平な評価を目指し、面談や業務指導を行いながら、人事管理や職員育成のために適正に運用してまいります。

職員研修につきましては、人材育成と能力開発を目指し、各種研修に参加して、政策形成、行政経営、危機管理など幅広い分野の人材を育成してまいります。また、実務的な面から職員のスキルアップを図るために、他の公共団体への派遣や、被災地の復興支援の派遣を実施してまいります。

臨時職員等については、地方公務員法の改正により、平成32年度から、会計年度任用職員として任用が変更になることから、給与や雇用条件の改善などを検討してまいります。

行財政改革につきましては、新たに策定しました第4次行財政改革大綱に基づき、効率的

な市政運営に向けた取り組みを引き続き進めてまいります。

広域連携につきましては、茨城県央地域全体で必要な生活機能を確認し、圏域への人口定住を促進するため、「茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン」の取組方針に基づき、医療、福祉など各政策分野において引き続き連携を図ってまいります。

市税等につきましては、収納率向上への取り組みを推進し、行財政運営の基盤となる自主財源の確保に努めてまいります。

マイナンバー制度につきましては、情報連携及び「マイナポータル」の運用が開始され、子育てに関する行政手続はオンライン（子育てワンストップサービス）で行うことができるようになりました。「マイナポータル」は行政からのお知らせを発信するための仕組みでもありますので、市民が求めている情報を的確に発信できるよう活用してまいります。

マイナンバーカードの活用につきましては、既に開始されているマイナンバーカードでの住民票の写し等のコンビニ交付に加え、新たに税関係証明書の交付につきましても平成31年からコンビニ交付が開始される予定となっております。今後も、さまざまな分野での利活用が見込まれるため、国等からの情報を収集して安心・安全な利用環境の構築や適切な管理、市独自利用の検討などを進め、マイナンバーカードの普及を図ってまいります。

以上、平成31年度の市政運営に当たっての基本的な考え方と主要施策の概要について申し上げます。地方自治体を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、私が掲げる「活力ある那珂市」の実現に向け、先に述べた各種施策を一つひとつ確実に推進しながら、市民生活において真の豊かさが実感できるよう全力を挙げて取り組んでまいりたい決意であります。

ここに、議員各位をはじめ市民の皆様のより一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○議長（君嶋寿男君） 暫時休憩をいたします。再開を11時とします。

休憩 午前10時51分

再開 午前11時00分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◎報告第1号～議案第29号の一括上程、説明

○議長（君嶋寿男君） 日程第4、報告第1号及び議案第1号から議案第29号まで、以上30

件を一括議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 平成31年第1回那珂市議会定例会提出予定議案の概要について。

平成31年第1回那珂市議会定例会の開会に当たり、提出いたしました議案の概要についてご説明申し上げます。

はじめに報告案件ですが、今定例会に提出いたしました報告案件として、「専決処分について」が1件ございます。

続きまして、概要についてご説明いたします。議案書の1ページをお開き願います。

報告第1号 専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）。

報告理由でございます。

平成30年5月20日に福田地内で発生した走行中に道路上に突出していた側溝のふたに接触し、タイヤ、ホイール、車軸及びステップ部分を損傷した事故、平成30年11月1日にひたちなか市田彦地内で発生した自動車接触事故及び平成30年12月7日に鴻巣地内で発生した自動車追突事故について、賠償額が決定し和解したので、地方自治法第180条第1項の規定により、議会において平成20年議決第3号により指定された事項について、専決処分したので、同条第2項の規定に基づき、議会に報告するものです。

続きまして、議案の概要についてご説明申し上げます。

今定例会に提出いたしました議案でございますが、条例の一部改正が7件、条例の制定が1件、平成30年度各種会計補正予算が8件、平成31年度各種会計予算が8件、その他が5件の計29件でございます。

続きまして、それぞれの概要についてご説明いたします。6ページをお開き願います。

議案第1号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について。

提案理由でございます。

本条例の別表に規定する幼稚園医及び幼稚園歯科医の報酬について、市立ひまわり幼稚園の開園により定員数が増えることに伴う限度額の改正のほか、文言の整理をするものです。

また、保育所医及び保育所歯科医の報酬について、定員数に基づく限度額に修正するものです。

続きまして、10ページをお開き願います。

議案第2号 那珂市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について。

提案理由でございます。

等級別基準職務表中の文言について、運用実態に沿った規定となるよう文言整理を行うも

のです。

続きまして、16ページをお開き願います。

議案第3号 那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例について。
提案理由でございます。

学校教育法の一部を改正する法律の公布に伴い、学校教育法で規定されている「大学等教育施設」の引用条項の変更を行うものであります。

続きまして、20ページをお開き願います。

議案第4号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例について。
提案理由でございます。

第8次地方分権一括法による災害弔慰金の支給等に関する法律の一部を改正する規定が、平成31年4月1日から施行されることに伴い、災害援護資金貸付について、貸付利率、保証人の有無及び償還方法を市が定めることとなったため、市条例を改正し、保証人必置義務を撤廃の上、貸付利率を保証人の有無に連動して無利子または年1.5%に引き下げるとともに、償還方法に半年賦償還及び月賦償還を追加し、被災者の状況に応じた災害援護資金の利用を可能とすることで、被災者の返済負担を軽減し、被災者支援の充実強化を図るものです。

続きまして、25ページをお開き願います。

議案第5号 那珂市指定地域密着型サービスの事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について。

提案理由でございます。

地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律の公布に伴い、市条例において「共生型地域密着型サービスに関する基準」を定める改正を行うものであります。

続きまして、29ページをお開き願います。

議案第6号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例について。

提案理由でございます。

技術士法施行規則第11条表中において、水道環境が上水道及び工業用水道に統合されたことを受け改正を行うものです。

続きまして、33ページをお開き願います。

議案第7号 那珂市特別会計設置条例の一部を改正する条例について。

提案理由でございます。

水戸・勝田都市計画事業上菅谷駅前地区土地区画整理事業の完了に伴い、上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計を閉鎖することから、那珂市特別会計設置条例の一部を改正するものです。

続きまして、37ページをお開き願います。

議案第8号 那珂市地区体育館の設置及び管理に関する条例について。

提案理由でございます。

瓜連体育館に加え、平成31年4月から、新たに戸多体育館（旧戸多小学校体育館）を管理するため、瓜連体育館の設置及び管理に関する条例を廃止し、新たに地区体育館の設置及び管理に関する条例を制定するものであります。

続いて、補正予算書をお開き願います。

議案第9号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第7号）。

提案理由でございます。

予算総額から、歳入歳出それぞれ1億4,590万2,000円を減額し、215億7,394万9,000円とするものです。

歳出については、各事業における契約額、所要額の確定等により事業費を減額するものです。

増額補正をする主な事業は、総務費については、いい那珂暮らし応援子育て世帯住宅取得助成事業において、申請者の見込み増により補助金を、ふれあいセンターよしの管理事業において、設備故障に伴う修繕料をそれぞれ増額するものであります。

民生費については、医療福祉扶助事業において、医療費の増加により扶助費を、民間保育所等児童入所事業において処遇改善等により委託料をそれぞれ増額するものです。

農林水産業費については、経営所得安定対策事務費において、システム改修に対する補助金の追加交付により補助金を増額するものです。

教育費については、小学校及び中学校並びに給食センター施設管理事業において光熱水費をそれぞれ増額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、市税、地方消費税交付金、地方交付税、県支出金、繰越金及び諸収入をそれぞれ増額し、地方譲与税、分担金及び負担金、国庫支出金、繰入金及び市債をそれぞれ減額するものです。

さらに、繰越明許費としまして、ふれあいセンターよしの管理事業ほか11事業において、各事業諸般の理由により、事業費の一部を翌年度に繰り越すものです。

続きまして、議案第10号をお開き願います。

議案第10号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第8号）。

提案理由でございます。

予算総額に、歳入歳出それぞれ996万9,000円を追加し、215億8,391万8,000円とするものです。

歳出の内容として、総務費諸費において、売却処分した土地の契約額の減額変更に伴い、減額分を返還するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、繰入金を増額するものであります。

続きまして、国民健康保険特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第11号 平成30年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第4号）。
提案理由でございます。

予算総額に、歳入歳出それぞれ1億1,034万3,000円を追加し、60億8,911万3,000円とするものです。

歳出の主な内容として、保険給付費については、出産育児一時金において、見込み減により負担金を減額するものです。

支払準備基金積立金については、積立金を増額するものです。

諸支出金については、過年度更正等による還付金額増の見込みにより一般被保険者保険税還付金を増額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、国庫支出金及び繰越金をそれぞれ増額し、国民健康保険税及び繰入金をそれぞれ減額するものです。

続きまして、下水道事業特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第12号 平成30年度那珂市下水道事業特別会計補正予算（第2号）。

提案理由でございます。

予算総額から、歳入歳出それぞれ5,203万3,000円を減額し、21億8,481万7,000円とするものです。

歳出の主な内容として、総務費については、基金積立事業において積立金を、流域下水道維持管理負担金において、汚水処理量の増加により負担金をそれぞれ増額するものです。

下水道建設費については、公共下水道整備事業において、契約額の確定により委託料、工事請負費及び補償金を、那珂久慈流域下水道事業において、額の確定により負担金をそれぞれ減額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、分担金及び負担金及び繰越金をそれぞれ増額し、国庫支出金、県支出金、繰入金及び市債をそれぞれ減額するものです。

さらに、繰越明許費としまして、那珂久慈流域下水道事業において、諸般の理由により、事業費の一部を翌年度に繰り越すものであります。

続きまして、農業集落排水整備事業特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第13号 平成30年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計補正予算（第1号）。

提案理由でございます。

予算総額から、歳入歳出それぞれ3,531万3,000円を減額し、10億7,168万7,000円とするものであります。

歳出の主な内容として、総務費については、基金積立事業において積立金を、農業集落排水処理施設維持管理費において光熱水費を増額するものです。

農業集落排水整備事業費については、農業集落排水整備事業において、契約額の確定により委託料、工事請負費及び補償金を減額するものであります。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、繰越金を増額し、国庫支出金、県支出金及び市債をそれぞれ減額するものです。

続きまして、介護保険特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第14号 平成30年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算（第3号）。

提案理由でございます。

予算総額から、歳入歳出それぞれ8,385万8,000円を減額し、45億8,668万1,000円とするものです。

歳出の主な内容として、保険給付費については、介護サービス給付事業において、給付費の見込み減により負担金を減額するものです。

地域支援事業費については、介護予防、生活支援サービス事業において、給付費の見込み減により負担金を減額するものです。

基金積立金については、介護給付費準備基金積立事業において積立金を増額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、国庫支出金及び繰越金をそれぞれ増額し、保険料、支払基金交付金、県支出金及び繰入金をそれぞれ減額するものです。

続きまして、上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第15号 平成30年度那珂市上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算（第2号）。

提案理由でございます。

予算総額から、歳入歳出それぞれ61万円を減額し、1億439万8,000円とするものです。

歳出の内容として、区画整理事業費において、事業完了に伴い不用額を減額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、繰越金を増額し、繰入金及び諸収入をそれぞれ減額するものです。

続きまして、後期高齢者医療特別会計補正予算書をお開き願います。

議案第16号 平成30年度那珂市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）。

提案理由でございます。

予算総額に、歳入歳出それぞれ473万6,000円を追加し、6億2,573万6,000円とするものです。

歳出の内容として、分担金及び負担金について、広域連合納付金において保険料納付金を増額するものです。

また、歳入については、歳出補正予算との関連において、保険料及び繰越金をそれぞれ増額し、繰入金を減額するものです。

続きまして、平成31年度の各種会計予算についてご説明いたします。

これからご説明いたします議案第17号から議案第23号につきましては、地方自治法の規定に基づき提出するものとなります。

それでは、予算書の3ページをお開き願います。

議案第17号 平成31年度那珂市一般会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市一般会計予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ195億円で、前年度比5.9%の減となっております。

続いて、予算書の183ページをお開き願います。

議案第18号 平成31年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ57億円で、前年度比1.8%の減となっております。

続いて、予算書の211ページをお開き願います。

議案第19号 平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ21億5,000万円で、前年度比3.6%の減となっております。

続いて、予算書の235ページをお開き願います。

議案第20号 平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,290万円で、前年度比7.5%の増となっております。

続いて、予算書の245ページをお開き願います。

議案第21号 平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ11億2,800万円で、前年度比1.9%の増となっております。

続いて、予算書の265ページをお開き願います。

議案第22号 平成31年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ46億300万円で、前年度比0.1%の減となっております。

続いて、予算書の293ページをお開き願います。

議案第23号 平成31年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算を地方自治法第96条第1項第2号の規定に基づき提出するものです。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ6億5,100万円で、前年度比4.8%の増となっております。

続きまして、水道事業会計の予算書をごらん願います。

議案第24号 平成31年度那珂市水道事業会計予算。

提案理由でございます。

平成31年度那珂市水道事業会計予算を地方公営企業法第24条第2項に基づき提出するものです。

続きまして、その他の議案についてご説明いたします。

議案書の44ページをお開き願います。

議案第25号 公の施設の広域利用に関する協議について。

提案理由でございます。

公の施設の広域利用については、県央地域9市町村（那珂市、水戸市、笠間市、ひたちなか市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町及び東海村）において協定を締結し実施しているところではありますが、この度、対象施設の追加、削除に伴い、改めて協議し、協定を締結したいので、地方自治法第244条の3第3項の規定に基づき議会の議決を求めるものであります。

続きまして、53ページをお開き願います。

議案第26号 損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について。

提案理由でございます。

平成29年11月7日に菅谷地内で発生した、自転車を押して歩行中、道路脇の水路に気づかず転落し負傷した事故について、損害賠償請求に関する和解及び損害賠償額を決定するため、地方自治法第96条第1項第12号及び第13号の規定に基づき議会の議決を求めるものであります。

続きまして、55ページをお開き願います。

議案第27号 土地売買契約の一部を変更することについて。

提案理由でございます。

平成29年6月29日に売買契約を締結し、同年8月9日に引き渡した土地において、隠れた瑕疵（地中埋設物）があったことから、買主からの求償に応じ売買価格を減額する必要があるため、地方自治法第96条第1項第8号及び議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

続きまして、57ページをお開き願います。

議案第28号 市道路線の認定について。

提案理由でございます。

道路法第8条第2項の規定に基づき議会の議決を経て、市道路線の認定を行うものです。

続きまして、68ページをお開き願います。

議案第29号 市道路線の変更について。

提案理由でございます。

道路法第10条第3項の規定に基づき議会の議決を経て、市道路線の変更を行うものであります。

以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員一般選挙について

○議長（君嶋寿男君） 日程第5、選挙第1号 茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を行います。

選出する議員は1名であります。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選にいたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認め、よって選挙の方法については、指名推選とすることに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法については、議長において指名することにしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認め、よって指名の方法については、議長において指名することに決定いたしました。

茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員に、筒井かよ子議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました筒井かよ子議員を茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認め、よってただいま指名いたしました筒井かよ子議員が、茨城県後期高齢者医療広域連合議会議員に当選されました。

なお、当選されました筒井かよ子議員が議場におられますので、本席から会議規則第32条第2項の規定により告知いたします。

◎散会の宣告

○議長（君嶋寿男君） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午前11時30分

平成31年第1回定例会

那珂市議会会議録

第2号（3月5日）

平成31年第1回那珂市議会定例会

議事日程(第2号)

平成31年3月5日(火曜日)

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員(18名)

1番	小泉周司君	2番	小池正夫君
3番	石川義光君	4番	君嶋寿男君
5番	關守君	6番	富山豪君
7番	花島進君	8番	筒井かよ子君
9番	寺門厚君	10番	綿引孝光君
11番	木野広宣君	12番	古川洋一君
13番	萩谷俊行君	14番	勝村晃夫君
15番	中崎政長君	16番	笹島猛君
17番	助川則夫君	18番	福田耕四郎君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者

市長	先崎光君	副市長	宮本俊美君
教育長	大縄久雄君	企画部長	今泉達夫君
総務部長	川田俊昭君	市民生活部長	小橋洋司君
保健福祉部長	加藤裕一君	産業部長	篠原英二君
建設部長	玉川秀利君	上下水道部長	中庭康史君
教育部長	高橋秀貴君	消防長	飛田裕二君
会計管理者	小澤祐一君	行財政改革推進室長	平松良一君
農業委員会事務局長	根本実君	総務課長	渡邊荘一君

議会事務局職員

事務局長 寺山修一君 書記 小田部信人君
書 記 小泉隼君

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

○議長（君嶋寿男君） おはようございます。

ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

◎諸般の報告

○議長（君嶋寿男君） 議案等説明のため、地方自治法第121条第1項の規定に基づき議場に出席を求めた者の職氏名は、今期定例会の冒頭に配付した出席者名簿のとおりであります。

職務のため議会事務局より事務局職員が出席しております。

本日の議事日程については、別紙のとおりお手元に配付しております。

◎一般質問

○議長（君嶋寿男君） 日程第1、一般質問を行います。

質問事項については、お手元に配付の一般質問通告書のとおりであります。

質問者の質問時間は1人60分以内となっております。これには答弁の時間を含みます。

これより順次発言を許します。

傍聴者の皆様にお知らせいたします。会期日程の中に一般質問の質問者の順番及び期日を定めました。したがって、今期定例会の一般質問は、本日は通告1番から5番までの議員が行います。あす6日は、通告6番から11番まで、明後日7日は通告12番から13番までの議員が行います。

また、会議中は静粛をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードにして下さるようお願いいたします。また、拍手等についてもご遠慮くださるようお願いいたします。

以上、ご理解のほどよろしくお願いたします。

◇ 石川義光君

○議長（君嶋寿男君） 通告1番、石川義光議員。

質問事項 未病対策について。

石川義光議員、登壇願います。

石川議員。

〔3番 石川義光君 登壇〕

○3番（石川義光君） 議席番号3番、石川義光でございます。

通告に従いまして、未病対策について一般質問を行います。

最近、テレビなどで未病という言葉をよく耳にする機会があります。未病とは、健康と病気との間に位置する概念のことであり、まだ病気になる前なので、自分自身で体を守ることができる状態のことです。私たちが健康で長生きするためには、病気になって治療するのではなく、ふだんの生活において心身の状態を整えて、より健康な状態に近づける、つまり未病を治すことが大切であるということでもあります。

昨年度、厚生労働省が発表した2017年の日本人の平均寿命ですが、女性が87.26歳、男性が81.09歳と、過去最高になっております。現在、日本が世界でも有数の長寿国となっていることは、皆さんもご存じと思います。那珂市でも高齢者といわれる65歳以上の人口は、平成30年4月1日現在で1万6,470人と、総人口の29.9%となっております。将来的には、平均寿命100歳時代の到来に向けて、日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる健康寿命を延ばすことが急務となっており、そこでクローズアップされ始めたのが、今回質問いたします未病対策でございます。市民の皆様にとりましては、健やかに楽しく人生を長く過ごすことが一番の幸せと思いますが、高齢化の進展に伴う医療費や介護保険費の増大は、将来的には市の財政にも大きな影響、大きな負担を与えるものと危惧をしております。

そこで、今回初めての一般質問でございますが、未病対策について、市ではどのような取り組みをしているのか伺うべく、質問をさせていただきます。ぜひとも前向きなご答弁をよろしくお願い申し上げます。

1番、保健医療について質問いたします。

まず、始めに那珂市の医療費の状況について伺います。

現在那珂市では、1年間1人当たりどのくらい医療費の支出があるのでしょうか。国民健康保険、後期高齢者保険、介護保険、それぞれについてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

平成29年度の数字になるわけでございますが、本人負担分を含めた医療費の総額を被保険者1人当たりで算出しますと、国民健康保険が34万4,229円、後期高齢者医療保険が85万7,410円、介護保険が25万5,867円となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 平成29年度の医療費でございますが、平成28年度と比較しますと下がっていますか。それとも現状維持ですか。アップしていますか。お伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） ほぼ横ばいになっていると思っております。

以上でございます。

○3番（石川義光君） また、市では生活習慣病予防対策として、特定健診の受診を推奨しておりますが、その受診率の推移はどのようになっていますか。ここ3年間の受診状況を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

那珂市国民健康保険における40歳から74歳の方を対象にしたものでございますが、そちらの方の特定健康診査の過去3年間の受診率の推移につきましては、平成27年度が38.7%、平成28年度が41.5%、平成29年度が42.3%となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 受診率が年々アップしておりますが、要因は何でしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

健康推進課の保健師や管理栄養士による地道な保健指導の成果だと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 施政方針でも国保、高齢者医療の財政の健全化を維持するため、生活習慣病の早期発見、早期治療、重症化予防を目的とした特定健康診査、高齢者健康診査の受診率向上が図られるように、未受診者対処に積極的に取り組んでいくということですので、大変期待をしております。

それでは、市では健康診断の結果に基づき、生活習慣病の発症予防や重症化予防のために、保健師などによる個別指導を行っていると聞いておりますが、その内容と効果についてお尋ねいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

市では那珂市国民健康保険に加入する特定審査対象者を中心に、健康診査受診後に、発症予防や重症化予防のための特定保健指導と個別保健指導を実施しているところでございます。その内容につきましては、市内を12地区に区分しまして各地区に担当保健師、管理栄養士を配置し、健康診査の結果により、保健師の必要な方の状況にあわせて、保健指導資料を

作成し、受診勧奨や生活習慣改善の相談に応じているところでございます。保健指導の効果につきましては、メタボリックシンドローム該当者450人に対しまして、継続して保健指導を実施できた人数は275人となっており、61.1%と県内で第2位の状況となっております。このような地道な保健指導により、虚血性心疾患や脳血管疾患の患者数は減少傾向にありまして、虚血性心疾患患者数の推移では、平成25年度と平成28年度の比較で45人の減少、脳血管疾患患者数の推移では、同じく50人の減少が見られているところでございます。

なお、平成30年度より新たに那珂市健康増進計画を策定し、健康寿命の延伸を基本理念に掲げ、生活習慣病の発症予防や重症化予防の取り組みを引き続き実施してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 未病対策として、健康で長生きするためのキーワードの一つには、日ごろの食生活にあると思います。そのために、市民の食生活改善についての意識向上や啓発が必要と思いますが、市ではどのような取り組みを行っているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

病気にならないためには、健康的な食習慣の確立が最も重要となりますので、幼少期の子供の保護者に対しまして、母子保健活動における乳児訪問や健康診査等の際に、保護者の方に対しまして管理栄養士等による保健指導を適切に実施しているところでございます。

また、地区組織活動としましては、那珂市食生活改善推進協議会における推進員の養成と活動支援を行っており、現在75名の食生活改善推進委員がライフステージ別に子ども食部会、成人食部会、高齢食部会の3つの部会に分かれまして、マタニティランチや離乳食の試食提供などの啓発活動を展開しているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） すばらしい取り組みをしていることは承知をいたしました。

ところで、マタニティランチとはどのような意味でしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

子供や妊婦等に向けての食だと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 2番の健康づくりについて質問いたします。

市民の未病のための生活習慣病予防体制につきましては、どのような取り組みがなされているかお答えをいただき、おおむね理解ができました。しかし、未病対策については先ほど

の保健医療部分のケアばかりでなく、健康づくり、体力づくりなどが運動面でのケアも重要であり、この2つの施策の連携が健やかな長寿社会を構築する両輪であると考えております。

そこで、市民の健康づくりの観点から、市民が体を動かす機会を提供する環境の整備についてお伺いいたします。

未病対策としては、日ごろから体力づくりが非常に重要であります。高齢者が気楽に体を動かす機会を提供し、健康な体を維持することが、医療や介護など支出の抑制につながり、市民自身にとっても、市の財政にとりましても大きなメリットがあるものと思います。

そこで伺いますが、現在高齢者などが市のスポーツ施設を使用するときに、優遇措置はあるのでしょうか。お答えをお願い申し上げます。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答え申し上げます。

市のスポーツ施設を利用する使用料につきましては、現状では障害者や中学生以下の子供への軽減措置は行っておりますが、高齢者の年齢要件に伴う軽減は行っておりません。

しかしながら、スポーツ施設の利用につきましては、近隣の水戸市、ひたちなか市、東海村など那珂市を含む周辺9自治体におきまして広域利用協定を結んでおり、那珂市にお住まいの方はその施設の所在する自治体の方と使用料などが同じ条件で利用できるなどの連携を図っているところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 近隣自治体と広域利用協定を結んでいるということですが、那珂市民に対して那珂市単独での料金設定は可能でしょうか。お伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

広域利用協定の場合は、その在住の自治体の方と同じ条件ということでございますので、基本的には那珂市単独というよりは同じ条件で利用するということが前提になるかと思えます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 特に優遇措置は設定していないということになりますが、一例として挙げさせていただきますと、例えば市総合公園においてグループで卓球を行う場合、時間帯にもよりますが、卓球台1台当たり400円程度の使用料が発生すると聞いております。仕事を退職され年金生活となった方が、定期的にスポーツを楽しみたい場合には、これも大きな負担になるのが現状であります。高齢者が気軽にスポーツに親しむ環境をつくり、健康維持に努めることは、先ほどもお話ししましたとおり医療費の抑制など、市の財政面でも大きな効果があると考えますが、優遇措置の検討について再度お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

ただいまご質問のありました卓球台の使用料でございますが、那珂総合公園を利用する場合、現在卓球台1台につき、時間帯によりますが300円から400円の使用料をいただいております。施設の維持管理の面からも、利用する方からの受益者負担はある程度必要なものと考えております。市の行財政改革大綱におきましても、貴重な自主財源として各種手数料、使用料は位置づけられているところでございます。

近隣自治体のほうを調べましたところ、使用料を無料にしている自治体は皆無でございましたが、高齢者の割引等の軽減措置を実施している自治体は一部ございました。

議員ご指摘のとおり、スポーツに親しむ等、運動の習慣化による市民への健康増進効果は高いと考えられますので、当市において使用料見直しの際には、今回のご意見等も踏まえて検討してまいりたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） ぜひ前向きに、スピード感を持って課題解決に当たっていただきたいと思っております。

また、瓜連のらぼ一にも機能回復訓練室があり、1回200円で健康器具を使用して体力づくり、健康管理を行える施設があります。こうした施設も完全無料化は難しいと思っておりますが、例えば年齢によるシルバー割引制度などを導入してみてもどうかと思っております。

お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

らぼ一らの機能回復訓練室の料金につきましては、私どもといたしましては利用しやすい料金設定になっていると考えてございます。シルバー割引についてでございますが、今回のご意見等を踏まえまして、検討してまいりたいと思っております。

なお、らぼ一らの機能回復訓練室につきましては、機器の摩耗による劣化が進んでいることもあり、そのあり方について総合的な検討を関係課と進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） 総合的な検討を進めているということですが、どのような検討を進めておられますか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） 先ほど教育部長のほうの答弁にございましたように、シルバー割引等を含めた、あと先ほども答弁させていただきましたが、らぼ一の今後のあり方等について検討をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 石川議員。

○3番（石川義光君） スポーツ施設につきましては、近隣市町村との広域的な利用形態や受益者負担の考え方など、さまざまな事情があることは理解できましたが、やはり市民の未病対策として気軽に施設を利用できる環境をつくることは、何度も申し上げましたとおり、市民にとりましても市にとりましても、大きな意義があるものと考えております。

また、今回質問した未病対策につきましては、保健医療や健康づくりだけでなく、高齢者の生きがいづくりや社会参加などの面も含めて、市全体で取り組むべき大きな課題ではないかと考えております。

市長の所信表明に、那珂市のさらなる発展に向け全力を尽くす決意、そして市民とともに那珂市の夢を追い求めるとあります。また、施政方針で打ち出した、市長と職員が一丸となり迅速に課題解決に取り組むということです。これからも明るく未来あふれる「活力ある那珂市」実現のために、ぜひとも継続しての検討をお願い申し上げます。

私は今回初めての一般質問でしたが、ふなれな質問に対し丁寧にご答弁をいただき、ありがとうございました。

以上で私の質問を終わります。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告1番、石川義光議員の質問を終わります。

◇ 福 田 耕 四 郎 君

○議長（君嶋寿男君） 通告2番、福田耕四郎議員。

質問事項 1. 市道交差点の改良について。

福田耕四郎議員、登壇願います。

福田議員。

〔18番 福田耕四郎君 登壇〕

○18番（福田耕四郎君） 大分花粉で喉、鼻そして目までちょっとおかしいのですが、お聞き苦しい点があるかと思いますが、ご容赦願いたいと思います。

まず、冒頭。先崎新市長におかれましては、このたびの就任心からお祝いを申し上げたい。こういうことで、今年平成31年度ですか、平成最後の当市議会の議会になるかと思えます。そういう歴史的な中で最後の質問をしたいと、こういうふうに思っております。また、今回は道路行政ということで、先崎新市長も公約でうたわれている、特に今回私が質問する通称バードラインあるいは農免道路、いろいろな呼び方がありますがけれども、その中で、市長が出しましたこの公報、これにもやはりバードラインの県道昇格と4車線化の推進ということがうたわれている。

そこで、今回このバードライン、ちょうどこの役所から西のほうに向かって五差路ですか、この辺について順次質問をさせていただくわけでございます。

この質問に入る前でございますが、先崎市長、この地方の行政いわゆる二元代表制ですか、この一元というのは長いキャリアで、瓜連町議はじめ県会と。一時、合併当時、市長とは一緒に議席を並べた、そういう思いが感じられるわけでございます。そういう意味で、一元のほうは本当にいろいろな経験あるいはいろいろなことを学んだということで、これは言うまでもない、こういうふうに思います。ただ、もう一元のほうが今回初めてということで、どうですか。就任されて1カ月弱になりますが、那珂市のこれからのかじ取り役としての抱負を、まず冒頭ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） まず、冒頭にご質問ありがとうございます。

先生おっしゃるように、8年前まで皆さんと一緒にこの場で市の発展について議論をさせていただきました。先輩方も、そして同僚もまだ残っていらっしゃいます。本当にありがたい時間だと思っております。

県に行きまして、茨城県の代表として、あるいは那珂市の代表として一生懸命やってきましたけれども、やはりその礎になったのは、私はこの那珂市議会での貴重な勉強、それが支えになっていたなというふうに思っております。県会議員もいろいろな方がいますけれども、私はその貴重な経験があったからこそ、8年間頑張ってきたなというふうに思います。そういった経験も大事にして、なおかつ私も公約、いろいろところで申し上げてきましたが、那珂市の内と外から見ることができました。この貴重な経験をいかして、県議会で、あるいは皆さんと一緒に地方議会で培ったものを、市発展のために全力を尽くしていきたい、今そのように考えております。今後ともご指導をいただきたい、そういう思いでいっぱいあります。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕二郎君） 大いに期待をする一人として頑張っていたきたい、こういうふうに思います。

それでは、市長がこの所信表明でもうたわれているこの道路、いわゆる市道ですか、この件について。

道路というのは人々の移動あるいは物流の利便性、こういうことが非常に最近が高まっているということが言われております。また、市長もこの施政方針でもうたっているとおりでございます。そういう中で、今回道路行政についての非常に危険性のあるところについて質問をするわけですが、きょう出席している執行部の皆さんで、今回質問をする五差路、ここを通勤として利用している方いらっしゃいますか。お二方。どうですか、朝の8時前後ですか、皆さん通勤してくる時間帯、あるいは退勤の時間帯。どうですか、ちょっと。何かありましたらお願いをしたいのですが。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 平成元年に庁舎がこちらに移りまして、私水戸に住んでいるもの
ですから、30年ほど豊喰、118号線から那珂市のほうに通勤をさせていただいている次第で
ございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 通勤のときに利用して、何か感じる点はございますか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 朝の通勤に関しましては、118号線から役所のほうに向かうこの
道路はさほど混まないのですが、特に退勤の時間になります。市役所方面から118号線に
向かったときに、交差点でかなりの渋滞が発生している、これが30年間続いたということ
でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 加えて危険性はどうか。感じることはないですか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 基本的に私は水戸から通勤するのに99%この道を使うのですが、
仕事等でバードライン、特にインター方面から左折する場合、特に交差点に入りにくいとい
う感じは以前からしておりました。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） それでは、順次質問をしていくわけですが、那珂市には
南北に縦断する国道、いわゆる一級国道6号線、あるいは118号線、さらには349号線の3
本の国道がございまして。また、大分古い話でございまして、昭和59年の3月に県北地域の玄
関口として、常磐自動車道の那珂インターチェンジが供用開始されました。約40数年前で
すか、昭和59年ですね。さらに、昨年国道349号線、いわゆる太田街道ともいいますが、常陸
太田から水戸市まで4車線につながって、また国道118号線も現在は4車線化ということで
進んでおります。このように、那珂市内の道路は整備が大分進みました。また、水戸市、あ
るいはひたちなか市の後背地として、ますます利便性というのが高くなってきているのは、
ご承知のとおりだと、こういうふうに思います。

先ほど申しましたが、平成も31年が過ぎ、いよいよ今年の5月、新元号となるわけですが、
実は那珂市には約40数年前になりますか、そのままの道路というのが存在しているわけ。そ
れが、今回の通称バードラインあるいは農免道路とっているこの道路でございます。正式
には広域営農団地農道と当時はいったらしい。通称農免道路というようなことが一番皆さん
にはおわかりになられるかと思っております。

この農道というのは、昭和46年から昭和58年に茨城県の施工によって整備をされた農道でございます。当初は農耕車優先の大規模農道ということで、いわゆる五差路を左、ひたちなか方面に行って、JAの直売所ございますね。交差点あります。県道と交わる。あの少し手前側に、コンクリ柱があったのをご存じの方いらっしゃいますか。覚えていますか。車両規制のためにコンクリ柱、1メートル角ぐらいの、1メートル50ぐらい高さありましたか。そういう感じの丈夫なコンクリ柱がありました。それともう1カ所、118号の交差点、あそこを入ったところに同じようなものがありました。そこで激突して亡くなった方、結構いたんですよ。私の覚えでは3人か4人いましたね。しかも県外の方、福島の方とか、通常通っていない方が激突して亡くなった。そういうことが覚えがあります。

そういう道路、それが昭和46年から58年ぐらいだったですかね。車両の規制をされていた。その後、常磐自動車道の開通もあって、このコンクリ柱は撤去されたわけでございます。ただ、近年では常陸大宮、あるいは大子、いわゆる行楽地なんかへ行く方の増加、こういうことも大分ふえてきた。あるいは、逆にひたちなか方面。ひたちなか市あるいは時期によっては非常に混雑するひたち海浜公園ですか、ここへ向かう方も大分いらっしゃいます。そういう利便性の高い、しかも、ご承知のように下菅谷地内の高架橋、水郡線のこれが開通した、こういうことで交通量も年々ふえている。アクセスがよくなったというようなことで、交通量がふえてきている。ただ、残念なことに、今回配付をさせていただいた五差路の図面なのですが、ちょっと見づらいかもわかりませんが、那珂インター、左側の上のほうから右側の下のほうへいっている、ひたちなか市方面へいっているこの五差路の地図を見ただけではわかるように、この交差点から横断歩道があるのが、ちょっと見づらいかもわからない、この辺が非常に車幅が狭いんです。なおかつ、ここの横断歩道のところの左側の、いわゆる車道と歩道のところにあるブロックですか、これがものすごく出っ張っているように感じるんです。通行した場合。ここの車幅が3メートルです。今の大型車両の長さをご存じですか。今の大型車というのは12メートルです。それから、トレーラー、これ何メートルあると思います。これからこのぐらい、これ以上ありますか。長いもので18メートル。通常のをやつで16メートル。それがここを通過するのに、那珂インター方面からひたちなか方面に行くのに、3メートルの幅員をどうして通行できます。必ずセンターラインをオーバーしなければ、左側の縁石に当たっていく。その縁石を、部長、毎日通って通勤しているわけですから、あの縁石を見てください。真っ黒ですよ。タイヤでこすって。そういう非常に危険なところなんですよ、これ。

ちょうど3、4カ月前ですか。県議選と補欠選挙がありましたね。そのときに、今回当選された、小池さんかな、あそこで立哨をやっていましたね。どうでした、あのときに感じたことはありましたか。いやいや、そのままです。どうでした。

○議長（君嶋寿男君） では、小池議員。

○2番（小池正夫君） あそこでつじ立ちを私1週間ぐらいやっていたのですけれども、その

つじ立ちをやっているときに、6人ぐらいで立っていて、喫茶店側のほうに立っていたんですけれども、帰るときも行くときも、確かに福田議員の言われるように、横断歩道を渡ったり、あそこを菅谷西小の生徒が通ったり、那珂一中の生徒が通ったりするのは、私も大型車が来ると旗持ったまま後ろへ下がらなければならないほど、危険なことはありました。そういうふうに感じてはありました。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 本当に、よくあそこで立哨をやっていたな。本当に危ないところなんですよ。

それから、福田地区。いわゆる子供の立哨当番、通学の。そのときに、立哨当番の方がこの横断歩道のところで立哨当番をやっているわけ。子供たちが下校してきて誘導するのに、この歩道のところ、横断歩道のところにはいられない。危なくて。ですから、この横断歩道から少し離れたところで待機をさせておいて、信号が青になったらさあどうぞと。これをやらないと、ここの歩道のところにはいられないぐらいに危険性があると、こういうところなのです。この配付した図面でもわかるように、本当にこのカーブがきついです。なぜかという、先ほど少し触れましたけれども、農免道路あるいはバードライン、現在の五差路から那珂インターへいっているこの道路というのは、なかったんです。農免道路のころは。バードラインということで位置づけをされて、バードラインへ行きますと、戸多方面、下江戸方面へ行くと、酪農団地がありますね。ああいう酪農団地ができることによって、この道路はつけ加えられた。ですから、後からできた道路なんです。全く道路がなかったところにつけ加えたのが、この道路なんですよ。ですから、そこに無理がいつているというのは、よくわかりだと思えますよ。この図面を見ると。そういう地域なんです。

それで、既にもう40数年、全然これが手が加えられていないのが現状なんです。特に、この交差点というのがそういうふうに後からつけ加えられて五差路になったと。いかに無理をして接続されたかということがご理解いただけるかと思うのです。そういうことで、本当に危険なところでございます。これらを踏まえて、本来であればバードラインの4車線化について質問としたいところではありますが、このことについては最後に市長の答弁を求めるとして、事業実施までの期間やあるいは財政的なことも踏まえて、まず現状の問題に目を向けながら、喫緊の問題として市道五差路の問題を一つひとつ取り上げて質問をしたいと思えます。

交差点というのは、渋滞や事故のリスクの最も高いところであることはご承知のとおりであると思えます。先ほども申し上げましたが、農道としての整備がされて約40数年間現状のまま、その間車両の大型化や交通利用の増加など、状況は大きく変わっております。

そこで、一つ質問でございます。

市道五差路の現在の状況。この辺について質問をさせていただきたいと思えます。

まず、1点目、交通渋滞が発生するなど、2つ目は、交差点内を通行する際、車両が接触するような危険性があること。

まず、1点目の渋滞について、市として、担当部署としてどのように考えているのかお伺いをいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

先ほど、私の状況を説明させていただいたところで、朝晩の通勤時間帯、特に市役所方面から118号線へ向かう五差路につきましては、毎日のように渋滞が発生していると。多いときには後台の駒潜溜池まで200メートル以上の渋滞が発生しているという状況を、私も常々感じていたところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） これは先ほどお聞きしましたけれども、通勤で利用している一人として、一番よくわかるだろうと。ですから、今回通告しても理解が早かったです。ご理解が早かった。毎日通っていて、どういう状況かというのを把握していますから。

本当に、あそこはそういうところなんです。そういう面で、この2つ目の危険性についてお伺いをいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 渋滞による危険性ということではよろしいでしょうか。

まず、渋滞をすることで、現在のパチンコ店の脇の道路にいたり、あとはパチンコ店の北側の住宅地のほう、道路のほうに渋滞を回避するために流れていくと。そこは特にパチンコ店の先のところは、非常に道路が細くなっているという状況もあります。そこに関しては、出るところに信号もないということでの危険性は十分に把握しております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 配付したもので見ると、那珂市役所のほうから交差点へ行く手前から左に折れていくところですね。この道路というのは、これはおそらく私の見た目では、昔の六尺道路というのですか、1.8メートルあるいは2メートル弱、これぐらいの道路だと思っております。ここを利用する方、大分多いです。それはなぜかという、こちらが渋滞している。でも、ここは車がすれ違えないと思います。そういう狭隘道路まで利用しながら、皆さんは目的地に向かっているわけです。ですから、いかにここがどうかということがおわかりになると、こういうふう思うのです。どうですか、危険性については。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 私ごとですけれども、以前に自転車で通って田んぼに落ちたことはございますので、車よりもそこを通る自転車であったり、歩行者が非常に危険であると、

そのように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） こちらから行って、五差路に向かって、この五差路を那珂インター方面に右折する車があると、後続車は1台も通過することができないのです。まして、ドライバーによっては、停止線からかなり交差点の真ん中あたりまで行ってくれば、左側を通行して真っすぐ直進あるいは左折する、そういうこともできるのですが、停止線から少し行ったところでとまっていられると、左側通行できない。そうすると、信号が黄色になって初めて右折していく。次の車行くことができませんね、黄色ですから。でも、何回も信号待ちされている、そういういらいらがあるのでしょね。信号無視していく車が1台2台はある。そういう状況が今の五差路なんですよ。それで、担当部署のほうにもいろいろな知恵を出していただきました。私もいろいろと各方面、そういうことで当たってはみたのです。この近くに五差路ございますね、そこに。ひばりヶ丘、五差路でしょう。こっちから行って、役所のほうから陸橋を越えて行って、五差路。あの信号を見てください。あそこは右折ラインがあるでしょう。それから向こうの349号線、バイパスのほうから来ると、右折ラインもあるでしょう。信号、矢印あったでしょう。あると思うのですよ。右折車線はありますね。そういうことも、福田地区の五差路ということも考えてはみたのです。部長ですか、茨城県警察本部交通規制課、こちらのほうにも足を運んでいただきました。いろいろと指導もされてまいりました。私もその後行って、担当部署の交通規制課のほうへかけ合ってきました。五差路に関しては、以前のように右折ライン、時差式信号、こういうことというのは今は規制されました。できませんと。数年前まではあったみたいです。できたみたいです。でも、今の現状ではこの右折ライン、それから時差式信号、こちらは青でも対面のほうは赤になる、そういうことは禁止されている。できないと、交通規制がされていると。事故が起きた場合のいろいろな問題点があるということから、今は五差路はそういうことができませんということ、はっきり言われてまいりました。事故が起きたときの保険の支払いの問題とか、いろいろな問題点があるみたいですね。ですから、この五差路は、そういう右折車線あるいは時差式信号とかということはどうしてもやりたいとするならば、1本どれかを塞ぎなさい、十字路にきなさい、こういうことですよ。これは不可能でしょう。

そこで、ではだめだというのであれば何か方法はないかというようなことを、いろいろと執行部の皆さんにも知恵を絞っていただいたわけです。我々としても、やはりこのままの現状では、渋滞はもちろんのこと、もう一つには危険性があるということ。そういう観点から何か方法はないかというようなことで、いろいろと協議を、あるいはいろいろな部署、そういう知恵のある方にもいろいろとお知恵をおかりしながら何か方法はないかということやってきたわけでございます。若干順序が狂っているかもわかりませんが、その辺はご理解をいただきながら。どうですか。今後の改修的なことがあれば、担当部長のほうからお

伺いをいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） いろいろな今回の一般質問の通告を受けまして、今議員ご指摘のように、我々もその関係するところに問い合わせいたしました。まさしく今ご説明いただいたように、五差路というのは非常に危険であると。ですので、車線をつくるのであれば十文字に下さい、これが条件になります。そうしますと、我々としても八方塞がりになってしまいます。

そこで、今できる範囲でどのようなことがあるかということで、まずいくつかの協議をさせていただいた中に、まずは信号機の調整をしていただいたり、それから車線を1車線ふやすというのは非常に難しい。そうであれば、車線の幅を広げることで、車線を1車線でしたらどうかという提案をさせていただいたところ、交差点協議の中で、その程度のものだったら可能であるというような回答はいただいております。

しかしながら、今後4車線化に向けて大規模な改修もごございます。非常に財政の厳しい中で、どの程度までならかけられるかということで、もう少し詳細については、今後詰めていきたいとは思いますが、今述べさせていただいたように、車線を広げるとか、カーブを緩めるなどの施策が、これであればさほど大きな工事に発展しない、発展しないというより小規模な改良で済むということで、ちょっとこれから検討させていただければと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） これは部長、我々も理解はしています。先ほども申し上げたように、この財政的な状況も踏まえてということは、冒頭申し上げたとおりです。ですから、後で市長のほうへ質問いたしますけれども、4車線化までの期間、危険性がある箇所ですから暫定的な期間、何かの方法はないかということなんですよ。

ですから、今部長言ったように、経費をいかにかけないで、そして今の渋滞あるいは危険性を少しでも軽減できるようなことといえば、今おっしゃったような考え方ということなんでしょう。そうですね。とするならば、ひとつこれは早急にそういうことに取り組んでいただきたいと、こう思うのです。右折ラインもできないのですから、時差式信号もできない。渋滞というのは、まだほかにもたくさんある、そういう交差点というのはあると思うのです。本市においても。それよりは、やはり最優先しなくてはいけないのが危険度ということ、これだと思うのですよ。これ、市長何かでうたっていましたね、今回の。利便性と安全の確保ということを、施政方針でもうたっていますね。やはり危険性のあるところ、これを最優先するというのは言うまでもないことだろうと思います。そういう意味で、ひとつただいまの答弁、この実施に向けて頑張っていたいただきたいなど、こういうふうに思います。今後の予定としてはそういうことで、ぜひ加速をつけたことでひとつ進めていただきたいなど。これが

あそこを經由しているドライバーの要望です。よろしく申し上げます。

続いて、先ほども申しましたけれども、市長にもこれから質問をするわけなのですが、こういう整備、危険性のあるところ、そういうところを早く整備をすることが、企画部長、那珂インターの開発にもつながるのではないですか。そう思わないですか。思いますよね。那珂インターの周辺がおくれている。これに加速をつける意味でも、やはり昔のバードライン、農免道路という方もいらっしゃるんですけども、あのアクセスというのが大事なんです。これを、ぜひひとつ各課で協議をしながら、一つの施策として頑張っていたいただきたいと思います。

先ほど申しました。市長は選挙公約の「発展の基盤づくり」の中で、バードラインの県道昇格と4車線化の推進を掲げております。市長の政策の一つといえますが、市長の見解をまず伺いをいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 今、福田議員おっしゃったように、私も選挙の中の公約の一つに、バードラインの整備、4車線化を掲げさせていただきました。バードラインはご承知のように、下江戸地区からひたちなかまでつながっている広域農道でありますけれども、特に近年はインターチェンジを利用して通行量がふえていますし、那珂川にかかる那珂西大橋、これが開通したことで、さらに通行量がふえている、そういうことであります。さらには、インターチェンジを利用して、春には静峰ふるさと公園の八重桜まつり、秋には奥久慈の紅葉。行楽客の利用も非常に高くなっており、私はバードラインこそ那珂市の将来を担う重要路線であるということで、県道への昇格、これはなかなかハードルが高いのでありますけれども、県道の昇格と、そして4車線化、これは大変重要なことというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 重要な路線であるということはよくわかりました。また、我々もそういうふうに考えております。

では、市長として政策の実施に向けて、今後どのような行動をされていくのか伺いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 私は市長就任以前、県会議員時代も、実は8年間の中で土木委員会2回、2年間所属をしました。そして、その最終機会は委員長として、県の土木行政に深くかわりました。そういう中でも、那珂市の県への要望に立ち会ったこともありますし、いろいろな機会を通じて、特にこの農免道路の4車線化、バードラインの4車線化は、那珂市の要望順位の第1位でした。それまでは118号線の4車線、バイパス化が1位であったのですが、大分那珂市に工事が入ってきたということで、私が要望に立ち会ったときの第1位は、バードラインの県道昇格と4車線化でありました。ですから、これは非常に大事なことというふうに思っております。おそらく、那珂市の今後を占う上でも非常に大事な道路、

118号線、349号線、国道6号線、縦軸はしっかりしています。それに比して、横軸がなかなか整備がおこなわれている。これは農免道路と、もう一本は県北地域高規格道路になるんですけども、今、喫緊の課題は、やはり那珂インターを中心にしたバードラインの整備、これにあると思います。ハードルは非常に高いのでありますけれども、やはり那珂市の将来の発展を考えれば、どうしてもやらなくてはならない事業、そのように考えておりますので、全庁一丸となってやっていきたい、そして私が県議会時代に培ったいろいろな人脈、経路、そういうものもいろいろ使って、これからも精力的に取り組んでいきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 福田議員。

○18番（福田耕四郎君） 大変このバードラインが重要路線であるということ、そういうことで、ひとつ加速をつけて頑張っていただきたいなと思います。あるところでは、那珂市は8年間おくれたと。こういうことをおっしゃっている方もいらっしゃいました。これを取り戻す、8年間を取り戻す。この役目は先崎市長ですよ。わかりますか。そういう意味でもひとつ期待をしたいなど、こういうふうに思うわけです。

いずれにしても、本市はまだまだ課題が山積しております。各施策、こういう面でも課題があるかと思えます。那珂市のさらなる市政の進展、市民の生活の向上、加えて福祉の向上にご尽力を賜ることを、市長、ご期待を申し上げて、私の平成最後の質問とさせていただきます。よろしく願いをいたします。

以上で終わります。少し通告より10分ほど長くなりましたことをご理解をいただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告2番、福田耕四郎議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を11時25分といたします。

休憩 午前11時13分

再開 午前11時25分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 古川洋一君

○議長（君嶋寿男君） 通告3番、古川洋一議員。

質問事項 1. 先崎市長の市政運営について。2. 成人式について。3. ドローンの活用

について。

古川洋一議員、登壇願います。

古川議員。

〔12番 古川洋一君 登壇〕

○12番（古川洋一君） 議席番号12番、古川洋一でございます。今回も那珂市を住みたい、住んでよかった、ずっと住み続けたいと思える町にするため、市民の代弁者として一般質問をさせていただきます。

それでは、通告に従いまして質問させていただきますので、よろしくお願いいいたします。

最初は、先崎市長の市政運営についてお伺いをいたします。

まずは、先崎市長、この度の市長選挙でのご当選並びに市長ご就任、まことにめでとうございます。市長の今後さらなるご活躍を、市民の一人としてご期待を申し上げる次第でございます。今、市長席に座られたお姿を拝見し、市長ご自身やご家族、後援会の方々のこれまでのご苦勞を考えますと、私も胸が熱くなる思いであります。

私自身は選挙はやるべきという考えを持っておりますが、今回は無投票という結果でした。それは先崎 光という候補者に対する市民の圧倒的な期待感、信頼感のあらわれ、それが無投票という結果につながったものと確信をいたしております。だからこそ、先崎市長の1期目4年間というのは、その先のことも考えますと、とても大事になってくるものと思います。就任されて間もなく、お忙しい日々をお過ごしのことと思いますので、きょうは余り突っ込んだ話はいたしません。この後、笹島議員も市長に対するご質問があるようですので、今回はこれからの市政運営に対する市長の強い思いがお聞きできればと思いますので、よろしくお願いいいたします。

まず、市長が選挙で訴えられた「活力ある那珂市」についてですが、市長は住みよさは県内でも指折りだが何か足りない、それは活力ですというふうに述べられました。活力というのはよい言葉だと思いますが、ただ何となく漠然としていてわからないというのが、私の率直な考えであります。そこで、市長の考える活力とはどういうものなのか、まずお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 就任の記者会見等でもお話しさせていただきましたけれども、さまざまな産業の振興により、私は活力は生まれると思っております。産業を振興していくことで活力が生まれ、活力が生まれることによって税収が上がっていく。それが市の財政を助け、次の産業振興につながり、好循環を生んでいく。いろいろな政策をやろうと思っても、やはり裏づけがなければできません。その裏づけをつくっていくのが、私は活力と総称しますけれども、それだと考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） はい、わかりました。

元気ですか。元気があれば何でもできる。アントニオ猪木氏の言葉であります、一言でいうとそういうことでしょうか。何でもできるというわけではないでしょうが、自分の元気が周りの人を元気にする、活力が別の活力につながるといった好循環を生んでいくということは、確かに言えると思います。事実、市長はそのために元気が出る施策が必要だと。またダイナミックに、ダイナミックが足りないというようなことも述べられていたと思いますが、では、元気が出るダイナミックな施策とは、具体的にどのような施策なのか。決してこれをやりますと約束するものではなく、イメージとしてでも結構ですので、お伺いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 市長選挙に当たって、市内各地を歩かせていただきました。時々でいろいろ話をさせていただきました。活力が足りない、そのためにダイナミックな施策を打っていかう、そういう話もさせていただきました。公約の中を見ていただきますと、いろいろなものをうたわせていただいた。例えばでありますけれども、那珂川と久慈川をサイクリングロードで結ぼう、そしてそれには戸多地区のかわまちづくりの広場も連動させよう。今、茨城県は全県をサイクリングロードで結ぶ、そのための仕掛けをいくつもしています。土浦湖畔に、あるいはつくばに、りんりんロードをつくりました。延長180キロ、おそらく日本一であります。そういうものが茨城県内でどんどん進んでいる。那珂市もおくれない。むしろ那珂市でできることを粛々とやっていく。そういった意味では、私はサイクリングロードをつくって地域を元気にしよう、ダイナミックな施策と思って訴えもしてきました。しかし、市長に就任してみて、市の財政あるいはそれに向かっていく体制、これについては大分課題があるなということを、今痛切に感じております。そういったものも整備をしながら、しかるべきときにそういった政策を打ち出していきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。

茨城県の大井川知事が、日立市のかみね動物園にパンダを誘致するというので、平成31年度予算にその準備の資金として予算を計上されました。金額の大小や、実際に実現可能かどうかというのは別といたしましても、県民市民がわくわくするような、まさに元気の出るダイナミックな施策だと、私は報道を見て感じました。県も財政的に決して余裕があるわけではないと思いますが、その実現のためにはと、経済効果なども含めているいろいろお考えのことだと思いますし、それが政治家の手腕というものだというふうに思います。先崎市長には、ぜひともそういった元気の出るダイナミックな施策を期待したいと思います。本市の財政事情も非常に厳しいものがございますので、まずは態勢をしっかり整えられて、腰を据えて取り組んでいただきたいというふうに思います。

では、次に。今回の市長選は無投票でしたから、告示後に出される選挙公報を拝見することはできませんでしたが、当然その原稿は選挙管理委員会に提出されていたものと思います。

そこで、その選挙公報に何か公約を掲げる予定だったのでしょうか。私の手元に、選挙で市民に配られたリーフレットがございます。その中に6つの政策がございますけれども、これが公約だったのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 議員のおっしゃるとおり、選挙になった場合にその公約を、リーフレットに掲げたものを公約として出すつもりでありました。ですから、それはまさしく私の公約といっても間違いのないと思います。「健康づくり」、「安心安全づくり」、「産業・観光の拠点づくり」、「教育・文化づくり」、「発展の基盤づくり」、そして「責任ある行政づくり」の6つの施策は、私の公約として捉えていただいて結構でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） はい、わかりました。

リーフレットに書かれたことをもとに選挙を戦うということは、私はそれが市民に対する約束、つまり公約だというふうに思っております。思いついたものをいくつも並べて、これらが全て公約ですかとこちらから聞けば、公約はあくまでも選挙公報に掲載したものだけであって、リーフレットに記載したものはあくまでも自分の努力目標であって、市民との約束ではないと答えておきながら、実際にそれをやろうとしたときには、公約なのでなんていうふうに言われても困ります。そのような意味で、市民に配られたリーフレットに記載したこの6つの政策が市民との約束であり、公約だということですから、安心いたしました。

ただ、その一つひとつを見ますと、例えば「健康づくり」の中には、地域包括システムの充実とか、スポーツ資源の活用・推進とか、「安心安全づくり」の中では、自治会活動支援の充実とか、地域防災体制の強化ですとか、そういった文言になっておりますけれども、何々の充実とか何々の推進、何々の強化といった感じで、具体的にどのような方法で充実させるのか、または推進、強化していくのかについては書かれておりません。その点は、今後早めにお示しをいただきたいというふうに思っています。

では、今後の施政方針についてお伺いしてまいります。その前に、市民の方から一つ聞いてほしいと言われたことがございます。市長は2期8年間県議会議員として活躍されてこられましたけれども、県議時代に那珂市に残された実績として何かあるのだろうかというようなことをおっしゃっていた方がいらっしゃいます。その辺、2期8年の県議時代に何か残されたものはございますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） そうですね。8年間やらせていただきました。

これは有形、無形のものがたくさんあったと、私は自負をしております。ただ、それが市民の皆さんにきちんと伝わっていなかったとすれば、それは私の不徳のいたすところであり、これからも努力を怠らなくてはならないというふうに思っております。

せっかくの質問でございますので、例を挙げれば、私は先ほども土木関係のお話をしまし

た。2年間土木にかかわらせていただいて、道路というのはやはり私たちの生活を支える大変重要なインフラ、産業振興も生活の利便性の向上も、やはり道路というのは大きな役割を持っています。そういった中で、私の在任中には都市計画道路菅谷飯田線が平成28年の2月に開通をして、今堀之内交差点は那珂市内でも一番交通量が多いのではないかと、そういう賑わいを呈しております。また、国道道路の歩道整備や、関係する県会議員の仲間と一緒に進めてきました県北地域高規格道路、これも夢のある道路でありますけれども、那珂市が県北の玄関と言っていますけれども、ひたちなか、東海地区から那珂市、そして太田、大宮を貫いて大子に、あるいはその先、福島までつなごう。福島の荷物を、常陸那珂港から出してもらおう、そういう夢のある道路です。これは県北地域の方々の定住促進、若者の支援にもなっていく、そういう思いで県会議員の仲間と一緒に取り組んできました。一例を挙げれば、そういったことが私の残してきた足跡かなというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） ありがとうございます。

我々もそうなのですが、一議員としてできることというのはやはり限られてくると思います。ただ、大事なのは、要望一つにしても言いつばなし、執行部任せではなく、その実現に向けて自らが努力し、関係者や関係機関に対して働きかけができるかということだと思いますので、その点が先崎 光当時県会議員のすばらしいところだったというふうに、私は思っています。

ただ、私がおもひ市民の方々に、先崎 光当時県会議員の残されたものは何なのだというふうに聞かれましたら、ただいま例として挙げられたような目に見えるものだけではなく、市長も今有形、無形のものがあるというようにおっしゃいましたけれども、そういう目に見えるものだけでなく、私は何よりもそのような活動、行動を通して、国、県、具体的には地元の代議士や知事、そして一緒にやられてきた同僚の議員、そして多くの那珂市民からの信頼を得たということが一番の実績ですと、私は答えようと思っています。それはなぜか。その信頼が、今後の先崎市政の原動力と支えになってくれると確信しているからであります。

では、今後の市政についてですが、今定例会の初日に市長から所信表明並びに施政方針のご説明がございましたが、改めてお伺いいたします。

まず、先崎市政は前海野市政とどう違うのかということなのですが、施策を全て引き継ぐのか。取りやめるものはあるのか。新規事業はあるのか。また、その場合の予算措置についてはどうされるのか。それらの点について、まとめてお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） これまでも記者会見等の場でも申し上げてきましたけれども、全てを否定する、あるいは全てを引き継ぐ、そういったことではありません。いいものはつないでいく、そして改善すべきものはやはり手を加えていこう、そういう姿勢であります。スクラップアンドビルド。そういった中から、やはり那珂市を元気づけていく、私が願っている事

業、掲げた事業、そういったものも織り込んでいきたい、そのように考えております。

ただ、議員おっしゃるように、財政の問題あるいは体制の問題ありますので、そういったものも一つひとつ丁寧に取り組んでいって、これからの自分の中での実現できるようなものにしていきたいというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 平成31年度当初予算に反映させることは時間的に無理だったと思いますので、これまでの事業をよくご自身でもご確認いただき、そして早目に自分の色に変えていっていただきたいなというふうに思います。

次に、前市長は市長給与を減額されてきました。これについては、先崎市長も同様のお考えですか。ちなみに、私は最初から減額する必要はないというふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 私も減額の予定はございません。精いっぱい、力いっばいやらせていただきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 市民目線からすれば、市長給与とか、我々議員報酬もそうなのですが、もっと安くていいんじゃないかというようにおっしゃる方も少なからずいらっしゃいます。しかし、ご自身から最初から減額しますと言われると、私はその程度の仕事しかしませんというふうに言われているような気がするのですね。

市長には、今もおっしゃいましたが、それに見合う、いやそれ以上の仕事をしますぐらいの気概でやっていただきたいというふうに私は思います。その上で、もし我々や市民の皆さんがええと思うようになったそのときには、市長減額されたらどうですかというふうにご提案させていただきます。

次に、私はこれまでもずっと、全ては人だというふうに申し上げてまいりました。仕事は役所がするのではない、市長や職員がするのだということです。これまで議会でも、多くの先進地視察を重ねてまいりましたが、そのときに必ず感じたことは、一つひとつの事業の成功の裏には、必ず首長や職員一人ひとりの強く熱い思いがあるということです。事業の責任者や担当者の話を直接伺えば、それが本当によくわかりますし、逆にやらされ感でやっている仕事は、市民もすぐに見抜けますし、トラブルも多いのだらうなというふうに思います。何のために、誰のためにやる仕事なのか。市長はもちろん、職員一人ひとりが一つ一つの施策に強い思いを持ち、その上で束になって、つまり組織として取り組んでいただきたいというふうに思うわけでありませう。

そのためにも、先崎市長の施政方針を明確にして、具体的に何をやりたいのか、実行部隊である職員へ周知徹底されたいと思いますが、大丈夫でしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 私、市長に就任しまして一番最初の挨拶で、職員を前に、自分が市長になったらどうしよう、どうする、そのことを訴えさせていただきました。誰もが市長だと。私が那珂市を何とかするのだと。そういう気概を持ってほしいということを、就任の挨拶で一番最初に申し上げさせていただいた。職員も一生懸命やっています。しかし、日々状況も動いている、進化をしている、そういう中で現場に立ち止まらず、常に前を向いて歩いてほしい、そしてその先頭を私が行きますからついてきてほしい、そういう話をしました。この思いは市役所ばかりではなくて、市民の皆さんにも伝えなくてはいけない、そのようにも常々考えております。

先ほど議員から指摘があったように、新しいカラーをいつつけていくのだ。この問題もあります。今、プロジェクトチームをつくりました。職員の中で希望者を募って、私の考え方を具現化していくためのビジョンをつくっていきこう、そのためのプロジェクトチームをつくっております。そういった流れを使って、なるべく早い時期に私の政策も具現化していきたい。当然、当初予算がありますので、大胆なことはなかなかできないと思います。補正予算という形でまた皆様方にお示しをしますので、そのときには精いっぱい議論をお願いしたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 市長の公約を具現化するためのビジョンを策定するプロジェクトチームを編成し、そのビジョンがまとまれば、我々議会にもご報告いただけるというふうなご答弁でございます。期待してお待ちしております。

ただ、そのプロジェクトチームの構成員が誰なのか。今、市長からは希望者を募るということでしたが、私もいつも言いますけれども、若い方々にもそういう場にぜひ出て行って、意見を述べていただきたいといつも言っていますけれども、ただ、想像するに、部課室長もしくは係長ぐらいまで含めるのかといったところだと思いますけれども、それはそれでいいのですけれども、私が心配するのは、例えば部課長だけが市長の思いを理解しているというのでは困るのです。先ほども申し上げましたように、職員一人ひとりにそのビジョン、市長の思いが伝わるようお願いしたいということでもあります。

できましたら、そのプロジェクトチームはもちろん職員全員ではないでしょうから、各課、各グループ、係内で、一度はそういうミーティングの場を設けて、職員一人ひとりに周知されたいというふうに思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

最後に、議会対応の点からお願いしたいことがございます。

これまでは議会への事前の相談や報告がなされずに、いきなり上程してきた事案がいくつもございました。議員が気づかなければラッキー、質問されたら答えればいい。我々が考え、審議する時間を与えないといったように、意図的にそうしているのかと感じることもたびたびでした。先ほどから申し上げておりますように、我々議会にもきちんとその思いを述べていただければ、理解できることも多いはずですし、那珂市のため市民のため、見ている方向

は同じなのですから、首長と議会は車の両輪としてやっていく努力は惜しまないでいただきたいというふうに思います。

先崎市長を信じておりますが、仮にその努力を惜しんだばかりに、議会の理解が得られなかった場合、それを議会のせいにするようなことがあってはなりません。市長には執行権がございますから、何でもかんでもそうしてほしいとは申しませんし、内容にもよりますが、議会への事前の相談や報告を徹底してほしいと思いますが、いかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） これも記者会見でも一部述べさせていただきました。

私は皆さんと同じように議員も経験しました。そして今、首長という立場に立っています。これはどちらも市民に選ばれた立場、だから二元代表制というお話を先ほどもいただきました。やはり、お互いに尊敬と緊張と、そして信頼感が私は必要だと思っています。そういう中で真摯に議論をしていく、そのことが那珂市の発展にもつながっていく。お互いに那珂市をよくしよう、そういうことでこの場にいるわけですから、これからも必要なことは相談をさせていただいて、緊張感と信頼感を持ってやっていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） ありがとうございます。先崎市長とはうまくやっていけそうでよかったです。

ただ、市長と議会は先ほど来お話が出ておりますとおり、車の両輪とはいえ、二元代表制、それぞれの役割がございます。決してお友達ではございません。その点は市長もよくご承知のことと思いますので、それぞれの役割をきちんと果たしながら、お互い前を向いて市長が議員時代から掲げてこられた「育てよう地域の夢・未来」の実現に向けて進んでまいりましょう。

市長におかれましては、これからも激務の日々が続くかと思いますが、どうかお体だけのご自愛なさってください。先崎市長に改めてご期待を申し上げ、最初の質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

それでは、次の質問事項に移ります。

成人式についてお伺いいたします。

来る2020年4月に民法が改正され、成人年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられることに伴い、成人式のあり方については県内においても各自治体で検討が始まりました。対象者、つまり対象年齢を現行どおり20歳とする方向を示す自治体も出始めているようであります。2022年度は18歳から20歳の3学年が一度に成人を迎えますが、同時開催には多くの課題があり、各自治体は頭を悩ませているようであります。成人式の準備として、美容室など関係する業界への予約や、本人またはご家族の経済的なご負担などもございますので、早めに決めてほしいとの声が多く聞かれます。事実、2、3年先まで晴れ着等の予約が入ってい

るとの情報もございます。

そこで、本市における成人式のあり方、具体的には対象者、対象年齢です。さらには開催日、名称、それをどのようにされるお考えか、それぞれの理由もあわせてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

成人年齢の引き下げに伴う成人式の開催内容とのことですが、現行の成人式と同様、改正後の成人年齢である18歳の高校3年生の1月に成人式を開催する場合は、大学受験や就職活動の時期と重なり、多くの成人者に参加いただけないことが懸念されております。

また、今おっしゃりましたとおり、保護者の立場としましても、進学のコストや就職の準備等にかかる経費にあわせて、晴れ着等の出費も重なり、かなりの経済的負担が生じるという懸念もございます。

こうした問題点を整理いたしますと、現時点におきましての考えですが、現行どおり20歳を対象に、成人の日の前後の1月上旬に開催することが望ましいのではないかと考えております。その場合、名称につきましても成人年齢と異なるため、「はたちのつどい」などに名称の変更も必要であるというふうに考えております。なお、現時点で県内におきまして民法改正後の成人式の対象者を正式に決定した自治体は皆無であると聞いております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 現時点では現行どおり20歳を対象とし、成人の日前後の1月に、「はたちのつどい」として開催する方向で検討中ということでもあります。しかし、まだ決定ではないと。同様に、現時点で成人式の対象者を正式に決定した自治体は、今のご答弁ですと皆無であるということですが、先ほども申し上げましたとおり、さまざまな準備が必要となりますから、2022年度といたしますと、23年の1月ということになりますかね。そうしますと、今からですと約4年ぐらいあるんでしょうか、4年近くございます。ですが、あと4年あるではなく、あと4年しかないというふうにお考えいただく必要がございます。

では、本市ではいつごろまでに決定したいとお考えなのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

現在国の動きとしましては、2022年4月1日から成人年齢を18歳に引き下げることから、現在国の各省庁と有識者による分科会が開催されており、2020年3月までに開催時期についてモデルケースのほうを示す方針と聞いております。しかし、2020年3月では、対象となる方の準備期間等さまざまな影響が生じることも予想されるため、国の方針や近隣市町村の動向も確認しながら、最終的には市の判断になるかと思っておりますが、出席者にとりまして思い出深い成人式となりますよう、早目の方針決定、これをしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 来年3月までに開催時期等について国がモデルケースを示す方針ということになっているが、来年3月ではさまざまな影響が予想されるので、また最終的には市の判断となることから早目に決定したいと。来年、2020年の3月では、いろいろな影響が生ずるということですから、今年中にとか遅くとも来年3月までにというふうに考えてよろしいのかなというふうに理解いたしますけれども、よろしいですか。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） おっしゃるとおりです。

年内もしくは3月という時期は示されておりますが、それ以前には決めたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。

いずれにいたしましても、成人となる方々や親御さん、つまり当事者の方々の意見もぜひお聞きいただいた上で決定していただきたいなということをお願いしておきますので、よろしく願いいたします。

では、最後の質問事項、ドローンの活用についてに移ります。

昨年10月に青少年育成那珂市民会議が主催して行われた青少年の主張発表大会において、市の消防職員のお一人が、第3の目と題して、消防現場においてドローンが活用できないかといった趣旨の意見発表をされました。私は毎年それとはまた別に開催される消防職員意見発表会とあわせて、我々市民の生命と財産を守るために、日々ご活躍いただいている若い消防職員が、発表のレベルは別といたしましても、日ごろどのようなことを考えながら職務に向き合っているのか。例えその意見が消防職員一個人の思いだとしても、若い職員の思いを何とか形にしてあげられないか。そんな思いをもって、毎回拝聴させていただいております。そのようなことから、今回は消防本部としてドローンの活用、導入についてどのようにお考えかお伺いしてまいりたいというふうに思います。

まず、県内の消防本部において、ドローンを導入しているところほどのくらいあるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 消防長。

○消防長（飛田裕二君） お答えいたします。

県内24消防本部中、水戸市消防本部、日立市消防本部、つくば市消防本部、常陸大宮市消防本部、茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部の5消防本部で導入しております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 県内24消防本部中5つの消防本部で導入されていると。では、導入した5つの消防本部はどのような理由、つまり目的で導入されたのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 消防長。

○消防長（飛田裕二君） お答えいたします。

当消防本部と同規模の常陸大宮市消防本部の導入についてお聞きしたところ、管内を流れる久慈川、那珂川での水難事故における要救助者の搜索、山林において遭難した要救助者の搜索、山林火災の延焼範囲の確認、山林火災時の消防隊員の位置把握のために導入しておるとお聞きしました。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） では、その導入目的のとおり、実際に成果はあったのか。ドローンの有効性についてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 消防長。

○消防長（飛田裕二君） お答えいたします。

常陸大宮市消防本部の例によりますと、年間3回から4回程度の活用ですが、山林火災の延焼状況や突風被害の状況調査、行方不明者の搜索等に活用し、短時間での情報収集に役立っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） 短時間での情報収集に役立っているとのことであります。災害現場での調査や行方不明者の搜索にも役立っており、それも短時間でということでありますから、災害の拡大を防ぐことや生命を守る観点からも、ドローンが大きな役割を果たしていると言ってもよろしいのではないかというふうに思います。

では、本市においては地理的なこともあるかとは思いますが、東日本大震災の経験も踏まえ、災害現場で活用できそうかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 消防長。

○消防長（飛田裕二君） お答えいたします。

ドローンの機能は有効であると認識しておりますが、活用となりますと、市街地などの建物が密集した地域では、電線に接触、壁に激突、火災で発生した風によつての墜落など、危険を伴っています。ドローンの墜落により、周辺住民に二次的被害を及ぼす可能性は捨てきれません。生命、身体、財産を守るために、安全を求める消防にとっては大きな問題となっていることも事実でございます。

また、現在ドローンの飛行時間は15分程度に制限されており、飛行許可を必要とする場所などを考慮しますと、使用範囲を制限せざるを得ないのが現状であります。当消防といたしましても東日本大震災を経験した上、大規模災害発生時の広域的な被害状況の把握に、空

撮で詳細が常にリアルタイムで災害対策本部に伝送できることから、備えておきたい機材であると考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） では、ただいまのご答弁の中にもございましたけれども、ドローンの活用、導入についてはさまざまな課題もあるようではありますが、今お話しいただいたほかにも考えられる課題はございますか。

○議長（君嶋寿男君） 消防長。

○消防長（飛田裕二君） お答えいたします。

今の答弁の中にありました二次的被害及び使用範囲のほかに、オペレーターの育成費用、またドローンの部品などの消耗品等のランニングコストなどの課題が考えられます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。

参考までに申し上げますと、某自治体の職員が飛ばしてはいけない場所で飛行させて、市民の方に訴えられたと。現在裁判で係争中だというような事例もあるようであります。

消防長への質問は以上といたしますけれども、このようなものもあるということで、消防長はご存じかと思いますが、市民の皆様にもお知らせしたいということで、一つご紹介させていただきます。

先月2月12日の茨城新聞でございますが、消防職員意見発表会の茨城県大会が開催されたと。つくば市消防本部の職員が、よく見える化による情報の伝達と題して発表され、最優秀賞に選ばれたとの報道がございました。現場活動は電話や無線によって情報共有をしているが、ライブ配信による映像を使うことで、業務の効率化を提案したというふうに書かれておりましたので、やはりドローンなのかなというふうに思いまして、確認のためつくば市消防本部にお電話をしてみました。そうしましたら、ドローンではなかったのです。今ではパソコンのアプリを使って、救急車内等現場から、患者さんの状況を映像として病院に送って、お医者さんからの的確な指示を仰ぐことができるのだそうです。今回はそれを提案したということだそうです。そういう意味で、ドローンもそうですが、現場の状況を映像でリアルタイムに見られて、的確な指示が出せるという意味では、これも必要なのかな、いやこちらのほうが必要なのではないかなというふうに思ったものですから、ひとつご紹介させていただきました。

では、次に産業部長にお伺いいたします。

これも新聞報道ですが、イノシシ等による農業被害が深刻化している中、つくば市ではその対策のため、ドローン運営会社が無償で協力し、イノシシを上空から撮影する生態調査を行ったというふうにあります。警戒心が強いイノシシは目視では確認しにくいですが、赤外線カ

メラは温度の違いを識別できるため、イノシシを発見できるのだそうです。生態がつかめれば、わなもより効率的に仕掛けられることとなります。本市においても、イノシシ等による農業被害は深刻化しているというふうに思いますが、ドローンをこのように活用できると思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答え申し上げます。

議員ご紹介のありましたつくば市におきますイノシシの生態調査でございますが、先月行われたというのは報道のほうで知ってございます。ただ、現時点におきましては、つくば市のほうでその成果について公表がされておりませんので、今後その成果について情報収集に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。では、情報収集をお願いいたします。

生態調査により捕獲数が実際に伸びるのか、結果はまだ出ていないと思いますが、私はつくば市のイノシシ対策の本気度をうかがい知ることができました。農業被害だけでなく、生産者の意欲の低下にもつながりますし、人に危害を加えることも十分に想定されることから、本市においてもこれまで以上の早急な対策を考える必要性を感じますので、ドローンの活用も含めてご検討をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

次に、今年の消防出初め式において、ドローンが飛んでいました。議員各位も確認されたと思います。お伺いしましたら、政策企画課で業者委託により飛ばしたということでありませぬ。

そこで、企画部長にお伺ひいたしますが、消防出初め式でドローンを使用した目的と委託経費についてお伺ひいたします。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

出初め式でのドローンについてのお尋ねをいただきましたが、当時のドローンについてはいい那珂暮らし、これの取材活動で活用させていただいたものでございます。ご存じのとおり、いい那珂暮らしにつきましては、市内で活躍されるさまざまな方々にクローズアップして、いろいろな形、例えばウェブであったり動画であったりポスターであったりという形で情報発信させていただいておりますが、今般は那珂市の安心安全を最前線で支える消防団員の方を対象に取材を敢行したところでございます。

出初式、あそれだけの消防団員の方が集まりますと、なかなか一枚の絵におさめるということが困難でございまして、ある程度高いところから写真撮影をする必要があったということで、ドローンを活用させていただいて、一同を一枚の絵におさめたというような次第でございます。

経費についてもお尋ねをいただきましたが、人件費や機材等々を含めまして約10万円という経費がかかっています。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） いい那珂暮らしをPRするプロモーション活動の一環として使用したということです。経費は約10万円。

こうやって各課からいろいろお話を伺っていきますと、本市においてもさまざまな活用方法があることがわかってまいりました。

今度は市民生活部長にお伺いいたしますが、那珂市の地形を考えますと、大きな山や谷などはありませんが、那珂川と久慈川にはさまれていることから、大災害時には陸の孤島となり得ます。このようなことから防災面、危機管理の観点からも活用を検討し、購入してはいいかかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

ドローンの購入につきましてですが、万が一の緊急時において市内状況を確認できるものとして、本年平成30年度から平成32年度にかけて、防災行政無線の整備事業内で購入をする予定となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） ありがとうございます。

本来であればここでびっくりしなければいけないところなんですけど、実は数日前の質問の内容を打ち合わせをさせていただいた中で、購入の予定があるということを知ったのですが、正直えっそうなのというふうにびっくりいたしました。要望しているわけでありますから、ありがたいことなんですけれども、昨年3月の定例会において、富山議員からの一般質問に対して、本市の地理的条件とは異なる自治体が導入していることを考えると、本市にとって必要か否かも含めて、今後慎重に判断をしていくというふうに答弁をされました。

そのときに、これはその気はないなと思ったのですが、そういうわけで、ありがたいことではございますが、この1年間で購入を決定した何かがあったのでしょうか。その経緯をお聞かせください。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

先ほど答弁させていただきましたが、防災行政無線の整備事業内でのということで、その事業につきましてはプロポーザルにより発注業者を決定いたしました。この整備事業の提案内容に、災害時の市内状況を確認する手段としてドローン活用の提案がございました。これによりまして、万が一の緊急時において状況を確認する手段としての必要性の面から、本導

入を決定いたしましたところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。

プロポーザルで業者からの提案があったということですが、業者から提案されなくても、みずからの意思でやってほしかったというのが本音であります、ありがたいことでもあります。

では、最後に、ドローンには、きょうお話を伺ったように、さまざまな活用方法がございますから、防災行政無線の整備事業内の予算で購入するとしても、幅広い、先ほど来いろいろ各課からお話を伺いましたけれども、幅広い分野での活用が図れることになるのでしょうか。その点をお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

活用についてでございますが、現時点では災害時に消防本部との連携の取れた活用をしていきたいと考えております。

今後については、可能な限りさまざまな分野で活用できるよう、関係各課と調整をしましていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

ただ、先ほど消防長からもドローンの導入については二次災害への懸念、使用範囲の制限、オペレーター、操縦する方の育成、ランニングコスト等々、多くの課題があるとのことでした。私が一番いやなのは、せっかく購入したものが宝の持ち腐れとなってほこりをかぶっている状態になることなのです。もちろん災害などが起きずに、使用する機会がないことはよいことですが、ものはあるけれども飛ばせる職員がいないというのでは、話になりません。

その点も踏まえて、最終的な購入のご判断をいただきたいというふうに思います。そして、また災害協定、新聞等でも報道されておりますけれども、災害協定などで無償で協力していただける業者なんかもいるということをお聞きしております。その辺についてもあわせてご検討いただけたらというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（君嶋寿男君） 以上で通告3番、古川洋一議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を13時といたします。

休憩 午後 零時11分

再開 午後 1時00分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 笹 島 猛 君

○議長（君嶋寿男君） 通告4番、笹島 猛議員。

質問事項 1. 市長の政治姿勢について。2. 那珂市広域避難計画について。3. 超高齢社会における課題について。

笹島 猛議員、登壇願います。

笹島議員。

[16番 笹島 猛君 登壇]

○16番（笹島 猛君） 午後一番のトップバッターということで、張り切っていきたいと思
います。

議席番号16番、通告に従いまして、一般質問させていただきます。

まず、市長の政治姿勢について伺ってまいります。

まずは、ご就任おめでとうございます。新市長先崎市長にとって、最初のこの那珂市議会
定例会、この場における一般質問ですので、よろしくお願いいたします。

まず、市政のかじ取り役という重責を担う市長の考え方を伺うことは、市政全般を考える
上で非常に重要なことと思いますので、先崎市長の市政運営への基本的な方針について、お
伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） ありがとうございます。

私の市政運営の基本的な方針について申し上げます。

「活力ある那珂市」をつくるために、公約として掲げました「健康づくり」、「安心安全
づくり」、「産業・観光の拠点づくり」、「教育・文化づくり」、「発展の基盤づくり」、
そして「責任ある行政づくり」を6つの政策としまして、私の公約としてこれからの市政運
営に努めてまいります。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 「活力ある那珂市」をつくっていく6つの政策をお伺いしまして、
理解いたしました。

この中で、やはり市長の理念というか、先ほども申しましたけれども、これからビジョン
を持って、プロジェクトチームをつくって、那珂市の将来像をつくり上げていくということ
をお聞きしました。まずは、市長の理念ですか。それから目指すべき、将来の那珂市の姿と

いうことはどういうことかというのを、少しお伺いいたします。突然済みません。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 今、ビジョンのお話もありました。午前中の質問でも、そのプロジェクトチームの話をしましたけれども、そのときに少し説明が足りなかったのですが、若手を中心としたプロジェクトチームをつくってやろうと思っています。これも余り大人数ではまとりませんので、7、8人ぐらいで議論を進めて、なるべく早いタイミングで私の思いが政策に出せるように、補正予算として皆様方にご審議いただけるように、今取り組んでおります。あえて一つ目玉、中心的なものと言われれば、やはり私は活力をつくるための産業政策、財政をきちんとつくって、それを元に施策を実行していく、これが一番大事だと思いますので、そういう意味で産業づくり、活力づくりを基本にやっていきたいというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 今、市長が言っていた活力をつくって産業振興に向かっているということは理解いたしました。ただ、それはそれとして、産業だけでなくやはり福祉の面もしなくてはいけない、それから教育の面、それから人事管理の面と、ありとあらゆるものの現実が待っていると思うのです。それに対してのやはり一つの大きな理念というのか、ビジョンというのか、それをまず掲げていかないと、枝葉になったものがなかなかほかの人に理解できないということで、まず大きなものをとんととしていって、それから細かく細部にわたって仕上げたてて施行していくということをやって、これからだと思いますので、この項をおしまいいたします。

政府が地方創生を掲げてから4年半、人口減少や地域経済縮小、東京一極集中是正を進めてきた第1次総合戦略が2019年で最終年度を迎えます。そこで、本市の成果はどれだけ上がりましたか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

総合戦略の目的である東京圏への人口の一極集中の是正並びに地方での人口減少の抑制、ここら辺にかかる本市での成果ということでございます。

まず、東京圏への一極集中でございますが、2017年には若干の抑制が見られたものの、まだ大きな流れを変えるには至っていないというような状況でございます。一方で、人口減少の抑制につきましては、総合戦略で推計した人口動態の推計人口の推計値と実績値、これを比較してみますと、人口減少の傾向が非常に緩やかになっているというところがございます。これまでの取り組みによって、一定の成果は上がっているのではないかとこのように捉えているところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 労働力の中核となる生産年齢人口ですか、15歳から64歳ですね。その増減を2015年と2018年で比較すると、1,700市町ある市町村の中で、地方創生で人口がふえたのはわずか109自治体だけです。県内では日立市だけ、15から64歳の人口が3年間で7,045人も減少しております。

そこで、本市の2018年と2015年を比較して、生産年齢人口の増減を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

本市における生産年齢人口でございますが、2018年、こちら1月1日現在の数字でございますが、3万646人、2015年、こちら1月1日現在でございますが、3万1,587人ございました。結果、941人の減少となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） また転出を減らして、転入を促進する。何かこの政策を展開しておりますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 人口減少時代において転出を抑制し転入を促進する、これが行政経営においてその活力を維持していくための最重要課題であると認識しております。さまざまな施策がそこにつながっているというようなことではございますが、非常にわかりやすい例で申し上げますと、直接的な転入促進、転出抑制のための施策としては、子育て世代等住宅取得助成制度、こちらを市のほうでは行っているところでございます。

こちら、平成28年の7月から実施してございまして、平成31年の1月末現在でございますが、市外からの転入が123世帯、人数で言いますと415人。市内での住みかえが145世帯、人数で申し上げますと458人の方に利用されており、本市の転入促進、転出抑制に一定の効果があつたのではないかと捉えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 昨今、さまざまな自治体において、シティセールスとかシティプロモーションとかという取り組みがされております。本市でも、新規事業としてシティプロモーション推進事業を立ち上げました。どのような取り組みをされるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

シティプロモーションにおける情報の収集、発信は全庁的、組織横断的に取り組む必要がございます。そのため、総合プロデュースを、今度シティプロモーション推進室を設置することになりますが、そこで実行する体制を整えることにより、今まで以上に深く庁内の関係課、室と関与していきながら、シティプロモーション推進の中核として取り組んでいきたい

と、かように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） いかに関の町の町を売りに込むかということですね。

那珂市の価値をどう高めて売りに込んでいくかに関しては、それを実行するためには、専門職の任用ですか、あるいは専門部署の設置ということを見野に入れているかどうか、これを伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

これまでも市の魅力を市内外に発信するなどの取り組みを行ってきたところでございます。

しかしながら、これまで以上に交流人口や定住人口の増加につながるよう、積極的に推進する必要があることから、平成31年4月より新たに専門部署としてシティプロモーション推進室を設置する予定でございます。

あわせて、民間のノウハウを持った人材を任期付職員として採用する予定でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 現在は多くの自治体において、財源の確保と雇用創出を目的に、企業誘致を推進しております。ただ、企業誘致しても、産業活性化策、さまざまな試みが考えられますが、やはり地域間競争というものがあります。その地域間競争の中で、いかに那珂市によりよい条件を導いてくるかということが、一つの課題になると思います。

そこで、町の活性化の一つである企業誘致。現在本市ではどのような誘致活動を行っているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 企業を誘致する上でございますが、工場の建設、本社機能の移転、新たな企業の進出など、こういった企業進出のコアな情報、こちらをタイムリーにかつ積極的に収集する必要があると、かように考えてございます。

そのため、茨城県の産業基盤課あるいは産業立地課あるいは企業誘致東京本部等と、これらの関係機関と情報交換を非常に密に行っているところでございます。また、金融機関等へのヒアリング、企業誘致セミナーへの参加、こういったことによる情報の発信及び収集など、さまざまな面で企業誘致活動を推進しているところでございます。

また、活動するに当たってでございますが、市としても企業誘致に対する優遇策種々持っております。そういったことも総合的に説明しながら、企業誘致に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） それで、本市では企業が誘致した場合には、どのような優遇措置が

受けられますか。また、販売価格の値引きの措置はあったのかどうか。2点お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 現在本市においては立地や本社機能を移転する企業、設備等を新・増設する企業に対して、固定資産税の減免あるいは課税免除、電気料金に対する補助金の交付など、さまざまな優遇措置を設けているところでございます。

販売価格の値引きについてもお尋ねをいただきましたが、県が所有する那珂西部工業団地、こちらにおいて分譲価格が平米あたり2万600円から1万3,000円、こういった形で大幅に引き下げをしていただけたところでございます。これによって分譲促進が期待されるところでございます。こちら、那珂西部工業団地におきましては、県でも茨城産業再生特区というようなことに指定されているところもございまして、こういったさまざまな方策で企業誘致を推進していきたいと、かように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） やはり部長、どうしてもこの県央、県北の地域というのは、なかなか見つからない部分があると思うんですけども、今圏央道も開通して、向こうの圏央道地域ですか、古河とか境とかそういうところが優先的に物流センターとか何か、そういうものが設置されると思うんですけども、やはりこの那珂市に持ってくる方法論ですか、知りあいたかの県の方がいらっしゃって、その方が何とか優先的にやって、それもなかなか、どこでもそういう誘致を欲しがっているから、そういうことは難しいですよ。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） なかなかお答えしにくいようなところもございしますが、ただ私自身も企業誘致活動、県に在籍していた時代、担当はしてまいりました。そのときの経験則から申し上げますと、やはり企業誘致をするに当たって、人間関係、人と人の関係が非常に大事でございまして。ある程度の信頼関係を構築しないと、お互いに腹を割って話せない、情報だつてとれないというようなところもございまして。そういう意味では、やはり県との信頼関係、あと私も培ってきたものもございましてけれども、そういった信頼関係の中で、那珂市というのが非常にいいところだよと、こういうような環境があるんだよと。先ほどご紹介いただいた圏央道沿線、非常に人気が高まっていて、逆に言うともう分譲できるような物件がない、枯渇しているというような状況も聞いております。その枯渇したものをどういうふうに宛がっているかという、その外側にどんどん企業のニーズというのが滲み出してきていると。そうしてくると、我々那珂市にとってもそこはチャンスととらえるべき局面ではございます。

そういった中で、先ほど申し上げた信頼関係、やはりこれが結果的に、まずは切り口としては非常に重要なところもございまして、そういったところをうまく活用しながら、立地に結びつけていければいいのかなと思っております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 心強い話ですね。部長が信頼関係が県とあるということですね。やはり少しでも強引に企業誘致を導いてください。よろしくお願いいたします。

それから、先崎市長は元県会議員だったんですけれども、県とのパイプが太いと思うのですけれども、そのような、これから企業誘致は市長も言っていました、大事なことだということで、誘致のためのトップセールスを進めていくということは、どのように考えていらっしゃるでしょうか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 企業誘致はこれまでご答弁申し上げましたように、那珂市にとっても大変重要な政策です。働く場所をつくる、これは企業誘致ばかりではないのですけれども、やはり即効性を考えると、企業誘致の果たす役割は大変大きい、そのように考えております。

今、部長から答弁ありましたけれども、いろいろな意味での関係が大事だと。私も今笹島議員からおっしゃられたように、県会議員として8年間やってきて、いろいろな人脈もできました。職員さんとの関係、あるいは立地を希望している企業さんとの関係。そういったものをこれからもフルに生かして、そしてそういう、やはりこれも全庁挙げて、一日も早く、特に那珂西部工業団地については5ヘクタールを埋めなくてはいけないかなというふうに思っております。これからもさまざまな関係を大事にして、そしてアンテナを高くしてやっていきたいと、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 本当に、市長とか部長が言ったとおり、黙っていても中国へ行ってしまいますからね。企業、工場はね。

それはそれとして、次に那珂市のお金のことについて、私これ得意なものですから、ここからお話ししていきたいと思えます。

平成31年度那珂市予算の歳入では、財政調整基金からの繰入金金の縮減に努めた財源の確保を図ったということですが、まず財政調整基金残高の推移をお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

財政調整基金の年度末の残高の推移でございますが、5年間の推移でございますけれども、平成25年度が18億7,202万6,000円、平成26年度は20億522万8,000円、平成27年度は21億363万9,000円、平成28年度につきましては21億408万9,000円、平成29年度につきましては20億2,655万1,000円となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 予算編成段階においては、多くの不確定要素への財政的対応のために、財源留保が不可欠です。一方で、義務的経費が増大する中であっても、公共サービスの予算確保は市民の日常生活を維持する上で、行政の責務であるため、財源不足が解消し得な

い場合には、基金の繰り入れによる財政調整が不可避となります。

そこで、基金繰入に依存した財政運営からの脱却が優先課題であるものと認識して、行財政改革の推進や予算執行上の工夫をして、基金繰入の圧縮に努めているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

基金繰入を圧縮するための取り組みでございますが、第3次那珂市行財政改革大綱に基づきまして、取り組むべき施策や事業の改革改善、経費の整理、合理化などを徹底しております。また、予算の執行に当たっては、当初予定をしていました工法や手段にこだわらない、積極的なコストカットの推進、入札差金や不要見込み額の凍結など、積極的に行っているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） また、不測の事態が発生した場合や、資金不足を防止するためには、一定額の一般財源基金の確保も重要なことと認識しておりますか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

一定額の一般財源基金、いわゆる財政調整基金のことかと思えますけれども、こちらを確保することの重要性につきましては、十分認識をしているところでございます。特に、平成30年度当初予算におきまして、財政調整基金から6億円を繰り入れましたので、こうした状況が続くことを回避すべく、大きな危機感を持って、平成31年度当初予算の編成に当たったところでございます。その結果、約半分の規模となる3億1,000万円まで縮減をいたしましたので、今後は予算の執行を注視し、繰り戻すための財源確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 平成31年度の予算編成に当たって、特に重視した、力を入れた点はどのような点がありますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えします。

先ほどお答えしましたとおり、基金から多額の繰り入れをしなければ、当初予算を編成できない状況に対し、非常に大きな危機感を持っておりましたので、平成31年度につきましては、基金繰入額の圧縮を最重要課題と位置づけまして、予算編成に当たったところでございます。一般財源により実施する事業につきましては、必要不可欠なものに厳選し、また今まで以上に厳しい姿勢で査定に臨むなど、徹底して経費の精査と縮減を図り、約8億円を圧縮するに至りました。

しかしながら、住みよい町の実現に向けた取り組みや、今年開催をされます国民体育大会を成功させるための各種事業などにつきましては、その必要性を十分に踏まえて、重点配分を心がけて編成をいたしたところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） そうすると、今年開かれる国体、その関連の予算にも重点配分するということですね。

本年度予算は前年度比5.9%減となりました。予算規模が小さくなった理由をお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） 小さくなった理由でございますけれども、普通建設事業費が大幅に減になったということで、その大きな事業としましては、統合幼稚園の建設に係る事業、それから民間保育所の整備に関する事業、そして両宮排水路整備事業が完了したということで規模が小さくなったということでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） また、歳出では、普通建設事業費については前年度比46.3%の大幅な減となっておりますが、この理由をお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） 今しがた答弁した部分でもございますけれども、46.3%の大幅な減ということで、繰り返しますが、統合幼稚園の建設に関する事業、民間保育所の整備に関する事業、両宮排水の整備事業、こちらの完了によるものでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 道路改良事業、下菅谷地区事業、菅谷市毛線街路整備事業等は、平成31年度の法律改正によって、5年間の延長が認められた合併特例債充当とのことですが、充当率95%、交付措置70%の特例債を、市民ニーズが高い生活道路事業、特に狭隘道路に充当してはいかがでしょうか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

合併特例債は、普通建設事業であればどの事業にも充当できるものではなく、合併による不均衡を是正するための事業などの条件がございます。議員ご指摘の狭隘道路につきましては、条件が合う路線に合併特例債を活用しておりますので、今後も極力活用して、整備を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 緊急性の高い道路整備事業については、優先順位が高いのは理解できますが、住民ニーズが高く、必要性がある整備事業がどういう扱いをされているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

国、県の補助金や市債などの特定財源が見込まれる事業であれば、一般財源の持ち出しが少なくなりますので、財源の調整は比較的容易であるというふうに思われます。しかしながら、特定財源がないという理由だけで整備を後回しにするということとはございません。整備をするのが道路でも橋梁でも、また施設であつても、緊急性、必要性、合理的理由などさまざまな状況や事情などを総合的に勘案しまして、整備する時期を決めて進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 既に認定を受けた道路整備の案件については、2、3年間待つのはざらだという自治会の役員の方から不満をよく聞きます。もう少しスピードアップはできないのでしょうか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

要望を受けている事業すべて執行するために、多くの予算と人員を必要としております。議員ご指摘の声があることは十分に認識しておりますが、限られた予算の中で、地域のバランスを取りながら事業に取り組んでいるところでございます。市としましても、できるだけ早期に事業が執行できるように取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 次に、コミュニティセンターですね。

コミュニティセンターというのは、生涯学習とか社会教育事業に加えて、福祉や安心安全、健康づくりなど、住民生活に直結した多機能性を持っていくことで、利便性の向上を図りつつ、地域の方々に対応できる施設です。

そこで、四中学区コミュニティセンター整備事業に960万円の事業費がつけましたが、この内容について伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

平成31年度の予算の四中学区コミュニティセンター整備事業の事業費960万円の主な内訳でございますが、用地測量に800万円、不動産鑑定に120万円を計上してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） このコミュニティセンターの設置は、私4年前から何度も要望してまいりまして、やっとこの段階まできたわけなんですけれども、再度この早期設置を望んでおりますが、いつごろどうですかということをお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

四中学区コミュニティセンターにつきましては、議員のおっしゃるように地域の向上とにぎわいの創出につながる施設でございますので、早期設置を目指し、計画的に進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 部長、いつごろ。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） 平成35年に供用開始したいと考えてございますが、まだやはり土地の買収その他かかりますので、早期に取り組んでまいりたいと考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 前倒しで早めに進めていただきたいと思います。

次に、この経済収支比率、これについて伺ってまいります。

これは市税をはじめとする、毎年収入が見込める一般財源が経常的に、あるいは義務的支出にしなければならない人件費や扶助費、そして公債費などの経費にどの程度の割合で充てられるかをあらわす指標です。この指標の悪化は、市の裁量で使える財源の減少を意味しております。財源が膠着するといわれております値が低いほうが良好です。そこで、本市の過去3年間の経常収支比率の推移をお伺いいたします。また、県内では順番は何番目ぐらいになるのか、これもあわせてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

過去3年間の経常収支比率でございますけれども、平成27年度は89.7%、平成28年度は91.7%、平成29年度は90.9%となっております。また、県内の順位につきましては、平成27年度が30番目、平成28年度が28番目、平成29年度につきましては26番目となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 経常収支比率については、一般的に市では80%、町村では75%を越えると財政構造上弾力性を失うと考えられておりますが、本市の財政の弾力性は悪化傾向にあるのか。また、悪化している主な原因は何でしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

まず、財政の弾力性でございますが、今3年間の数値を述べたところでございますけれども、大きな変動がないことから、悪化しているとは言えないまでも、改善されていないという状況となっております。こうした状況となっている主な理由といたしましては、扶助費が増加し続けているということでございます。扶助費につきましては、今後減少する見込みは極めて低いと考えておりますので、同様の状況が続くものと思われま。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） そうすると、どこの市町村でも今まで80%台だったけれども、だんだん90%を越えるような、そういう時代になってきたというふうに理解していいのですか。ここだけではなく。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） 議員おっしゃるとおりだと思います。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 数値が低いほど余裕といいますか、投資的経費に余裕が出てきて、先ほど質問しました普通建設事業費などに余裕がある予算が組めるようになっていくのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

当然、余裕ができてくるということになりますので、議員のおっしゃるとおりということになります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 財政が厳しいから福祉を削る、職員数を減らす、給料減らす、住民負担をふやす。これでは地域経済は立ち行かなくなり、さらには税収は減ってしまいます。福祉をよくして、市関係の事業に携わる人の賃金を上げるなど、また農業や商業への助成を高め、お金が地域に回るようにし、税収をふやしていく政策が求められておりますが、市長はどのような財政運営を考えていますか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 扶助費などの義務的経費が膨らむ中で、投資的経費に予算を配分することは大変厳しい状況でございます。しかしながら、このような状況が続けば、本市の経済状況は停滞し、活気のないまちになってしまうことも否定できません。こうした現状を打破し、活力ある町にするためには、やはり産業の振興による地域活性化が必要と考えております。現在本市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、地場産業の競争力強化を掲

げておりますが、食と農の連携によるアグリビジネスの推進や、企業コーディネーターを活用した創業支援、販路拡大の相談など、本市で働く人たちや事業者の支援は、地域産業の振興には不可欠でございます。

産業の振興により、地域の生産力が高まれば、税収の増にもつながりますので、そのために必要な事業については重点的に取り組んでまいりたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 最後に、市長や執行機関と議会の関係について伺ってまいります。

市長と議会議員は市民から直接付託を受けた代表者であります。議会は市民の代表として、市長や執行機関との間で、行政施策の説明や報告を受けたり、意見を申し上げたり、また提出された議案採決に参加したりするわけです。この市長や執行機関と議会との関係についてですが、市長はどのように考えているのか、最後にお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 午前中の議論でも申し上げましたが、やはり議会も私も、お互いに那珂市をよくしていこうということで選ばれている立場であります。那珂市のために頑張ろう、那珂市民のために一生懸命やろうという気持ちは一緒でありますので、今おっしゃったように車の両輪、尊敬と緊張感と信頼感を持って真摯に取り組んでいきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 結論から言えば、両輪であってたまには緊張感を持っていくと、そういうことでよろしいのですよね。

次に、那珂市広域避難計画について伺ってまいります。

首都圏唯一の商用炉、東海第二原発で重大事故が起きた場合に備える避難計画の策定が一步前進して、原発から30キロ圏内に住む96万人の避難先が確定しました。避難先として、水戸市は埼玉県、群馬県、栃木県など、県外計31市町に約16万5,000人、県内の市町に約10万人と幅広いです。水戸に次ぐ約19万3,000人が避難対象となる日立市は、福島県の17市町村と協定を締結いたしました。約11万7,000人が対象となるひたちなか市は、県内と千葉県との24市町村に避難先を確保しました。県の中核都市が一斉に避難することになるわけですが、本当にそんなことが実行可能なのでしょうか。お伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答えいたします。

原子力災害の広域避難計画策定においては、避難者が安全に避難できる実効性のある計画が必要であるため、原子力発電所の所在地域の課題解決のために設置されております地域原子力防災協議会を補佐する作業部会におきまして、UPZ圏内の14市町村と、内閣府や県などとともに懸案事項を共有しながら、方法について検討を行い、それぞれの連携を密にしまして市民の安全を最優先として、実効性のある広域避難計画の策定に取り組んでいるところ

でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 策定を義務づけられた14市町村ですか。これ、さまざまに頭を抱えているみたいですね。本市ではこの計画は策定しておりますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

現在避難計画の骨子案はできてございますが、さまざまな課題の整理がありまして、計画策定には至っておりません。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 避難先の確保は避難計画の一部であって、計画にはさまざまな課題が残っております。担当者を最も悩ます一つが移動手段だと思いますが、どうやって移動するのか、想定はできておりますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

移動につきましては、自助・共助を念頭に、できるだけ乗り合わせ、原則としまして自家用車による避難をしていただきます。また、自家用車による避難が困難な市民等につきましては、一時集合場所からバス及び福祉車両等で避難所に避難をしていただきます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 避難は自家用車が基本ですが、運転ができない、あるいは運転に不安がある高齢者はバスで避難することになりますが、バスの確保はどうなっているのですか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

茨城県が調整することになってございますが、現在県バス協会とバス車両及び運転手の確保について協議中でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの高齢者施設への受け入れ先や、搬送手段の確保などの避難計画と、在宅援護者の対応について伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

施設の受け入れ先につきましては、茨城県の協力により、各施設とも確保が済んでいると

聞いてございます。また、搬送手段も含めた施設における避難計画は、施設ごとに作成をすることとなっております。一方、在宅の避難行動要支援者への対応につきましては、市主体によるもので避難計画策定に向けた課題の一つとなっておりますので、今後整理をしながら進めてまいります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 避難計画では2段階避難を原則としております。まず、5キロ圏内P A Zの本米崎の住民が避難して、次に5キロから10キロ圏内U P Zの本米崎地区を省く市内全域の住民は、一旦屋内に退避して、放射線量に応じて避難を始めます。これは渋滞による混乱を避けるためです。しかし、後回しになるU P Zの住民からは、いざとなったらわからないという声があり、計画どおりの行動がとれないおそれが大きいと思いますが、この件についてどのように考えているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

段階的避難につきましては、屋内退避の重要性と同様に啓発をしていく必要があることから、避難計画説明会の開催や避難ガイドマップ、さらにはホームページ等により周知をしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 次に、避難時に放射性物質の付着を調べるスクリーニング、汚染検査について伺ってまいります。

スクリーニングの目的は、放射性物質放出後の避難となるU P Zから、避難者は放射性物質の影響を受けている可能性があるから、その身体の影響を確認するため実施します。また、避難先の市町村や施設における受け入れ側の配慮という観点から、スクリーニングが必要となります。

そこで、那珂市から筑西市、桜川市の避難ルートでは、どこの場所がスクリーニングポイントとなるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

避難待避時検査場所につきましては、茨城県が実施場所及び運営方針の実施計画を策定することになっておりまして、現在調整中でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 那珂市の避難先として、約3万7,000人が筑西市に、約1万7,000人が桜川市に分けて避難することになっておりますが、避難者は一挙に避難してくるもので

はなく、流動的に避難してくると想定して対応していくのですか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

まずはP A Z圏内の市民が避難を開始しまして、この際U P Z圏内の市民は屋内退避となります。その後の進展により、U P Z圏内の市民が避難となった場合でも、U P Z圏内の全市民が一斉に避難をするのではなく、空間放射線量を測定し、その数値が基準を超えた地域から避難をするため、避難は流動的になることを想定してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 避難所の受け入れ体制の具体的な行動について伺ってまいります。

避難にあたっては、本市は茨城県と連携し、筑西市及び桜川市の負担が過大にならないように配慮しなければならないというふうにされております。受け入れ先の避難先がどのような施設で、何カ所ぐらいが指定避難所になっておりますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

筑西市におきましては32施設、桜川市におきましては28施設を避難所として提供いただいております。

施設については、主に学校施設となっております。また、一般の避難所での生活が困難な方のために、両市とも福祉避難所の提供もいただけることとなっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） そこで筑西市及び桜川市が避難を受け入れる場合の期間はどのくらいか。また、避難所運営に必要な物資及び防災資器材については、那珂市が茨城県と協力して確保するものとしておりますが、避難に要した費用は本市が負担するのか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

桜川、筑西両市と協定を結んでおりますが、原子力災害時における県内広域避難に関する協定書におきまして、避難先の受け入れは原則1カ月以内となっております。よって、避難が長期化した場合の対応については、応急仮設住宅、民間アパートや宿泊施設等へ移転ができるよう県や国と連携してまいります。

ただし、原子力災害の状況等を踏まえまして、受け入れ期間の見直しを両市と協議ができるとも協定には記載してございます。また、避難に要した費用は本市が負担するのかというご質問でございますが、避難所運営での物資や防災資器材の費用など、広域避難に要した費用は法令その他別に定めがある場合を除き、本市が負担することとなります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） また、避難所では1人当たりの床面積、トイレ、お風呂とかシャワーとか、そういったものがあるのか。ベッドの確保は大丈夫なのか。特に車で避難される方も多いと思いますので、その駐車場の確保は大丈夫なのか。また、体育館とかそういうところの避難がほとんどだと思いますが、冷暖房の有無についてはどうなのか。まとめて伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

避難所1人当たりの床面積でございますが、2平米で算定をしております。また、トイレについては施設に設置してあるものを使用することになります。お風呂、シャワーについては主に学校施設が避難所になるため、設置はしておりません。

今後、避難先の両市に使用できる施設等の有無を含めまして、協議・調整をまいります。

駐車場につきましては、基本的には各避難所で収容可能となっており、一部校庭等の狭い場所、狭い避難所については、近隣施設の駐車場が使用できるようになっております。

冷暖房の有無についてでございますが、やはり学校施設の体育館が主ですので、基本的には備えてございません。これについては今後の課題と考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 福島第一原発災害のときは、皆が逃げた方向に風が吹いたとか問題がありましたが、風向きによっては避難先に風が吹いていたとか、地震などが原因で原発事故が起きた場合には、道路の寸断とか渋滞などが予想され、避難先も被害を受けるという複合災害も十分に考えられますけれども、このための対応というのは、広域避難計画の中で考えられておりますか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

広域的な被害により避難先が被災する可能性もございますので、茨城県で第2の避難先の調整を行っており、ほぼ調整が済んでいると聞いてございます。また、本市では県の調整が完了した後、第3の避難先の調整を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 原発立地都道府県の中で、茨城県だけが避難訓練をやっておりません。避難の受け入れ体制の問題等を把握するために、避難訓練は重要なものと考えております。

そこで、避難訓練の計画について、本市と筑西市と桜川市で協議を進めておりますか。伺

います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

まずは、両市と初動時における避難場への誘導、避難所の開設、運営等、きめ細やかな運用について調整を進めてまいります。

避難訓練についてでございますが、避難計画を策定する際に、計画の実効性を高めるためにも、両市と調整をしながら実施をしていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 本市は東海第二原発の再稼働に際して、実質的な事前了解権を持つ周辺5市の1つです。海野前市長は昨年10月に地元市村で唯一再稼働反対を表明しました。

また、原子力規制委員会が東海第二の20年間の運転延長を認めた際、長すぎると批判をしました。2017年に実施した市民アンケートでは、65%が再稼働に反対しました。今年度も同様のアンケートは実施されるのですか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

今年度実施した市民アンケートにおいては、東海第二発電所の再稼働に対し、どのような意向を持っているのかという設問は設けてございません。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 行政は市民の声を聞き、その意見を元にどう市政に反映していくかというのが仕事の一部だと思うのです。どうなのですか。そういうことにどういう考えを持っているのですか。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

議員がおっしゃるそのとおりでございます。今後もさまざまな市民の声を確認する手法を整理しながら、市政に生かしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） この東海第二原発の再稼働に関する住民アンケートの意向確認は、重要であると認識していますか。部長は。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） アンケートにつきましては、手法の一つと私が判断するものではないと思いますが、事務局サイドとしましてはそのアンケートも手法の一つであるかとは考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 2月22日、日本原電は2038年までの運転が認められた東海第二原発の再稼働を目指す方針を地元伝えてきました。再稼働に必要な工事が始まる見込みです。半径30キロ圏内に住む約96万人の広域避難計画は策定の見通しが立っておりません。周辺6市村に拡大された地元同意が得られるかは見通せない状態です。先崎市長はマスコミのインタビューで、6市村でそれぞれが納得するまで協議していくとコメントしておりましたが、これは実効性のある広域避難計画の策定と、市民の理解と安全が確保されない限り、再稼働は認められないという考えですか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 議員、今いろいろ指摘がありましたけれども、東海第二発電所の再稼働議論につきましては、過日日本原電から再稼働の意向が示されました。2021年の3月に安全対策工事完了を目指して、大規模な工事に着手していくということ以外は、詳しい説明は受けておりません。今後は再稼働表明を受けて、昨年3月に締結しました新安全協定に基づく手続きが始まり、具体的な工事計画等の説明及び協議を行っていくことになると思います。いずれにしても、私としては広域避難計画の策定と市民の理解、安全が確保されない限り、再稼働は認められないと考えております。

まずは広域計画の策定と市民の理解、安全の確保を目指して、その後慎重に判断をする考えでおります。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 先ほどのマスコミによると、日本原電は再稼働の時期を2023年の1月と想定したということ聞いております。あと、再稼働、運転延長に当たっては、6市村の事前協議が必要と認識していることは、各自治体でも一致しておりますが、原電側は事前了解については明言を避けております。あと、先ほど言っておりました原発の30キロ圏内に住む約100万人近くの避難計画策定、これも進んでおりません。このような状況で、市長はどのような考えを持っているのか。再度伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 先ほども答弁しましたが、やはり住民の理解は大変重要であります。そして、今現在策定に向かっております広域避難計画、これも進めていかなければなりません。そういったものを総合的に判断をいたします。さらには、日本原電の住民への丁寧な説明、これも当然必要になってくると思います。そして、その前に当然皆様方の議会にきちんと説明をしていく、これも大変重要なことだと思ひまして、過日の首長懇談会でもそういう申し入れをしました。そういったことを踏まえて慎重に判断をしていきたいということ考えております。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 日本原電の再稼働めぐり、東京電力など大手電力5社が約3,000

億円を資金援助する計画案が明らかになりました。自治体の同意が得られずに廃炉になった場合、東電などは巨額の損失を被る可能性があり、それでも原発頼みの原電の経営破綻を防ぐため、業界全体でなりふり構わず支援に乗り出そうとしております。また、茨城新聞をちょっと見たのですが、茨城大学のほうで住民調査をしたみたいです。日立市、那珂市、ひたちなか市、東海村。そこでは再稼働に関しては住民投票の実施が37.1%、住民アンケートで意向確認が12.3%、県民投票の確認が24.3%となっており、直接意思を表示する方向に希望する人が7割を超えておりました。こうした結果を見ると、住民と行政と電力会社間に大きな乖離があるような感じがします。そのギャップをどう埋めて、どう向き合っていくかが今後の課題だと思います。

以上で避難計画については終了させていただきます。

最後に、超高齢化社会の課題について伺ってまいります。

高齢化率7%で高齢化社会、高齢化率14%で高齢社会、高齢化率21%を超えますと超高齢化社会となります。本市の高齢化率は、今年の4月現在で29.87%となり、超高齢化社会に突入したわけですね。そこで、本市の超高齢化社会の現状と課題について、どのように認識しているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

社会保障費の増大に加え、医療や介護サービスの不足なども想定されておまして、本市のみならず国全体として非常に大きな社会問題だと捉えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 超高齢化社会につきましては、いろいろな課題があります。やはり元気な高齢者をつくっていく必要があると思います。そういったことを念頭に置いた方策をどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

平成30年3月に策定いたしました那珂市高齢者保健福祉計画における基本目標としまして、高齢者になっても自立した生活をできる限り長く続けていくことを念頭に掲げ、各種施策を推進してまいります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 次に、2025年問題について伺ってまいります。

この2025年問題とは、これまで社会を支えてくれた団塊の世代の先輩の皆さんのことですね。2025年には平成37年ごろには、そのころの人たちは75歳以上になるということが起こると予想されて、そうするとさまざまな問題が起こってくるんです。これで高齢者

を取り巻く社会環境や生活環境が大きく変わってきて、世界のどの国でも経験したことのない超高齢化社会を迎えようとしているわけです。そこで、本市の対応策をお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が、包括的に確保されます地域包括ケアシステムの拡充を推進するとともに、市社会福祉協議会や地域包括支援センター等の関係機関と連携し、高齢者の多様な活動機会の提供など、高齢者福祉サービスの充実を図る上で、高齢者を地域全体で支えられるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 部長、この地域ケアシステムの充実というのはどういうことを意味するのですか。今これからやる事業になるわけですか。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） 地域包括ケアシステムにつきましては、以前から茨城県のほうでも重点的に推進しているところでございまして、さらに2025年問題を迎えます、介護や医療その他いろいろな関係機関と連携しながら包括的に福祉のほうを推進していくという仕組みでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 2025年の今の団塊の世代が75歳以上になったとき、連動してやっていこうと、この地域ケアシステムということで理解していいですか。ではないのかな。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） そちらも一つにありますけれども、そればかりのことではないということでございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） また、4月から新規事業として包括支援体制整備事業がスタートします。これは新たに福祉の総合的相談窓口を設置するとのことですが、どのような事業になるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

近年、社会福祉の現状におきまして、高齢者、障がい者、生活困窮、子育て支援等に係る課題は多種多様化、複雑化しております。これの複合的課題に関する相談に対応するため、今年4月から業務委託によりまして既存の福祉相談窓口を基盤に新たに専門委員2人を配置し、他機関協働による包括的な相談支援窓口を、総合保健福祉センターひだまり内に設置す

るということでございます。これにより、迅速かつ適切な対応を図ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 2025年問題に対処する上では、地域の多様な主体を活用して高齢者を支援することが求められます。このためにも、地域包括ケアシステムの充実や、相談業務の充実は大変重要になってくると申し上げ、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告4番、笹島 猛議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を14時15分といたします。

休憩 午後 1時59分

再開 午後 2時15分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 萩谷 俊行 君

○議長（君嶋寿男君） 通告5番、萩谷俊行議員。

質問事項 1. スクールバスについて。2. ひまわりバスについて。3. 区域指定について。

萩谷俊行議員、登壇願います。

萩谷議員。

〔13番 萩谷俊行君 登壇〕

○13番（萩谷俊行君） 議席番号13番、萩谷俊行でございます。きょう最後の質問ということで、皆さんお疲れでしょうけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、先崎市長誕生で、皆さんお祝ひの言葉を述べられておりますけれども、先崎市長とは私がちょうど1期生のときに、市長が常任委員長で私が副委員長ということで、視察等において苦勞話をよくしたなということをおぼえておるところでございますけれども、あれから8年たつて、今度は市長という立場で何となくうれしいということもありますし、また大変だなと、市長としては大変だなという思ひもござひます。そういうことで、きょうは市長にも答弁をもらうことになっておりますけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、通告に従ひまして、随時質問させていたひきたいと思ひます。

まず、1つ目ですけれども、スクールバスについて質問をしたいと思います。

まず、現在運行していますバスの概況はどのようになっているかをお伺いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

スクールバスにつきましては、小学校の閉校、統合に伴い、現在2つの学校区で運行しております。1つは芳野小学校で旧戸多小学校区の児童が対象で、もう1つは横堀小学校で旧本米崎小学校区の児童が対象となっております。いずれの学校もバス2台で2コースを運行しており、合計しますとバス4台4コースでの運行となっております。バス停の数でございますが、横堀小学校の1コースは1カ所に全員が集まって乗降しておりますが、他の3コースは3カ所もしくは4カ所となっております。利用している児童の人数でございますが、芳野小学校が34名、横堀小学校が39名の合計73名で、1コース当たり17名から20名となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 大体17名から20名ということで4コースということですのでけれども、横堀小学校のコースとして1カ所だということはどこなのでしょう。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） 場所としましては上宮寺です。本米崎の上宮寺バス停が1カ所でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） それでは、バス停から自宅まで最も遠い児童は、距離としてどのくらい距離があるのかをお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

バス停から自宅までの距離が最も遠いのは、芳野小学校では中谷原公民館バス停、また横堀小学校では先ほどの上宮寺バス停で乗降する児童で、いずれも自宅からバス停までの距離は約950メートルとなっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 結構950メートルというと距離はあるわけですね。いろいろこれからそれについて質問していきたいと思いますが、その次、バス停の移動の要望があるのか、またその場合の対応はどういう対応をしているのかを伺います。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

これまでのところ、2回ほど移動の要望が寄せられたことがございました。今年度につきましては、1カ所の要望がございました。要望があった場合の対応としましては、現地にて停車時の安全が確保できるスペースがあるかどうか、道路の幅員は十分であるかなどを調査し、また運行を委託しているバス会社にも確認した上で、移動が可能かどうかの判断をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 次に、要望どおりにバス停の移動が可能なのかをお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

要望どおりにバス停を移動できるかどうかにつきましては、先ほどお答えしましたように、道路状況や停車スペースなどを考慮して判断しておりますが、安全が確保できれば移動は可能でございます。実際に地元からの要望により、移動したケースは過去にもございます。今年度移動の要望があったバス停は、バスの発着点となっており、発着点の場合には児童が乗降車し、出発するまで一定時間待機する必要がございますので、停車スペースが確保できることが前提となります。残念ながら要望された箇所付近には安全に確保できるスペースがなかったため、お断りのほうをさせていただいたということでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 要望に応じてバス停の移動ができるということですが、確かに今みたいな条件があるということですが、実は昨日、多分今年度要望があったというのは若宮地区ですよね。行ってきました。それで、若宮公民館のところにバス停がありまして、そこから水戸市に向かって距離も測ってきたんですけど、約650から700メートルだったんです。見てみますと、結構脇が空いているところはいくつも実際はあったんです。見ますと結構、バスをとめられるくらい。ただ、Uターンするところは少し難しいのかなと思って見てきました。そういうことで、その足で那珂川交通が運行していますよね。そういうことで行って来たんですけど、そこでどういう方だかはわかりませんが、ちょっといろいろ「実はこういうことで来たんです」というお話、よく説明させていただきまして、バスをどこまで行ってどういう形で運行しているんですかと聞きましたら、やはりUターンするスペースがなかなかとれないということで、隣接している水戸市の先に広いところがあるんだよということで、そこでバスを回して、その若宮公民館のほうのバス停に駐車するのだと、それで待っているんだというお話がありまして、だとしたら、その方に何である向こうにバス停ができなかったんでしょうねというお話をしたら、スペースがあるところが私有地だということで、教育委員会としていろいろ交渉したと。何件も。だけれども、承諾が得られなかったというお話を聞いてきたわけです。そういうわけで、スペースがあつて

も結局なかなかバス停がつかれないということがそれでよくわかったのですけれども、ただ、そこで地権者の方がなかなか承諾してくれないというのはわかりますけれども、多分私の想像ですけれども、教育委員会の方だけで交渉したのかなと思うのですけれども、それについてはどうなのでしょう。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えします。

交渉の経緯は直接ではないんですが、今お話ししたようにバスの発着場、これについては恒久的に維持していきたいということがございますので、できれば公有地もしくは私有地でも安定して借りられるという状況がまず第一かと思えます。当然、戸多地区から今の芳野小学校までは距離がございますので、特に発着場につきましては、バスのほうもやはり早めに到着して待機しているという状況がございますので、その辺で安定して土地を借りられるというのが前提になるかと思えます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） バス停のところ、あそこも確かに路地はあるんです。

あそこでUターンするのに何回もバスを切りかえないとできないので先まで行っているのだということで、それで戻ってくる。ただ、その若宮地区、水戸寄りから3人ですか、1年生含めて3人。那珂川交通の方も言っていました。3人は乗るんですよと。このバス停まで来るんですよとありましたけれども、そこで地域の皆さんを巻き込みながら、やはり地域の子供を守るという意味では、教育委員会と合わせてそういう地域の協力を得ながらもう一度バス停を移動できるように。なおさら聞きますと、若宮のバス停ですか、そこからはすぐ近くの人では乗る人はいないんだということですよ。ですから、もう一度そういうことも含めて地権者をお願いして、一つは見てきたらば思った以上にまあセンターラインも引いてありますし、あるのですけれども、例えば雨のときなんかは傘を差したり、結構危ないなと思えますし、上宮寺、さっき出ましたけれども、私たまたま通ったときにバスがとまっていますね、何人かのおじいちゃん、おばあちゃんが車があって、バスがたまたま入ってきたときなんですけれども、車で送り迎えしているのかなと、上宮寺まで。確かにこの950メートルもあると、距離としてはあるものですからそうやっているのかなと思ったのですけれども、例えばこの中谷原ですか、公民館まででも950メートル、上宮寺も950メートルということは、スペースがなければ別ですけれどもある程度あって、その地権者の方に承諾を得れば、それでバス停をもう少しふやすとか何かする方法もあると私は考えるのですけれども。だから、少しでも努力をしていただいて、努力したというのはわかっています、先ほど聞いて。一生懸命教育委員会の方が行って、何件もお願いしたんだけどだめだという話聞いていますからそれはわかりますけれども、いずれにしてもその地域の人に、まちづくり委員会とか自治会とかいろいろな方がいると思うのですけれども、そういう人をお願いして、

やはりその地権者の方に、子供の安全を守るためにバス停をどうにかここに設置させてもらえないかということもあると思うんです。ですから、そこで諦めるのではなくて、やはり少しでも子供のために前に進むということも大事なのかなと思いますけれども、今後ともそういうことも含めて、もう一度努力していただければありがたいなと思っています。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

萩谷議員のおっしゃるとおり、安全性を確保できれば駐車場のほうの移動は可能でございます。以前も1カ所移動した部分についても、やはり地元からの要望がありまして、安全に停車できるということで移動したケースはございます。特に、発着場については、できれば車でいらっしゃる方もあるので、そういったスペースも確保できればありがたいとは思っています。

いずれにしても、そういった面で、安全性とか駐車場のほうのスペースが確保できれば、そういったことでは交渉のほうを続けていきたいと思っています。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 特に1年生、高学年になればまた違うんでしょうけれども、やはり低学年の子も乗っているということでもどこもあると思うんですけれども、少しでもバス停をふやして、距離が短くなれば安全性というか少しでも事故の確率が少なくなるわけですから、遠ければ遠いほど危ないということですので、ぜひともお願いしたいと思います。

これは通告していないんですけれども、教育長に少しお伺いしてもよろしいでしょうか。

今、あちこちで虐待、またいじめ等がありまして、最近では柏でありました。こういうことも含めて、やはり子供を守っていくというのは教育委員会として一番大事だと思いますし、また新聞や報道等を見ますと、やはり教育委員会のあり方も問われる事件、事案といいますか、いろいろあります。やはり隠す体質、隠蔽体質。そういうものを、先ほど部長ですけれども、やはり担当の人がバス停についても受け付けをやったり、また一生懸命動いたり、それはそれでやる。しかしそれでも部長とか教育長、小さいことから皆が共有していくということは、やはり一番大事なところかなと私は考えているんです。そういう意味で、常に職員全体、教育委員会全体が、市役所もそうでしょう、そういうことでしっかりと皆で話し合っ、全て部長、教育長まで小さいことでも吸い上げるのだという体質で今までやっていると思うんですけれども、これからはさらに徹底した強化を図っていただきたいと思うんですけれども、それについて。通告していませんけれども。

○議長（君嶋寿男君） 教育長。

○教育長（大縄久雄君） ありがとうございます。

議員のおっしゃるとおりだと思います。

特に、児童生徒の命にかかわることということについては、我々は現場を預かるものとし

では最優先に考えていかななくてはならないこと、これは言うまでもないことです。実際にやはり情報は連携するけれども、そこから先にどうなるんだというのがやはり今まで欠けていたのかと。今回野田市の事件を受けまして、私も改めて考えさせられたのは、いわゆる情報を共有するという情報連携だけではだめだ、今までもしてきましたけれども、庁内はもちろん関係機関とのいわゆる行動連携というのがさらに大切になってくるのかなと。そういう意味で、やはり今後子供の安全網というものをさらに強固にしていくとか、そういうことはしていかななくてはならない。そのためには、まず今議員がおっしゃられたとおり、まず教育委員会の職員の中にそういう意識をしっかりと植えつけていくこと、これは今後も継続して続けてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） やはり、子供を守る、子供は宝だとよく言いますけれども、しっかりと。よくハウレンソウという言葉がありますよね。報告、連絡、相談。これも大事だと思うんです。報告するんだけど相談までいかない、連絡いくんだけど相談までいかないとか。こういうことをしっかり徹底していただければありがたいなと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

それでは2番目の項ですけれども、ひまわりバスについてお伺いしていきたいと思ひます。

まず、ひまわりバスの運行状況について、お伺いしたいと思ひます。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えします。

ひまわりバスについてお尋ねをいただきました。ひまわりバスにつきましては、平成5年、この当時から無料の福祉循環バスとして、まずは運行をスタートさせていただきました。その後、平成22年に13路線のコミュニティバスというような形に変更されたところでございます。

その後、運行ルートの見直し等々を行いながら、平成25年のひまわりタクシー導入以降は、現在の運行形態となっているところでございます。現在ルートとしましては、菅谷後台循環コースと、しどり総合公園循環コース、朝夕の時間帯で那珂高校や水戸農業高校、茨城女子短期大学への通学支援コースなど、幹線道路を中心に約90カ所の停留所を設置して運行しているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 本当、まず移動手段がない高齢者なんかもありますよね。それで、今言われた菅谷後台循環コース、那珂高校、水戸農業高校、そして茨城女子短期大学。特に高校生の場合は車を運転しませんから、そういう面では、来年度も平成31年度も運行するということですので、大変よかったなと思っております。これからもできればいろいろあるかも

しれませんけれども、続行していただければそういうお年寄り、また高校生にとってはいいのかと思っております。

そういうことでまたよろしくお願ひしたいと思ひますけれども、次に、ひまわりバスの利用者状況についてお伺ひいたします。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） ひまわりバスの利用者状況についてお尋ねをいただいたところでございます。

過去3年の実績をここでお答えさしあげます。

まず平成27年度でございますが、延べ人数が1万2,416人、1日平均で申しますと51.1人。

続きまして、平成28年度、こちらが延べ人数で申し上げますと1万401人、1日平均に直しますと42.8人ということでございます。平成29年度、こちらが延べで申しますと1万人を切って9,396人、1日平均で申しますと38.5人ということになっておりまして、ここしばらく減少傾向をたどっているというような状況でございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 本当に平成27年度から見ますと平成29年度は3,000人ですか。

3,000人くらい延べで減っています。しかしながら、先ほど私が申したように、やはり交通弱者にとっては、交通手段としてひまわりタクシーもありますけれども、これはこれでやはり利用者がまだまだこれだけいるわけですから、継続していただければいいのかなと思っているのですけれども、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

そこで、ひまわりバスとは言いませんけれども、ひまわりバスみたいなものを利用して、また利活用でもいいですけれども、市内の観光スポットを周遊できないかというようなことはどうなんでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

まず、私からのお答えということですので、ひまわりバスというようなことでのお答えとさせていただきますが、ひまわりバスの運行目的、これは議員がおっしゃるとおり、移動手段を持たない交通弱者の方々、特に高齢者の方が中心となると思ひますが、そういった方が病院に通院したりとか、商業施設で買い物をしたりという日常生活に不便がないような移動手段を確保するというようなことが主たる目的となっております。それに従ひまして、現行の路線もそれらを考慮したものとなっております。議員ご提案の観光客の利用を想定したルートというようなことには現状ではなっていないというのが現状ではございます。議員ご提案のひまわりバスを利活用しての観光周遊というようなことではございますが、当然皆さんご存知のとおり、那珂市内には市内外から観光客の方が訪れる魅力ある公園ですとか、神社仏閣等々も多数存在しているのが事実でございます。それらの観光スポットを周遊できる

バス、ご提案のものですけれども、こういったものが設置できれば、交流人口の増加とか市のPRといったことにも当然つながってくるのだらうと思っております。

一方で、なかなか新たな観光ルートの設定、もしくは観光というようなことに主眼を置きますと、土日祝日の運行といったことに、ひまわりバスの運行形態を拡充していこうとした場合に、当然その車両も増台しなければならない。今現在運行しているバスの車両自体も、相当老朽化が進んでおります。非常に危うげな状況の中で頑張って今運休せずに運行はしているところでございますけれども、そういったバスの更新、こういったところにも多額の費用がかかってくるであろうと。また、新規路線を運行するに当たっては、当然それに対する運行経費というような負担も生じてまいります。

そういった多大な費用がかかるというようなことが想定されるので、今のところ議員ご提案のような、観光周遊にひまわりバスを活用するというようなことは少々考えにくいのではないかなというふうには考えております。ですが、今ご提案いただいた観光周遊で、特にこれからの観光周遊、観光施策を考えた場合、いわゆるインバウンド対策というものが一つのキーワードになってくるのだと思います。インバウンド対策というと、当然それは自家用車を持たない外国人の方というのが主眼になってまいります。そういった自家用車を持たない方に、いかにその那珂市の観光スポットに来ていただくか、めぐっていただくかというような観点は、どうしたって必要だと思っております。そういった方にどういうふうに回っていただくのか、我々がそういうような公的な運営でこういうことをやるというのがなかなかハードルが高いとすると、民間事業者さんにもお知恵をいただきながら、市内にはJRとかバスもそうですし、タクシーも走っています。そういった方々のお知恵をかりながら、その辺をどういうふうにしていくのか、極力前向きに研究をまずはしていきたいと、かように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 確かに、バスが老朽化しているとか、また新規のバスを購入して、ひまわりバス2台あるわけですよ。予備も1台あると聞いていますけれども、経費もかかる、財政上も大変だというのはわかりますけれどもね、やはり何か外国人観光客の話も部長は出しましたけれども、やはり那珂市には寺院とか神社とか、また名所みたいないろいろあるわけですよ。それを皆さん、結局市外の人にはわからなかったりするわけですが、やはりある程度広報的に出して、市外から。私が考えているのは、実現するかは別として、将来的に考えていきたいと思うのは、やはり一番いいと思うのはバスだと思うんです。予約制にでもして、お弁当をつけるとか。金額はそれなりにとれると思うんです、これは。ひまわりバスというふだんの使い方とは違いまして、何かいろいろな方策、考え方をすれば、一つおもしろい那珂市の魅力を発信することにもなるのではないかなと、こう思っているんですよ。観光協会としても、一生懸命観光PRしたり、お祭りをPRしたりとか、いろいろやっていますよね。だから、そういうことも含めてバスを利用しながら、どこから乗るかは

分かりませんが、予約制にして、中型バスぐらいでいいと思うんですけども、そういう形でやって弁当用意するとか何かして、またそこに観光協会かどうかはわかりませんが、職員の一人ぐらい乗ってガイドさん役で説明して、ここはこうですよとかいう形にすると、乗った方もやはりわかりやすいですし、そういう形をとってやる方法もあるのかなと私は考えているのです。だから、できるだけ市長も施政方針でも何でもそうですけれども、挨拶もそうです、できないことをやっていかなければ、やはり全部無理だ無理だということでは前に進まない。先ほど笹島議員もいろいろ言ったのもあります。また色々な議員も質問していますけれども、やはりお金がないから、予算がないからというのではなくて、やはりそれを考えながらいくというのも前へ進めるということだと思っております。そういう意味で、本当にぜひ真剣に検討していただいて、これを実現できるようにしてほしいなと思っています。

そういうことを含めて、市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 萩谷議員からご提案をいただきました。那珂市内にある観光拠点や観光スポットを市内外の皆様によりよく知っていただくためには、さまざまな観点から観光施策が必要だとは認識をしております。先ほど企画部長が答弁したとおり、那珂市内には魅力的な観光資源が数多く存在しており、それらの観光スポットへの来訪者を呼び込む、あるいは交流人口をふやすためには議員ご提案の取り組みも仕掛けづくりの一つになるものというふうに考えられます。

現時点では現行のひまわりバスを利活用した周遊コースの設定自体は、いろいろな事情で難しいと思われまますが、シティプロモーションを含め地域の魅力を内外に発信し、観光PRを図っていくためにも、市内観光ルートの整備や周遊イベントの開催等は今後必要な観光施策であると考えておりますので、交通事業者あるいは観光協会など関係機関等と十分協議をしていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） 市長も挨拶等も含めて大きな夢を持たないと、大きなこともできないという挨拶も聞いたことがあるんですけども、なかなかできないということも一つの夢と捉えて、やはり少しでも前へ進むということをお願いしたいと思います。ありがとうございました。

3つ目の項として、区域指定でございます。

これは私を含めて多くの同僚議員が質問をしてきたわけです。その中で、何年かかったかわかりませんが、大分かかりまして、平成29年4月から導入されたわけですが、これを少しでも生かさなければならぬのかと、こう考えております。そこで、まず区域指定後の状況についてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

区域指定制度に基づく許可の件数ですが、平成29年度で17件、約7,500平方メートル。平成30年度の12月末にはなるんですが12件、8,500平米で2年間で29件。合計1万6,000平米を許可しております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） これは14地区590ヘクタールですよ、指定したのは。その中で、今平方メートルということ言っていましたから、大変になったのかなと勘違いするのですが、これは1万6,000平方メートルとなると、ヘクタールでいうと1.62くらいなんですよ。計算してみると。だから、590ヘクタールのうちの1.62ヘクタールですよ。それから平成29年度から17件、平成30年度は12件と、5件減っているわけですが、何かこういうことで減ったとか、減ったということはどういうことなのか、上がらないで。何かあるのでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 平成29年度に関しましては丸1年間、それから平成30年度につきましては12月末までですので8カ月間で12件ということになります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） そうすると、大体うまくいけば平成29年度同様くらいになるかもしれないということですね。いずれにしてもこれが大事な、私がまず区域指定の導入をお願いしたというのは、やはり戸多小が廃校になって、また本米崎小も廃校になりました。そして、その中で額田の地域の中で、額田小もなくなってしまうのではないかと、今でも言う人がいるのですよ。今でも。それでもなくしたくない、なくさないと言っても、やはり萩谷さん何かなくなってしまうんだねという人がいっぱいいるわけですよ。そういうことですよ。これからの質問に入っていきたいと思えますけれども、まず今後の区域指定のPRといいますか、制度をどのようにしているかをお伺いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

区域指定制度をはじめ、定住促進には、外に向けての発信が重要であると考えております。現在パンフレットを窓口で常設したり、あとホームページ上にも掲載しているところがございますが、今後政策企画課において作成した「いい那珂暮らし」移住ガイドブック、そちらのほうに掲載するなど、幅広い情報発信に取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） きょう、この「いい那珂暮らし」持ってきました。確かにいろいろ生活環境とか、先ほど言った自然とか公園とか、また医療、いろいろこう出ています。その

中で、やはり子育て支援、赤ちゃんの誕生まで子育て助成とか、誕生から小児までと、いろいろ出ています。ただ、このパンフレットを皆さんが見ていただければ一番いいわけですが、できるだけ周知徹底を少しでもして、やっていただければと思っているわけです。

そこで、前回の質問のときにもお話したのですけれども、私久慈川のすぐ近くですけれども、お墓も川べりにあるのですけれども、そのところにアパートか何か建っているわけです。前も質問しましたけれども。あと、今年になってかな、ハウスメーカーさんもあれして、常陸太田市の共同住宅が新聞に載っていましたね。竣工したとか。そういうものを考えてもいいのかなという思いもあるのですが、それについてはどうでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 区域指定はこの制度を使ってまだ2年目ということで、この区域指定の趣旨そのものは既存集落内における定住促進を目的として導入をしてきたものです。

したがって、現時点ではアパートなどの共同住宅等につきましては、許可の対象とすることは今のところは考えていないということでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） まだ導入して2年ということですので、なかなかすぐに変えていくというのは難しいのかなと、様子を見ながらということもあるかもしれませんが、何年か後にそういうこともあるかもしれませんが、そのときはいろいろ考えながらやっていっていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この区域指定ですけれども、やはり少子化そして定住促進の一つの方策だろうと私は考えております。そういうことで、区域指定内に消防車または救急車、あとごみ処理車も入れないような狭隘道路が結構あるんですよ。額田にもあります。私の近所にもいっぱいあります。そういうことで、狭隘道路の整備を速やかに進めてもらえれば、どうしても狭ければ、救急車も消防車も入れなければ、区域指定になっていてもその畑でも何でも買ってくれませんよね。入っていけないですから。本当に乗用車がやっとなんかというところもありますからね。そういう意味で、そういう整備をすることによって、例えば畑を持っている方が、これを自分で売りたいと。整備された後の話ですけれどもね。売ろうと思っても、なかなか個人的にはそういう売買につながらないのかなと思うんです。そういう意味で、やはり道路が広くなれば、不動産業者あたりもあそこは広くて、あそこならば来てくれるんじゃないか、買ってくれるんじゃないかという状況になるのかなと想像しているわけです。そういう意味で、やはり区域指定だから道路工事はやらないと、地域の中でいろいろと優先順位はあると思うのですが、そういうことによって、やはり区域指定を導入した価値というか、少しでもよくなるのかなと私は考えております。そういうことで、その辺も含めてよろしくお願ひしたいと思ひますし、そして先崎市長にこれから答弁をいただくわけですが、少子化対策、これについてはやはり国も県も市町村も、どこにおいてもいろいろ施策を打ち出してき

ているわけですね。当市においても子育て支援や、この「いい那珂暮らし」にも載っていますけれども、子育て環境整備、また育児相談など、さまざまな施策を行っているわけですが、何といたっても区域指定してほかから来ると、今の状態では人の奪い合いをしているだけですので、やはり出生率をアップするような施策が、やはり一番どの市町村でも大事なのかなと思っているのです。そういう意味で、やはり子供を産みやすく育てやすい環境づくりを実施していく、確立していくという、そういうことも大変必要なのかなと思っています。そういう意味で、やはり先崎市長にその所見といいますかお考えを、これからどうしようかということをお聞きしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 区域指定制度につきましては、地域コミュニティ維持のための移住あるいは定住に結びつくものとして、第1次那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、具体的に取り組む事業の一つとして位置づけ、実施をしまいったところであります。同様に、少子化対策、子育て支援につきましても、総合戦略の中で4つの基本目標の一つに、結婚・出産・子育て応援戦略を掲げ、子育て世代の経済的負担の軽減、子供の健康に対する不安解消、仕事と子育ての両立支援など、各種事業を実施してまいりました。この第1次総合戦略の計画期間は、平成31年度が最終年度であります。例えば指標の一つ、年間出生数は目標各年400人に対して、平成29年度実績は391人となっています。これらの目標値も含め、これまでの成果を検証した上で、平成31年度中に第2次総合戦略策定に取り掛かる予定となっております。この検討過程の中で区域指定の活用も含めて、さらなる移住、定住の促進、地方創生に向けて継続すべき事業、新たに取り組むべき事業を整理してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷議員。

○13番（萩谷俊行君） ありがとうございます。

本当に、前に向かってこれから先崎市長とともに、職員の皆さんもやっていけば、いい那珂市ができるのかなと考えてございます。今後とも、先ほどから質問もありましたけれども、やはり職員が一丸となって風通しがよい、そこで止まってしまうのではなく、やはり上まで上がって皆で相談して話し合っ、そして那珂市をよくしようという那珂市になることを心から願ひまして、私の一般質問を以上で終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告5番、萩谷俊行議員の質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（君嶋寿男君） 本日は議事の都合により、これにて終了し、残余の一般質問はあす3月6日水曜及び7日木曜に行うことにいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 2時55分

平成31年第1回定例会

那珂市議会会議録

第3号（3月6日）

平成31年第1回那珂市議会定例会

議事日程(第3号)

平成31年3月6日(水曜日)

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員(18名)

1番	小泉周司君	2番	小池正夫君
3番	石川義光君	4番	君嶋寿男君
5番	關守君	6番	富山豪君
7番	花島進君	8番	筒井かよ子君
9番	寺門厚君	10番	綿引孝光君
11番	木野広宣君	12番	古川洋一君
13番	萩谷俊行君	14番	勝村晃夫君
15番	中崎政長君	16番	笹島猛君
17番	助川則夫君	18番	福田耕四郎君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者

市長	先崎光君	副市長	宮本俊美君
教育長	大縄久雄君	企画部長	今泉達夫君
総務部長	川田俊昭君	市民生活部長	小橋洋司君
保健福祉部長	加藤裕一君	産業部長	篠原英二君
建設部長	玉川秀利君	上下水道部長	中庭康史君
教育部長	高橋秀貴君	消防長	飛田裕二君
会計管理者	小澤祐一君	行財政改革推進室長	平松良一君
農業委員会事務局長	根本実君	総務課長	渡邊荘一君

議会事務局職員

事務局長 寺山修一君 書記 小田部信人君
書 記 小泉隼君

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

○議長（君嶋寿男君） おはようございます。

ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

◎諸般の報告

○議長（君嶋寿男君） 議案等説明のため、地方自治法第121条第1項の規定に基づき、議場に出席を求めた者の職氏名は、今期定例会の冒頭に配付した出席者名簿のとおりであります。職務のため、議会事務局より事務局職員が出席しております。本日の議事日程については、別紙のとおりお手元に配付しております。

◎一般質問

○議長（君嶋寿男君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

質問者の質問時間は1人60分以内となっております。これには答弁の時間を含みます。これより順次発言を許します。

傍聴者の皆様をお願いいたします。

会議中は静粛をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードにしてくださいようお願いいたします。

以上、ご理解のほどをよろしくをお願いいたします。

◇ 花 島 進 君

○議長（君嶋寿男君） 通告6番、花島 進議員。

質問事項 1. 原子力安全対策について。 2. 市職員などが威圧を受けた時の対応について。 3. 国民健康保険について。

花島 進議員、登壇願います。

花島議員。

[7番 花島 進君 登壇]

○7番（花島 進君） 質問通告どおりの質問をいたします。

まず、原子力安全対策についてです。

市長が海野 徹氏から先崎 光氏にかわりました。花島は、これまで原子力発電について意見を述べ、質問をしてきましたが、市長がおかわりになったことから、改めて考えを述べ、質問をいたします。

原子力発電は、莫大なエネルギーと大量の放射能を扱っています。大量の放射能が環境に放出されれば、広い範囲の地域が汚染され莫大な被害が発生します。そのため、非常にまれな事故でも社会に与える打撃は大変大きくなります。そのほかの機械類、例えば飛行機や自動車あるいは鉄道などでも事故は起きています。事故はなくすべきです。しかし、それだけでなく、単一の事故の被害の大きさは、原発とそのほかの機器とは規模が全く異なるものになる可能性があるため、原発の安全には次元の違う考慮が必要です。原発を扱うには、非常にまれなことであっても、それが重大な事故につながらないものでなければなりません。考えなければならない事柄は、「大きな地震・津波」、「装置のふぐあい」、「運転や管理上のミス」、「設計や製作上のミス」、「テロ攻撃」、「航空機の落下・激突」、「大規模な落雷」など多くあります。さまざまな障害の複合も考えなければならないことです。

2011年3月、東北地方太平洋沖地震とそれによる津波によって、東京電力の福島第一原子力発電所では3つの原子炉が炉心溶融に至り、大量の放射能を放出しました。広い地域が放射能で汚染され、多くの住民が生活基盤を奪われ、社会も莫大な損害を受けました。このようなことが再びあってはなりません。

その観点から、福島原発事故、原子力発電技術の現状を見ると、我々の力のなさ、理解不足が目につきます。まず、原子力界全般の能力欠如が概観されます。福島事故の以前は、多くの原子力関係者、電力会社、政府関係者は、原子力発電技術があたかも万全であるような発言、宣伝を繰り返してきました。それが運転実績2,000原子炉年にも至らないところで、3基の原発がメルトダウン、炉心溶融してしまいました。これは、原子力関連技術がいかに無能であったか、あるいは原子力関係者が誠実でなかったか、あるいはその両方、すなわち誠実でもないし、有能でもなかったことを示しています。

原子力関係者に限らず、我々は、地下深くのこと、地震について理解が足りません。巨大で複雑な機械システムを万全に把握する能力も持っていません。にもかかわらず、安易な見通しで進み、福島事故に至ってしまいました。私は、いろいろな研究者、技術者、原子力関係者に安全のための努力がなかったとは考えていません。しかし、原発の特質に必要な水準の考え方を持っていなかったし、力も足りなかったと考えています。そもそも急いで実用化し、急激に巨大化した原発に後づけの安全対策で何とかなるだろうと考えたことが間違いだったと考えます。その間違いは、今も続いています。

福島事故の後、規制体制が見直され、原子力規制委員会、原子力規制庁ができ、新規制基

準なるものがつくられました。現在、その規制基準で原発の審査は行われています。新規制基準については、福島事故の反省を酌んだと言う者もいます。ですが、我々の理解不足、能力不足を把握したのではなく、既存の原発技術の範囲内でいくらか安全を向上し、いくつかの原発を動かそうとする基準でしかないと言えます。言いかえると、大きな事故の可能性を除くために、例え全ての原発が運転できないことになっても仕方がないと考えたような基準ではないということです。大きな事故の可能性に対して万全ではないということです。これは原子力規制委員の方も言っています。

国際原子力機関 IAEA が提起する基準にさえ及んでいません。例えば IAEA は、原発立地の周辺環境を評価すべしとしています。これは、周辺の人口や資産がどれだけあるかを見て、原発の立地の可否を考えろということです。その際には、単に計画時の周辺の評価をするだけでなく、原発が動く将来にわたっての周辺人口や資産を考えて評価すべしとしています。しかし、新規制基準には、そのような思想はありません。なぜでしょうか。我が国では、それを入れれば、いくつかの原発は技術問題以前にそのことだけで不適合となると考えるからでしょう。口には出さない考えで、周辺の評価問題を無視しているとしか思えません。

さて、東海第二原発を考えると、既存の原発共通の弱点は言うまでもなく存在します。そればかりでなく、電気出力100万キロワットを超える沸騰水型原発の最も初期の原発で、諸技術がこなれていないときのもの、運転開始から40年を経過した古い原発です。技術上の弱点が多くあります。今、一々その弱点をくみ上げたら時間がなくなるので、それは省略します。

そのような多くの弱点は、一つひとつは直ちに致命的になるとは考えていません。ですが、それぞれが事故の可能性を上積みします。最大の問題は、万全でないにもかかわらず、周辺に多くの人口、資産があるということです。30キロ圏内に96万人ということがよく言われ、事故のときに円滑な避難が不可能とも言われています。しかし、より多くの問題は、例え避難できたとしても、福島事故のように広範な地域が放射能で汚染され、生活基盤が破壊されれば、その被害は莫大になるということです。そのことだけで、結果として多くの人々が亡くなるだろうし、周辺の社会、国も被害を補償し切れません。周辺に暮らす我々が事故を怖がるだけの問題ではないのです。現在、そして近い将来も原発なしで電力を十分賄うことができます。にもかかわらず、110万キロワットの電力をつくるために、そういうリスクを冒すのは間違っているし、愚かな選択と考えています。

そこで、先崎市長に伺います。既に昨日の質問でも一部お答えになっていると思いますが、市長として東海第二原発の運転再開問題にどう向き合いますか、考えをお聞きしたいです。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 花島議員の質問にお答えをします。

昨日来の議論でもお答えをしまいましたが、東海第二発電所の再稼働議論につきましては、議会の皆様のご意見も踏まえ、そして十分にそういったものを考慮しながら、

やはり住民の安心・安全を最優先に考えています。これからも慎重に判断をしていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 市民の安全を最優先に考えていただくとのことで、私は、本当にそれは希望どおりです。ですけれども、この世界では、時に不十分な考えにもかかわらず、絶対安全などと思いつく方が多くいます。単に最優先と言うだけでなく、原発の問題の本質をよく考えていただき、今後の判断に生かしていただきたいと思います。

次の質問です。

原発に限らず、原発は市内じゃないですけれども、市内には複数の原子力関連事業所があります。出入り企業もあり、公的な研究機関もあります。市内の原子力安全関連事業所の安全問題の対応、また安全とは別に科学技術や産業の振興として考えがあればお聞きしたいと思えます。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 非常に大事な質問、私もかつて関心を持って考えていました。安全問題への対応では、市内に所在する原子力事業所は那珂核融合研究所、三菱原子燃料、三菱マテリアルと3事業所がございます。これらの3事業所のほかにも、隣接・隣々接自治体に所在する原子力事業所とも原子力安全協定及び通報連絡協定を締結し、これらの協定に基づき24時間365日、万が一にも各施設において事故・故障等が発生した際に報告を受け、迅速に対応できる体制を構築しております。また、毎年、事故・故障等発生時の通報連絡訓練を抜き打ちで実施し、迅速な通報連絡及び的確な初動対応体制の確保・維持に努めております。

科学技術や産業の振興、これは那珂市にとっても大変重要で、那珂核融合研究所が立地をされ、東海村とあわせて日本の原子力研究の中心地として世界に誇れる成果を上げてまいりました。今後もJT-60SA計画など、これら大規模プロジェクトは、私たち地元にとって大きな期待と誇りをもたらすものであり、万全な安全対策を講じた上で科学技術の積極的な活用を通して培ってきた技術、そういった力を地元産業の振興と生活の質の向上に結びつけていきたい、また、そういった取り組みをこれからも働きかけをしていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 研究や開発の進展に期待していただくというのはありがたいことですが、ただ、研究とか開発あるいは企業活動も、大きなプロジェクトだけで済むものではないんです。大きな計画とか大きなプロジェクト、大きな装置あるいは大きな予算というのは、非常に目を引いて、それだけで元気になる部分もないことはないんですけれども、地道に研究開発あるいは企業活動でも、いろいろなことを続けるということが大事なんで、その点をやっぱり理解していただきたいと思えます。

一方で、仮に華々しいものであっても、安全問題には決然と対処する覚悟を持ち続けてい

ただきたいと思います。それは今お持ちだと思えますけれども、いざ物事に向き合ったときに、それを忘れないようにしていただきたいと思えます。

次の質問に移ります。

市職員などが威圧を受けたときの対応についてお聞きします。

千葉県野田市で小学生が家庭内暴力で亡くなったとされる事件に関連し、教育委員会が親に見せるべきでないアンケート回答を見せてしまったことが話題になっています。威圧的な態度に屈してしまったとのこと。このことを考えますと、教育委員会に限らず、多くの市の職員等は警察官でもないわけです。ですから、威圧的あるいは暴力的の懸念がある人と向き合う覚悟がなく職務についている方が多いのではないかと考えています。そのため、突然そういう場面に立たされたときに、適切な対応がとれない可能性があるように思えます。

那珂市では、行政事務においても、市民そのほかから威圧的な態度で何かを迫られる場の可能性があるというのも事実だと思っています。その際、どのように対処することになっているのでしょうか。まず、威圧的な圧力に対しての指針等はございますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

本市の職員が公務を遂行する上で受ける不当要求行為等に対し、組織として毅然と対応するとともに、不当要求行為等の未然防止に万全を期すため、全庁的な体制を整備することにより、公務の円滑かつ適正な執行を確保するため、必要な事項を定めることを目的とします那珂市不当要求行為等対策要綱を制定してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 那珂市不当要求行為等対策要綱というのがあるということなんですが、それは後ほど見せていただきたいと思うんですけれども、この場で概要等を若干紹介いただきたいと思えます。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

本市が不当要求行為等に対する基本対応マニュアルがございます。本マニュアルは、同要綱に基づきまして、万が一不当要求行為等が発生した場合の対処法等について記してございます。内容といたしましては、幹部職員の危機管理意識の高揚、組織的な対応、毅然とした応対などについて示してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 私は、この質問で不当と言わずに威圧的という言葉を使いました。どういう意味かといいますと、威圧的な行為とはいっても、もとの動機が不当とは限らないわけです。そういう場合に、不当か正当かは職員が判断して対応、判断に困って対応を間違っ

てはいけないと思っています。ですから、不当であろうが、正当であろうが、威圧的な行為を受けたらまずはこうすると、それを決めておくことが大事なかなと思っています。

マニュアルがあるということなんですけれども、このようなマニュアルというのは、単につくりお知らせするだけでは不十分だと私は考えています。私の知っている、さる企業でパワハラ相談事を私は受けました。その企業というか、法人といたらいいですか、その法人ではコンプライアンス問題といってちゃんと教育もしているし、私に相談があったような行為はやってはいけないこととして明確に教育されているにもかかわらず、複数の人間が一緒になってそういうことをやっていたわけです。ですから、単にマニュアルを示したり、単純に教育しただけでは、なかなか対応できないかなと思っています。

ということで、マニュアルづくりだけではなくて、マニュアルにある趣旨、基本的な考え方、それを各職員に徹底するような教育訓練とかをぜひ考えていただきたい。今後、それについてどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

今後につきましては、職員一人ひとりがマニュアルを身につけて、適正な事務事業の執行を確保できるように周知の徹底をして、対応の強化を図ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 例えば火災消火訓練なんかは、よく私の昔の職場でもやっていたんですけども、ぜひそういうことも含めて模擬訓練とかを検討していただいて、職員の対応能力の向上をお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

健康保険について伺います。

昨年4月から国民健康保険の会計が広域化ということで県主体に変更されています。広域化の目的については、私としては賛成できない部分がありましたが、今としてはもうそうなっていますので、その部分については触れません。

さて、国民健康保険が県主体の会計になって、3月末で1年になります。那珂市における収支の今後の見通しはいかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

国民健康保険事業につきましては、本年度から茨城県との共同運営になり、間もなく新しい制度のもとで決算を迎えることとなっております。この新しい制度の中で、市は県から割り振られた納付金を納めることで医療給付に係る費用を県から交付されることになり、急な医療費の増加による財源不足の懸念は解消されたということになっています。

そこで、平成30年度当市の国保会計の収支見通しにつきましては、平成29年度の繰り越しが3億6,000万円ほど発生したことによりまして、当初予算におきまして予定しておりました基金の取り崩しを行わないで済むことになりました。現時点におきまして、県からの交付金や保険税収入が確定しているというような状況ではございませんが、1億2,000万円程度の黒字を見込んでいるところでございます。

なお、中長期的な見通しとしましては、国保加入者の減少や所得の伸び悩み等により、国保税収入の減少傾向が見られているところです。また、医療技術の高度化や新しい医薬品の開発等により医療費の増加も懸念されております。医療費の増加は、県に納める納付金に大きな影響を及ぼしますので、その動向によりましては、財政運営が厳しくなっていることが予想されております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） 当初予算で基金を取り崩す予定だったのが、取り崩さないでさらに黒字というのは、どういうことなんでしょうと突っ込む気はないです。会計システムが変わって、むしろ予測しにくいということで理解いたします。

次の項目です。

那珂市は、毎年約1億円を一般会計から国民健康保険に繰り入れていました。県から、そういう繰り入れを減らしていく計画の作成を要求されていると聞きました。その事情はどんなことなんでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

赤字解消計画の策定につきましては、国及び県から、国民健康保険の赤字削減・解消計画の策定として通知があったところでございます。ご承知のとおり国保財政は、原則としまして必要な支出を保険税や国庫支出金等によって賄うということになっております。しかしながら、実際には決算補填を目的としました法定外の一般会計からの繰り入れ等が行われているのが現状であります。通知の内容につきましては、市町村は、医療費水準、国保税設定、保険税収納率等の要因の分析を行い、必要な対策を講じることを求められているものでございます。

当市におきましても、一般会計からの繰り入れの要因を分析し、国・県の指導のもと対策をとってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） お話の中にはもっともらしい部分もあるんですけども、若干納得できないということがあります。まず、国民健康保険財政は、支出を保険税や国庫支出金などで賄うことを原則にとされていることなんですけど、これについては例えば国は、支出全額そ

のものがふえているにしても、過去、国の負担率をずっと下げてきましたね。その分は、結局保険加入者かあるいはほかのどこかが負担しなければならないということで、全く納得できる理屈にはならないです。国民健康保険の加入者の多くは、収入の少ない方が多いです。さらに、組合保険などよりも負担率が高くなる要素がいくつもあります。那珂市においても、一般会計から繰り入れを行っていきながらも、私としての考えとしては、社会福祉としての出費であって、財政の失敗とかその他の赤字補填のために繰り入れたものだとは考えていません。

市町村がその自治として自己の判断で一般会計からの繰り入れを決めていることに対して、削減を裏側から誘導するような計画の策定強制は納得できないところがあります。もちろん、その計画の中に含まれる医療費の分析や税収の分析を行うのはいいことだし、あるいは予防とか昨日の質問にありました未病の対策などで、最終的に健康増進して、なおかつ医療費を減らすということを努力するのがいいと思いますが、那珂市の自治への不当な侵害になるようなことは拒否していただきたいと考えています。いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

現時点でこの国保制度が新しい制度になってまだ1年未満というようなことから、なかなか難しい点はあるとは思っております。その中で、この国保財政の健全運営というのは、市としても行っていかなければならないというふうに思っておりますので、そのためにも一般会計からの繰入金につきましても適切に考えるとともに、国への支出金等についても要望してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 花島議員。

○7番（花島 進君） わかりました。先が見えない話なのでなかなか大変だと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上、私の質問を終わります。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告6番、花島 進議員の質問を終わります。

◇ 勝 村 晃 夫 君

○議長（君嶋寿男君） 通告7番、勝村晃夫議員。

質問事項 1. 平野、杉本線について。2. 西室家、中道線について。3. 春日川について。

勝村晃夫議員、登壇願ひます。

勝村議員。

[1 4 番 勝村晃夫君 登壇]

○ 1 4 番 (勝村晃夫君) おはようございます。議席番号14番、勝村晃夫でございます。

まず、冒頭に、先崎新市長、ご就任おめでとうでございます。これから4年間、この那珂市を活力ある那珂市へと引っ張って、ご活躍されることをご祈念申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして、今回は建設部長だけの回答になるかと思うんですが、ひとつよろしく願いいたします。

まず、平野杉本線の進捗状況についてどうなっているのかお願いいたします。

○議長 (君嶋寿男君) 建設部長。

○建設部長 (玉川秀利君) お答え申し上げます。

県道平野杉本線は、茨城県常陸大宮土木事務所が整備を進めているところでございます。現在は、JRによる上部工を進めており、その後、高架橋前後の取り付け道路の整備を進めまして、平成32年度を目途に供用開始を予定しているということでございます。

以上でございます。

○議長 (君嶋寿男君) 勝村議員。

○ 1 4 番 (勝村晃夫君) 地図を皆さんにお渡ししておけばよかったんですが、準備不足で申しわけございません。平野杉本線といっても、皆さんわからないんじゃないかなと、場所がですね。まず、ちょっとイメージしていただきたいんですが、平野台団地があります。バードラインから団地の中を抜けて、118号、カスミの交差点があります。その交差点を北のほうへまた向かって行って、旧118号を越えます。そうすると、今まで道路がなかったんですけども、今度、道路をつくっておりますが、水郡線を越えます。先ほど部長が言いましたように、その水郡線は高架になります。そして、真っすぐ今度は北のほうへ進んでいきまして、県道日立笠間線、瓜連中学校の下のところへぶつかる丁字路になります。それを右へ行きますと、久慈川、栄橋を通過して太田方面と、左へ行きますと、瓜連の市街地へ、常福寺のほうへ入っていくということですので、ちょっとその辺をイメージしていただきたいんですが、そういうわけで、この水郡線を越えるという大変高架橋にするというのは時間がかかりまして、これは全て県のほうで土木でできるわけじゃないと、高架の部分は常にJRの関連会社がやるということで、大分時間がかかっております。私は確認してきましたが、とりあえず高架には現在なりまして、これから32年度を目途の供用開始ということは、あと1年、長くてもあと1年で供用開始になるということで、大変今度は便利になるんじゃないかと考えておりますが、そこで、当然高架になれば、今度は歩道橋も高架になるということで、その歩道になる部分において、道路が今までなかったんですよ。その部分は畑でしたので、そこを新しく道路をつくるような形になっていると思うんですが、その市道整備についての進捗状況はどうなっていますか。

○議長 (君嶋寿男君) 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

議員が今おっしゃるところは、踏切の部分だと解釈しております。今度この高架ができることで、踏切閉鎖ということでそこを今までお使いになっていた方の便宜をそのまま、不便を来すということで、その部分につきましては、現在その踏切地点から高架のところまで118メートルございます。そのうち高架橋工事の工事ヤードのために、40メートルほど使っております。それを除く約80メートルまでは改良工事が終了しております。その後、本線が平成32年度に供用開始ということをご予定しておりますものですから、市道につきましても、それに合わせ工事を進めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 一応新市道の338号線ですね、整備延長が118メートルと伺っております。80メートルまでの工事が進んでいて、あと平野杉本線の工事の関係の資材置場になっているということで、それをよけてから残りの部分を整備していくということですね。

それで、この何で平野杉本線が大事なのかということ、先ほど言いましたように、県道日立笠間線、県道61号線です、日立笠間線のバイパス化といいますか、それが主なメインでございます。そういうわけで、この平野杉本線が非常に大事なかなと思うんですが、この県道常陸笠間線の現在の通行ルートはどうなっていますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

県道日立笠間線は、城里方面から常陸太田や東海に向かう車両は、一般的に118号線の交差点を横断しまして、瓜連の市街地を抜けて通行しているというのが現状でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 瓜連、市街地を抜けて現在通行しているわけですが、旧道118号線で北瓜連という交差点がございます。ここのところ、かなりその先が常福寺に向かいまして非常に狭い道路でございます、その迂回路という意味合いがあります。大変狭い道路で、大型車両については通りにくい、そして、また結構事故の多い場所でもあるということで、県のほうでもこれを解消したいということで、この平野杉本線が開通する予定になっておりますが、そうしますと今度は平野杉本線のほうに迂回をしていくわけですが、その場合に今度は車の流れが大きく変わってくるかと思えます。この車の流れについては、どのように考えておられますか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 今、議員のご説明にありましたように、瓜連市街地を抜けて特に大型車両が狭いところに入ってきているということをご目的に、118号線やバードラインへ迂回することを目的に、この道路が建設されたと思っております。このことに伴いまして、この開通に伴いまして、今度は118号線からこの高架橋を通りまして流れたり、あとはバード

ラインへ流れたりということ、旧市街地からそちらのほうに流れることが予想されております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） そういうわけで、今度は少しはそれが解消されるかなと、少しどころじゃない、大きく解消されるのではないかと思います。

平野杉本線が完成、これは現在、その市街地を通っているわけですが、完成後は大変交通量がふえるのではないかと、笠間市から常陸太田市、日立市のほうへも行ける車は通行が楽になるということで、交通量がふえるのではないかなと思うんですが、その新しい道路が完成したときの交通量の対応、動線についてどのように考えているのかお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） ご説明申し上げます。

新しい道路が完成することによりまして、一般の交通量の動線や交通量が現在と変化することが考えられます。状況の変化を注視しまして、そのことによる影響がある場合は、自治会や関係機関と協議を行いまして、交通量の増加に伴う安全対策に努めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 自治会、関係機関と調整するということですが、現在もう既にやっているのが、あれが多分その関係じゃないかなと思うんですが、118号線が今度4車線化になると、そこで静入り口の交差点が、今、笠間市のほうから来ますと、あの交差点の手前のところを拡幅、県道の拡幅工事をやっておりますが、おそらくあそこで右折をしてくださいよと、平野杉本線へ向かってくださいというようなことで広げているのではないかなと私は認識しておるんですが、このほかにもいろいろ先ほどバードラインというのも出てきました。バードラインに抜ける車もあるでしょう。笠間市のほうから来て、手前のバードラインから入ってくる車もあるでしょうし、いろいろな動線の変化があると思いますので、交通事故の誘発のないような安全な生活を送るためにも、自治会とか関係機関と協議をして安全対策に努めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、続いて、西室家中道線についてお伺いいたします。

これもちょっと先ほどと同じようにイメージしていただきたいんですが、西室家中道線というのは、これも都市計画道路でありまして、カスミのところから今の杉本線、コメリがありますが、その間を通して今現在は瓜連駅の南口まで出ておりますが、それを曲がらずに真っすぐ行って、らぼーのところまで出ていくというのが西室家中道線ということで、現在これが都市計画道路として認定をされているんですが、なかなかここもいろいろな現状がありますので、なかなか建設部長もお答えしづらいかと思いますが、これは今後の計画はどう

なるのかということだけお知らせをお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

今ご説明いただいたように、都市計画道路西室家中道線につきましては、瓜連駅からの駅南停車場線の整備、これとあわせまして全体の計画の一部であるところの市街化区域の部分を国の補助金をいただきまして、平成16年から平成19年にかけて整備をしましてまいりました。その後は、今お話しいただいたスーパーであったり、ホームセンターなどの店舗ができ上がったり、あとは宅地開発も進んでおり、一定の効果は見られたとっております。残りの部分につきましては、大部分が市街化調整区域ということもありまして、費用対効果などを鑑みまして、他の市街化区域の都市計画道路が優先となっていたところがございます。しかしながら、国道118号線の4車線化の整備や、そのことによる民間事業の動きなども見据えまして、投資に見合った整備計画を模索しながら関係機関と協議し慎重に進めてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 市街化区域でなく、今現在、他のところで市街化区域内の整備を進めていると、ここの部分が現在残っている部分、西室家中道線で市街化調整区域ということで、なかなか道路をつくっても効果が出ないのではないかということかなと思うんですが、そうですね、区域指定もやったんですが、区域指定は12号ですから、ここは区域指定内に入らないということもありますので、その辺の費用対効果、これを考えてこれから進めていくと思うんですが、118号線の4車線化は、一応あれは何年度でしたか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 118号線は、県の事業で今進めているところでありますが、平成32年度を一つの目標として4車線化を進めているということはお伺いしております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 平成32年度が目標なんでしょうけれども、4車線化ということで、4車線になると、また、この地形も変わってまいります。そして、また、この西室家中道線については、まず現在のらぼーるのところへ抜けるということが目標ですので、118号線のほうの完成と、またそういったもろもろのことを県のほうと協議を続けていただきたいと思いますが、よろしくをお願いいたします。

それでは、続いて、春日川についての質問になりますが、春日川というのはなかなか言いにくくて、我々が子供のころは「カスガワ、カスガワ」と通称言ってまいりましたので、「カスガワ」でひとつお願いをいたします。皆さん、その春日川というと、早く言えば、木崎小学校の下のところに谷津川がありますね。旧那珂町の谷津川、その上流部分が春日川な

んです。瓜連町の中、瓜連駅の北側のちょっと引っ込んだ低い部分を通って、今度オープンしました藤井病院のところ、あそこから瓜連小学校の前を通って118号線を渡って、大変広いんです。古徳、静の水が全部そこに入ってくるというような川でございますので、ちょっとイメージだけしておいてください。

それでは、その春日川の改修というのも前々から言われておまして、どういう経過でこの春日川の改修というのが要望されてきたのか、その経緯について部長にお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

春日川はまさしく瓜連の市街の大きな排水路ということで、台風や集中豪雨によりましてこの春日川が増水し、地盤の低い地域におきましては、一部住宅の床下浸水までの被害がたびたび発生しております。それを踏まえまして、平成26年に春日川改修に向けた計画を検討する業務に着手いたしました。そのときは、計画流域、排水断面の検討などを行いました。その後です、昨年度、平成29年度になります、計画線の検討と用地測量、そして今年度、平成30年度におきましては基本計画を実施してまいりました。来年度は、それをもちまして詳細設計に着手したいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） そうなんです。今、部長が言いましたように、雨が降ると、ちょっと大雨だなというようになりますと、去年はなかったんですが、その前は毎年のように土木のほうの方、関係者の方が雨を見ながら、瓜連駅の北側のすぐ下のところ、下がったところ、一番低い部分なんです、ここに土のうを積んでいたと、雨が降ると土木関係の方は皆さん冷や冷やしていたということです。その土のう積みが大変だったかなと思うんですが、そこが一番のネックになっておまして、床上浸水も過去にはあったということでございまして、先ほどの県道平野線の下流部分については、旧那珂町時代に改修をして、大分広げてございまして、それから上流部、瓜連小学校の先のほうが、118号線のところまでが未改修であるということで、そのちょうど中心市街地のところが増水するというところでございまして、改修予定の現在の状況はどうなっているのか建設部長にお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

先ほど説明いたしました現在の状況としましては、平成29年度に計画路線の検討、用地測量、平成30年度に基本設計、それから平成31年度はまだこれから予算審議をいただくところなんです、詳細設計に着手したいと、このように考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 測量は済んだということですが、測量したときのこの一応の改修す

る予定の延長はどのぐらいになるのでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 申しわけございません。詳細の数字を覚えてはいないんですが、1.五、六キロでしたか、すみません、不確かで申しわけございません。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） 私も大体の数字は聞いているんです。同じく1.5キロくらいだということ聞いております。現在の川幅が大体狭いところで2メートルくらいということも測量の結果が出ているんですが、改修する予定の、これから詳細設計に入るんですが、今現在の計画では川幅はどのぐらいに設定するのか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） あくまで基本設計を今進めているところで、場所によっては幅3メートル、深さ2メートルを大体標準断面として考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） わかりました。

2メートルから大体3メートルになると、1メートル幅がふえればかなりの流量がふえるということですから、これで安心するのではないかなと思いますが、一番心配なのは一番低いところで、常に増水するところがどのようなことになるかということですのでけれども、その辺もよろしく願いいたします。

今度もう間もなく118号線の改修に入るわけでしょうけれども、4車線化ということで、ここの幅も当然ふえてくるのでしょうか、118号線を渡るところの幅ですね、この辺はどうなっていますか。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 春日川は、かなりの流域を拾っております。現在の118号線の下に入っているカルバートは2メートル角前後だと記憶しております。先ほど答弁申し上げましたように、全体標準断面が横幅3メートル、縦、深さが2メートル程度を計画しておりますので、今度118号線が整備するに当たっては、その程度の断面が確保されると聞いております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） そうですね、当然4メートル、4車線化になれば、現在のよりも川幅がその部分広くなると思うんですが、上流部分だけ広がってしまって、下流が狭くなるというような変則的なものにならないように、その辺も詳細な設計をお願いしたいと思います。部長、今言いましたように、大変広範囲の水をやっている、集めるわけです。静、古徳の部分の水が全てここに集まってくるということですので、春日川そして下流部の谷津

川、これは川と言っていますけれども、川ではないんです。先ほど部長、冒頭おっしゃいましたけれども、排水路なんですね。排水路ですから、自主財源で賄わなくちゃいけないと、どこかの補助金をもらってきてということになるわけでしょうけれども、そういうわけで、なかなか両宮排水路がもう今年間もなく終わるんでしょうけれども、それにしても両宮排水路もなかなか完了までいかなかったというのは、そういった事情もあって進まなかったんじゃないかなと思っております。

そして春日川を改修する場合、この改修について通常、河川改修というと当然下流部から上流部に向かってやるのが通常かと思いますが、浸水箇所を、一番低いところ、市街地の中の駅からおりにいったところの低い部分、ここが一番やっかいなところかなと思うんです、工事するにしても何にしても、計画にしても。ただ、ここが一番大変な部分ですので、その工事の手法として川下からでなく、その部分から始めるというような、危険性を早目に取りしておくというような、そういった手法というのはとれるものなのかどうか、確認だけお願いします。

○議長（君嶋寿男君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

今ご説明いただいたように、本来、排水路の改修には下流側からやるのが原則なんです、先ほどご説明申し上げました、低い土地で住宅が張りついているところ、ここは死活問題になっております。

今後は、いろいろな工法も含めながら、それでできるところ、しかも一番被害が大きいところをできるだけ早目に着手したいとは考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 勝村議員。

○14番（勝村晃夫君） そういった手法も取り入れて、これから詳細設計に入っていくわけでしょうけれども、まず、住民の方の安全・安心、これを最優先に考えていただいて、この春日川の改修についてはよろしくお願ひしたいと思ひます。瓜連地区ではこの春日川、排水路というのはこの春日川1本しかありませんので、どうしてもここに水は集中してしまうという現状でございますので、何とか財源を確保していただいて、どうか早目の改修工事に取リかかっていたきたいと、駅前からサーボの跡地が今度、老人保健施設ができましたが、あの辺についても大変厳しい工事になるのかなとは思ひますが、今、流れも余りきちっとした流れになっていないというような部分もあります。できるだけ早目の計画、そして詳細設計、財政も鑑みながら、よろしくお願ひをいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告7番、勝村晃夫議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を11時10分といたします。

休憩 午前10時58分

再開 午前11時10分

○副議長（古川洋一君） 再開いたします。

本席を議長と交代し、引き続き議事を行います。

◇ 筒井かよ子君

○副議長（古川洋一君） 通告8番、筒井かよ子議員。

質問事項 1. 中央公民館について。2. 区域指定制度導入後の状況について。3. 空き家バンクについて。4. 市内道路の補修工事状況について。5. 学童保育について。

筒井かよ子議員、登壇願います。

筒井かよ子議員。

〔8番 筒井かよ子君 登壇〕

○8番（筒井かよ子君） 議席番号8番、筒井かよ子でございます。

今回通告をいたしております5項目のうちの順番を変えまして、5番目から先に質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

先立ちまして、先崎市長、那珂市長ご就任まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。那珂市の明るい未来が見えてまいりました。よろしくお願いいたします。

では、学童保育について質問いたします。

女性の社会進出を推し進める現代社会において、小学校の学童保育所は放課後を安全に過ごせる場所として、働く親にとって重要な役割を担っているところであります。

そこで、公設の学童保育所について質問いたします。

現在、入所希望者の全員を受け入れることができているのでしょうか、お願いいたします。

○副議長（古川洋一君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

平成30年度につきましては、全員受け入れることができている状況でございますが、市内の公設9カ所の学童保育所につきましてはの来年度、平成31年4月からの入所の申し込みにつきましては、ほとんどの学童保育所が定員以内の申し込みということになっておりますが、五台学童保育所1カ所において、定員以上の申し込みがあるというふうな状況になっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 定員以上の申し込みがある場合、ということは、これ全員を受け入

れられるということなのでしょうか、お聞きします。

○副議長（古川洋一君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

定員を超えて申し込みがあった場合は、入所させる順番としまして、まだ小学校になれていない1年生などの低学年の児童から優先的に入所させる方針で対応しております。入所いただくことが難しい場合には、市内の民間学童保育所を案内するようなことにもなっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） この五台学童保育所で入所希望者が定員オーバーということは、これ現在何年生が何名オーバーになっているのでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

6年生が6人というような形になっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 今お聞きしました、それは大変なことですね。今までもこのように入所希望者がオーバーした場合は、今、部長がお話しいただいたように、小学校1年生のなれていない子供さんは預かるけれど、高学年についてはほかのところを紹介したりしているということでございます。今のお話を聞いていますと、今回は市内9カ所の公設学童保育所全員でおそらく何百人といる中で、たった一つ、五台学童保育所の6名だけが入所できないということになるかと思えます。今まで何の不安もなく預けていたのに、急に定員超過を理由に入所できないのは大変困ります。子育て支援に力を入れている那珂市であるにもかかわらず、この状態は納得できません。もしやむを得ず、五台学童保育所が無理ということで民間学童保育に入ったとしましたら、きょうだい下の学年であれば、当然五台の学童保育所にいるわけであり、母親が迎えに行くときに、あっちこっちと迎えに行かなければならず大変な労力です。この6名をもっと柔軟な考えのもとに対処していただけないでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

市といたしましても、議員がおっしゃるとおり、希望者の受け入れ、全員が望ましいというふうに考えております。今回は、定員を超えてしまうような状況にありましたので、民間学童保育所の入所や五台学童保育所での一時預かりなどをご利用することはどうですかというように案内を申し上げたところではございますが、五台学童保育所の利用状況等を再度確認、精査した上で、保育の可能な範囲内で受け入れることができる方向で対応してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 部長の今お答えをいただきまして、大変柔軟な対応をしていただきまして、ありがとうございます。よかったです。本当によかったです。どうぞよろしく願いを申し上げます。

続きまして、中央公民館について質問いたします。

中央公民館は、皆さんもご存じのとおり、外観もモダンな建物であり、立地的にも白鳥の飛来する一の関ため池親水公園や曲がり屋、さらに市役所に隣接しており、那珂市の中心的存在として日々多くの方が利用しております。私も、趣味の教室で利用しております。

そこで、年間の利用状況を教えていただきたいと思います。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

平成29年度の中央公民館の利用状況でございますが、延べ数になりますが、2,833団体、5万9,637人の方にご利用いただいております。部屋別の利用状況としましては、大会議室の利用が一番多く、次いで視聴覚室、会議室2となっており、反対に利用が少ない部屋は、和室2、会議室1、調理室となっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 今お答えいただきましたように、随分多くの市民が日々利用していることがわかります。

ところで、この利用されている年齢層はどのようになっているかお聞きします。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

利用者の正確な年齢層の把握はしておりませんが、昼間、比較的年齢層の高い方の利用が多いようでございます。夜間などは若い方や子供の空手などの教室にも利用されておりますので、全体的に幅広い年齢層が利用している状況となっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 大変年齢的にも幅広く利用されているのがわかります。特に年齢の高い方の利用が多いと私は思っておりましたが、若い方からお子さんまでの利用もあり、中央公民館が那珂市にとって生涯学習のメイン会場として重要視されているのがわかります。

そこで気になるのが、これだけ多くの利用があるにもかかわらず、エレベーターの設置がなされていません。特に2階には講座室や和室さらには教室、受講生の展示コーナーや調理室もあり、荷物を持った移動が多くあります。足が痛い、膝が痛い、時にはけがをした状態のときもあります。赤ちゃんを抱っこしたり、小さい子の手を引いたりした状態のとき、エ

エレベーターは必需品です。健康のために階段を上りましょとばかりはいかないことも多々あります。2階以上の公共施設で、エレベーターがないことのほうが珍しいくらいです。他の市町村に行って、公共施設を私は利用することがありますが、大体のところはエレベーターがついております。ぜひ中央公民館にエレベーターの設置を望みますが、いかがでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

現在、高齢者や足の不自由な方への対応としましては、スロープのほうをご利用いただいているところですが、特に今のところ、エレベーターを希望するようなご意見のほうはいただいております。新たにエレベーターのほうをつけるとなると、設置場所や予算の問題もございます。中央公民館のほうは開館しまして間もなく35年を迎え、多くの設備のほうが老朽化しておりますので、まずはそちらの修繕のほうを優先していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 老朽化した設備のほうの改善というのわかりますが、今までエレベーター設置のご意見はなかったということですが、私のところへは数人このような意見をいただいております。それで、このような質問になりました。私の仲間も杖をついている方がおまして、2階でのイベントには私は行かないわと言っている方がいるのです。車椅子の方も大変不便を感じています。執行部の皆さんは、皆さんお若いので、高齢になったことがないので実感が湧かないのだと思います。いずれ高齢になってみると、ああ、あのとき筒井はこういうことを言っていたなど、多分わかる時が来るかと思っております。

もう一度申し上げますが、設備の修繕の中でぜひ考慮していただくことを望みます。

次に、トイレについて質問いたします。

私はトイレの質問が結構多いのですが、今回もトイレの質問をさせていただきます。中央公民館は和式トイレが主であり、洋式トイレもありますが、数が少ないのがとても気になります。足や膝の悪い方が和式トイレを敬遠する、ホール脇のトイレがイベントのときなど、例えば敬老会やいろいろなイベントのときに混み合うことがあります。その他のトイレで混雑することはありませんが、洋式トイレの数をもう少しふやしてほしいと思います。災害時避難所にもなっているので、ぜひ改修をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

公民館のトイレの状況でございますが、男性のほうは和式が3、洋式が3、女性のほうは和式が7、洋式が5つということで、洋式トイレの便座は全て暖房便座という仕様になっております。また、そのほかに洋式の多目的トイレ、こちらが1階と2階に1つずつございま

すが、こちらは古いものなので暖房機能のほうはついておりませんので、洋式トイレのほうの増設、それとあわせて今後検討していきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 暖房機能はぜひ必要であると思います。今どこのご家庭でも、ご自分のおうちの便座は多分暖房がついてウォシュレットがついて、快適な生活を送っていられると思いますので、この辺は検討をよろしく願いいたします。

それでは、次に、同じく中央公民館、以前は集会ホールの音響の悪さが大変気になっておりましたが、これはこの前お聞きしましたところ、最近改修されたということです。ただ、照明が暗いのが気になります。ぜひ改善を望みますが、いかがでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

先ほど議員からお話しありましたとおり、スピーカーのほうは平成25年に修繕を行っておりました改善はされております。照明につきましては、利用者からご指摘を受けているところではございますが、そのほかにも電気設備や空調設備、そして集会ホールの舞台装置、多くの設備が老朽化している状況にありますので、今後はできるだけ早い時期に年次的な各設備の大規模な修繕を計画していきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） いろいろ費用もかなり高額になるとは思いますが、ぜひ年次的に検討していただきたいと思います。

さて、那珂市には市の歴史などを学ぶための歴史民俗資料館があり、大変専門的な分野を体験することができることを誇りに思っています。一方、文化芸術を身近に鑑賞する施設が少ないように感じています。美術作品や工芸品、写真などを展示・鑑賞できる芸術ギャラリーなどの設置を希望します。

那珂市にも優れた芸術家がたくさんおります。文化の薫り高いまちを目指すのであれば、市民みんなで芸術家を育てようといった気概が必要であると思います。数年前に片岡鶴太郎画伯をお呼びして、らぼーるで行われた絵画制作及び講演会には、大勢の参加がありました。関心のある方は大勢います。ぜひ公民館の一角にこのようなギャラリーを実現されてはいかがでしょうか、お伺いいたします。

○副議長（古川洋一君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

中央公民館におきましては、2階の談話ホールの両脇に定期利用団体の作品展示のスペースがございます。議員がおっしゃるように、市民の方が身近なところで著名な美術品や工芸品を鑑賞できる本格的な設備があれば素晴らしいこととは考えますが、防犯や温度や湿度、

紫外線対策等、相応の設備が必要になるとは思っております。また、既存の設置場所として考えられるスペースとしては1階ロビーとなりますが、文化祭や公民館祭りのほか、先日まで開催しておりましたつるしびな展や絵画展など、年間を通して利用がございましたので、新たなスペースの確保は難しいものと考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 現在の建物のままで実現しようとしても、なかなか難しいかもしれません。

では、ここで中央公民館の今後の展望についてお聞きします。

今までいろいろ私が質問してまいりましたが、先ほどの答弁の中にも、築35年を迎え、多くの設備が老朽化しており、年次的に各設備の大規模な修繕を計画していきたいとありました。これらを一発で解決する方法があります。それは中央公民館の全面改装、または文化センターとしての新築です。ちょっと無茶な質問かもしれませんが、新しく活力ある那珂市に向かって、新しい先崎市長のお考えをお聞きしたいです。いかがでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 市長。

○市長（先崎 光君） 筒井議員からそういうお尋ねをいただきました。

市内には文化センターはありませんが、らぼーるや中央公民館であったり、民俗資料館がその機能の一部を担っているものと考えてはおります。芸術文化のさらなる振興や那珂市の魅力度を上げていくためには、可能であれば必要な施設ではないかとは思いますが、大規模な施設となりますと、維持管理費や先々人口減少が予想される中で施設の稼働率などさまざまな課題も考えられます。隣接には収容能力の大きな施設もありますので、必要に応じ、そうした施設を利用いただくことも可能ではないかと思っております。

市としましては、まずは現在新規に計画している4中学区コミュニティセンターの整備や、那珂市公共施設等マネジメント計画に基づく、既存の施設の修繕による長寿命化の事業を優先していくべきではないかと考えております。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 市長、1つだけ再度質問していいでしょうか。

隣接には収容能力のある大きな施設もありますと市長おっしゃられましたが、これは例えばどういうところを想定されてお話しになられましたでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 市長。

○市長（先崎 光君） 例えば近隣には常陸大宮市、常陸太田市、東海村、ひたちなか市、水戸市があります。さまざまな行事が行われている。なかなかこういったことは今までもなかったでしょうけれども、例えばどうしても必要に迫られれば、そういったスペースを那珂市が臨時に借りて、そこで事業を行う。例えば、民生委員さんなんか、今、ひたちなか市のクリスタルパレスなんかで定例会なんかを開いていますよね。そういうイメージかもしれま

せん。本来は、先ほど申し上げましたように、独自であるのが一番すばらしいんですけども、現在の財政状況と諸般のことを考えれば、やはり当面は既存の施設の修繕、活用を図っていくということが現状の考えとなります。よろしくお願いします。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） よくわかりました。先崎市長のこれからの手腕に大いに期待いたしております。

では、次に、区域指定制度導入後の成果について質問いたします。

区域指定制度につきましては、昨日、萩谷議員が質問しておりましたが、少し違った角度から質問いたします。長年議論されてきました区域指定制度の導入が実現し、まだ日が浅いですが、今日までの効果をどのように評価されているのでしょうか、お聞きします。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

区域指定制度の導入後まだ2年しか経過しておりませんので、十分な検証は難しいのですが、これまでこの制度を利用した許可件数が2年間で29件ございました。その中には宅地分譲、これは10区画以上なんですけど、あったことから一定の効果があったものと考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 今ご答弁ありましたとおり、許可件数が29件、その中に宅地分譲もあるということは効果が大ということのあらわれだと思います。

ところで、この市街化区域に隣接する11号区域についても、区域の指定を行ったほうが効果的ではないかとの意見も私には寄せられていますが、今後、見直しを行う予定はありますでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

那珂市は、地形が平坦であり宅地化を図りやすい状況でございます。しかしながら、都市計画において市街化区域と調整区域のバランスを保つということは最も重要なこととなります。そのような中で、市街化区域の求心力の低下や市街地の急激な拡散を未然に防ぐことに配慮しながら、市街化調整区域において既存の集落の維持保全を目的として、12号区域に限り指定を行ったところでございます。11号区域の新たな設定を含めまして、区域指定の見直しにつきましては、当初の趣旨を念頭に置きながら必要に応じて対応していきたいと、このように考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 区域指定制度が理解され定着するには、多少時間がかかるかもしれ

ませんが、市民にとって生活しやすくなることが何よりと考えています。

次に、区域指定制度と少し関係があると思われませんが、空き家バンクについて質問いたします。

空き家バンクに関する問い合わせ件数及び登録件数についてお伺いいたします。

○副議長（古川洋一君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

空き家バンクに関します問い合わせ件数と登録件数でございますが、2月末日現在で申しますと、物件の登録に関する問い合わせが21件、買いたい、借りたいなど利用に関する問い合わせが22件ございましたが、登録に至った物件はございません。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 空き家バンクへの登録はゼロということです。ここで市街化調整区域内の空き家は、区域指定地区でないとその空き家バンクへの登録はできず、不満を漏らす意見も出てきています。

では、市内の空き家の状況をお聞きします。

市街化区域・市街化調整区域別の空き家のデータを教えてください。

○副議長（古川洋一君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

市内の空き家数は、平成27年の各地区自治会によります調査時では877戸、その後の調査で取り壊して更地にした物件及び使用中の物件が22戸、現在は新規の空き家数の情報が11件ありまして、866戸になります。このうち市街化区域が199戸で、市街化調整区域が667戸でございます。地区別で申しますと、神崎地区が111戸、額田地区が84戸、菅谷地区が184戸、五台地区が169戸、戸多地区50戸、芳野地区が95戸、木崎地区が56戸、瓜連地区が117戸になってございます。現在把握しています那珂市の1万8,708戸の住宅数から見ますと、約3.8%が空き家となっております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 全戸数の3.8%が空き家ということは、かなりありますね。この866戸の空き家のうち、持ち主が不明な空き家というのは何軒かありますか。

○副議長（古川洋一君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

空き家866戸全ての所有者を把握してございますので、不明なものはございません。しかし、実際の所有者全てに連絡をとれるわけではありませぬので、連絡が全てつくかどうかはわかりかねますが、管理不全の空き家につきましては、全て把握をしているところでございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 所有者は全てわかっているが、連絡をとれるかどうかはわからない。微妙ですね。管理不全な空き家は把握しているということですので、ひとまずは大丈夫でしょう。

では、この空き家の近隣から苦情がある場合は、どのように処理していますでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

苦情があった空き家の適正管理につきましては、助言及び指導について現地確認を行いまして、電話や訪問などで管理者とお話ができる場合は、直接説明をしまして助言や指導を行っているところでございます。直接お話ができない管理者へは、文書送付による指導を行っております。また、除草業者等の相談があった場合は、シルバー人材センターにおいて土地所有者等からの依頼を受けまして、空き家の除草作業を請け負うという事業を行っておりますので、これらを紹介するなどしているところでございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 今後、空き家の所有者に対して自己管理を徹底していただくための対策などを伺います。

○副議長（古川洋一君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

広報、ホームページ、メルマガ等を用いまして、周辺の住環境への影響が出ないよう適正に管理していただくことの周知を徹底してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 空き家は、今や全国的な問題になっておりますので、テレビなどでも困った問題が放映されることもあります。慎重に対応をお願いしていただきたいと思います。

では、次に、市内の道路補修工事状況について質問します。

那珂市の道路補修については、各自治会からの申請により実施されていると伺っておりますが、毎年どのくらいの申請がありますでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

那珂市内には69の自治会がございます。各自治会を通じましてこの補修の申請がございます。件数で申し上げますと、平成28年度は366件、平成29年度は363件、平成30年度は1月末現在ですが、296件ございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 那珂市内に69の自治会があれば、地域的にも補修の多い地区もあると思います。参考に伺いますが、五台地区は今年度の申請はどのくらいあったでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

五台地区の申請件数ですが、平成31年1月末現在で55件ございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 五台地区では55件ということで、やっぱりありますね。この補修の内容はどのようなものでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

全般的な話になりますが、補修の内容としましては、道路本体では舗装の穴埋め、それから沈下、段差の解消、碎石敷きなどがございます。また、それ以外にも道路の附属施設として側溝の清掃、ふた交換、除草、カーブミラーなどなど、それと、あと、橋の維持管理などの多岐にわたってございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） この補修の申し込みは、自治会を通して申請がございましてありますが、もし私の家の隣で道がぼこっと陥没していたと、そういう場合、個人的に電話をしても可能なのでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） 急を要するような補修であれば、直接電話いただいてもよろしいかと思っております。それ以外に関しましては、自治会のほうも把握する必要がございますので、自治会長を通して申請していただくのがよろしいかと思っております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） わかりました。先ほどの答弁を伺いますと、年間360件ほどの申請があるということは、ほぼ一日に1件ぐらいの割合であるということになります。そう考えますと、申請されたものを全て処理するには大変ご苦労をされていると思われまして、これだけの件数ですから、内容によっては処理できないものもあると思いますが、状況を伺います。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

現在の補修につきましては、現場担当職員が直接対応する場合と業者に委託する場合がございます。

ございます。申請されたもののうちには、年度内に処理できないものが年間大体5件程度ございます。年度内に処理できない理由としましては、補修の規模が大きかったり、工事時期を考慮したり、いろいろな事情がございます。しかしながら、これらの案件に関しましても、時間を要してでも処理できるように努めているところでございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） いろいろご苦労されていらっしゃるのがよくわかります。市民生活に欠かすことができない道路について、機能低下を招かないように維持していただかなければなりません。維持補修は大変重要な業務であると思っております。ここで補修業務の今後の目標といたしますか、課題や方向性について伺います。

現在、維持補修業務における課題等がありますでしょうか。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

先ほど補修内容につきましてはお答えいたしました。補修が多岐にわたり、内容も専門性を要するものもございます。また、除草については、これまで地域の方にご協力をいただいて管理をしていただいたところなんです。高齢化の影響であったり、空き地の増加に伴いまして、市の維持補修にかかわる業務がふえつつあるというのが課題でございます。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） 維持補修は大変な状況であることは理解できましたし、事業としての必要性は言うまでもありません。しかし、市民にとっては最重要案件でありますし、時代に合った進め方を踏まえ、今後の取り組みについて伺います。

○副議長（古川洋一君） 建設部長。

○建設部長（玉川秀利君） お答え申し上げます。

基本的には、今までの流れが変わるものではないんですが、那珂市の管理する道路は総延長、未舗装道路を含めまして1,150キロ余りございます。このように総延長が長く、自治会からの申請の件数も多い中、補修業務に取り組んでいるところでございます。道路は、台風や降雪、大雨や強風など自然災害の影響を受けやすいこともありまして、日ごろから準備を怠ることはできません。

今後も安全な通行を確保するために、早急な対応ができるよう維持補修に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（古川洋一君） 筒井議員。

○8番（筒井かよ子君） いろいろお話を伺いまして、大変補修業務もご苦労されているのわかります。我々も道路を歩くときは飛び跳ねたりしないように、丁寧に道路を使ってい

たいと思っております。

市民生活の安全・安心のためにも十分な対応をお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○副議長（古川洋一君） 以上で、通告8番、筒井かよ子議員の質問を終わります。

暫時休憩いたします。再開を午後1時といたします。

休憩 午前11時47分

再開 午後1時00分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 木野 広 宣 君

○議長（君嶋寿男君） 通告9番、木野広宣議員。

質問事項 1. 子育て支援について。2. コミュニティセンターについて。

木野広宣議員、登壇願います。

木野議員。

〔11番 木野広宣君 登壇〕

○11番（木野広宣君） 議席番号11番、公明党、木野広宣でございます。

質問の前にまず、先崎市長、就任まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私も市民の声を届ける一人として、今後さまざまな要望などを市長にお願いすることが多々あるかと思いますが、ぜひとも前向きなお考えをいただきますようお願いいたします。

また、昨日、福田議員も平成最後の一般質問と話されておりましたので、私もその思いでしっかりと質問させていただきますので、よろしくようお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきますので、よろしくようお願いいたします。

今回は、2点について質問させていただきます。

初めに、子育て支援について質問します。

平成28年第4回定例会で、子育て支援についての中で質問した子育てワンストップサービスが、今回の市長の施政方針の中でもありました。第6章の中で話されていたマイナポータルが運用が開始され、子育てに関する行政手続オンライン、子育てワンストップサービスで行うことができるようになりましたとあり、マイナポータルは行政からのお知らせを発信するための仕組みでもあり、市民が求めている情報を的確に発信できるよう活用していくとの方針を伺い、改めて実現していただいたと痛感いたしました。今回も子育て支援の1つとし

て質問させていただきますので、よろしくお願いいたします。

1点、通告の中で質問事項のきずなメールが漢字になっておりますが、本来は平仮名となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、きずなメールについて質問いたします。

きずなメールは、妊産婦やそのパートナーに、健康で充実した妊娠、出産の時期を過ごしてもらいたい。前向きな気持ちでその後育児に向かい合ってもらいたいという思いでつくられた子育て支援メールサービスのことを言います。きずなメールの種類は、妊娠期用と出産後用の2つがあります。妊娠期用はマタニティきずなメールと産後きずなメールがあります。マタニティきずなメールは、対象者は妊娠中の女性になります。配信頻度は1日1通で、配信内容は胎児の成長過程、妊娠生活のアドバイスになります。登録時のアクションとしては、出産予定日を登録していただくようになります。

次に、産後きずなメールは、対象者がゼロ歳から2歳児の母親と父親の両方になります。配信頻度は3日に1通で3歳の誕生日までになります。配信内容は産後の体重管理とメンタルヘルス、赤ちゃんのお世話の仕方や子育てアドバイスになります。登録時のアクションは赤ちゃんの誕生日と名前の登録になります。配信期間、配信頻度は相談に応じて調整可能となっているとのことであります。

子育てきずなメールは、対象者がゼロ歳から2歳児の母親と父親の両方になります。配信頻度は生後ゼロから100日までは毎日、その後は1歳まで、2歳まで、3歳までと少しずつ内容が変更になります。配信内容は育児アドバイス、ホームケア、予防接種、事故予防、産後のメンタルヘルス等になります。

きずなメールは家庭内での孤独を防ぐ、地域からの孤立を防ぐという2つの力で子育てを予防するとの意味もあります。家族のきずなを深めるきずなメールの基本は、思わず誰かに教えたい内容なので、自然とパートナーとの会話につながります。また、男性が読むことで、妊娠、出産や子育てへの理解を深め、女性へ寄り添うきっかけになっていることが、読者アンケートからもわかっているとのことであります。また、不安を解消し安心を届けるコンテンツが大事であると思います。配信する内容も医師、助産師等専門家の監修を経て制作されたものになります。

今は携帯電話やスマートフォンが主流で、身近な情報収集ツールであります。とりわけ、出産後の女性はパソコンを開く時間もなく、携帯電話が頼りという面もあるのではないかと思います。

医療機関でのアンケートの内容と利用者の声ですが、妊娠中はとにかく小さな不安が尽きないものです。そうした妊婦の揺れ動く気持ちに寄り添える内容だと感じました。また、妊婦がみずから正しい情報を得るのは大変なので携帯メールで送るという方法はとてもよいと思った。実際に活用してみると、健診者の小さな質問が減り、その分妊婦にとっては重要な話に費やせるようになったとの医師の話もあるようです。また、夫婦そろって登録している

妊婦からは、夫が妊娠、出産に対して実感を持ってくれるようになったという感想もあったとのことであります。

また、妊娠、出産というのは喜ばしいことである一方、実は夫婦にとっては大きな試練の時期でもあります。産後のお母さん方のメンタルヘルスサポートが重要だと言われている昨今ですが、それにはまず、夫婦の妊婦への深い理解や共感が不可欠である。きずなメールは分娩施設にとっては医療側と妊婦のコミュニケーションをフレンドリーかつ効率的なものにするサービスであると同時に、夫婦のきずなづくりや赤ちゃんへの愛情形成をお手伝いする新しいホスピタリティサービスだと感じているという医療機関もあります。

また、医療機関でも産後鬱や乳幼児虐待の予防が喫緊の社会問題となった今、妊産婦とその家族が必ずアクセスする周産期医療施設の役割は、ますます重要になってきております。そんな中、きずなメールは医療機関のホスピタリティ向上という、鬱、虐待の予防を同時に実現する新たな寄り添いの形として大きな可能性を秘めており、医療サイドからの連携、積極活用が待たれているのではないかと思うとまで言われております。

また、読者アンケートでは、きずなメールを読むことで日常生活にどんな影響があったかも質問しています。「パートナーや家族と妊娠、出産、子育てに関する会話がふえた」が54%。「妊娠しているという自覚を持って行動するようになった」が51%。「日常生活を大事にするようになった」が31%。「妊娠、出産についての情報を積極的に得ようという気持ちになった」などの結果もあつたそうであります。メルマガという装いの軽さが会話のネタとして夫婦のきずなづくりをさりげなくサポートし、男性の育児参加の意識を育むことにもつながっているのは、大きな効果の一つと言えます。

東京をはじめ、多くの自治体でも取り組んでいることも多く、県内の自治体でも取り組み、また自治体によっては独自に行っているところもあると伺いました。

では、県内の自治体の取り組みについて、どのようになっているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

茨城県内におきましては、平成27年度から11の市町村において妊娠中の女性や3歳誕生日までの乳幼児のいる家庭を対象に開始されております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 確かに私が聞いているのも、つくば市、龍ヶ崎市、大子町等11市町村が取り組んでいると伺いました。ただ、県内の44市町村の中で11市町村というのは、4分の1の11市町村が取り組んでいるというのは多いほうではないかと思えます。

なぜ、そのような取り組みを自治体がされていて、その多い背景にはどのような内容というか、理由が、わかる範囲で結構ですでお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

ただいま議員おっしゃるとおり、県内で11ということですが、平成27年3月に茨城県の、国の地域少子化対策強化交付金というのがありまして、そちらを活用しました産前産後ケアの充実に向けた取り組みの中で、県の子ども家庭課から特定非営利活動法人きずなメール・プロジェクトというところと協働でメール配信が行われるという、ただいまあるきずなメールについて各市町村に意向調査がありました。こちらのものですが、導入初年度の費用につきましては、国の交付金を活用しているということで、モデル事業ということでしたので、全額県が負担するというで始まったと聞いております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 確かに県のほうが国の地域少子化対策強化交付金というのをい出されて、各市町村に求めたそうであります。県の補助、負担がなければこのような取り組みは難しいと思います。ただ、導入初年度のみ県が負担するということは、その後は導入した各自治体でお願いしますということになるわけです。そのことを踏まえて、市としてはその際、どのように対応され、判断されたのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

導入の検討に当たりましては、きずなメールに利用希望者が登録すると、妊娠期、産後、子育て期間に分かれて、その時期に合った各種情報が自動的にメール配信されるというシステムでありましたが、定期的に子育ての関連情報が得られて安心するという反面、一方的な情報が流れてきますので、不安を抱く方もいるのではないかという想定がされたところです。

このようなことから、ほかにもさまざまな子育てアプリがある中で、メールマガジ的な情報発信中心のものだけを市が推奨することは妥当ではないとの判断のもと、導入については見送ることとしております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） わかりました。

確かによくわからない部分あったとは思いますが、今市としまして答弁されたように、検討に当たっては、かなり慎重に判断をされ見送るということになったということがわかりました。

では、平成27年度に補助を受けた自治体のその後というか、現在の状況はどのように取り組んでいるのか、わかる範囲で結構ですのでお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

導入した11市町村の状況でございますが、現在も7市町が配信を継続しておりますが、4

町村が中止しております。

中止した自治体につきましては、先ほども申しましたように、導入初年度は県が費用を負担ということでしたが、2年目以降は市町村が費用負担を行うということになっていましたので、検討した結果、利用者も少なく費用対効果などを踏まえた中で中止したというふうに聞いております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） わかりました。

確かに11自治体の中で4町村が中止しているということになるわけですね。県としては、地域少子化対策強化事業として先進的に取り組むということではじめられたのですが、中止した自治体は地域性とか予算等いろいろなことを考慮した上で、中止の判断をされたわけですね。

最初のころに読者アンケートを実施している自治体もあると私のほうで紹介しましたが、市としてはアンケートを実施されたのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、このきずなメールの配信事業を行っている自治体の中で、例えば東京都文京区などはメールマガジンサービス利用者へ現状調査を行っているところもあるということでございます。

市としましては、このきずなメールについてはアンケート等は実施しておりませんが、本年度子育て関係アプリの利用状況につきまして、乳児を対象とした健康相談事業の中で聞き取りアンケートのほうを実施しております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） そうしますと、子育て関係アプリを利用している方が結構やっぱりいらっしゃるということで、また、私のほうでもいろいろと調べてみたんですけども。

利用していない方の意見というのは、育児に追われ、記録やスマートフォンを操作する時間がないとの意見もありました。改めていかに子育てが大変であるかがわかります。ただ、ほかの自治体のアンケートでも、妊娠期のマタニティきずなメールは出産まで毎日届き、9割以上の読者の方が「毎日読む」と回答され、産後きずなメールは3日に一度の基本ペースですが、アンケートでは「届いたら必ず読む」が同じく9割以上との返答もあるのが実態であります。その時期、読者が読みたい内容をさりげなく送るからこそ、この可能な数値になるわけであります。

また、「とてもよかった」「よかった」との毎回9割以上の結果もあり、つながりの強さイコールきずなの強さが、きずなメールの原動力にもなっているようであります。

先ほどの本市のアンケートの結果でもありましたけれども、内容を理解したら一概に必要なでもないともそう言い切れないのではないのでしょうかと、私個人では思います。

また、本市のアンケートの内容では、市として何か取り組みを検討しているか、また考えていることがあるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

市としての何かの取り組みということの検討ということですが、子育てをする世代の多くが、いわゆるスマートフォン世代と言われておりまして、アンケートの結果を見ると、実際の子育てや育児の場面において機器の使用には個人差があるのではないかと感じております。また、パソコンやスマートフォンで子育てに関する情報を必要とするときに、簡単に取得することができるようになっていて、昨今におきまして、情報を簡単に得られることで安心にもつながる反面、多過ぎる情報によって不安の増大にもつながる状況にあるとも感じております。

現時点では、特に何かに取り組もうということは考えておりませんが、今後も使用の状況等を見ていながら、考えてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 私のほうで多分1つ質問を飛ばしたみたいで申しわけない。

再度からの確認なんですけれども、本市としてアンケートを実施されたのであれば、その内容等について教えていただけますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

先ほど行ったアンケートの内容ということでございますが、アプリの利用の有無やその理由ということで聞いておりまして、138名の方から回答をいただいております。その中で、何らかの子育て関係アプリをしている方の割合は44.2%、利用していない方の割合は55.8%となっております。

利用している子育て関係アプリの種類は、数種類ありまして、利用されている方の意見では、育児・成長の記録が共有できる、さまざまな育児情報が得られる、予防接種のスケジュール管理ができるなどの意見がありました。

一方、利用していない方の意見では、必要性を感じていないとか、議員おっしゃるとおり、育児に追われて記録やスマートフォンを操作する時間がなかなかとれないなどの意見がありました。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 確かに子育て関係アプリを利用している方が44.2%、利用してい

ない方が55.8%いるということですから、もっと多くの方が利用しているのかと私は最初
思っておりました。ですから、ちょっと意外な結果だとは思っております。

また、先ほども言いましたけれども、またその利用していない方の意見ということでも、
確かに子育てがいかに大変であるかというのはわかります。また、先ほども私も言いました
けれども、そのアンケート結果の内容が、理解をしたならば一概に必要なじゃないと思う方も
言い切れないのではないかと思います。

その内容で、市として今後何か取り組みを検討しているというか、考えていることがあれ
ばお伺いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

先ほども述べましたとおり、子育てをする世代の多くがスマートフォン世代であり、アン
ケートを見るとその機器の使用には個人差があります。

子育てに必要とするときに簡単に取得できることで安心につながる反面、一方的な情報で
あることから不安の増大にもつながる状況ということでございます。

現時点で特に取り組みを行うということは考えておりませんが、今後アプリ等の使用の状
況等を見ていながら考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） わかりました。

要するに現時点では特に考えてはないということであり、今後動向を見るということに
なると思います。

最後に、今までの内容を踏まえて、今後の市としての子ども・子育て支援についてどのよ
うに取り組んでいくのか、わかる範囲で現状を踏まえた上でお答え願います。

○議長（君嶋寿男君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（加藤裕一君） お答えいたします。

インターネットを活用しました情報の提供としましては、市ホームページ上における子育
て応援サイト「ママフレ」や、電子書籍版の那珂市子育てガイドブックによる行政サービ
ス情報の提供のほか、メールアドレスの登録された方へ情報メール一斉配信サービスを活用し
て、各種子育て支援制度や保育所入所案内等の情報の提供を引き続き行うとともに、保健師
や助産師による乳児家庭全戸訪問事業、乳児健康相談事業、そのほか産婦健診や母子健康相
談支援、産前・産後サポート、産後ケア等の事業を実施することで、情報の提供や相談業務
を充実させ、妊娠期から子育て期にかけての子ども・子育て支援に取り組んでまいりたいと
考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 市としての考えはわかりました。

今後も市としてもさらに安心して出産や子育てができるように取り組んでいただき、子育てサービスなどタイムリーな情報を発信し、また子育てしやすい環境をお願いして、那珂市は子育て支援に関しては安心できると思われるような市になっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でこの項の質問を終わります。

次の質問に移ります。

次に、コミュニティセンターについて質問いたします。

平成27年第2回定例会でもコミュニティセンターについて質問いたしましたが、今回は別の内容で質問いたしますのでよろしくお願いいたします。

那珂市のコミュニティセンターは、市民みずからが住みよいまちづくりを進めるための拠点施設であります。本市にはコミュニティセンターが4施設あり、まちづくりをはじめとして市内外のさまざまな組織、団体等が利用しており、地域の活性化に寄与しております。今回は地域のコミュニティセンターがさらに利用されることを期待して質問をいたします。

初めに、コミセンの利用状況についてですが、市内の各コミセンの開館した時期はいつになるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

コミュニティセンターが開館した時期でございますが、ふれあいセンターよしのが平成8年、総合センターらぼーるが平成10年、ふれあいセンターよこぼりが平成17年、ふれあいセンターごだいが平成21年でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） ふれあいセンターよしのについては開館後22年が経過、総合センターらぼーるについては開館後20年が経過しており、それぞれの地域活動の中核的な役割を果たしてこられたと推測しております。ただ、市内を見るとコミュニティセンター以外にも中央公民館等公共施設も建設からかなりの年数が経過していると感じております。

次に、平成28年度と平成29年度の各コミセンの利用者数はどれぐらいだったのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

平成28年度と平成29年度の年間利用者数でございますが、ふれあいセンターよこぼりの平成28年度が3万7,671人、平成29年度が3万8,104人。ふれあいセンターごだいの平成28年度が2万9,336人、平成29年度が3万603人。ふれあいセンターよしのの平成28年度が2万4,269人、平成29年度が2万2,300人。最後に、総合センターらぼーるの平成28年度が9

万3,863人、平成29年度が9万9,153人となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） ただいま市民生活部長から、過去2年間のコミュニティセンターの年間利用者数についての答弁がありました。

市内4施設のコミュニティセンター全てについて過去2カ年の年間利用者数が増加しており、いかに市民がまちづくりや趣味のサークル等を活用した多種多様な活動機会が増加し、活発になってきている傾向にあるのかわかります。また、コミュニティセンターがいかに利用されているのかがよくわかります。

次に、コミセンをどのように利用されているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

コミュニティセンターにつきましては、市民活動団体や生涯学習関連団体が会議のほか、囲碁や将棋、ダンスなどの団体の活動で主に利用されてございます。また、ひまわりスポーツクラブの教室や地域のお祭りなど、広く市民活動に利用されてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 今回の部長の答弁からも、市民活動団体や生涯学習団体などさまざまな団体に広く利用されているのかわかります。今後も広く市民活動に利用していただくために、広報紙、お知らせ版などを活用し情報の提供を行っていただくことも必要ではないかと思えます。

次に、備品等についてですが、施設の利用者がコピーを利用できるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

コピー機の使用につきましては、利用者からの求めがあれば、有料で対応をさせていただきます。時間帯につきましては、現金を取り扱うことができる職員のいる午前8時30分から午後5時15分とさせていただきます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 再度お伺いいたします。

夜間についてのコピーは利用できるのかどうかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

先ほどもお答えさせていただきましたが、コピー機につきましては、現金を取り扱う職員がいる時間帯での利用をお願いしているところでございます。

夜間につきましては、職員がいないことからご利用はできない状況となっておりますので、ご理解をいただければと思います。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） わかりました。

私も月に1回はコミセンを利用しますが、利用する方は、仕事や活動の都合上、コミュニティセンターを夜間にしか利用できない方もおります。また、近くにコンビニがあればよいのですが、よこぼり以外は近くにないので、できればコピー機が夜間でも利用できるようにご検討していただくことをお願いいたします。

次に、先ほども申しました、また、きょう午前中の質問でもありましたけれども、筒井議員のほうからも修繕の件で質問がありましたけれども、開館からかなりの年数が経過しており、施設自体も修繕が必要と考えられますが、施設の修繕はどのように実施しているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

施設の修繕につきましては、毎年、計画修繕と緊急修繕の予算を計上しまして、対応をしているところでございます。先ほどもお答えをさせていただいたとおり、開館から20年以上経過した施設もあり、緊急的な修繕が多くなってきてございます。

施設につきましては、利用者が安心して使用することができるように、引き続き施設の保全改修に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） わかりました。

ふれあいセンターよしのにつきましては、開館後22年が経過、総合センターらぼーるについては、開館後20年が経過しております。東日本大震災等による影響や施設の老朽化により、修繕箇所も年々増加し、修繕するための費用負担についても大変ではないかと思いますが、利用者の立場に立ち、今後とも安心してコミュニティセンターが利用できるように、計画的な施設の修繕を要望いたします。

次に、らぼーるの機能回復訓練室について質問いたします。

初めに、機能回復訓練室の年間利用者数と、市内、市外の利用者の割合についてお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

らぼーるの機能回復訓練室の年間の利用者数でございますが、平成29年度の実績でございますが、利用者数は8,299人でございます。このうち市内の利用者が3,791人で、全体の

45.7%でございます。市外の利用者は4,508人で、全体の54.3%となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 平成29年度の利用者数は8,299人で、市内外の多くの人が機能回復訓練室のトレーニング機器を利用しており、市民の健康増進、市の医療費削減にもつながっているのではないかと思います。

次に、機器が老朽化してきていると聞いておりますが、今後の対応、利活用をどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

機能回復訓練室につきましては、主に体力増進のためのトレーニング室という利用形態になってございます。議員がおっしゃるように、設置してあります機器につきましては、摩耗による劣化が進んでいるものもございます。

このような状況を踏まえまして、らぼーる機能回復訓練室につきましては、そのあり方について総合的な検討を関係課と行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 木野議員。

○11番（木野広宣君） 私も幾度となく会議室等でらぼーるを利用した際に、夜間トレーニングを行っている人を見かけておりますが、比較的年齢の若い方々が、健康増進のためにランニングマシンやエアロバイクなどを使用している状況を見ます。利用者が多い日には、ランニングマシンやエアロバイクの利用を待っている状況もあります。また、市民の方からの何とかならないかという声もありました。ぜひ、市民の健康増進のために、そして、安全のための点検もしなければなりません。

現段階では、あり方を検討されているとのことでありましたが、市民の声もありますので、また、平成29年度の利用者数も8,299人おります。その中でも市内の利用者も45.7%の方が利用しております。ぜひ、トレーニング機器の増設等要望をお願いいたします。

以上で私の質問を終了いたします。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告9番、木野広宣議員の質問を終わります。

◇ 關 守 君

○議長（君嶋寿男君） 通告10番、關 守議員。

質問事項 1. コミュニティバス及びデマンド交通運行事業について。 2. 防犯事業について。 3. 避難行動要支援者支援制度について。 4. ごみ啓発等推進事業について。 5. 空

き家バンクリフォーム助成事業について。6. かわまちづくり支援制度活用事業について。7. 多面的機能支払い交付金制度及び遊休農地、耕作放棄地の現状について。8. 青少年相談員設置事業について。

關 守議員、登壇願います。

關議員。

〔5番 關 守君 登壇〕

○5番（關 守君） 議席番号5番、關 守でございます。

通告に従いましてご質問をさせていただきます。

まずは、先崎新市長、ご就任おめでとうでございます。いろいろ前からお世話になっておりまして、またこういう機会でお目にかかり、ご指導をお願いしたいと思います。演説、ご挨拶、私よりすぐれたものばかりで、勝っているとすれば、身長がちょっと私のほうが高いぐらいかなという感じで、よろしくひとつお願いをします。

質問通告の第1番目ですが、コミュニティバス及びデマンド運行事業について。

若干、先日、萩谷議員のほうから、この現状と利用法につきまして、コミュニティバスのほうはご回答をいただいておりますので、私の質問としてはデマンド運行事業、現在の利用状況、そして今後の運営方法について、担当課のほうのお答えをいただきたいと思います。

よろしく願いをいたします。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

要は、デマンドのほうだけということでお尋ねいただきましたので、デマンドのほうについて、利用状況と今後の運営についてお答えをさせていただきます。

那珂市のデマンド交通、ひまわりタクシーでございますが、まず、利用者数について、過去3年の実績をお答えさせていただきます。

平成27年度、これが延べ人数で1万4,897人、1日平均に直しますと61.3人。続きまして平成28年度、こちらが延べ人数で1万3,932人、1日平均にしますと57.3人。平成29年度が、延べ人数で1万3,473人、1日平均55.2人というような状況となっております。

日常生活の移動手段に不便を来している方のために、2年間の実証運行を経て、平成27年から本格運行が開始されたひまわりタクシーでございます。自宅から乗降場所までドア・ツー・ドアで移動できる手段として市民生活に定着し、市民の日常生活の足となるべく、より利便性の高い交通手段となっており、利用者及び登録者数も増加している状況でございます。

また、今年の4月からでございますが、従来の運行体制を拡充するというようなことにしております。

まず、運行範囲でございますが、いろいろご要望があった水戸市への乗り入れ、これを実現させるというようなことございまして、水戸市内の水戸駅の北口及び水戸京成百貨店まで拡大いたします。

また、並びにその土曜日便を増発するというようなこと、あと平日についても12時便、あと17時便。こちらについても、従来、運行がなかった時間帯でございますが、こちらについても運行を開始するというようなこと。あわせてそのためのものも含めまして車両も増台して、1時間当たり最大6台というような体制で運行を行っていくというようなことで考えているところでございます。

今回のこの拡充によりまして、日常生活における移動手段の確保のみならず、出かけることへの動機づけや、行きたい場所づくりなど、高齢者を中心とした交通弱者等に対する外出支援促進策として事業を確立させ、誰もが生涯安心して安全に暮らすことができる那珂市の実現に向け、本市が持つ住みよさの一つとして、このひまわりタクシーの利便性が評価されるよう取り組んでまいりたいと、かように考えてございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

実は、昨年12月の中旬ぐらいなんですけど、私、戸多地区なんですけれども、地元の高齢の女性の方から、まず、コミュニティバスの件で要望というか、質問が出ました。

お話の内容は、市の税金で運営している以上は、コミュニティバスを戸多地区のほうにもルートとして通していただいて、市民に対して公平であるべきだということで、もっともなご意見だろうと思って、今回の初めての質問にさせていただいたところです。ただ、そのとき、部長さんの課のところに行きまして、デマンドタクシーとあわせてご説明を受けまして、その足でその女性の方のご自宅に訪問しまして、なるべくデマンドのほうの利用のほうは、高齢の方には利用しやすいので、こちらのほうを積極的にご利用いただきたいという、一応の返事はしておきました。

ただ、議員となりまして、いろいろ資料をいただいた中で、この平成30年度の那珂市行政の評価というのをちょっと目を通しましたら、コミュニティバス、ともにデマンド交通、二次評価の結果が出ておまして、どちらも統廃合という結果が出ておったんですが、これも企画課のほうに問い合わせた。あくまでも事業評価の内容は、目安として、今後の事業運営の中で検討していくということでご回答をいただいておりますので、このデマンドタクシー、コミュニティバスともに新年度予算化なされておりますが、コミュニティバスのほうとしては、そういったことを踏まえながら検討を重ねていった上で、行く行くは統廃合になるだろうという認識でよろしいのでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

コミュニティバスの統廃合ということでお尋ねをいただきましたが、現在、我々もコミュニティバスやひまわりバスの運行については、いろいろ心配事というものがございます。

まずは、今3台のバスで運行しているんですが、その3台のバスが非常に老朽化が進んで

いると。それこそ、例えば、では、買いかえるとした場合に、1台当たりやっぱり1,000万円とか、2,000万円とかという単位の費用がかかってしまう。今も、現在運行を継続するに当たって、やっぱりそれ相応の費用もかかっているということからすると、そこには一定の、まずは冷静に立ちどまってる検討というのにも必要ではないかなと、かように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

現在の状況、よく理解しました。

ただ、県内の各市町村の状況を、ネットなんかで一覧表で出ていますと、大体、コミュニティバス的な運用方法は似通ったものがあるんです。ご承知のとおり、高齢化がかなり急速に進んでおりますので、より利便性の高い、高齢者の方以外にも利用しやすいような対策を考えていただければいいのかなというふうに思いますし、あるいは、個人的な意見ですが、例えば何か空気を運んでいるなんていう悪い話が若干出ておりますけれども、であるならば、そのバスの中に食材的な直売所を併用してバスの運行をすれば、交通弱者とは一般的に言われておりますけれども、私はその交通弱者じゃなく、全体的な生活弱者になっているんだと思うんです。だから、そういう生活弱者を救うための手段としては、交通手段ばかりじゃなく、やっぱり購買の手段としても、そういうようなことをやれば、コミュニティバスとしての利用、利便性も若干高まるんじゃないかなという、個人的にはちょっと考えたまででございます。

いずれにしても、より市民の皆さんが、利用したい、乗ってみたいというものを考えて、私もまだ一度も乗っておりません。実際にお金を100円、200円払って乗って、実際に利用している方がどういう思いでバスを利用しているのか、タクシーを利用しているのかということをちょっと実験してみたいなと、近々思います。

次の質問に移らせていただきます。

続いて、防犯事業についてです。

その中でもLEDが、今、市内あちこちに、大変蛍光管に比べると明るく、費用も安く済むということなんですが、現在の自治会単位の申請だとは思いますが、防犯灯の設置基準、あるいはLED化の費用の助成について、担当課のほうにお伺いをしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

防犯灯を設置する基準でございますが、まず1つ目としまして、防犯上必要と認められる場所でございます。2つ目としまして、防犯灯間の設置距離が原則50メートル以上、3つ目としまして、防犯灯の照明による害を及ぼすおそれがある場合は、所有者の同意が得られていること。4つ目としまして、設置後の管理や電気料の支払いは、自治会の責任により履行する。

以上の条件を満たすこととなっております。

また、補助金限度額につきましては、既設の支柱等に新設する場合は2万5,000円、新たに支柱を立てて新設をする場合は3万8,000円、既設の防犯灯をLEDに更新する場合は、工事費の2分の1以内の額で1万円を補助となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。これは、自治会単位の申請内容でありますし、我々はちょっと知識として持ち合わせていなかったものですから、あえて質問をさせていただきました。

防犯灯の問題は、地域の方々にとっては、やっぱり生活の中の1丁目1番地だと思います。私たち、地元に戻っても一市民でありますし、市役所の皆さんも通勤をしております、例えば夜中帰るときに、ちょっと遠回りして見てみようかという、いろいろなチェックの視点があろうかと思っておりますので、お互いに協力して、より住みやすいようなものにしていければというふうに思います。ありがとうございます。

続きまして、3番目の質問に移らせていただきます。

3番目の質問については、避難行動要支援者支援制度でございます。

これも、12月に地域を歩いておりましたら、ある方からご質問といえますか、要望が出ていまして、詳しく内容をお聞きしたところであります。それとともに、要支援者の支援員に、私自身も現在なっております。これは、要支援者の方につきましては、個人情報、秘密情報、その他もろもろありますので、一概に公にできないということは事前に承知してございますが、皆さんご承知のとおり、2011年3月の東日本大震災以来、このような形のものがあったらというふうに認識をしておりますし、また、平成29年度、ちょっとここにもお持ちしましたが、災害時における避難行動要支援者の避難支援マニュアル、平成29年1月那珂市と載っています。十七、八ページのものですけれども、一通り読ませていただきまして、大変立派にマニュアルとしてはできていると思います。

ただ、有事の際というのは、どうしてもまずは自分の身の安全を守ることが優先になってしまうということはやむを得ないことと思っておりますが、この要支援者制度、支援員として、やっぱり有事の際に備えて、備えあれば憂いなしと言いますけれども、そういった訓練を必ずやるべきではないかなと。

専門の消防の方なんかには言わせると、やっぱり体にたたき込むまでやるんだというふうに言っていますが、昨年、那珂市全体の消防訓練がありました。今年もあるかなと思ったんですが、今年はやらないみたいな感じなんですけれども、ただ、自主防災組織も69自治会のうち、大半、7割方ですかね、できているんだろうと思っておりますけれども、そういった那珂市としても大いにその訓練のPR、まちづくり単位、あるいは自治会単位、または自主防災単位の実施をしてくださいというPRを大いにすべきだと思いますが、その点について、担当課

のほうのご意見をあわせていただきたいなというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

避難行動要支援者の件かと思いますが、その方の支援する地域支援者を含めた地域住民も、実際の災害時に適切な行動がとれるよう、平常時から訓練を実施することが、いざというときの備えとして大切だとは考えてございます。

市といたしましては、市で開催する総合防災訓練はもちろんのこと、減災に最も有効な地域の防災力でございます共助を担う自主防災組織での訓練で、地域支援者や避難行動要支援者本人の避難方法を確認できるよう、今まで以上の助言や支援を行っていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

ちなみに、要支援者というのは、この前もお聞きしましたら3,200名ぐらい、那珂市におりまして、これはあくまでも本人からの希望だということで、1,600名ぐらいいらっしゃるというふうにお伺いしております。

質問事項にはないんですが、支援者となっている立場上、要支援者が現在どのような生活環境にあるかというのを、ちょっと私すらもわからない点がありまして、その辺の、やっぱり支援者みずからが要支援者に、ふだんの生活にチェックを入れるということによろしいですか。ちょっと質問事項にないことで大変恐縮ですけれども、余り日常の交渉がないんですよ。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

要支援者につきましては、先ほど關議員もおっしゃられたように、今、本人の申し出によって支援の対象になるかならないかになってございます。また、個人的なことにつきましては、情報につきましては、やはり各自主防災であったり、皆様をお願いをしていることでもありますので、そちらのほうでは個人情報でございますので、聞き取りもなかなか難しいかとは思っております。ですから、ちょっとそこまで踏み入って聞いていただきたいとも、何とも私どものほうでは言いかね……言葉濁して大変恐縮なんですけど、そのような答弁で申しわけありませんが、よろしく願います。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

ちょっと思ったのは、有事の際に要支援者に対する補助というか、介護というか、そういうことを当然やらなきゃならないケースが発生するんだろうと思うんです。そうすると、有事の際じゃなく、日ごろからあの方はどのような避難ができるのかとか、いろんな条件

が出てくるんだろうと思うんです。それを瞬時に判断するためには、日ごろの生活状況をある程度は把握しておかないと、有事の際の対応が、初動がおくれるのではないかと、ちょっとあえて今、質問事項になかったものですから質問をしたんです。大変失礼いたしました。

いずれにしても、備えに十分な対応をとってまいりたいというふうに考えております。

続きまして、4番目の質問に入りたいと思います。

4つ目は、高速道路のゴミ啓発事業の中で、特に、高速道路路側帯の清掃作業、ここ2年ぐらい参加しておるんですけども、毎年、エリアを地区によって決めていまして、1時間弱ぐらい作業をしまして、かなり大量のゴミが回収できているんですが、どうも追いついてこみみたいな感じになって、次の年もまた同じようなゴミが、量は少なくなりつつあるけれども、追いついてこみ的な意味合いが若干否めないのかなということがあります。

そして、また、路側帯のガードレールがありまして、その外側がU字溝になって排水路になっているんですが、その外側は個人の所有地ということで、枯れ木なんかも随分ありまして、倒木の危険性があるような箇所も随分、最近では見受けられます。

全体的にクリーン作戦の効果と、今後の課題、継続性などについてお聞かせいただければ幸いです、よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

常磐自動車道側道クリーン作戦につきましては、地区まちづくり委員会のご提案によりまして、平成28年度から市内を横断しております高速道路の側道を8つのエリアに分けて、NEXCO東日本からの資材、人員協力をいただきながら、地区まちづくり委員会をはじめとし、市内事業所、各種団体、地域住民及び市職員が参加しまして、3年間で約6,100キロの不法投棄廃棄物を回収処分したところでございます。

平成28年度に回収処分しましたゴミは3,100キロでございましたが、平成30年度には1,100キロと減少傾向にあり、クリーン作戦の効果が出ているものと思っております。

しかし、依然として不法投棄がなくなることから、今後は、不法投棄をされない対策を課題としまして、クリーン作戦を継続実施するとともに、監視やパトロール等を工夫しなければならぬと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

不法投棄をされない対策はいろいろあると思うんですけども、監視体制、監視カメラをつける、これも膨大な費用がかかりますけれども。

ちなみに、有効な対策って何か、ほかの高速道路近辺、市町村でとられているような対策、もしご存じでしたら、若干例を挙げてお聞かせいただきたいんですけども。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） 側道沿線の市町村に聞いたわけではございませんが、神社の鳥居などを側道側につけてみたりとか、そういったことでやっているということはお聞きはしてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

私も山道なんか歩いていますと、そういうのをよく見かけるんですけども、なかなかそれも今となつては効果が薄いのかなという感じがしないでもないです。良識を持って我々の住む地域を、諦めずに、こういうクリーン作戦を実施する際には参加協力をしてまいりたいなというふうに思います。

続いての質問に移りたいと思います。

続いては、5番目の質問ですが、空き家バンクの制度についてでございます。

これは空き家バンク助成制度というのもできたそうでございますが、なかなか我々戸多地区はバンクにおそらく登録はしていないんだと思うんですけども。空き家が2年前の自治会のデータによりますと、2年前、たしか48件だと思いましたがね、戸多地区は。今はそれ以上、おそらく60件ぐらいになっているんだと思うんですが、那珂市全体のデータを見ますと、871件というデータ、何年度のデータか忘れたんですけども、871件というようなデータを見た記憶がございます。これは市街化調整、市街化区域という問題もいろいろあるんでしょうけれども。

実は、先日の茨城新聞、市長の就任の挨拶が載った2日の記事の何ページか後の経済欄に、空き家ノウハウ蓄積なしという笑顔相談室の向井理事さんという方の記事が載ってまして、これ若干読んでみますと、野村総研の平成十何年度のまとめ予測が出ておりました。世帯数の減少などにより、空き家数は平成18年度、これ全国的な話ですけども、1,083万戸から33年、ですから、今2019年ですから、14年後、2,166万戸に達するというような統計を野村総研で出されたみたいなんです。要は、空き家の割合も30.4%に全体の中で達するというところで、その空き家バンクが有効に利用されていないのではないかという記事が載っておりました。偶然にも、市長の方針演説の日の別な紙面の記事でございますけれども。これについて、今現在の空き家バンクの現状と今後のバンクの方向性を若干お聞かせいただければと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

空き家の有効活用により、良好な住環境の提供と定住促進による地域の活性化を図ることを目的に、平成30年1月からスタートした那珂市の空き家バンク制度でございますが、残念ながら現在のところ、登録物件はないというような状況でございます。

考えられる主な要因でございますが、まず登録できる物件を市街化区域の売却と賃借、または市街化調整区域のうち、いわゆる区域指定のエリアの中での売却とさせていただいております。

那珂市は、特に市街化区域の空き家の取引状況について見ますと、民間取引における流動性が非常に高いというようなこともございまして、空き家バンクに登録する前に取引先の契約が成立してしまうという事案が多いということが要因としては挙げられるのではないだろうかというふうに考えてございます。

なお、空き家バンクリフォーム助成事業についてでございますが、こちらについては空き家バンクに登録することが前提とした制度になってございますので、バンクの登録もないということであれば、そのリフォームについてもまだ実績はないというようなことでございます。

なお、今後でございますが、空き家バンクの制度開始、まだこれ1年余りというような状況でございます。当面はまずは現行制度を維持して行って、様子を見るというようなことになろうかと思っております。ただ、いろいろ手続等、ご相談を受けたり等々の利便性も含めて、今までいわゆる空き家バンク制度とリフォーム助成事業、それぞれ別の所属で承っていたところでございますが、新年度からはそれを統一して建築課のほうで承れるような体制を整えていくというようなことを考えているところでございます。

あと、少し補足でございますが、今国のほうでもいろいろこの空き家問題、非常に課題として認識しているようでございまして、いわゆる調整区域への移住促進というようなことを念頭に、少し規制緩和も行われるような検討も始まっているというような情報なんかも新聞報道で目にすることがあります。我々の制度設計も当然そこら辺を視野に入れながら、来るべき時期が来れば、そういったことを前提とした制度の見直しというのにも必要になってくようかと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

大体现状の内容は理解できたつもりです。ただ、1点、午前中にも空き家のご答弁があったかと思うんですが、所有者は大体把握しているということだったんですが、我が地域では、たまたま同級生のうちなんですけれども、県道に面したところはかなり危険性の高い空き家があるんです。同級生に言えば何とかするのかなと思っているんですが、そういったところの、議員になってみて気がついたんですけれども、二、三件道路の陥没に車を入れて補償問題で解決したなんていう記事を私も頂戴したものですから。

この空き家が県道に面したところに、万が一、誰か人が通って材木が倒れて大けがをしたとか、ましてや歩道もない地域なものですから、県道の間数十センチの側溝の幅しかないわけですよ。そうすると、車が通ってたまたま木材が倒れて、車が傷ついてしまったなんて

いうケースが今後起こらないとも限らないというふうに思うんです。ですから、行政のほうとしても、そういった危険度の高い、倒壊寸前の空き家については、所有した者の責任において解体するような依頼をすべきだなというふうに感じておりますので、その辺のところの所有者に対するご指導をぜひともお願いをしたいなというふうに思います。

以上で、次の質問に移りたいと思います。

次は、かわまち支援制度の活用事業についてでございます。

ご承知のとおり、現在我が戸多地区に那珂西大橋の南側の河川敷の有効利用のためということで、多目的広場の工事が国交省のほうの予算で進行中でございます。平成34年度供用開始というふうに聞いております。私も地域の住民の一人として、説明会、ワークショップ、2回ほど出ております。

ネットなんかにも当然載っているんでしょうが、行政の方は十分私が言わなくてもご存じでしょうけれども、現在国交省が開発を手がけているかわまち多目的グラウンドというのが全国に数多くあると思うんですが、戸多地区みたいなところにそういった多目的グラウンドというのは、地域の中では市街地というよりも特殊な事情かなと思います。この近隣では、桂、城里地区、あるいは水戸市の根本町グラウンドあたりが、私も昔少年団のサッカーのコーチなんかをしまして、頻繁に利用した経緯があるんですが、大体平日は、言葉は悪いんですけども、かんこ鳥なんですよ。土日の利用が多い。

当然、戸多地区の多目的グラウンドもやっぱり利用頻度を高めたものにしていかなきゃならないということは多分にあるんですが、1点は、戸多地区、ご承知のとおり、鳥獣センターあり、森林公園あり、きのこ館、植物園、総合運動公園、歴史民俗資料館と、大変さまざまな文化的な施設があります。ましてや、戸多地区の交流センターもございます。そういった複合的な面での多目的利用というのが、まさしく多目的グラウンドの利用を高めてくるんだろうと思いますが、窓口としては今現在、行政側で考えているのは、総合運動公園のスポーツ推進室に事務局を置くということになっております。

私思うに、あそこは堤防が南北に5キロ、6キロぐらいあるんでしょうか、ちょうど水戸市の境から、国田地区においては堤防が切れているんですけども、下江戸、北に向かって6キロぐらいあるんだろうと思います。よく散歩をするんですが、今現在は勝手に菜の花が生えちゃっているんですよ、毎年。クコの実なんていうのも生えちゃってまして。ただ、勝手に生えている菜の花の周りを歩くと、すごく爽快でいいですよ。だから、それだったら、堤防そのものに菜の花を6キロ、両サイドに、西東に植えて、そこをサイクリングで貸し出しもして、堤防のサイクリング、りんりんロードじゃないですけども、たまたま日本一になりましたから。じゃ、日本で2番目ぐらいのPRをしたほうがおもしろいんじゃないかと。

そのためにも、その運動公園に事務局を置くのではなく、スポーツ推進室のこのかわまちの事務局は戸多交流センターに置いて、あそこに自転車の貸し出しをして、今現在は桜づつ

みをつくるという計画になっているんでしょうけれども、意外と桜って人気があるとばかり言えないんですね。ソメイヨシノは最低でも70年、80年近くすると、古木で切らざるを得なくなっちゃいますし。それであるならば、菜の花をあそこの堤防に植えて、それで刈り取りして油でも取って、また、ひまわり油にかわる那珂市の名物として販売するような方向でやると、地域の人たちももっとやる気を出してくれるんじゃないかなと思います。

もう一点は、あの堤防の外側は、畑を所有している方が大半なんですね、農家をやっている方が、専業で。その専業農家の方に対する説明が一度もなされていないんですよ、現在まで。関係者の説明は、ワークショップ含めて二、三度やっていますけれども。その関係者というのは戸多地区以外の方で、主にサッカー少年団をやっている親御さんとか、ソフトボールやっている方とか、そういう以外の地域の方なんですね。その地域の農家さんに対しても、こういう施設ができるんで、ゴミ問題とかかなり数多くのそれを開設すると、車が、来場者がふえると思うんですね。絶対そういうマイナス側面の苦情の話が起こってくると思うんですよ。そういう苦情が起こらないためにも、やっぱり開発の説明を農家さんに対してやっていただければありがたいなという、その2点についてお聞かせをいただきたいなというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

まず、かわまちづくり支援制度の事業の内容でございますが、今議員からお話ありましたとおり、サッカーグラウンドを2面とれる多目的広場、親水広場や桜づつみ、駐車場等の整備を考えております。

利活用部分でございますが、こちら、地元であります戸多地区、そういった地域住民の方の利活用は不可欠とは考えております。今後、地区開催のお祭りや市開催のイベント等で、また地区のグラウンド等で利活用いただければと考えております。

運営管理の面でございますが、現在、総合公園ということで考えておりますが、今後、地区の方々、スポーツ団体や市のほうで協議を行っていきたいというふうに考えております。

あと、広域的な活用ということでございますが、こちら、かわまちづくり支援制度の趣旨でも、近隣の施設との相互連携による地区の活性化ということが必要とされておりますので、ご指摘ありましたとおり、近隣の植物園、総合公園や静峰ふるさと公園などもありますので、複数施設の中で連携した利活用につながるような施策を、推進協議会や市関係課と模索していきたいというふうには思っております。

あと、説明会につきましては、確におっしゃるとおりワークショップ、関係者、推進協議会等の会合をやっておりますが、今後、私有地、買収も入ってきますので、戸多地区の地権者の方々、並びに農家の方々についても、説明のほうやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

ご承知のとおり、今、石井国交大臣、水戸駅南に事務所がありますけれども、そこの高橋君に、3回ぐらい堤防についての強度の問題、あるいは芝ざくらとか菜の花を植えて強度がどうなのかという質問をしたら、大臣に確認していただいたのかどうかわかりませんが、強度を阻害しない程度であれば、全国的な例としてそういうふうな堤防そのものにきれいなものを植えているという場所がありますよということで、それは設置というかつくることは可能ですという返答をいただいた上で、いろんな思いを個人的に、過去に描いた思い出があります。

また、ご承知のとおり、今戸多まつりというのをやっておりますが、ぜひオープンした暁には、私個人的な思いなんですけれども、伝統的な文化行事というのが戸多地区に今ほとんどないんですよね、皆無と言っていいですかね。

実は、私小さいころ、浜松に住んでおまして、浜松、けんか凧まつりという全国的に有名な、見に行った方もいらっしゃると思うんですけれども、思いを強くしてお願いすれば、関係者の方はもう無償で来てくれるんだと思います。祭りに熱い方は全国至るところにいますので。ああいう正月の大イベントとして、あそこのかわまちづくりのところに凧上げ大会を催して、那珂市の記念事業に、戸多地区の記念事業にしてみたいな、行く行くは。そんな思いを持っている一人でございます。

いずれにしても、行政の方々とともに有効に利用できるように協力を惜しまないつもりでおりますので、よろしく願いをしたいと思います。

時間も押してきましたので、次の質問にまいりたいと思います。

7番目としては、多面的機能支払交付金制度についてなんですが、あわせてこれは関連がございますので、遊休農地及び耕作放棄地の現状について質問をしたいと思います。

これ、基本的には多面的機能支払交付金、団体の組織は活動エリア内の全家庭、全戸の同意書をとって実施するというのが組織上の決まりになっております。私たちの組織も、「わたしたちの故郷を守る会」という名称をつけまして、3つの自治会、若宮、立石、宿の3つの自治会が一緒になった組織で、昨年度実は、今で言うと2年前ですかね、設立をして現在に至っております。当時の先崎県議時代に、またここにいらっしゃる助川議員にも大変お世話になりまして、設立総会にも来賓としてご出席をいただきまして、その節は大変お世話になりました。ありがとうございました。

戸多地区唯一5団体がつくられており、那珂市では戸多地区だけが全地域にこの組織がつくられて、日々活動しております。ただ、いかんせん高齢化が進んでおまして、これ、5年間継続事業というふうになっておりますが、5年後は継続できるかどうかちょっと不安だという声も聞いたりしておりますけれども、そこで現状についての遊休農地、耕作農地の現状及びその決定基準について、農業委員会のほうですかね、お聞かせいただければと思い

ます。

○議長（君嶋寿男君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（根本 実君） お答えいたします。

遊休農地、耕作放棄地ということでございますけれども、現状は、昨年7月から8月にかけてまして実施しました農業委員、農地利用最適化推進員を中心とした農地パトロール利用状況調査をやった結果、市内の農地面積は4,461ヘクタールで、このうち遊休農地は142ヘクタールとなっております。遊休農地と判断する基準ですけれども、ススキやササなど多年性雑草や、低木が繁茂し農家が保有しているトラクターや耕運機等を利用した通常の作業だけでは耕作ができない、そういう農地を遊休農地と判断しております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

なぜこういう質問をしたかという、この多面的機能支払交付団体の事業計画を出す際にですね。そういう遊休農地、耕作放棄地を含めた作業として申請書類の中に載っているんですね。ですから、何を言いたいかといいますと、農政課のほうとの調整なんですけれども、地元には農業委員もいらっしゃいますし、事前に市役所に問い合わせるんじゃなく、農業委員と我々の組織で日ごろのコミュニケーションを図っていれば、よりスムーズな申請、運営ができるのかなと思ひまして、そういった現状の面積をお聞きしたということでございます。

ただ、この制度、農地維持活動というのがほとんどの今現在、那珂市で22団体あるとお伺いしておりますが、その農地維持活動が主だと思ひますけれども、傍聴の方、知らない方もいると思ひますので若干説明しますと、農振農用地の田畑の面積に応じて補助金というか交付金が決まっているんです。田んぼ10アールに対して3,000円、畑10アールに対して2,000円、その組織内のエリアの田んぼ、畑がどのぐらいあるのか、それに依りて交付金額が決定するというような形になっております。

それで、我々の組織は177ヘクタールですから、結構年間にするとかなりの額になるんですけれども、それでも草刈りをして日当が数千円出せますので、作業する方々はちょっとしたお小遣いになるので、なおかつ地域内がきれいになりますので、積極的に参加をしていただいているところでございます。

ただ、現状での問題点は、組織は交付金額を農振農用地エリア外だけの事業、作業に使わなければならないという決まりになっていることは重々承知しておるんですが、お住まいになっている皆さんの周りあたりは、農振農用地から外れている地域が多いんですね。田んぼ、畑も当然あります。その住宅周りの田んぼ、畑すらも今は荒れ放題になっているところがかなり那珂市内もあるんですね。それは農振農用地エリア外ですから、基本的にはこの制度を活用した作業はできないことになっているんです。だから、そういう地域、白地というらしいんですけれども、そういう地域も何とかならないのかなという、ちょっと個人的には思う

んですが、いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答え申し上げます。

議員ご指摘のとおり、多面的機能支払交付金における対象地につきましては、農振農用地区域内の農用地が基本となっております。

議員ご指摘の農用地につきましては、茨城県の実施要綱におきまして、多面的機能を図るための取り組みを農振農用地区域内の農用地と一体的に取り組む必要があると認められる農用地となっておりますので、対象地とするためには、県並びに市のほうに一度ご相談いただきまして、協議をしていただければというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

確かにそのとおりです。ルールに従って実施してまいりたいと思いますが、ただ、多面的機能の増進というものの中で、農道なんかもあるんですが、生活道路も当然含まれているんですね。ですから、やっぱり生活とともにその多面的な増進をあわせて図っていかねばならないというのが、本来の農村環境の中の住居の実態だと思います。いろいろご相談しながら、いかにしたらそういう実現をできるかということその都度相談してまいりたいというふうに考えております。

最後の質問になります。

8番目の項目でございます。青少年相談員設置事業についてでございます。

那珂市の青少年相談員、現在たまたま会長を務めておりますが、過去のデータを調べますと、昭和40年から発足しているんですね、那珂市の青少年相談員。当時は11名でスタートして、今現在、50名がマックスの時代もありましたが、47名でいろいろ青少年育成問題事業を展開してございます。

ご承知のとおり、近年いろんなSNS、あるいはいじめ等の問題が多発している、ましてやいじめ防止対策推進法なる法律もできまして、ますます関係者の対応が難しくなっているところというのは重々承知なんですけど、当時、県の指導のもとに、各県内市町村がこういう青少年の設置を決めたんだろうと思いますが、当時の設置基準、人数の配置基準というのが、おそらくデータの的には私の手元にはないんですけども、児童数、何人に対して相談員何人というような一定の割り振りがなされて現在に至っているのではないかなというふうに考えます。この辺のところも、人数の配置の見直し出してありませんが、人数的な見直しも今後の展開として考えていかなければならないというふうにふと思いますが、担当課のご意見をお伺いしたいなというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

今お話ありましたとおり、青少年相談員でございますが、現在、47名の方が活動しております。こちらにつきましては、各地区まちづくり委員会からご推薦をいただきまして、各小・中学校区の人口規模に応じて配置をしている状況でございます。

近年、人口や児童・生徒数が減少傾向という状況でございますが、現在の配置人数につきましては、青少年相談員の3部会で活動しておりますが、現在の定員、47名というのは維持していきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 關議員。

○5番（關 守君） ありがとうございます。

これで全て質問をさせていただきましたが、たしか平成17年に那珂市が合併、瓜連と合併したと聞いておりますが、その当時、いろんな資料で協働のまちづくりというのを耳にタコができるぐらい見た覚えがあり、私なりに理解するのは苦労したときを覚えております。

調べますと、協働のまちづくりの主体というのはあくまでも市民の皆さんでありますけれども、もう一つは、事業所、会社、コーポレートシチズンという、企業市民という方をとっておりますが、やっぱり地元で商いをしている方々も企業市民として那珂市に参加している。3つ目が、やっぱり行政市民、行政の方もうちに帰れば市民でありますし、私の造語ですが、ガバメントシチズンなんていうんですか、英語は正しくないですけども、そういう三者一体のまちづくりを今後していかなければならないという改めて那珂市の原点に帰るべきだなというふうに思います。

実は、きょう市役所の前に、根本 正先生の記念碑を見てまいりました。改めて、「踏まれても 根強く忍べ 道芝の やがて花咲く 春を越すまで」という大変有名な詩がありますが、粘り強く那珂市発展のために微力ながら尽くしてまいりたいというふうに思いまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、通告10番、關 守議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を14時45分といたします。

休憩 午後 2時30分

再開 午後 2時45分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 小 泉 周 司 君

○議長（君嶋寿男君） 通告11番、小泉周司議員。

質問事項 1. 那珂市の公共交通について。2. 那珂市のシティプロモーションについて。
小泉周司議員、登壇願います。

小泉議員。

〔1番 小泉周司君 登壇〕

○1番（小泉周司君） 議席番号1番、小泉周司でございます。

昨年12月の補欠選挙にて当選させていただきまして、今回が初めての議会になります。初めての登壇ですので、皆さん、温かい目でご答弁いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、先崎市長、当選おめでとうございます。私は執行部側から議員側に180度立場が変わりましたが、市長はこちらから執行部側に180度同じように立場が変わっております。建設的な意見のぶつけ合いで那珂市の未来をつくっていきたいというふうに思いますので、今後ともよろしくお願いしたいというふうに思います。

時間もございませんので、早速質問に移らせていただきます。

私の質問ですけれども、基本的に、23年間行政経験を持っておりますので、そちらの経験をもとに、そして市民目線というものを加えて質問を構築していきたいというふうに思っております。やはり執行部側にいたときと実際に議員となって地域を回ったときに市民の方の声というものを聞くと、若干のそこにずれがあるように思います。主にそういったずれを埋めていくようなことも私の議員としての役割かなというふうに思いますので、そういった意識のもとに前向きな議論を進めていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

今回は公共交通、それからシティプロモーションの2点について、ご質問をさせていただきます。こちらにつきましては4月以降、サービスの拡充等、政策として若干の変更があるというふうにお聞きしておりますので、今の時点でこの2点について内容等詳しく聞きながら、私なりの提案をそこに加えて議論を進めていきたいというふうに思うところでございます。

まず、1点目の公共交通の現状についてということで質問を進めさせていただきます。

那珂市の公共交通、JR、それからバス、タクシーいろいろあるかと思えます。改めましてここで公共交通、那珂市の場合にはどのようなものがあるのか、確認の意味でお答えをいただければと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

市民が利用できる公共交通機関としては、那珂市の場合、主に4つ挙げられると思います。今、議員がおっしゃったとおりでございますが、まず1つ目がJR、2つ目、路線バス、それから3つ目、民間タクシー、最後4つ目が私ども市営のコミュニティバス及びデマンド交

通があると考えております。

まず、ＪＲでございますが、水郡線が通っております。那珂市、水戸市、常陸大宮、常陸太田こちら方面を結んでいまして、市内には上菅谷をはじめとする９つの駅があるというような状況でございます。

路線バスにつきましては、常陸大宮線、下江戸線がそれぞれ国道118号線並びに県道長沢水戸線にて水戸市、常陸大宮市方面を結んでいるほか、上菅谷駅から常陸太田市方面へ向かう路線バスも運行されている状況でございます。

民間タクシーについては、市内に２事業者が営業をされているというような状況、そして最後に我々那珂市が運営しているコミュニティバス及びデマンド交通ですが、バスとしては市内に２路線のひまわりバス、それから市内全域を１日８便、４台の車両でひまわりタクシーというような形で運行している状況でございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○１番（小泉周司君） ありがとうございます。

公共交通、ＪＲもあり、路線バスもあり、民間タクシーもある、これは那珂市にとって非常に重要な交通網だというふうに思います。私、４月から出向で東京に出ておりまして、その中で各地方の自治体等回りますと、やはりＪＲもない、路線バスもない、採算がとれないでタクシーもないといったところあります。それに比べれば那珂市の公共交通、自治体を用意したものではないですけれども、民間のほうでかなりの部分を用意されているなというところは率直に感じるところでございます。

したがって、これらが廃止されないようなことを考えながら、市の独自の政策であるデマンド交通等を発展させていくというところを考えていかなければいけないというふうには思うんですが、ただ、ここでＪＲについて議論をしてもなかなか影響力が及ぶというところは難しいかと思しますので、今回はあくまでも市が事業主体として実施をしているひまわりバス、それからひまわりタクシー、公共交通の中でも特にこの２点について質問をしていて、議論を深めていきたいというふうに思うところでございます。

では、この現状について、ひまわりバス、ひまわりタクシーについて運行形態、それから費用が現在どれぐらいかかっているかというところを教えてくださいませんか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

まず、ひまわりバスでございますが、路線としては菅谷・後台循環コース、それからしどり・総合公園循環コース、この２路線でございます。これを１日に各二、三往復運行をしているというような状況でございます。予算、費用がどれだけかかっているかということについてでございますが、過去３カ年の年間支出額で申しますと、ほぼほぼ大体１,２００万円程度ということでございます。

一方、ひまわりタクシーでございますが、こちらについては市内全域において、利用者登録をされた市民の方のご自宅からほかの利用者の方との乗り合いのご利用というような形になりますが、市内約500カ所あります指定乗降場所はドア・ツー・ドアで結ぶというそういうサービスでございます。現在1日8便を4台体制で運行しておりまして、費用につきましてはこれも過去3カ年の平均で申しますと、ほぼ大体1,800万円台というようなところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

ひまわりバスについては1,200万円、ひまわりタクシーについては1,800万円の費用がかかっているということでございます。これが多いのか少ないのかというのは非常に難しい判断になっておりまして、ぱっと数字だけ聞くと非常に費用がかかっているなという印象も受けますけれども、やはりデマンドタクシー等は、ひまわりタクシー等はそれなりに経費がかかるものだというふうに思いますので、ある程度、費用がかかるというところは、これはサービスを行っていく上で必要な経費なのかなという部分もあるのかなというふうには思います。

その上で、政策として市が独自に公共交通を用意しているわけですので、やはりきちんとした市が目的を持って、これは政策を行っていかねばいけないというふうに考えるところでございます。そう考えますと、このデマンド交通についてはどのような目的のもとに市のほうとしては政策を行い、このサービスを実施しているのか、このあたりについてお聞かせ願えればというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 目的についてお尋ねをいただきました。

私どもが支援しなければならないのは、日常生活の移動手段に不便を来している、わかりやすく言えば高齢者の方などでございます。いわゆる交通弱者という言い方なんかもございますが、そういった方の交通手段の確保、それからいわゆるあと交通空白地域こういったものの解消ということを主な目的としているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

交通弱者に対する交通手段の確保、それから交通空白地域の解消が主な目的ということで、目的がはっきりとしたところでございます。

続いてお聞きしたいのは、目的がはっきりしましたので、それではこのサービス対象として、市としてはどのような層を利用者層として考えていらっしゃるのか。市民として大きく捉えれば、それは那珂市民がサービス対象になるとこれはわかります。これはわかりますけれども、市民ではなくて市民の中の具体的にどのあたりの層をメインターゲットとしている

のか、そのあたりきちんと設定が決まっていればお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

我々が運行しているひまわりバス、タクシーともにご利用になる方の年齢制限等は設けてはございませんが、我々が想定している主たるターゲットとしましては、やはり先ほど申し上げた日常生活の移動手段に不便を来している方、特にやっぱり高齢者の方等がご利用になるというようなことを想定して事業実施しているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

高齢者の方ということでお聞きしましてなるほどなど、交通弱者の中には当然高齢者も含まれるなというふうには思ったところですが、高齢弱者ということになれば福祉、障がい者の方というのも当然これ交通弱者の中に含まれてくるというふうに思うのですが、今お答えでいきますと高齢者をメインターゲットにしていることになりますと、そちら福祉関係の方のほうへの手当てといたしますか、利用のサービスみたいなものはどのようになっているのかなというふうにちょっと不安になるんですが、そのあたりもしおわかりになればお答えをお願いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 障がい者の方等に対する手当てについてどのようになっているかというふうなお尋ねでございますが、ひまわりバスの場合、運賃は通常1回の乗車につき100円ということで設定してございますが、障がい者の方の場合、障がい者手帳をお持ちの方ということになります。障がい者手帳を運転手に提示することで無料で乗車することができるというような措置をとってございます。

ひまわりタクシーの場合でございますが、利用料金これは通常1回につき300円かかるというようなことになっておりますが、これ事前の利用登録時に障がい者手帳もしくは要介護認定をされている方、要介護1以上であれば可能ですけれども、介護保険証の写しを添付しますと1回100円で乗車することができるというような措置を講じているところでございます。

また、自動車等の運転に自信がなくなって運転免許を自主返納された方、こういった方を対象に今ご紹介したひまわりバス及びひまわりタクシーの利用割引券1万円を交付する事業、運転免許自主返納支援実証事業を現在実施しているところでございます。また、社会福祉課においては障がい者や要介護者等を対象としたタクシー利用券助成事業、こういったものもあわせて行っているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

私の心配した交通弱者の中の一部障がいをお持ちの方等には、きちんとした手当てはされているということがわかりましたので、あくまでも今回の公共交通のターゲットとしては高齢者の方になるよと。それから、目標としては、交通弱者の交通手段の確保だということを確認させていただきました。この2点について、目標と誰をサービスの対象とするかというところは政策を考える上で非常に重要な視点になってくるかというふうに思います。今、確認させていただいたのもこの後の質問の内容について、そのあたりをきちっと捉えながら質問を進めさせていただきたいというふうに思います。

そうしましたら、今の現状について利用状況も昨日、きょうと萩谷議員、それから關議員からも質問がございましたので、簡単に結構です、ひまわりタクシーについて先ほども出ましたけれども、ちょっとなぞる形になってしまいますが、もう一度利用状況について教えていただけますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 利用状況についてお尋ねいただきました。直近3カ年の状況ということでご説明させていただきたいと思います。

まず、ひまわりバスでございますが、平成27年度が約1万2,416人、平成28年度が1万401人、平成29年度が9,396人というような状況でございます。

ひまわりタクシーについては、平成27年度が1万4,897人、平成28年度が1万3,932人、平成29年度が1万3,473人というようなことございました。

先ほどご紹介しました運転免許自主返納支援実証事業、これについては131人の方に利用券を交付させていただきまして、その方々に延べ822回のご利用をいただいているところでございます。

あわせてタクシー利用券助成事業、こちらも実施しているということで先ほどご紹介差し上げましたが、これは平成31年1月までの実績で333人の方に4,992枚ご使用いただいているというような状況でございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

ひまわりバス、平成29年度実績で9,396人ということをお聞きして、これは私の個人的な感想ですが、えっという思ったより多いなというイメージを持ったところでございます。先ほど關議員のほうも言われましたが、空気を運んでいるというようなことも聞かなくはありません。そのような中で、私もどちらかというと、見るとなかなか乗客が少ないなというイメージを持っておりましたので、それでも年間9,396人いるということは、それなりに利用はされているんだなというところを今思ったところでございます。

ただ、これ実利用の人数ではないと思います。延べ人数になると思いますので、じゃ実利用になるとどれぐらいの方が利用されているのかということも、本来であれば議論の材料

の一つとして持つておくべきかなというふうには思いますが、今回9,396人これらの利用者の私、気になるのはむしろ年齢層といますか、どのような方たちが利用されているのかなと。というのは、先ほど言いましたとおり、高齢者層にサービスを届けるんだという趣旨があるわけですから、その点できちっとしたその年齢層に利用されているのかどうか、このあたりちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） ひまわりバス、タクシーともに利用されている方、65歳以上の方が多数を占めているというような状況でございます。具体的なもので申しますと、例えばひまわりタクシーの登録者数を見ますと、これ登録制なので、事前に年齢等の確認ができますが、8割程度が65歳以上の方が占めているというような状況でございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

そうしますと、メインターゲットとする高齢者層にはきちんと利用がされているということかと思えます。ただ、高齢者の全体の人数から見て、これが多いのか少ないかというところはやはり議論していかなきゃいけないとは思いますが、現状利用されている方は少なくとも高齢者の方が多いということは理解をいたしました。

現状についてさまざま聞いてまいりましたが、続いては現状を考える問題点と課題について、いくつかお聞きをしていきたいというふうに考えております。

先ほど目的とターゲットということで現状をお聞きしておりまして、そうなりますと今度は現状サービスを行っていく中でどのような問題点があるというふうに捉えているか。これも多分、日々業務の中でサービスを行っていれば、当然のようにこの部分に問題点があるなという行政側からの視点として考えるところはあるんじゃないかなというふうに思いますので、そちらのほうをどのように考えていらっしゃるか、ご回答をお願いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

ひまわりバス、タクシーについての問題点ということでお尋ねをいただきました。

まず、ひまわりバスでございます。これはバスという性質上の問題に起因するところもございしますが、まずは路線沿線や停留所に自宅が近い方、こういった方に利用が限られてしまうというようなことが問題点であろうということ、あとは現状の便数が少ないこと、利用者数の減少によって、我々としてはやっぱり費用対効果が年々低くなっているというようなことが課題であるというふうに考えているところでございます。

ひまわりタクシーについてでございますが、こちらについても事前予約による乗り合い方式というようなことで、通常のタクシーとはやっぱり使い勝手が相当変わってくるというようなところがございます。予約状況によって乗車時刻もしくは到着時刻にずれが生じてしまうこともある、場合によっては台数が限られていて希望する時間に乗車できないなんていう

こともあるというような話を伺っております、なかなか公共交通としてタクシーとうたっている以上、やっぱりいわゆる一般的なタクシーの使い勝手を皆さん期待されて、ご利用される方が多分多いんだと思いますけれども、一定の制約がある中で、そういった使い勝手にも制約がかかっているというようなことが一つ課題であると認識しております。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

行政側として運営を行っていく中で、やはりきちっと問題点を捉えておくということが必要かと思えます。その中で今お答えいただいたように、やはりひまわりバスについては利用者減少で費用対効果が薄くなっているかなど、それからひまわりタクシーについては、予約がとりづらいなどの現状の問題点を把握されているということは大変大事なことだと思います。ありがとうございます。

その上で、私、冒頭にも言いましたとおり、行政側の視点と住民側の視点で若干やはり意識のずれというか、当然、行政の情報が全て渡っているわけではございませんので、市民の側からするとなぜこんなことができないのかなどか単純な疑問として、そこに行政側とずれが生じている場合があるというふうに思っていますということを述べさせていただきましたが、その意味で、多分この事業に対して利用者のアンケート等とっていらっしゃると思いますので、利用者側から見たこの問題点とか要望が多いもの、そういったものはどんなことになるのか、こちらをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 利用者の方々からのご要望というようなことでございますが、平成28年度に公共交通に関する市民アンケート、こういったものを実施してございました。その中で多かった意見3つご紹介させていただきます。

まず、1点が土日祝日に運行してほしいという意見でございます。もう一つが運行本数をふやしてほしいというご意見を頂戴しました。最後が那珂市外への運行、特に水戸市まで運行してほしい、水戸市までそのまま直接アクセスできるといういなというようなご意見を頂戴したところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

アンケートの結果としてやはり市民としてはもっと使い勝手を望むというところでしょうか、利用しやすくしてほしいという点から3つの要望があったということが把握できました。

ここまで現状と問題点についてお聞きしてまいりました。ここから今後の方向性について、議論を深めていきたいというふうに思います。これまではあくまでも現状と問題点を確認したに過ぎませんので、議論としてはここからが本番になりますので、ぜひ深い議論をしていきたいと思いますので、改めてよろしく願いいたします。

現状と課題を捉えた上で、今後この交通をどのようにしていくかということを考えていか

なければいけない、これは将来に向けて、どのようにしていくかという視点できちんと議論が必要ではないかなというふうに思います。

そこで、4月から先ほどからも出ておりますけれども、デマンド交通、ひまわりタクシーです、利用拡大が図られるというようなことをお聞きしておりますので、改めてどのようなサービス内容になるのか、どの部分が拡充されるのか、拡充される部分を中心的にお答えを願えればというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えします。

ひまわりタクシーこの4月から運行内容等々、拡充するというようなことですが、先ほどのアンケートでいただいた3つのご意見、ご要望、まずはこれにお応えしようというように形で拡充を図ろうとするものでございます。

土曜日日曜日の運行ということで、まずは土曜日の運行ということで土曜日の運行を開始するというようなことにいたしました。

それから、運行便数、これについても平日の12時便と17時便というのが今まで抜け落ちていた部分があったので、そこについても運行をちゃんとやっというようにことで拡充させていただきます。

最後になりますが、市外への運行、特に水戸市へというようなことがございましたので、水戸市内までの運行、具体的に申し上げますと水戸駅の北口、ここは降車専用というような形での運行になります。あと、水戸京成百貨店前、こちらは乗車降車、双方ともできるというような形での乗り入れを、まずはこれ実証事業として開始するというようなことで、4月からの拡充内容とさせていただきます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） 先ほど市民からの要望があった3点について主に拡充をしていくということで、多分、拡充したところをメインにお答えになったわけではないと思いますが、一番多かったものから順に実現を図っていったということかなというふうに思います。その意味では、非常に意味のあるサービス拡充かなと思います。

今ちょっとごめんなさい、気になったのは水戸駅北口は降車のみ、ということはおりのことはできても乗ることはできないということの認識でよろしいんですかね。そうすると、なぜなのかなとこれ単純に疑問を感じるころなんですが、このあたり、もしきちっとした回答があれば、当然あるとは思いますが、お答えいただければと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 水戸駅北口の件についてお尋ねいただきました。

水戸駅北口こちらにタクシーの乗降場がございます。こちらはJRの管理下にあるものでございまして、茨城県のタクシー・ハイヤー連盟並びに水戸駅構内タクシー組合等、各種団体の協議がこの場を使うに当たっては少々の調整が必要であるというようなことござい

ます。

これらの各種団体との協議行ってまいりました。当該乗降場なかなか実際行った方はわかると思うんですが、終日本当に車の出入りが激しくて、渋滞、混雑しているというような状況でございます。ひまわりタクシーの性質考えますと、一定程度の時間やっぱり駐車を余儀なくされるというようなところもございまして、なかなか長時間駐車をすることが困難というような協議結果になりまして、今回はとりあえず降車のみというような形での措置とさせていただいているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

これ昨年の茨城新聞の報道でもたしか降車のみというのが載ってまして、非常に私、気になっておりましたので、今の答弁を聞いてちょっと降車のみとは何だろうなというところで単純な疑問としてお聞きしたところでございます。

報道とか市報でこのサービスをPRしていくときに、どうしても水戸駅でおりることはできるけれども、乗ることはできないよということをきちんと伝えなければいけませんので、降車のみになってしまいますと、そこだけがアピールになってしまうようなところがあると思います。今の細かい理由までは紙面の都合もありますし、なかなか市民の方にお伝えするというか、こういった理由ですよというお届けする機会もないというふうに思うんです。ですから、ここが非常に難しいところだなというふうに思いますが、市民というのはやはりそういうところに単純な疑問を持ってそこから小さなずれが生じる、そしてその先にもっと大きなずれが生じるというようなこともあるかと思っておりますので、やはり行政としてはこういった部分も機会があれば、きちんと市民に説明をしていくということは大切なことなんだろうなというふうに思いますし、もし機会があれば、今後そのようなことをしていただければというふうにお願いをするところでございます。その意味で、私ここで単純な疑問としてお聞きしたことが少しでも多くの方に知っていただく機会になっていけば、それはそれでうれしく思うところでございます。ありがとうございます。

今回、そういったことで市民の要望を受けて利用を拡大したということでございますけれども、これ多分費用が新たにかかるということになってくると思います。ただ単に今までと同じ費用1,800万円ひまわりタクシーかかっているということではございしましたが、それにプラスしていくらかかかるんじゃないかというふうに思いますが、このサービスを拡充するに当たって必要とする費用というのはどれぐらいかかるものなんでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 増額が必要な費用についてのお尋ねでございますが、土曜日の運行分、あと車両2台を増台いたしますので、その増台分、また運行事業者による予約配車の受付時間の増加分、それらに係る予算の拡充分として、運行車両経費が1,748万円の増、予約配車業務が37万2,000円の増、こういった見積もりをさせていただいているところでござ

います。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

既存のサービスが1,800万円ということを見ると、この増加分でさらに1,800万円ということですから、単純に考えますと非常に費用がかかるんだなというふうな捉え方ができるかと思えますし、数字だけを聞くとちょっと私びっくりしたなというのが正直な感想でございますが、サービス車両2台の増量とか多分それなりの理由があってきちんと積算された結果の数字だろうと思えますので、この1,800万円がどうかというところは今回議論はしませんが、ただ、先ほど実証事業というお話をされておりますので、要望としては確かにこの3点、水戸まで行きたい、それから土日使いたい、それから便数をふやしてほしいという要望は確かにあって、その要望に沿った形でこのようなことをされているというふうには思いますが、実証実験ということであればやはりどこかで一度立ちどまって、この1,800万円に見合った効果かどうかというのはきちんと検証されるべきだろうなというふうに思えますし、当然その用意はされるとは思いますが、ここで改めて行政はサービスを拡充してしまうとなかなか閉じられないというようなこともこれ経験値として持っておりますので、そうではなくて、これからはやはり実証というからには実証終わった時点でのきちんとした効果測定を行い、この1,800万円が本当に必要な支出なのかどうか、例えばこの1,800万円をほかに回したらもっと違うサービスが行える可能性もあるわけですので、そのような可能性も含めてちょっと一度立ちどまって、やはり見直していただくということをお願いしたいというふうに思うところでございます。

主に今までひまわりタクシーについてお聞きをしておりました。ひまわりバスについてはまだ今後の方向性というところで議論をしておりますので、次はひまわりバスについてお聞きをしていきたいというふうに思います。

ひまわりバスについても先ほど費用対効果が薄くなって低くなってきているというようなことをご答弁いただきましたが、それを捉えて今後ひまわりバスをどのようにサービスを展開していこうと考えていらっしゃるか、この点についてお聞きしたいというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） ひまわりバス、今後ということでございますが、ひまわりバスについても市民の方からいろいろご意見頂戴しているところでございます。例えば一部の地域だけ、先ほど申し上げたような運行ルート上、停留所のそばの方の利用にどうしてもやっぱり限られてしまうところがあるという話、なかなか今2ルートで運行していますが、利用したいルートがないというようなお話、あとは先ほど最初のご意見とかぶるところありますが、自宅から停留所まで相当距離があって、なかなかそこまで行けないんだよというようなお声、いろいろ我々のほうにも届いているところでございます。

そういったものも含めてなんでしょうおそらく、利用者数も年々減少傾向にあるというこ

と、車両についても老朽化が非常に進んでいて、今後現状の車両をそのまま維持していくこと自体が相当困難になってきているというようなことを踏まえたと、今後の地域公共交通としてのひまわりバスこれのあり方については、やはり先ほどの議員のお言葉をかりますと、一度立ちどまって考える必要があるというような局面に来ているんだと思っております。そういう意味で、一度立ちどまりまして、改廃も視野に入れながら、地域の実情に応じた利便性の高い手段というものがどういうものかということのを改めて考える時期に来ているんだとかように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

今、改廃等も含めてということですが、最後に私のほうからちょっと提案として、やはりこのバスを廃止をしまして、この1,200万円かかっている経費をデマンドタクシーのほうに投資してはどうかということのを提案させていただきたいと思っております。これはなぜかということ、那珂市の全域の中でバスとタクシーの両方のサービスを行っているこの中でかなりダブリが出ているんじゃないかというふうには思います。例えばひまわりバスを利用できる方というのはデマンド交通、要するにひまわりタクシー、バスではなくてタクシーのほうを利用できないんでしょかということなんです。そうしますと、2つのサービスを並列に置いてやっていって、片やバス停が少ないとか地域間不公平だということであれば、むしろやめて、1,200万円の予算をデマンドタクシーに投資してはどうかと。

その中でできること、例えば1,200万円を投資することで利用料金を300円と100円の差がありますので、300円を200円、100円に下げることによってひまわりバスと一緒に値段でデマンドタクシーを利用できるんじゃないか、もしくはサービスの拡大として東海村やひたちなか市、これも道路の問題で縦串はいいけれども、横串が弱いということも議論されておりました。その中で言えば、こういった交通を利用してひたちなか市、東海村にも行けるようにしたらいいんじゃないかというようなサービスの拡充ができると思うんです。そうなれば、ひまわりバスの利用者を切り捨てるのではなくて、ひまわりバスの利用者を取り込む形でデマンドタクシーを運行できないかというふうには私は思うんですけれども、この点についてちょっと考え方をお聞かせ願えればというふうには思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） バスの廃止、それに伴う補填的な意味も含めてというところもあるんですが、タクシーの拡充というようなご提案頂戴いたしました。

先ほどの答弁ちょっと繰り返しになりますけれども、なかなか今ひまわりバス厳しい状況に立たされています。なかなか利用者数も減少がとまらない、昨年度についてはもう1万人を切ってしまったというような状況、その中で車両3台を運用していますが、その老朽化が進んでいる。1台当たり1,000万円から2,000万円程度はやっぱりその更新にはかかってしまうというような状況の中で、どこまでやるのかというようなこと、そういう意味では、繰

り返しになりますが、改廃も含めて見直しを行うべき時期に来ているというのはもう事実だというふうに思っております。

ただ、仮にひまわりバスを廃止するとなると、そこに対する手だてなり、フォローアップというのはどうしたって必要になってまいります。先ほど議員が驚かれたと言うように、九千何百人というような方は実際に延べ人数ではありますけれども、ひまわりバスを日常的にご利用いただいている方いらっしゃるわけです。単純に廃止すると、じゃその方の足の確保をどうするのかというような問題も出てきます。ですから、そういったひまわりバスの既存の利用者をどういうふうにフォローアップしていくのか、丁寧にその辺をどこまで手だてができるのか、そういったこともちゃんと視野に入れながらこの改廃の議論はすべきだと思っております。

その上で議員からもご提案ありましたその費用、利用料金を安くするとか、先ほどの横串の話、ひたちなか市、東海村への運行が可能なのかどうかとそういったところを総合的に考えて我々として地域の公共交通どうあるべきか、要は最大幸福が得られるためにどうすればいいのかというようなことなんだと思います。そのためにはある意味、ちょっと最大公約的な意味合いで、一部ちょっとご不便を強いるような状況になるところも当然出てきます。当然出てきますけれども、そういった中でも我々はやっぱり市民の最大幸福を求めるべきだと考えておりますので、そういった議論を地域公共交通会議等々いろいろ議論の場ございます。当然この市議会においても議論していただくべきだと思っておりますので、そういった議論を含めて今後の方向性については見出していきたくかように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

行政側にいましたので、ここで廃止を求めても廃止しますという答弁はなかなかしづらいということは理解しておりますので、今の答弁を聞きますと、可能な限り前向きに検討していただけるんじゃないかというふうには思ったところでございます。

ただ、私は先ほども言いましたとおり、ひまわりバスの方を切り捨てるということではなくて、ひまわりバスの利用者はデマンドタクシー、ひまわりタクシーの中に取り込めるんじゃないですかということを提案しておりますので、その辺の視点というのはきちっと持っていて、その上でやっぱりビルド・アンド・スクラップ、市長も言われておりましたけれども、そういった視点やっぱり必要だと思うんです。なかなかデマンドタクシーの利用を拡大してほしいとか料金を下げてほしいといっても、予算がなければできないことなんです。これは非常に今厳しい予算だというのも私は理解しておりますので、その中では一つの提案として何かの事業をやめる、ただやめるのではなくて、今回はたまたま利用者がかぶる部分があるというふうに私には見えますので、その中でやめることで生み出した予算で利用サービスを拡大していただくというようなことをぜひ真剣に考えていただきたいなというふうに思うわけでございます。

ただ、私これ押しつけているわけではございません。当然、今の時点と半年後の議論、1年後の議論では議論が変わってくると思います。といいますのも、ITの進歩これ目覚ましいものがありますので、今考えられなかったサービスが1年後にはサービスが実現している可能性があります。例えばトヨタとソフトバンクが無人のバスを走らせるという実証実験を昨年度から始めるということを昨年報道ありましたが、そのようなことを企画部長ご存じでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 存じ上げております。トヨタとソフトバンクというその組み合わせに世間ちょっと騒いだところありますけれども、大都市ばかりではなく、結構いろんな地方都市なんかも含めてデマンドの実証実験始まったというようなことに対して、逆に言うと我々は期待を寄せているというようなところもございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

さすがです。やはり公共交通を管轄する部長としてそういった情報をきちっとつかんでおく、これは議論をする上で非常に大切なことだと思います。そういった情報収集もしながらその時点で何がベストな選択かというのを考えていただければというふうに思いますし、トヨタとソフトバンクも一つの例ですので、それが実用に至るまでには当然時間もかかるかもしれません。

ただ、我々が思っているよりも早く実現する可能性もあります。そのときには公共バスを残すという選択肢がこれ正しくなってくるというふうに思いますので、私の今回の提案は、今時点で考えられる最善な方法としてこうではないかという提案でございますので、そのことを頭に置いた上で議論を進めていただきたいと思いますし、もっとフラットにというふうに考えればこのデマンドタクシー、ひまわりタクシーも今、利用拡大しようというときに言うのはあれだなと思って提案はしませんけれども、これもフラットに考えれば1,800万円に1,800万円の追加投資をし、1,200万円のバスが今年度は動くわけですから4,800万円の予算が動くわけです。4,800万円あったら、民間のタクシーをそもそも利用させていただいて、そこに一定の利用補助を出す、そしてサービスとしては先ほど聞いたとおり高齢者ということですから、年齢制限を65、70と設ける、何らかの方法で初乗り運賃を補助するとかいろんな方法も考えられるんじゃないかというふうに思うんです。こういったこともやっぱり検討するときの土台には当然乗せてほしいなと思うんですけれども、そのあたりどのように考えますでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 先ほどのトヨタとソフトバンクの例に代表されるように、今の世の中、本当に非常に変化のスピード早くなっております。我々が想像する以上に早いスピー

ドで世の中変化していくという中においては、今我々がこうやって実施している公共交通サービス一つにしても、今までのものというものをありきで考えるというよりは、常にゼロベースの視点というものが必要であろうと考えております。ですから、今、議員ご提案があった例えば初乗り料金を支援しましょう、ほかの市町村でもそういった事例が当然ございます。それが我々の那珂市にとって有効な方策であるかどうか、そこら辺の検証は当然必要でございますが、いずれにしても我々常にゼロベースの視点で今の事業が果たして本当に最適なのかどうか、ほかにもっといい解があるのかどうか、そういった視点で物事を検討していきたいとかように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

デマンド交通が今後ますます費用対効果が高い、市民から利用される交通となっていくことをご祈念いたしまして、この質問は閉じさせていただきたいというふうに思います。

続きまして、シティプロモーションについて質問を進めさせていただきます。

シティプロモーション、これも私、行政経験から言うと当たり前を使う言葉なんです、若干市民からするとなじみの薄い言葉なのかなというふうに思います。

まず、シティプロモーションとはどういうものなのか、簡単にわかりやすく言うところのことなんだというのをちょっとお示しいただければと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 簡単にということですが、なかなかちょっと難しい質問かなとは思っています。

シティプロモーション、最近のはやり言葉のようになってございます。一番わかりやすく言うのであれば、まちのPRというようなことになるんだと思います。そもそもPRという言葉というのは英語で言うパブリック・リレーションズという言葉の略語でございます。要は公衆との関係性ということ。要は我々那珂市が市民も含め、市外の人も含めいろんな方々との関係性をつくるために、シティプロモーションは行っているというふうに理解していただければありがたいかなと思います。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） 簡単にということではございましたけれども、簡単だが難しいということで、今の聞いてどうなんでしょう、簡単に言うと那珂市をそもそも知っていただく努力をしていくというか、それを市民との関係性を築いていくとか、市外との関係性を築いていくということになるんでしょうか。

そうしますと、このシティプロモーション、私は必要なものだというふうに思いますが、この必要性についてはどのように捉えられているか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 現在、我々地方自治体が置かれているというのは非常に厳しい状

況がございます。消滅可能性都市とか、地方創生という言葉が叫ばれて以来、自治体間競争というものが逆に言うと仕掛けられたようなところも正直あるとは思っておりますが、そういったところの中で我々もしのぎを削っていかなければならない。

その中でやっぱりしのぎを削って生き残るためには、当然我々の那珂市というものの認知度これを上げていかなくちやならない。どれだけいいところなのか、逆に言うと、こういうところはちょっと自分のニーズとは合わないというようなところももしかしたらあるかもしれませんが、少なくともまずは那珂市という存在を認識していただく。我々那珂市、皆さんご存じかと思いますが、特に例えば全国に名をはせるような何か有名な観光地とか何だろかがあるわけではございません。そういう中でシティプロモーションというのは、そういった那珂市という名前を近隣市町村のみならず全国的にもできれば広めていきたい、そういうようなことを行っているものでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

確におっしゃるとおり、自治体間競争、これは那珂市が望むと望まざるとにかかわらずやはり求められているというか、結果を出していかなきゃいけないというところかと思えます。その中においては那珂市をどのように知っていただくか、PRしていくかというところが非常に大切だということだと思いますけれども、これはまさしくそのとおりだというふうに思います。

では、現状でこのシティプロモーション、どのように取り組んでいらっしゃるのか、その点についてお聞きしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 我々のシティプロモーションにつきましては、平成28年3月この辺から具体的に動き始まっています。この平成28年3月にシティプロモーションの指針、こちらを策定いたしました。続いて、平成29年3月、こちらにシティプロモーションの行動計画こういったものを策定して、それに基づいていろいろ展開しているところでございます。

具体的な策で申しますと、いわゆるWEBでの情報発信そういったものにつき、今当然やっていかなければならないSNS、フェイスブックやツイッターなんかもやり始めました。最近では、LINEなんかも参入してやらせていただいているところでございます。メールマガジンとかそういったツールなんかも活用しているところ。あと、先日で申し上げますと、議員の皆様にも配付させていただきましたが、「るるぶ那珂」こちらを作成したりというようなこともやらせていただいています。

今年度につきましては、例えば水郡線の社内へのポスター掲示ですとか、水戸駅の改札前のデジタルサイネージで我々の動画を上映したりというようなこと、あと昨年度からはFMばるるんというコミュニティFM、こちらでのCM放送とかいろいろ活用できるメディア等々使えるものは全て使いながら、今やらせていただいているというような状況でございま

す。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

一生懸命取り組んでいるんだなど、さまざまな方策を打ちながら、できるだけ那珂市をPRしていくというところで努力されているということは十分に理解できました。であれば、やはり課題もあるんじゃないかというふうに思うんです。

続いて、シティプロモーションの現状における課題等についてお気づきの点がありましたら、お聞かせ願いたいというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 課題という部分で言うと、我々はシティプロモーションを始めて平成28年からというようなことで申し上げました。まだ日が浅いというのが現状でございます。これはほかの自治体も似たり寄ったりというようなところはあるかと思いますが、やはり日が浅いゆえに、我々こういったPRとか、プロモーションとか、マーケティングとかそういった知識、経験値に欠ける、スキルに欠けるというようなところがございます。やっぱりそういった職員のスキルですとか、あとはその専門知識といったものが我々にとっては足りないものであり、今後の課題なんだろうとかように考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

秘書広聴課で取り組まれていると思いますが、職員も広報と兼務しておりますので、2人体制の中で非常に頑張っているというところは私も知っております。

その上でどうしても職員のほうは異動がございます。3年から5年で異動しますので、経験値といったもの、それからスキルを積み上げていくというところでは、どうしても那珂市規模の自治体であればスペシャリストよりもジェネラリストを育てていくんだという職員構成になってまいりますので、なかなか専門的なマーケティングの知識を持ったとか、そういった方がいらっしゃらないというのは、これはやはり一つの課題であろうなというふうにも思います。あくまでも広報はマーケティング、これ非常に基本だと思います。ビジネスを学べばその辺というのは徹底して叩き込まれるわけで、マーケティングがなければどこにどのような広報を打っていくかというのはわからないわけですので、少ない予算で効果的な広報をしていくためには、やっぱりそういったスキルを持った方ということも必要なんだろうなということも理解させていただきました。

現状と課題についてお聞きしましたので、4月からこのシティプロモーション、今後の取り組みについて組織として変更点があるよというふうにお聞きしておりますので、これもどのように変わるのか、お聞かせ願えればと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 4月からの取り組みでございますが、秘書広聴課、こちらで今シ

ティプロモーションの事務を所掌してございますが、秘書広聴課内にシティプロモーション推進室こちらを設置することとしております。その室の設置にあわせて、室長たる人物を民間の経験者から任期つき職員として採用して室長に設置するというようなことで、今現在考えているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

先ほど言ったように、なかなか経験とスキルを職員が積み上げていくというのは現状の職員体制では難しいと思いますので、そういったところを任期つきの職員を採用することで補っていく、これは私、非常に有効で的確な方策かなというふうに思います。その意味では、4月以降に期待するところでございます。

ただ、人を雇っただけではなかなかうまくいかないというふうに思いますので、なかなか明確な線引きというのは難しいかもしれませんが、新しく組織ができることで役割分担というんですか、そういったものの割り振りといいますか、役割分担どようになっていくのかなというところを簡単にちょっとご説明願えればというふうに思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 役割分担、これ結構意外に難しいところでございまして、今現在もどこが何をやるんだというところちょっと見えにくいところ、特に外部の方からするとわかりにくいところあるんだろうと思います。いわゆる観光PRみたいなものは、今でも産業部商工観光課等で行っております。じゃ、そこに主体的に我々シティプロモーションの担当が入り込めるかという、なかなかそれも難しいというような状況なんかも場合によっては出てくるというような意味では、シティプロモーション推進室、ここは実際に先ほど掲げたようなSNSでの展開等も含め実施部隊としての位置づけもありながら、やはり市役所内でのそういうシティプロモーションの総合プロデューサー的な位置づけという形になってくるんだろうと思います。

その試みは実は今年から始めておりまして、トータルディレクションという試みを行っております。これというのは、例えば今度、八重桜のお祭りやります、ひまわり祭りやりますといったときに、その広報物、ポスターとかチラシですとか、そういったもののデザインとか、見せ方みたいなものを我々が頼りにしている外部の方、その有識者をおいでいただいて、的確にアドバイスをいただいて、効果的に情報発信していこうという取り組みでございまして、それを自前で任期つきのその職員の方なんかも含めて我々そのシティプロモーション推進室のほうで、それをちゃんと遂行していけるような体制をつくっていこうというふうなことでございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

役割分担というのを明確に線引きするのは、難しいというのは理解できます。ただ、市民

の方にこのシティプロモーションを理解してもらうために、一つ来年度、ですから今年になりますけれども、国体が9月に行われるかと思えます。この国体を例に考えるとちょうどいい機会なんじゃないかなというふうに思うんですが、この国体のPRにおいて、どのような役割分担といたしますか、私は絶好の機会だというふうに捉えているんですが、その絶好の機会としてまず捉えているかどうか、そのあたりからお聞きしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

当然その国体、那珂市で開催されるとなれば、もう本当にこれはまたとない絶好の機会になるかと思えます。我々いろんなところに向けて情報発信しているわけですが、情報発信している相手の方が市内にわざわざ赴いてくれるというようなことは、本当になかなかない機会でございます。これを機に全国に情報発信、那珂市というのはこういうところだよ、こういういいところがあるところなんだよ、来た方にもう一度また訪れてみようと思っていただけるようなプロモーションが展開できればと考えております。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） それに向けてぜひともそのシティプロモーション推進室が陣頭に立っていただいて、これは国体推進室だけとかシティプロモーションだけということではなくて、両方が手を取り合い、そして全庁的な盛り上げに職員一体となって、国体を盛り上げていくという機運をぜひ盛り上げていただきたいというふうに思います。

その意味においては、これ市民も盛り上がっていくということが私は大切じゃないかなというふうに思うんですが、そのための方策としてさまざまに取り組んでいるとは思いますが、例えば菅谷のまちなかの通りの激しいところにのぼりを立てるとかフラッグをつけるとか、そういったことも一つの方向性としてありなかなと私は思うんですが、市全体の市民の盛り上がりというところに対してはどのような形で取り組んでいくつもりか、お答えをお願いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 教育部長。

○教育部長（高橋秀貴君） お答えいたします。

茨城県で45年ぶりに開催となるいきいき茨城ゆめ国体でございますが、今おっしゃったとおり、那珂市においては正式競技として馬術、デモンストレーションスポーツとして3B体操のほうが開催されます。

PRにつきましては、市内には、国体推進室を中心に約2年ほど前から運動会やイベント等で小・中学校も含めてPR活動を行ってまいりました。今ご指摘ありましたのぼり旗についても公共施設、商工会、学校等には設置をしている状況です。また、希望のありました商店等には個別に掲示物のほうも配布しております。のぼり旗の屋外設置につきましては、強風、大雨時の管理の関係もあり、現在設置のほう控えておりますが、大会間近になりましたら会場周辺に設置し、盛り上げを図っていききたいとは考えております。

また、大会開催時には、先ほどの「るるぶ那珂」これを来場者に配布して、那珂市のPRのほうを行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

イベントのたびに私も商工観光課時代、いばラッキーと一緒にすることが多くて非常に頑張っているなということは思っております、決してやっていないということではなくて。

ただ、私がお願いしたのは市民の盛り上がりをつくっていきましょうということですので、その意味では大会直前ではなくて、もう少し前からのぼり旗を設置する等、フラッグでもいいと思うんです。それがつけられる道路かどうかとありますけれども、そういったことをやっていくことで、市民の一体感を醸成するようなことを取り組んでいただければうれしいなというふうに思うところでございます。

また、この大会に向けて市外からたくさんの方来ますので、特産品ブランド、それから農産物のPRを行うには絶好の機会だというふうに考えます。また、売るだけではなくて、ぜひそこに戻ってくる、例えば直売所が今なかなか経営厳しいという中で野菜を売って終わりではなくて、売った先、直売所で次買えるとか、もう一度来場者が買いに戻ってくるようなそういった仕組みづくりも必要なんじゃないかなというふうに思いますが、そのあたりどのようにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答え申し上げます。

担当課のほうからは、国体の実施会場に那珂市の特産品ブランド、あるいは市内の農産物の販売、PRを行うブースを設置する予定であるというふうには聞いてございます。今後、詳細が決まりましたら担当課と調整を行いまして、効果的なPRができるようにしてまいりたいというふうに考えてございます。

また、議員ご指摘の会場だけの購入で終わってしまうということは確かに残念なことであるということは感じております。国体の開催期間に限らず、さらには那珂市のファンになってもらって二度、三度と那珂市内のほうに足を運んでいただけるような、そういった仕組みもつくっていかねばならないというふうに認識はしてございます。会場内の売店とそれから実際にブランド商品を取扱店が離れているということもございますので、市内直売所、それから取扱店等に効果的な誘導ができるようにJA常陸、それから事業者、商工会等関係機関と連携を図りながら、周知の方法についても工夫してまいりたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） ありがとうございます。

まさしく今ご答弁いただいたとおり、関係機関と一体となってシティプロモーションの一環としてぜひとも那珂市への観光客が戻ってくるような、それから国体参加して終わりではないというような仕組みづくりを進めていただきたいというふうに思います。

今、主に市外の方に向けてのPRについてお聞きしておりましたが、これやはり初心に戻れば原点に戻れば、那珂市の人にまず那珂市を知ってもらうということがこれ基本だろうというふうに思いますが、この辺、企画部長、どのようにお考えかお聞かせ願いたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えします。

市民に対するそういったプロモーション活動というようなことだと思っておりますが、議員ご指摘のとおり、本当にそこは大変大事だと思っております。やはり市民が地元を愛してもらうというためには、地元のことをよく知ってもらわないと自分の地元のことをよくわからない中では愛せないと思っております。そういう意味では、例えば今我々がやっているいい那珂暮らし応援団なんていうのは一つのその試みだと思っておりますが、地元のことをよく知って、地元のことを愛着持っていただければ、例えば若い世代が大学進学のために東京へ行っても、やっぱり俺は地元で暮らしたいんだと言って戻ってきてくれるとか、もしくはおもてなしマインドみたいなこと、例えば市外から来たお客さんに対して、那珂市はこういういいところがあるんだよというようなことを市民一人ひとりがプロモーションをやってくれるとそういうような素地もできるというような効果も期待できますので、本当にそこは大事なところだと思っております。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員、残り1分を切りました。

○1番（小泉周司君） 残り50秒を利用して、ぜひ県から出向で2年間こちらへ来ておりました企画部長に、外から見た那珂市のよさというのを残り30秒ぐらいで最後お願いしたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） 短時間で説明するのもなかなか難しいですが、私やっぱり端的に言うと、那珂市というのは茨城県の縮図だと思っております。茨城県、ご存じのようにイメージランキングではちょっと低い位置にいるというのは、それは豊かだからあえて宣伝をする必要がない、それでも食べていけるからというようなところでは、それは那珂市もやはり豊かで恵まれた土地という意味では全く一緒だと思っております。でも、その豊かさ、恵まれたその環境、そのよさをぜひ皆さんで外に出して行って、一人でも多くの方に住んでいただければと思います。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 小泉議員。

○1番（小泉周司君） 以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（君嶋寿男君） 以上で通告11番、小泉周司議員の質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（君嶋寿男君） 本日は議事の都合によりこれにて終了し、残余の一般質問はあす3月7日木曜日に行うことにいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 3時46分

平成31年第1回定例会

那珂市議会会議録

第4号（3月7日）

平成31年第1回那珂市議会定例会

議事日程(第4号)

平成31年3月7日(木曜日)

日程第 1 一般質問

日程第 2 議案等の質疑

報告第 1号 専決処分について(損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定)

議案第 1号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

議案第 2号 那珂市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

議案第 3号 那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例

議案第 4号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例

議案第 5号 那珂市指定地域密着型サービスの事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

議案第 6号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例

議案第 7号 那珂市特別会計設置条例の一部を改正する条例

議案第 8号 那珂市地区体育館の設置及び管理に関する条例

議案第 9号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第7号)

議案第10号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第8号)

議案第11号 平成30年度那珂市国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第4号)

議案第12号 平成30年度那珂市下水道事業特別会計補正予算(第2号)

議案第13号 平成30年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計補正予算(第1号)

議案第14号 平成30年度那珂市介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第3号)

議案第15号 平成30年度那珂市上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算(第2号)

議案第16号 平成30年度那珂市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

議案第17号 平成31年度那珂市一般会計予算

議案第18号 平成31年度那珂市国民健康保険特別会計(事業勘定)予算

議案第19号 平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算

- 議案第20号 平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算
議案第21号 平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算
議案第22号 平成31年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算
議案第23号 平成31年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算
議案第24号 平成31年度那珂市水道事業会計予算
議案第25号 公の施設の広域利用に関する協議について
議案第26号 損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について
議案第27号 土地売買契約の一部を変更することについて
議案第28号 市道路線の認定について
議案第29号 市道路線の変更について

日程第 3 議案の委員会付託

日程第 4 請願・陳情の委員会付託

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（18名）

1番	小 泉 周 司 君	2番	小 池 正 夫 君
3番	石 川 義 光 君	4番	君 嶋 寿 男 君
5番	關 守 君	6番	富 山 豪 君
7番	花 島 進 君	8番	筒 井 かよ子 君
9番	寺 門 厚 君	10番	綿 引 孝 光 君
11番	木 野 広 宣 君	12番	古 川 洋 一 君
13番	萩 谷 俊 行 君	14番	勝 村 晃 夫 君
15番	中 崎 政 長 君	16番	笹 島 猛 君
17番	助 川 則 夫 君	18番	福 田 耕四郎 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条第1項の規定に基づき説明のため出席した者

市 長	先 崎 光 君	副 市 長	宮 本 俊 美 君
教 育 長	大 縄 久 雄 君	企 画 部 長	今 泉 達 夫 君
総 務 部 長	川 田 俊 昭 君	市 民 生 活 部 長	小 橋 洋 司 君
保 健 福 祉 部 長	加 藤 裕 一 君	産 業 部 長	篠 原 英 二 君

建設部長	玉川秀利君	上下水道部長	中庭康史君
教育部長	高橋秀貴君	消防長	飛田裕二君
会計管理者	小澤祐一君	行財政改革 推進室長	平松良一君
農業委員会 事務局長	根本実君	総務課長	渡邊莊一君

議会事務局職員

事務局長	寺山修一君	書記	小田部信人君
書記	小泉隼君		

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（君嶋寿男君） おはようございます。
ただいまの出席議員は18名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
-

◎諸般の報告

- 議長（君嶋寿男君） 議案等説明のため、地方自治法第121条第1項の規定に基づき議場に出席を求めた者の職氏名は、今期定例会の冒頭に配付した出席者名簿のとおりであります。
職務のため、議会事務局より事務局職員が出席しております。
本日の議事日程については、別紙のとおりお手元に配付しております。
-

◎一般質問

- 議長（君嶋寿男君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。
質問者の質問時間は1人60分以内となっております。これには答弁の時間を含みます。
これより順次発言を許します。
傍聴者の皆様をお願いいたします。
会議中は静粛をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードにしてくださいようお願いをいたします。
以上、ご理解のほどよろしくをお願いをいたします。
-

◇ 寺 門 厚 君

- 議長（君嶋寿男君） 通告12番、寺門 厚議員。
質問事項 1. 市長の施政方針について。 2. 県議会議員及び市議会議員補欠選挙結果について。 3. 公用車両のドライブレコーダーの管理運営について。
寺門 厚議員、登壇願います。
寺門議員。

[9 番 寺門 厚君 登壇]

○9番（寺門 厚君） 皆さん、おはようございます。議席番号9番、寺門 厚でございます。通告に従いまして、一般質問をいたします。

本日一般質問最終日ということなので、執行部の皆様には簡潔明瞭なご答弁をよろしくお願ひしたいと思ひます。

本題に入る前に、先崎新市長、市長就任おめでとうございます。心よりお祝ひを申し上げます。

市長と議会はよい緊張関係を持って議会運営及び市政発展、市民の福祉向上のためにも邁進していきたく思ひますので、よろしくお願ひをいたします。

まず、最初の質問は市長の施政方針についてお聞きします。

この質問につきましても、5日に古川議員、笹島議員からも質問がありましたけれども、今回この質問をするに当たりまして、市民の方からは新市長が誕生したけれども、今後那珂市をどういうまちにしていくのか。ところで、先崎市長何をやるのかと言ったり、そういえばよくわからないよねという話をお聞きしました。これは無投票での当選により選挙公報、こちらがそうですけれども、これが未配布のままとなってしまうと市民には選挙公報いわゆる公約の内容が今ひとつ伝わってなかったということではないかと思ひます。

今後、無投票当選時においてはやはり何らかの方法で公約を伝える工夫をしていただきたいなというふうに思ひますので、執行部において検討のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

先崎市長の施政方針についてですけれども、一部先ほど申し上げましたように重複する部分もあろうかと思ひますけれども、本日は5日と違ひまして新たな傍聴者もおいでになっております。先ほども申し上げましたように、市民にお知らせするという意味においても再度先崎市長のお考えをお聞きしたいと思ひます。

最初に、では先崎市長は那珂市をどのようなまちにしていきたくのか、お考えをお聞きしたいと思ひます。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 寺門議員の質問にお答えをさせていただきます。

私の施政方針につきましては、既に何人かの議員からお尋ねをいただきましたけれども、繰り返しの答弁になりますけれども、改めましてお答えをさせていただきます。

私は、平成14年から町会議員、市会議員を務め、そして平成23年から2期8年にわたり那珂市と茨城県をつなぐパイプ役として県会議員として那珂市の発展に尽くしてまいりました。県内をくまなく歩き、那珂市を内と外から見てきて考えたことは、もっと那珂市の立ち位置、地の利を活かせばもっともっと活力ある那珂市を実現できるのではないかと、そういう思いでありました。那珂市は、さらに発展するひたちなか、東海地区に隣接しておりますし、奥久慈の玄関口と言われる立地条件は貴重な資源でもありと考えております。これらの資源

を活用して、少子高齢化の進展が深刻な地域課題となっている現在でも持続可能な那珂市をつくっていく、元気が出る施策を進めていく必要があると考えております。

子育て支援の充実や、市を支える人材の育成、産業振興を図り、地域経済を強化していかなければなりません。地域経済を強化することにより、市の財源を確保してまいります。財源の裏づけがあつてこそ、さまざまな施策を実現することができ、そのことが活力あるまちづくりにつながっていくと考えております。

まずは腰を据え、じっくり構え、各種施策を自分の目でも確認しながら一つひとつ丁寧に取り組み、選挙において掲げた「活力ある那珂市へ、育てよう地域の夢・未来」の実現に向け努力をしていきたい。議員がおっしゃるように、図らずも無投票になりましたので、私の公約を皆様にお示しする機会がありませんでした。このことも踏まえて、これからもなるべく早い時期に私のカラーが出せる、そういうことにも取り組んでいきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） わかりました。

市長におかれましても、あらゆる機会を捉えて公約をお話いただければなというふうに思います。活力ある那珂市をつくっていくんだよということと、元気の出る施策をそのために実施していくんだということはわかりました。

では、その活力ある那珂市をつくるための元気の出る施策、重点政策はどのようなものをお持ちなのか伺いたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 私は今回の市長選挙において6つの公約を掲げさせていただきました。

6つの柱とは、既にご紹介しましたがけれども、「健康づくり」、「安心安全づくり」、「産業観光の拠点づくり」、「教育文化づくり」、「発展の基盤づくり」、そして「責任ある行政づくり」です。私はこのそれぞれの一つひとつの柱に付随する施策の実現にこれから努めていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 公約で掲げた6項目が重点方針であると、政策であるということはわかりました。所信表明や施政方針の中でも、さらに初日の答弁にもありましたけれども、活力ある那珂市をつくるためには産業の振興を図っていくと何度も述べられておられます。

産業の振興といえば、私は農業の振興を第一に上げるべきではないかなというふうに考えております。それは、本市の農業は基幹産業といいながら、この十数年もうかる農業への転換が果たせないままそのまま推移してきております。もちろんその生産、販売、消費、これがうまくかみ合っていないというふうに考えております。特に生産者、後継者不足が深刻であり、生産基盤である狭小農地の集積と、耕地一区画当たりの耕作面積の拡大、さらに土地改良とほ場整備、脆弱な販売体制の改善は喫緊の課題だからであります。活力ある那珂市の

源であります基幹産業、農業の振興策について、施策でありますアグリビジネスの推進やプラスワンの価値づくりといったものについてもどのように考えているのかお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 寺門議員も、農業、芳野地域の代表として活躍をされております。私は、やはり農業というのは市の産業の中でも基幹産業になるべきでありまして、今おっしゃったようにやはりもうかる農業、これ一口に言ってもなかなか難しいですけども、そういったものをやはり基本的に念頭に置いて進めていかなければいけない、そのように考えております。

那珂市の基幹産業は農業。農業を取り巻く情勢もたくさんあります。例えば遊休農地の対策、これは非常に重要なことでもありますけれども、それは総じてやはり先ほど議員がおっしゃっていたようにもうかる農業に向けて進んでいかなければいけない、重要なキーワード、そのように考えております。

那珂市は、水戸市やひたちなか市といった都市部にも隣接して消費地としても非常に重要な位置にあります。そのような地の利を活かして農業者による6次産業化を推進し、さらに農業所得向上を目指すとともに、直売所等の地域振興施設の強化あるいは地産地消運動の推進、これらを図っていきたいと考えております。

また、消費者とのベストパートナーを目指しさまざまな分野の方々との連携の中から新たな価値を生み出す「プラスワンの価値づくり」としてアグリビジネスを推進していきたいと考えております。また、その礎である農地の保全、あるいは整備、これも重要なことでもあります。現在も、市内でも各ほ場整備を進めておりますけれども、こういったことも重視しながら環境づくりに努めていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） さまざまな振興策を着実に実行していただきたいなと思います。さらに、ぜひとも今市長もおっしゃっていただきましたが、生産基盤これが大変重要だと思いますので、土地改良を含めた農地の整備、重要かつ喫緊の課題であるということも改めてご認識をいただいて、もうかる農業への転換への第一歩を迅速に進めていただきたいなというふうに思います。

次に、少子化対策、活気ある産業の育成、これらは全て元気な市民づくりのためということにもつながるわけですけども、元気な市民をつくる上で最も重要なのはやはりインフラ整備だろうというふうに私も考えております。インフラ整備については、先崎市長はどのように考えておられますか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） インフラ整備は、生活の基盤整備のみならず地域産業の振興にも大きくかかわってくるものであり、市が責任を持って整備しなければいけないと考えております。その中でも、道路整備や下水道などは、市民の快適な暮らしを支える重要なものであります。

が、整備には長期間を要します。特に、118号線の4車線化あるいはバイパス化の整備促進、バードラインの県道昇格と4車線化の推進につきましては、重要施策と位置づけてこれまで県と、あるいは国と培ってきたパイプを活用して早期実現のために努力をしてまいります。

未舗装の生活道路の整備、これにつきましても各議員からも要望がありました。これも非常に重要なことでありますので、地元の意向を踏まえ協議をしながら進めてまいりたい、そのように考えております。

また、下水道整備につきましては、公共水域の水質保全や生活環境の向上を図るために大変重要な事業であります。下水道を効率的・効果的に推進することはもちろん、下水道のみならず農業集落排水及び合併浄化槽を含めた持続可能な污水处理システムを構築し、生活環境の向上に努めてまいります。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） インフラ整備、多岐にわたる実施項目というのがありますが、ぜひとも市民の快適な暮らしをしっかりと支え、生活環境の向上、充実がなければ市民は元氣になれませんので、整備促進をよろしく願いをしたいと思えます。

次に、東海第二原発についてお聞きします。

先崎市長の公約には、日本原子力発電(株)東海第二原子力発電所、以下東海第二原発というふうに略して申しますが、ここについての表現は一切ありませんでした。海野前市長は、昨年11月に東海第二原発再稼働反対。広域避難計画策定は困難だと明言をしております。そういう意味では、今や那珂市は全国区で東海第二原発再稼働反対の自治体という見方がされているのではないかとこのように私は感じております。

このような中、先月22日には原電さんは茨城県東海村、水戸市に対して、東海第二原発再稼働の意向を表明しました。また、2月28日におきましては原子力所在地域首長懇談会の開催においても、その場で改めて再稼働を表明しております。これに対しまして座長の東海山田村長は、原電に対し「原電がいくら安全対策の向上を進めようと、最終的な判断は私たちがする」というふうに伝えているということで報道をされております。半径30キロ圏内に住む96万人の広域避難計画は策定の目途が立っておりません。周辺6市村に拡大されました地元同意が得られるかも、これも見通しが立っていない。そのような中、3月2日の朝日新聞の報道では、再稼働時期は2023年1月を想定という記事も載せられており、事態は再稼働に大きく動こうとしております。

そこで、東海第二原発の再稼働について海野前市長からは何か引き継ぎ事項というのはなかったのでしょうか、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） お答えをいたします。

東海第二発電所の再稼働の議論につきましては、海野前市長からは引き継ぎを受けておりません。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 重要事項は必ず引き継ぎがあるというふうに理解はしてはいましたが、ないというのはちょっと意外ではありますけれども、その先はちょっと今回は追及はしませんけれども、では、東海第二原発の再稼働について先崎市長はどのようにお考えになられていますか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） お尋ねの件につきましても、今議会で何度かお話をさせていただいておりますけれども、東海第二発電所の再稼働の議論につきましては、議会の皆様のご意見を十分にお伺い、そして住民の意向も伺いながら市民の安全・安心を最優先課題として考え、取り組んでまいりたい、慎重に判断をしていきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 市民の安全・安心を最優先に考えてということは非常に大事なことではあると思います。そして、議会及び市民の意見を踏まえてということで、慎重に判断されるということはわかりました。再確認ですけれども、5日の笹島議員の質問に対しましても「この件については、安全が確認できなければ再稼働は認めない」という答弁もされております。市長、これで間違いないでしょうか。お考えは。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 過日の新聞報道等でもご存じでしょうけれども、首長懇談会においてもそのような統一見解を出させていただいております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） わかりました。

では、2月28日にも原子力所在地域首長懇談会、6市村の会合で改めて原電は再稼働の意向を表明しておりますけれども、先崎市長は原子力所在地域首長懇談会ではどのようなスタンスで、どう行動していくのかお伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 今後、6市村での連携を図りながら市民の安全・安心を最優先に意見交換をしてまいります。また、昨年3月に締結しました新安全協定により6市村が同等に確保した権限を使いながら、6市村の枠組みの中で日本原電に対しても不断の安全対策にしっかり取り組むよう求めてまいりたいと考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 市民の安心・安全を最優先に考えると、強い思いを持って意見交換をされ、6市村の枠組みの中で不断の安全対策にしっかりと取り組んでいただきたいと思えます。

安全協定を見直した新安全協定、これは安全協定の権限の拡大、事前了解権、これは昨年

の3月に首長懇談会である6市村に認められております。さらに今年の2月には東海第二発電所安全対策首長会議の9首長とも新たな協定を締結がされております。2月28日の首長懇談会で山田東海村長は、1市村でも同意できない、反対の場合にはその先には進まないということを改めて確認したというふうに報道もされております。首長懇談会6市村には、新安全協定に基づく実質的事前了解権があるわけですが、この実質的事前了解権についてはどのように考えておられますか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市町（先崎 光君） お答えします。

実質的事前了解権は、6市村それぞれが事前協議を求めることができ、それぞれが納得するまでとことん協議を継続することができる権限で、6市村の一つでも納得しなければその先に進まないものであると、そのようなことを理解をいたしております。

したがって、この6市村の枠組みの中で権限を使いながら市民の安心・安全を最優先に対応してまいりたいと、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 市民の安心・安全を最優先にという思いは大変強いものを感じ取りました。この思いをいつも念頭に置かれて、やはり行動をしていただきたいというふうに思っています。

日本原電は、2月28日に首長懇談会で再稼働を改めて表明した際、安全対策工事についてなるべく早く来週以降に詳細の中身を示したいというふうにも述べております。さらに来年度に住民説明会を開くという意向を示しております。しかしながら、再稼働の地元同意取り付け時期については明言を避けております。また、3月2日の朝日新聞には、安全対策工事費3,000億円、東電、東海第二発電に支援1,900億円という見出しの報道がされております。

安全対策工事には、1,740億円かかるというような話は知らされておりますけれども、さらにその上に1,300億円弱のお金をかけ、この総額3,000億円になるわけですが、そういったその高額な安全対策工事を進めるという、再稼働に向けた安全対策工事をなし崩し的に、いや強引に進めようとしているのではないかというふうに感じられてなりません。これから始まる本格工事の着手は、6市村の了解を得てから進めるべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市町（先崎 光君） お答えいたします。

6市村では、現在工事をしているのは東海第二発電所の再稼働に直結するものではなく、使用済みの核燃料を有している東海第二発電所の安全確保を図るものであるということを前提に、「安全性の向上に資すると認められる工事」の実施継続を了承していると伺っております。しかし、本格的な工事がなし崩し的に着工することは当然ながら容認はできません。今後詳細な説明をしていただいた上で、6市村が連携して安全対策の追及をするとともに協

議をしていく考えでございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 6市村が連携をして、何でその3,000億円も安全対策にかかるんだということについて徹底した追及を行っていただきたいと思います。先崎市長も5日おっしゃっていましたが、首長懇談会で市民に対してまたは議会に対してきちんと説明をするよう要請をしているというお話を聞いております。当然、もう一度原電からの首長懇談会への説明、周辺6市村への市民への説明、議会への説明を十分に行っていただくよう再度要請のほどをお願いしたいと思います。市民の理解を深めるためにやはりどうしても必要な事項だと思います。そしてやはり地元同意を得てからの安全対策の工事を着手していただけるよう追及していただきたいと思います。

今後、東海第二原発再稼働につきましては、当那珂市としてまた市民一人ひとりの判断が求められることとなります。しかしながら、那珂市民で東海第二原発再稼働についての理解をされている方は、私は少ないのではないかなというふうに思います。市民の理解を深めるために、有識者、専門家、市民を含めた原発再稼働協議会、これは仮称ですが、こういう会議体を設置して協議会による説明会や討議会を開催し、その中での熟議を踏まえた上ではじめて市民は判断ができるのではないかなというふうに思います。このような、東海第二原発の再稼働にかかわる民意をくみ取る新たな組織、有識者、専門家を含めた原発再稼働協議会、仮称ですけれども、こういった組織体を設置すべきと考えますが、いかがお考えですか。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 新たな組織をというご提案をいただきました。東海第二発電所の再稼働の議論につきましては、市民のご意見も十分に考慮しながら慎重に判断していく必要があります。まずは、私はこれまでの経緯や6市村の枠組みでの動きなどをきちんと確認をして整理をした上で手法及びその時期等についてこれから総合的に判断をしてまいりたいと考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 市民の声を集約し、最終的には那珂市として十分に民意をくみ取るための手法、時期の検討をよろしくお願ひしたいと思います。この件については、やはり現在市民に対して東海第二原発の再稼働に対する情報提供、あるいは安全対策については逐次流されてきます。先月原子力安全規制委員会からの審査結果についても説明がありました。また、当那珂市においても広域避難マップの説明やら市民アンケート等の結果ということについての説明等もありますけれども、それぞれ一方的にいろんな立場から情報が流されますけれども、一方的で市民一人ひとりが受けてそれを総合的に判断し、どう理解してその判断につなげていくのかというのがよくわかっていないというのが今の状態ではないかなというふうに思います。

そこで、市長に提案ですが、市民が東海第二原発再稼働について理解を深め判断する上で

今後市民が事業者と行政が同席した説明会等の開催を要望した場合には、参加していただけますでしょうか。これについて伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） 原電側に対しても先日も丁寧な説明をお願いしたいと。特に皆様方議会に対しても、当然委員会もありますし、議員さん方も市民の代表でありますからいろんなことを把握しなくてはいけない、市民そしてさらにその前には議会にという要望は先日も重ねてさせていただきました。

今寺門議員からあったご提案でございます。まず、事業の計画、内容の説明はやはりこれは事業者が行う、そして住民の安全避難にかかわる広域避難計画の説明は行政がしっかり説明することが重要と考えております。

そこで、市民が事業者と行政が同席で話を聞きたい、そのような要請があれば行政が参加することは可能であると考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） わかりました。

市民の、東海第二原発再稼働を判断するための市民主体の説明会等の開催の折にはぜひ行政側で参加していただけるということなので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

以上でこの項についての質問を終わります。

次に、昨年12月に実施されました茨城県議会議員選挙及び那珂市議会議員補欠選挙の結果についてお聞きします。

ここで、議長の許可をいただきまして資料を配付させていただきました。お手元に配付してございます資料1をごらんいただきたいと思ひます。

投票率はいずれも前を下回る、しかも県議選47.62%、県の投票率で言いますと県全体では41.86%、市議補選については47.37%ということで50%を切る低投票率でございました。しかも無効票は、県議選451票、市議補選1,612票と予想外に多かったことは投票結果を重く受けとめなければならぬと私は考えております。

そこで、投票率向上と無効票の減少を図るべく対策を講じていく必要があるというふうに考えますので、今回質問に立っております。

では、この投票率が50%を切ったという原因はどういうところにあるのかお伺ひいたします。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊荘一君） お答えいたします。今回執行いたしました茨城県の議会議員一般選挙の投票率でございますが、先ほど議員がおっしゃられたように県の平均が41.86%でございました。那珂市はそれを上回る47.62%ということで、これは選挙の内容によるかもしれませんが、那珂市の市民においては比較的選挙に対する意識が高いのではないかとこのふ

うに感じられます。

また、市議会議員の補欠選挙の投票率が47.37%ということでした。この結果についてでございますが、特に分析やその原因究明ということは実施してございません。

また、参考にございますけれども、一般的な話としまして国政選挙の投票率など年々低下傾向にあるというのが現状でございます。それから、総務省の統計がございましてちょっとそれを拝見させていただきますと、やはり選挙の棄権の理由の上位の要因というのがございまして、一つが適当な候補者も政党もいなかったから、もう一つが選挙に余り関心がなかったから、それから政党の政策や候補者の人物像など違いがよくわからなかったから、あとは仕事があったからなどということが上位の要因を占めていたということでございます。このようなことから考えますと、県議会議員の一般選挙また那珂市議会議員の補欠選挙においても同様な理由があるために棄権したのではないかとということが想定されるのではないかと感じているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） ここで、資料をお配りしておりますので、その資料の2ですが、市議会議員補欠選挙低投票率上位ベスト5、それから高い投票率のところということでとりあえず上位を拾ってみた数字です。これを見ますと低いところは、神崎、額田、菅谷、芳野と。高いところが、戸多2、3、木崎地区、戸多第1、あと瓜連が第3というふうになっております。これで見ますと、高齢者のいらっしゃるところは高くなっているし、候補者がいなかったところは低調であったなというのがわかる、そういう傾向があるなというふうには思います。

今回の選挙も分析はしていないということなんです、私は国政選挙同様の原要因、選挙に余り関心がなくなったからというのが大きいのではないかなというふうに思います。ちょっと原因がよくつかめていないということなんですけれども、こういった投票結果からみるとそういうことがわかるのではないかなというふうに思います。

次に、年代別の投票率についてですけれども、これは裏のほう、資料2ですね。これは茨城県選挙管理委員会がつくった、全県下で投票が行われたところ1カ所、それぞれの投票区抽出してデータを作成しています。ちなみに那珂市においては後台第2投票区のデータが使われております。こちらを見ていただくと、18歳は44.5%と高くなっております。それから、20代、30代、それぞれ20代は20%、30代は30%弱と低くなっておって、60代は50から60%、70歳代は60%代ということでやはり高齢になるにしたがって高くなっているという傾向が見てとれると思います。

では、本市においてはどのような状況だったのか、またその要因があるとすればどういふものがありましたか、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊莊一君） お答えいたします。

茨城県議会議員の一般選挙の結果でございますけれども、那珂市の場合、年代別の投票率でございますが、那珂市の場合は全体は集計しておりませんので、個々の那珂市役所、菅谷第2投票所の結果についてでございますが、10代が35.4%でございます。それから20代、22.7%。30代、36.2%。40代、45.7%。50代、48.5%。60代、57.0%。70代、65.2%ということになっております。

ただいまの議員がお配りした資料とやはり同じような傾向になっている状況でございます。それから、各年齢層の投票率を比べましてもやはり20代、30代が低い状況になっておりまして、この原因でございますが、先ほど申し上げた国政選挙におけるアンケート調査のほうの部分につきましてを引用させていただきますと、やはり20代で選挙を棄権する理由として多いのが、選挙に余り関心がなかった、それから仕事があったということが主なものになっているというような状況でございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） わかりました。

県のデータと余り傾向は変わっていないということだったと思います。やはりその理由というのが、選挙に関心がない、仕事があったから行かなかったというのはこれもちよっとどうかと思いますけれども、そういう大きな理由があるということだろうと思います。

次に、無効票についてですけれども、これ資料1の4に書いてございますが、どういう内容が無効票とされるのかという内容をあらわしたものでございます。これは、那珂市の選挙のほうでつくっていただきました。これによりますと、県議選、市議補選両方とも白紙投票が多い、特に市議補選が多かったのにはちょっと私は衝撃を受けました。しかも、市議補選の無効票は立候補者の中で最小得票数というのが確か1,300だったかちょっと記憶が曖昧なので申しわけないのですが、それよりはるかに多い1,612票もあったということが非常に気になっておりまして、この原因がわかれば教えていただきたいのですが、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊荘一君） 無効票が市議補選のほうで1,612票もあったということでございますが、この無効票1,612票のうち、お手元の資料にもありますように白紙が986票ということになってございます。それらについての正確な理由については把握してございませんが、せっかく投票に来ていただいて投票を実施した結果、白紙という形で投票せざるを得なかったということでございます。この原因については、推測するに、身近な候補者がいないであるとか、適当な候補者がいない、候補者等の人物像など違いがよくわからなかったなどというような理由が想定されるのではないかというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 私も何人かの方からお話、この選挙についてお聞きしましたけれども、投票用紙がきたけれども何の選挙だったのかという方もいました。投票所へ行ったけれども、

誰を選べばいいかよくわからないという声もありました。やはり投票行動はしたんですけれども、適当な候補者がいなかったのでよくわからないからというのが要因だったのではないかなというふうに思います。これにつきましては、候補者云々という見方、今回は避けますけれども、一方の見方をすれば議会を構成しているのは議員でありますし、議会への関心が低い、薄いという評価ではないかというふうに私は捉えました。やはり議員一人ひとりのさらなる議員力の向上を図って、市民の負託に応え、信頼される議会にすべくもっともっと議会改革を進めていく必要があるなというふうに感じました。

次に、期日前投票についてお聞きしますけれども、これは前年に比較して伸びているのでしょうか。もし伸びている、またそのほかの要因があるのであれば、その要因も教えていただきたいと思います。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊莊一君） お答えいたします。

期日前投票でございますけれども、期日前投票率、投票人数等の近年の選挙の状況を比べてみますと、まず平成29年度執行の県知事選挙が期日前投票者が9,109名いまして、これが投票率に占める部分で言いますと19.6%。それから、衆議院議員の総選挙でございますが、これが1万2,631人で、27.1%。それから、平成30年度執行の県議会議員選挙が7,526人で16.3%ということでございます。

一概にふえている、減っているの比較はできないところとは感じますけれども、那珂市においては全体の投票率の約4割を期日前の投票者が占めているということでございます。それから、期日前投票について全国的な傾向を見ますと、最近は駅や商業施設、大学、学生など人が集まりやすい場所に期日前投票所を設置する自治体がふえているということでございます。そういうことから、全国的には期日前投票の投票人数については増加傾向にあるというのが全国的な状況でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 増減については、一概には比較できないということですね。投票割合の約4割を期日前投票が占めるということは、早めの投票を心がける有権者がふえているということになるかと思えます。やはりこの点は重要な気がいたします。駅や商業施設、大学など人の集まりやすいところで期日前投票所を設置しているところが功を奏していると。これは全国的な傾向ですけれども、本市においても同様だと思います。であれば、今後も期日前投票をふやすことは投票率増へ私はつながると思えますので、今後はさらに期日前投票場所をふやす必要があるのではないかというふうに考えます。現在も行われているかと思えますが、郵便投票やSNS利用の投票、期日前投票場所をふやすなどして、こういった検討をお願いしたいんですけれども、それはいかがでしょうか。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊莊一君） お答えいたします。

まず、郵便投票でございますけれども、こちら不在者投票制度の一つとして身体の障がい、重い障がいなどによりまして投票所に行けないという方が郵便により投票ができるような制度でございます。この制度につきましては、選挙を執行するたびに全世帯に配布する選挙執行のチラシやあるいはホームページ、お知らせ版等に掲載して周知をしているところでございます。

それから、SNS等の利用でございますけれども、現在那珂市ラインのほうをSNSを使って配信できるようになりましたので、今後はこのラインなどを活用しまして選挙の案内や選挙啓発などを実施していきたいというふうに考えております。

それから、期日前投票所の投票の場所でございますけれども、市民の利便性を考慮いたしまして、利用者の多い商業施設であるとか、そういう部分について今まで検討をいたしました。やはりお店のお話を聞くと店舗内での場所の確保が難しいというような状況がございます。

それから、二重投票を防止するという、期日前でございますので一度にできますので、その二重投票を防止するために選挙投票システムをオンラインで結ぶ必要がございます。そのセキュリティーの確保にも若干課題があるというのが現状でございます。

そのような状況でございますので、現在その期日前投票所の増設というのはなかなか難しいというような状況になっているところでございます。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 今後の投票率アップのためにもSNS等の新しい媒体や、期日前投票所ということで課題があつて難しいというお話ですが、できるだけ課題克服ということで努力いただいてふやしていただけたらなと、そういう方向を検討していただきたいなというふうに思います。

それでは、投票率向上のために現状行っていることは何でしょうか。また、今後さらなる向上に向けてどのような対策を講じていくのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊莊一君） お答えいたします。

現在投票率向上のためでございますけれども、選挙を執行するという場合になれば「広報なか お知らせ版」、また、市のホームページ、メルマガ等へ掲載いたしまして周知しております。それから、市内のスーパー、コンビニ、飲食店などへも選挙啓発のポスターの掲示依頼をしております。それから、市内の各世帯に回覧板等でチラシを配布していること、それから市役所の瓜連支所等にも横断幕や懸垂幕を設置しまして、選挙日や期日前投票などについて周知しているところでございます。それから、投票日の直近になりましたら市の広報車や防災行政無線によりまして投票の呼びかけを行うなどさまざまな取り組みを実施しているところでございます。

それから、選挙意識の啓発といたしまして、市民の選挙意識啓発としまして「選挙事務への高校生の登用」、それから期日前投票所の立会人につきましても公募いたしまして、できるだけ多くの市民に参加をしていただき選挙に対する意識の高揚、啓発を図っているというふうに考えております。

それから、常時の選挙啓発といたしましては、毎月「広報なか」でございますけれどもここに一つコーナーを設けておりまして、「選挙いろいろQ&A」というのを毎月掲載しております。それから、大きなイベント、ひまわりフェスティバル、成人式などそういう場合には選挙啓発のパンフレット等の配布を実施しているところでございます。それから、最終的には投票率の低い20代、30代への選挙啓発というのは大きな課題であるというふうに考えておりまして、主権者教育を中心にしまして若者、若年層への選挙啓発の取り組みについて今後進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） いろいろと取り組んでおられるということがわかりました。引き続き取り組んでいただきたいなというのと、頻度を上げて実行していただければなという思いでございます。そして、特に20代、30代への選挙啓発には課題もあろうかと思いますが、ぜひ取り組んでいただきたいというふうに思います。

今回の選挙では、もう一つ一番感じたのは、無効票の多さに驚いたということです。今後無効票の急伸長をどう把握、分析化し減少策を講じていくのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊荘一君） お答えいたします。

無効票の数については、先ほどの答弁でもお答えしまして大変先日の選挙で多かったということでございます。特に、市議会議員の補欠選挙の無効票が大変多い結果となりました。せっかく投票所に足を運んでいただきまして、白紙が多かったということです。投票していただいたのにもかかわらず、無効票がたくさん出たということは大変残念なことであるというふうに考えております。

無効票の原因についてでございますが、明確な特定というのはできませんけれども、できるだけ今後も無効票を減らして投票率を上げるためにやはり市民の皆様にもっと政治や行政に対して興味や関心を持っていただくということが重要ではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） もちろんその市民への政治や行政に対する興味関心を上げていくということは大変重要なことだと思います。それから、もう一つ投票行動はしたけれども白紙というのは有効ではなく無効票だということを市民の方にも十分ご理解いただけるようなPR

といひますか、お知らせをしていただければなというふうにも思ひます。

先ほども申し上げましたけれども、議会としてということになりますと、無効票への対策としては議員力の向上、しっかりとやっていくんだということと、これが大変重要であるということゝを改めて認識をしました。今後はさらなる議会改革を推進していかなければならないと強く感じております。

投票率の向上、無効票の減少にはやはり小さいころからの正しい主権者教育の徹底と、投票は自分の生活に直接かかわる重大事項との理解を深めておく必要があると考へます。

そこで、小学生や中学生への主権者教育の徹底、親子対象の模擬投票や選挙出前講座などの開催をしてはいかがでしょうか、伺ひます。

○議長（君嶋寿男君） 総務課長。

○総務課長（渡邊莊一君） お答えいたします。

投票率の向上には、やはり学校での主権者教育というのも大切な役割を果たしているというふうに考へております。特に、平成28年7月の参議院選挙、選挙年齢が18歳に引き下げられまして、それ以降国では新たな有権者となります高校生に対して副読本を作成するなどしまして主権者教育に力を入れているようでございます。

また、市の選挙管理委員会でも市内の高校に赴きまして実際の投票箱、記載台、投票用紙を使用しまして模擬投票などを実施したこともございます。それから、さらに小・中学校でございすけれども、少しでも本当の選挙を身近に感じていただくということから、学校内で児童会の選挙、生徒会の選挙等そういう選挙を行う際に、実際の投票箱、あとは記載台を毎年貸し出しをいたしまして選挙に対する意識の高揚を図っているところでございます。

それから、出前講座ということでございますが、小・中学校に対しまして選挙の出前講座などを周知いたしましてご要望がございましたらぜひ開催して参加して出席していきたいというふうに考へております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 小・中学生に対しても、主権者教育も含め選挙の出前講座などの機会を活用して積極的な推進と徹底を今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でこの項の質問を終わります。

次は最後の質問になりますが、公用車両のドライブレコーダーの管理運用についてお聞きをします。

最近県内の市町村で導入が進んでおりますドライブレコーダー、既に本市でも4月からということゝ聞いておりますけれども、県内では既に40近い市町村が導入、採用をしております。事故の未然防止及び事故発生時の原因究明や迷惑運転防止などに役立つなどの効果があり、運転者の安全運転への意識向上につながっているのではないかとこのように考へております。しかし、ドライブレコーダーに収録されました映像は個人情報も含まれており、使い

方は厳重に管理され慎重に扱わなくてははいけません。誰がどのように管理して、どう使っていくのか、ドライブレコーダーの導入の趣旨や目的の明確化及び管理運用の定めが重要と考えます。管理要綱につきましては、現在県内では石岡市のみとなっております。

本市におけるドライブレコーダーの管理運用状況について確認したいと思います。

まず、ドライブレコーダーの導入、設置状況がどのようになっているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

ドライブレコーダーの導入につきましては、先の第4回定例会におきまして122台分を補正予算に計上させていただいたところでございます。購入に当たりましては、1月25日に入札を執行しまして、2月18日から順次公用車への取り付け作業を進めているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 1月からということが始まっておるわけですがけれども、122台全車につけられていくと、これは3月では終わらないんですよね。持ち越して4月以降もということにはなるんでしょうけれども、それでドライブレコーダーの導入の趣旨、目的、これについて伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

ドライブレコーダーの導入の目的ですけれども、大きくは2つあるというふうに考えております。まず、1つには交通事故への対応でございます。職員が交通事故に遭遇した際に、映像を証拠として利用でき、事故の過失割合の判断に利用できるということでございます。2つ目といたしましては、安全運転意識の高揚が上げられるというふうに考えております。ドライブレコーダーに録画されていることを意識することによりまして、公用車を運転する職員が安全意識の高揚が図られ、運転マナーの向上につながるということでございます。

さらに、ドライブレコーダーの導入の効果として上げられる点を申し上げますと、事件や犯罪捜査等に寄与できる「走る防犯カメラ」となり得るということでございます。昨今全国至るところで事故、犯罪が多発している中、当市におきましてもいつそういった事故や事件が発生するとも限らない状況でございます。偶然にも事件の現場付近を運転をしていた際に、その現場の映像が残ることでその状況の情報提供が可能となり、副次的な効果が期待できるということでございます。また、今年国体が開催される予定でございますが、大会を安全かつ安心して開催できるよう、突発的な事故や犯罪にも対応したいというのも目的の一つであるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 今、導入した効果で走る防犯カメラにもなり得るということで、早速国体開催時から、今年から使うんだよというお話がありましたけれども、これ使い方が行き過ぎてしまいますと大変なことになると心配するわけです。それは、実際に収集する映像データはいろんなものが入っております。特に個人情報も含まれておりますので、過剰な、あるいは偏った収集、使用がないよう、特に個人情報の漏えいなどがないように取り扱いには十分な注意を払わなければならないということでもあります。

そこで、運用ルールや要綱は定めているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

議員がおっしゃいますとおり収録された映像には個人情報も当然含まれておりますので、ドライブレコーダーの利用やデータの取り扱いには当然ながら適正に管理をしていかなければならないというふうに考えております。

現在ドライブレコーダーの「設置及び管理運用に関する要綱」というものを制定すべく作業を進めておまして、本年4月1日から施行をする予定でございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 管理要綱を4月1日実施予定で現在策定中ということなので、しっかりと策定をお願いしたいと思います。

策定中の管理要綱の中にどうしても明記していただきたい重要な事項があります。それは、特に「データ」の提供を行った場合の理由や記述、相手方の名称やデータの内容等を記載した記録書を作成するという項目です。これは明示されているのでしょうか、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

現在のところその要綱におきまして、データを外部に提供したり目的外に利用する場合には、「データ提供等管理簿」に提供した日時、相手方、内容等を記録し保管しなければならないとしております。あわせて、市内部においてデータを閲覧する場合にも、日時、利用者名、理由等を「データ閲覧簿」に記録し保管しなければならないというふうにしていただいております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） それでは、あと今度は使い方になりますけれども、運転者への指導や教育をどのように行っていくのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 総務部長。

○総務部長（川田俊昭君） お答えいたします。

まずは、制定を予定しています今申し上げました「設置及び管理運用に関する要綱」の目

的、内容につきまして職員に理解させるように指導してまいりたいというふうに考えております。あわせて要綱の規定の中でデータの閲覧、複製は統括管理責任者の許可を必要としていること。また、そのデータの取り扱えるものは統括管理責任者が選任したものとされていますように、記録されたデータにつきましては個人情報が含まれていますので、慎重に取り扱うように十分注意喚起をしてまいりたいというふうに考えております。しかしながら、そのドライブレコーダーの導入につきまして「職員の安全意識の高揚」、「運転マナーの向上を図ること」を目的としていますことから、個人情報に配慮しつつも映像やデータを一部利用しながら職員の安全運転研修、それから個人指導にも生かしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（君嶋寿男君） 寺門議員。

○9番（寺門 厚君） 安全運転研修や個人指導をしっかりと実施していただきたいと思いますので、この点はちゃんとやっていただけるようお願いをしておきます。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（君嶋寿男君） 以上で通告12番、寺門 厚議員の質問を終わります。

暫時休憩をいたします。再開を11時15分といたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時15分

○議長（君嶋寿男君） 再開いたします。

◇ 富 山 豪 君

○議長（君嶋寿男君） 通告13番、富山 豪議員。

質問事項 1. 防災無線デジタル化の進捗状況について。 2. 買い物弱者の対策について。
3. 有害鳥獣捕獲の現状と今後について。

富山 豪議員、登壇願います。

富山議員。

〔6番 富山 豪君 登壇〕

○6番（富山 豪君） 議席番号6番、富山 豪。通告に従いまして、順次質問させていただきます。

まずもちまして、先崎市長、市長就任、まことにおめでとうございます。私が申すのは大変恐縮ではありますが、ますますのご活躍ご期待申し上げます。

それでは、今定例会最後の質問者となります。気を引き締めて質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめに、過去に行いました質問を振り返りたいと思います。平成28年第2回定例会において、防災無線のデジタル化について質問させていただきました。私が議員となりましてのはじめての一般質問で、当時危機管理監でありました市民生活部長に質問させていただきました。大変緊張したのを今でもはっきりと覚えております。その質問の中で、災害発生時にいち早く市民の皆様へ正確な情報をお伝えするためのツールといたしまして、デジタル防災無線の検討、導入する考えはあるのかを尋ねさせていただきました。その際いただきました答弁は、平成34年度までに対応を考えたい、デジタル化の対応についてはさまざまな手法があるので、経済的観点や今後の技術発展を踏まえ情報を精査したいとのことでした。

その後といたしますか、そんな中といたしますか、総務省より無線設備の規格変更の通達がい手伝いまして、平成30年度から32年度の3年間でデジタル化に移行なされる話を伺いました。

そこで、現在の進捗状況並びに3年間のタイムスケジュールを今定例会で定年退職なされます市民生活部長、職務において最後の答弁になるかと思っております。いつもわかりやすい答弁をいただいておりますところですが、最後を飾る上でも丁寧な答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

富山議員の防災行政無線の進捗状況とタイムスケジュールについてでございますが、防災行政無線のデジタル化につきましては、公募型のプロポーザルにて決定しました業者と平成30年9月に契約をいたしてございます。契約後、総務省関東通信局へデジタル化に必要な指定周波数等の申請を行いまして、本年1月中旬に内示をいただいたところでございます。今月から市役所及び消防本部に設置する機器の搬入及び入れかえ作業を予定してございます。また、本米崎地区と瓜連地区の一部の屋外子局のスピーカー取りかえや移設作業を行うとともに、無償貸与してございます戸別受信機の交換のために業者が各世帯を順次お伺いをいたしまして平成32年度末には市内全域のデジタル化が完了するスケジュールとなっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 本年度3月より市役所及び消防署の入れかえ作業が開始予定で、その後順次移設との答弁。かなり前倒しのスピーディーな対応に大変うれしく思います。近年での災害事情を見ますと、情報伝達が遅れたことが原因となり被害が拡大してしまったという災害事例を、皆様方も報道等でよく存じておられるかと思っております。そこで、いつ、どこで起こるかわからない地震災害や台風、集中豪雨などによる風水害、土砂災害に備え、市民の皆様への確実かつ迅速な情報伝達が大切であり、避難等が遅れることなくスムーズにできる情

報手段の確保が重要であると考えます。

そこで、現在のアナログ防災無線からデジタル防災無線に移行することでの効果及びどのような機能向上が図られるのかを伺います。

○議長（君嶋寿男君） 市民生活部長。

○市民生活部長（小橋洋司君） お答え申し上げます。

現在運用してございますアナログ防災行政無線につきましては、市民から「放送内容が聞き取れない」、「何が放送されているかわからない」などの問い合わせが多く寄せられてございます。原因といたしましては、アナログ波は天候や周辺環境の影響を受けやすく音質が悪くなって聞きづらいことや、屋外スピーカーからの放送が反響し何が放送されているのかわからなくなってしまうことが考えられてございます。デジタル化に移行することによりまして、音声データ変換され放送されますので、現在より音質が格段に上がり鮮明になると考えてございます。また、屋外スピーカーでございますが、音質がクリアで反響しづらい高性能スピーカーに変更し、放送音質の向上を図ってまいります。さらに、戸別受信機については録音機能を搭載し、聞き逃した放送を確認できるだけでなくふだん使いも考えたラジオも聞けるものに交換をしてまいります。

もう一つとしまして、アナログをデジタルに変更することでさまざまな情報手段の連携が可能となっております。このようなことを活用しまして、万が一の災害に備え、速やかな情報伝達がなされ市民が安心・安全に暮らせるように努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ありがとうございます。

平成28年度質問させていただきましたときも、今回の市民の皆様との問い合わせと同じくスピーカーの反響が大きく聞き取りにくいとの話をさせていただきました。その際いただきましたお答えは、スピーカーから外側に音声が出た状態での反響なのでデジタル防災無線に変わるとスピーカーの反響がおさまるとは考えにくいとのことでした。ですが今回、屋外スピーカーは音質がクリアで反響しづらい高性能スピーカーに変更し、放送音質の向上を図るとの答弁をいただきました。市民の皆様にはわかりやすい、聞き取りやすい放送は、大変に重要な部分でございます。たくさん調査研究を行っていただいた結果だと思ひ、うれしく思います。さらに、戸別受信機においては、録音機能、ラジオ機能をつけていただきふだん使いがいいものに変更されるとのことで、大変すばらしいことだと思ひます。交換時に際しましては、お願いですが、使い方がわからないから使わない、そんなことがないように丁寧な説明のほどご指導よろしくお願ひいたします。

行政からのお知らせや連絡はもちろんのことですが、災害が発生した場合、災害の規模、災害の位置や状況、避難の準備、勧告等の正確な情報をいち早く市民の皆様へ伝える役目を担っております防災無線。デジタル化により双方向通信や複数回線の使用、データ通信の使

用であったり大きな効果が考えられます。それらをフルに活用なされまして、さらなる地域のニーズに合った防災システムの構築に力を注がれますようお願い申し上げまして、この質問を閉じさせていただきます。

続きましての質問は、買い物弱者対策とさせていただきます。

皆様方もニュースや報道等でご存じかと思えます。経済産業省によれば、流通機能や交通網の弱体化とともに食料品などの日常の買い物が困難な状況に置かれている人々のことを買い物弱者と定義しております。また、その数を全国700万人程度と推計しています。

また、農林水産省では、買い物弱者と同義の食料品アクセス困難人口として直線距離で500メートル以上かつ65歳以上で自動車を利用できない人と定義しております。こちらの推計は、経済産業省より厳しい値の824万人以上としております。総じて国民の5%から8%の方々がこれに当たるとされております。原因といたしましては、先ほど言いました流通機能や交通網の弱体化、地元既存店の廃業、商店街の衰退、少子高齢化などさまざま上げられます。

本市においても例外ではないと考えます。平成28年度に行われました市民アンケートでは、買い物などの利便性について約半数の方々が十分である、どちらかという十分であると回答しておられますが、どちらともいえないという回答の解釈により捉え方は微妙に変わりますが、多くの方々が買い物などの利便性が不十分であると感じておられると思われまます。このような意見について、本市といたしましてどのように捉えておられるのかお伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

今議員のほうからも一部市民アンケートについて触れていただきましたが、私のほうからもまず市民アンケートの調査結果ご紹介したいと思います。

私ども那珂市で行った市民アンケートの調査結果によりますと、日常生活における買い物が不便といった声、将来の移動手段に不安を感じるとの意見、こういったものも多く寄せられているところでございます。我が那珂市においても今後高齢化社会が進む中、高齢者等の移動手段の確保、買い物支援施策といったものは市としても重要な課題であると認識しているところでございます。車を持たない、運転できない高齢者を中心としたいわゆる交通弱者・買い物弱者と言われる方々が今後ますます増加していく状況、こういった状況を踏まえまますと、買い物に活用可能な地域公共交通サービスの提供のみならず、自ら移動せずとも買い物をすることができる移動販売、宅配サービス、買い物代行等のサービスの提供など将来にわたって市民が安心して安全に生活することができる持続可能な支援策、こういったものの構築が必要であると考えてございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 重要な課題であると認識しておられるとの答弁には、一応安心いたし

ました。ですが、何らかの対策を講じる必要があると思われま

そこで、現在本市におきまして買い物などの利便性向上のために行っている対策はどのようなものがあるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えします。

現在、市では高齢者等をはじめ移動手段を持たない方々が買い物などで商業施設等に移動するための交通手段の確保という観点から、市内における地域公共交通としてコミュニティバスの「ひまわりバス」、デマンド交通である「ひまわりタクシー」を運行しているところでございます。また、運転免許を自主返納された高齢者等に対しまして交通事故の抑制及び「ひまわりバス」、「ひまわりタクシー」の利用促進を図ることを目的に、「運転免許自主返納支援実証事業」や障がい者や要介護者等を対象とした「タクシー利用券助成事業」などを実施しているところでございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ひまわりバスとひまわりタクシー、デマンド交通の利用促進で人を現地まで運び不便の解消に当たっておられますとのことで、いわば交通弱者からアプローチで現在対策なされておられるのかと感じました。大変によいことだと思います。

そこで、ひまわりバス、ひまわりタクシーの利用者数がどのようになっているのか、大変重要になってくると考えます。昨日、一昨日より萩谷議員、關議員、小泉議員からも質問ありましたが、私の場合質問時間に余裕がありますので、確認の意味を込めまして現在の利用状況を伺います。よろしく申し上げます。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） それでは、改めましてひまわりバス及びひまわりタクシーの利用状況について答弁させていただきます。

まず、ひまわりバスでございます。平成27年度からの3カ年、27、28、29年度についてお答えをさせていただきます。

まず、平成27年度、こちらのひまわりバスの利用者が延べで1万2,416人、1日平均に直しますと51.1人となっております。平成28年度につきましては延べ人数で1万401人、1日平均にしますと42.8人、平成29年度が延べ人数で9,396人、1日平均にしますと38.5人、このような状況でございます。

次に、ひまわりタクシー、デマンド交通の件ですが、こちらの利用者についても同じく平成27、28、29年度についてお答えいたします。

まず、平成27年度こちらが延べ人数で1万4,897人、1日平均にしますと61.3人でございます。平成28年度が延べ人数で1万3,932人、1日平均にしますと57.3人、平成29年度が延べ人数で1万3,473人、1日平均にしますと55.2人、以上のような状況となっております。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ひまわりバスは多少減少傾向にあるものの、ひまわりタクシーはほぼ横ばい状態で推移なされておりますが、1日平均に直すと50人から60人とたくさんの方々の交通手段となっていることがわかりました。

あともう一つこのデマンド交通でとても大切になるのが、どこに行くのかという目的地でございます。そこで、ひまわりバス、ひまわりタクシー、市内商業施設などに乗り入れを行っているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

市内商業施設へ、ひまわりバス、ひまわりタクシーがどういった形でアクセスできるのかというお尋ねでございます。

まず、ひまわりバスでございますが、現在2路線で運行しているところでございます。幹線道路を中心に約90カ所の停留所を設置しているところでございます。そちらの停留所付近にございます商業施設いくつかご紹介させていただきますと、まず349号線沿線等の菅谷地内でございますイオンですとか、カスミ那珂店、マルトやかわねやなどの店舗、また118号線沿線の芳野・瓜連地内にはヒロセヤあるいはカスミ瓜連店などが立地している状況でございます。

また、ひまわりタクシーでございますが、先ほど申し上げました各施設のほか、ひまわりバスの路線や停留所から離れた場所に立地する商業施設に加え、身近なコンビニエンスストア等も乗降場所として指定しているところでございます。さらに、今年の4月からは水戸市内にも乗り入れることとしていまして、その際の乗降場所として水戸京成百貨店、こちらが指定されております。

こういった場所を乗降場所として指定することによってまた買い物の足としてもより充実することを期待しているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 利用なされる市民の皆様が何を求めているのかを考え、努力なされているのは感じましたが、昨日の小泉議員からの質問にあったように費用対効果などを考えますとさまざまな課題も多い事業であるとも感じております。

このデマンド交通事業とあわせて考えなくてはならないのは、高齢者の免許返納の制度でございます。本市においても先ほど述べられましたひまわりタクシー、ひまわりバスなどのデマンド交通事業に力を注いでおられて頑張っていると理解いたします。ですが、なかなか返納される方がふえていないと伺っております。この理由には、返納後の買い物など日常生活に不安があることだと思われま。

そこで、本市の高齢者の免許の返納状況を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 企画部長。

○企画部長（今泉達夫君） お答えいたします。

運転免許の自主返納制度、こちらは加齢に伴う身体機能や判断能力の低下等により運転に不安を感じる高齢者が自主的に運転免許を返納する制度でございまして、平成10年の道路交通法改正に合わせて開始されたものでございます。

本市におきましても運転免許の自主返納者数は年々増加傾向となっております、那珂警察署管内の数字をご紹介申し上げますと、平成27年が66人、平成28年がちょうど100人、平成29年が111人、平成30年は181人の方が運転免許を自主的に返納しているというような状況となっております。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 微妙にふえているのは大変望ましいことですが、本市の高齢者人口から見ますとまだまだと言わざるを得ません。そこで、買い物弱者への対策、高齢者の免許返納、これらの課題を前に進めるためにはさまざまな角度から考えなければならないのかもしれないかもしれません。今現在本市で行っている対策は、先ほども申し上げましたとおり人買いができる場所まで運ぶというやり方です。これには料金、運行本数、荷物を持つての停留所までの移動や停留所から自宅までの移動、加齢に伴う体の問題などさまざまな課題が上げられます。

そこで、もう一方からのアプローチといたしまして、移動販売車の検討をしてみたいかがでしょうか。既に、県内において、つくば市、日立市、取手市、笠間市などの自治体が市の委託事業として移動スーパーを運行されております。また、民間企業が積極的に乗り出す形として常陸太田市、鉾田市、潮来市などで運行されているようです。お店が家の近くまで来てくれて、商品を実際に自分の目で確認し、触れて買うことができる。これが移動販売車の最大のメリットであります。本市においても導入補助などの検討をしてみたいかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

今後さらなる高齢社会を迎える中、高齢者や障がい者に対する買い物支援策は市としても大変重要な課題であるというふうに認識してございます。

今回議員からご提案のありました移動販売車の導入につきましては、「商工業振興計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におきまして「便利屋サービス事業（御用聞き事業）」ということですが、その実現を目指しましてこれまでも需要調査や他市町村の取り組み事例等を調査、研究してきてまいりました。その中で見えてきた課題、採算性であったり、民間事業者が参入していただけるかどうかなど、クリアすべき課題も多いものというふうに認識してございます。

しかしながら、議員ご提案のありました買い物弱者に対する利便性の向上を図るためには、選択肢が多いほうが当然いいわけですから、今後もファミリーサポートセンターなどの福祉

面のサービスやあるいは地域における共助などの手法も含めまして、継続的に調査、研究を行ってまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 大変重要な課題であると捉えておられるとのこと、現在多面的に調査研究なされているとのお答え、大変よいことだと思います。

この買い物弱者への対策を質問するに当たりまして、何人かの市民の皆様には話を聞かせていただきました。その中で高齢の方から聞いた話ですが、以前は1時間以上かけて自転車を押しながら菅谷にあるスーパーに買い物に来ていたが、最近家の近くにコンビニエンスストアができて非常に助かっていると。大抵のことはコンビニで済むのだけれど、肉や魚、野菜などが欲しいとき困ってしまうとおっしゃっておられました。

先ほどいただきました答弁の中に採算性とありましたが、以前移動販売車で市内で営業なされていた方に採算性について伺いました。その方は、ニーズは十分にあるからちゃんとPRができてきちんと固定のお客さんがつけば、ある程度の採算性は見込めると。だから行政の補助などがあれば参入するスーパーマーケットがあるのではないかとおっしゃっておられました。

これもまた一昨日笹島議員よりありましたが、2025年には団塊の世代と言われるたくさんの方々75歳以上の後期高齢者となられます。本市においても超高齢化社会と言われる課題は確実にやってまいります。当然のことながらたくさんの方々の買い物弱者が出ることは誰もが予想できます。そのとき慌てることなきよう、徹底した調査、研究をお願い申し上げまして、この項の質問を閉じさせていただきたいと思っております。

続いての質問は、有害鳥獣捕獲の現状と今後についてとさせていただきます。

この問題につきましては、今日の茨城新聞の紙面からではありますが、県議会で外塚県議が鳥獣被害対策として質問されています。それによりますと、野生鳥獣による2017年度の農作物の茨城県の被害額は約6億円。有害鳥獣として捕獲したイノシシは、昨年度比の1.4倍、約3,400頭になる見込みであり、2019年度茨城県は市町村と連携し狩猟者の確保や効率的な捕獲方法の確立を進めるとありました。過去にも先輩方がさまざまな角度から質問なされておりますが、農業を営まれる方々が安心して農業できますよう重要な課題と捉え、重複してしまう部分もありますが、質問させていただきます。

有害鳥獣とは、ハクビシン、カラス、タヌキ、イノシシなどいろいろありますが、本市の農作物の被害のほとんどの部分を占めているのはイノシシによる被害だと伺っております。

そこで、本市の現在のイノシシによる農作物の被害状況を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

本市におきます、イノシシによる農作物の被害状況でございますが、平成28年度は水稻及

びカンショの被害がございまして、被害額は約96万2,000円、面積では150アール。平成29年度は、水稻、カンショに加えましてスイカの被害がございまして、被害額は約94万4,000円、面積的には314アールとなっております。本年度につきましては、年度明けの集計となりますので、正確な数値はお答えできませんが、面積的には180アール程度になると推計してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 被害額は100万円弱とのことで、額面で取りますよりもせつかく丹精込めて作った作物がだめになってしまうと生産意欲にもかかわります。大きな問題であると思われま。本年度は面積で180アールとのことですが、1アールが100平方メートルですので1万8,000平方メートル、結構大きな被害面積になると思われま。これだけの面積に被害が出ているということは、推測ではありますが、たくさんのイノシシが生息していることが考えられます。

そこで、最近のイノシシの捕獲実績を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） 過去3カ年の実績でお答えいたします。

イノシシの捕獲頭数につきましては、平成28年度が162頭、平成29年度が159頭、そして本年度30年度が172頭でございます。また、地区別に見ますと静地区が3カ年で120頭、次いで田崎地区が100頭、下江戸地区が70頭のイノシシを捕獲してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） かなりの捕獲数があるものの、年々少しずつふえてきている現状を考えますと、一度にたくさんお産する繁殖力の強さと成獣になりますまで約1年半というイノシシが持つ生体能力も手伝っているのかと思われま。本市といたしましてもイノシシに対して被害を食いとめるために何らかの対策が必要になると思われま。

そこで、現在行っている対策にはどんなものがあるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

現在行っている市の対策ということでございますが、3つほど対策を行ってございます。

まず1つ目でございますが、農地にイノシシを近づけさせないための対策でございます。イノシシに対して住民の活動範囲がわかるよう、田畑や里山といった地域環境を保全していただくことが重要でと考えております。その対策として、多面的機能支払交付金を活用いたしまして保全活動を行っていただいているところでございます。

2つ目は、農地に侵入させないための対策でございます。市では、ほ場の周囲に電気柵などを設置した農家の方に対しまして一定額の補助を行っております。電気柵を例にしますと、

購入費用の2分の1以内、1万円を上限として2セットまで補助してございます。

最後になりますが、やはりイノシシ自体の個体数を減らすことも有効な対策であると考えてございます。捕獲につきましては、捕獲隊を組織して委託により実施してございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 環境保全と農地への侵入を防ぐための補助、捕獲の3つの対策を行っておられるとのことですが、その中でなおも有効な対策は何か伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） 最も効果的というご質問でございますが、なかなか難しい質問でございますが、市といたしましては先ほど申し上げました3つの対策これを組み合わせて実施していくことが今後も有効になるのではないかというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 確かにそのとおりかもしれません。被害を防止するためには、さまざまな視点から策を講じることが有効であること、理解いたします。本市では、先ほどの答弁にありました3つの対策を講じて被害防止を図っているところではございますが、本市の山林の一部はご存じのとおり常陸大宮市、常陸太田市と隣接しております。

そこで、自治体間の相互連携が重要だと思われませんが、現在連携などの協議行っておられるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

隣接する常陸大宮市、それから常陸太田市をはじめ周辺市町村とは、県の協議会におきまして農作物の被害状況、あるいは被害防止対策についてさまざまな情報交換を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 協議会での意見交換をして連携し、対策を講じておられるということなので安心いたしました。当然のことですが、山林においても他市との境界に壁やフェンスなどはございません。本市単独で策を講じるよりも、より有効性のある広域連携が大事になってくるのではと思ひ、この質問をさせていただきました。

先ほど来出ております、3つの対策を組み合わせるということが有効であるとありましたが、そのどれもが大切だと思うところではあります。先ほどの答弁の3つ目にありましたイノシシ自体の個体数の削減があれば、ほかの対策も容易になると思われます。

そこで、個体数削減のため、捕獲対策を行っているのはどなたになるのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答え申し上げます。

イノシシの捕獲につきましては、那珂市有害鳥獣捕獲隊に委託をいたしまして実施をしているところでございます。

なお、構成員につきましては茨城県猟友会那珂支部会員の方となっております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 那珂市有害鳥獣捕獲隊に委託をして、茨城県猟友会那珂支部の会員の方が構成員となっておりますとの答えですが、本市のみに限ったことではないですが、猟友会の会員数の減少、高齢化が進んできていると聞いておりますが、本市の状況を伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答え申し上げます。

猟友会からの報告によりますと、現在会員数が54人、平均年齢は67.6歳とのことございます。

なお、5年前が66人、65.5歳ということで高齢化しているという状況でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） やはり本市においても会員数の減少、高齢化の波がきているように感じます。他市の取り組みではございますが、会員数の減少に歯どめをかけようとわな免許取得に補助を試みる自治体も出てきているようです。

本市としても考えてみてはどうか、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） 議員ご提案の補助につきましては、捕獲を担う人材の確保という観点からは有効な手法の一つであるというふうに考えてございます。ただ、現時点におきましては補助の実施につきましては考えておりません。大変申しわけございません。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 補助は現在考えてないとの答弁、まことに残念ではありますが、人材確保に対しましては有効であるとの認識があるようなので、他市の動向などを見ながら研究していただきたいと思っております。また、人材確保の上で大切なことは、やりやすい環境の整備だと考えます。活動報告や捕獲後の手続が大変細かく面倒だと伺っておりますが、捕獲隊の皆さんとよく話し合って簡略化はできないのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

捕獲隊の皆さんには、作業日誌や捕獲したイノシシの個体表などさまざまな書類を現在お願いをしているところでございます。有害鳥獣の捕獲事業が市からの委託事業であること、また国の交付金も活用していることから省けない書類もございます。捕獲隊の皆様には、今後も丁寧な説明をするとともに作成しやすいような書類に工夫できないか、捕獲隊と今後も

協議を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ぜひともよく協議なされて創意工夫のほどよろしく願いいたします。

ちょっと本筋の質問からずれますが、せっかくの機会なので質問させていただきます。

他市町村の取り組みで、イノシシなどの肉をジビエとして販売提供する話を報道等で目にする機会があります。本市もジビエ料理としての考えをしてみてもどうか、伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

他県等ではそういった活用もあるようですが、本市におきましては放射性物質の問題もございまして現時点では難しいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 大変残念ではありますが、放射性物質の問題があるということなのでこれ以上のお願いはいたしません。

それともう一つ、頻繁に出没する地域や道路に人的被害、交通事故防止の観点から注意喚起などの看板が必要かと思いますが、いかがでしょうか。伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

有害鳥獣の捕獲期間につきましては、注意喚起のため看板を設置したり、防災無線や広報を通じまして事前に周知を行っているところでございます。議員ご指摘の道路への看板の設置につきましては、農政課へ一度ご相談いただければと思っております。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） 農政課で相談を受けていただけるということなので、お話があった際にはどうぞよろしく願いいたします。

本筋に戻りまして、最後の質問です。

捕獲隊の皆さんにやりがいをもって捕獲業務に当たっていただくためにはある程度の手当は必要だと感じますが、本市の手当は近隣の市町村に比べると少ないと伺っております。手当の現状はどうなっているのか伺います。

○議長（君嶋寿男君） 産業部長。

○産業部長（篠原英二君） お答えいたします。

本市におきましては、捕獲頭数1頭につき8,000円、国の補助金を交付しております。近隣市町村と比べると低いというのは、市町村で上乘せ助成をしているというふうに聞いてございますので、当然那珂市はしておりませんので、委託料は低い方だというふうに思ってお

ります。平成30年度の予算ベースで申し上げますと、捕獲の活動に対する委託料につきましては年間120万円、内訳といたしましては活動に対する日当、これはわなの設置、それから見回りに対する費用といたしまして97万円、それから捕獲した際に写真であったり立ち合いの費用そういったもろもろの消耗品として23万円ほどを計上してございます。冒頭答弁いたしました、今年度の捕獲頭数は172頭、これは過去最高の数値となっております。また、近年イノシシの生息範囲が拡大していることもあり、捕獲エリアを拡大できないか、また捕獲期間も通年にできないかなど捕獲隊と現在協議を行っているところでございます。当然活動日数がふえれば委託料の増額も考えていく必要があるのではないかとこのように考えてございます。

以上でございます。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ありがとうございます。

近年言われております、少子高齢化は異常なまでのスピードでやってきております。捕獲隊も例外ではありません。新たな担い手不足はこのまま何も対策を講じなければ、確実にやってきます。将来高齢化により捕獲隊がいなくなり、多額の公費を使い民間企業に委託しなければならないときがくるかもしれません。そうならないためにも、早急な人材確保の対策が必要と感じまして今回の質問となりました。執行部の皆様におかれましては、ぜひとも建設的な協議のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど寺門議員の質問の中の答弁でありましたが、昨年度第3回定例会にお願いいたしましたラインでの情報発信、昨年度末より早々と取り入れていただきましたこと、まことに感謝申し上げます。さらなる普及拡大に向けて周知のほどをよろしくお願いいたします。

最後に、市長、通告ありませんが、市長のご自宅もイノシシ被害、イノシシ目撃情報が多い静地区にございます。イノシシに対しまして所見などございましたらどうぞよろしくお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 市長。

○市長（先崎 光君） ご質問ありがとうございました。

イノシシにつきましては、いろんな思いがあります。私の近所でも高齢の農家の皆さんが一生懸命山合いの畑や田んぼに作物をつくります。収穫目の前になって一夜にして荒らされてしまう、本当に大変です。生産意欲も落ちますし、もうこの畑はつくらないかとそれほどショックを受ける、そういったことを目の当たりにしていますので、非常に関係している方々にとっては大変な課題というふうに思っています。かつて県議会時代には、やはりそういう地域が県内にもたくさんありますので、例えば先ほど議員がおっしゃったジビエなんかの活用についてもどうか、県会議員なんかで島根県あるいは和歌山県などにそういう活用の事例を求めて勉強会に行った、いろんなこともやってきました。しかし、本県の場合にはまた放射性物質の関係がありましてなかなか具体化は難しいだろうということでもあります。

ども、いずれにしましてもいろんな策を講じてやはりこの問題に対しては対処をしていかなければいけない、そのように考えておりますので、議員の提案等も参考にさせていただきまして、これからも前向きに取り組んでいきたい、そのように考えております。

○議長（君嶋寿男君） 富山議員。

○6番（富山 豪君） ありがとうございます。通告にないところを申しわけありませんでした。

最後に、3月末を持ちまして定年退職されます小橋市民生活部長をはじめといたします職員の皆様、長年にわたり大変お疲れさまでした。皆様方の那珂市発展のためのご尽力に心より感謝申し上げまして私の質問を閉じさせていただきます。まことにありがとうございます。

○議長（君嶋寿男君） 以上で通告13番、富山 豪議員の質問を終わります。

◎議案等の質疑

○議長（君嶋寿男君） 日程第2、議案等の質疑を行います。

報告第1号から議案第29号までの以上30件を一括議題といたします。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

◎議案等の委員会付託

○議長（君嶋寿男君） 日程第3、議案等の委員会付託を行います。

なお、報告第1号につきましては、地方自治法第180条第2項の規定による報告事項となっておりますので、報告をもって終了といたします。

続きまして、議案第1号から議案第29号までの以上29件につきましては、お手元に配付しました議案等委員会付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

つきましては、所管の常任委員会において審査の上、今期定例会会期中に報告されますよう望みます。

◎請願・陳情の委員会付託

○議長（君嶋寿男君） 日程第4、請願・陳情の委員会付託を行います。

今期定例会におきまして受理しました請願・陳情は、お手元に配付いたしました請願・陳情文書表のとおり、会議規則第141条第1項の規定により、所管の常任委員会に付託しましたので、報告いたします。

つきましては、当該常任委員会におきまして審査の上、今期定例会会期中に報告されまよう望みます。

連絡事項があります。今期定例会において開催予定の各常任委員会の開催通知文は、各議員の文書区分箱に配付しておきますので、ご確認をお願いいたします。

◎散会の宣告

○議長（君嶋寿男君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 零時04分

平成31年第1回定例会

那珂市議会会議録

第5号（3月20日）

平成31年第1回那珂市議会定例会

議事日程(第5号)

平成31年3月20日(水曜日)

- 日程第 1 議案第 1 号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 2 号 那珂市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 3 号 那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 4 号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 5 号 那珂市指定地域密着型サービスの事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第 6 号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第 7 号 那珂市特別会計設置条例の一部を改正する条例
- 議案第 8 号 那珂市地区体育館の設置及び管理に関する条例
- 議案第 9 号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第7号)
- 議案第10号 平成30年度那珂市一般会計補正予算(第8号)
- 議案第11号 平成30年度那珂市国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第4号)
- 議案第12号 平成30年度那珂市下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第13号 平成30年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第14号 平成30年度那珂市介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第3号)
- 議案第15号 平成30年度那珂市上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第16号 平成30年度那珂市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- 議案第17号 平成31年度那珂市一般会計予算
- 議案第18号 平成31年度那珂市国民健康保険特別会計(事業勘定)予算
- 議案第19号 平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算
- 議案第20号 平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算
- 議案第21号 平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算
- 議案第22号 平成31年度那珂市介護保険特別会計(保険事業勘定)予算

- 議案第 2 3 号 平成 3 1 年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算
 議案第 2 4 号 平成 3 1 年度那珂市水道事業会計予算
 議案第 2 5 号 公の施設の広域利用に関する協議について
 議案第 2 6 号 損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について
 議案第 2 7 号 土地売買契約の一部を変更することについて
 議案第 2 8 号 市道路線の認定について
 議案第 2 9 号 市道路線の変更について
 請願第 1 号 「最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意見書」採択の請願書
 請願第 2 号 後期高齢者の医療費自己負担 2 割への引き上げに反対する請願
 日程第 2 報告第 2 号 専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）
 日程第 3 議案第 3 0 号 平成 3 0 年度那珂市一般会計補正予算（第 9 号）
 日程第 4 議案第 3 1 号 那珂市農業委員会委員の任命について
 日程第 5 議案第 3 2 号 那珂市固定資産評価審査委員会委員の選任について
 日程第 6 議案第 3 3 号 那珂市政治倫理審査会委員の委嘱について
 日程第 7 議案第 3 4 号 那珂市教育委員会委員の任命について
 日程第 8 委員会の閉会中の継続調査申出について

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

出席議員（18名）

1 番	小 泉 周 司 君	2 番	小 池 正 夫 君
3 番	石 川 義 光 君	4 番	君 嶋 寿 男 君
5 番	關 守 君	6 番	富 山 豪 君
7 番	花 島 進 君	8 番	筒 井 かよ子 君
9 番	寺 門 厚 君	1 0 番	綿 引 孝 光 君
1 1 番	木 野 広 宣 君	1 2 番	古 川 洋 一 君
1 3 番	萩 谷 俊 行 君	1 4 番	勝 村 晃 夫 君
1 5 番	中 崎 政 長 君	1 6 番	笹 島 猛 君
1 7 番	助 川 則 夫 君	1 8 番	福 田 耕 四 郎 君

欠席議員（なし）

地方自治法第 1 2 1 条第 1 項の規定に基づき説明のため出席した者

市 長	先 崎 光 君	副 市 長	宮 本 俊 美 君
教 育 長	大 繩 久 雄 君	企 画 部 長	今 泉 達 夫 君
総 務 部 長	川 田 俊 昭 君	市 民 生 活 部 長	小 橋 洋 司 君
保 健 福 祉 部 長	加 藤 裕 一 君	産 業 部 長	篠 原 英 二 君
建 設 部 長	玉 川 秀 利 君	上 下 水 道 部 長	中 庭 康 史 君
教 育 部 長	高 橋 秀 貴 君	消 防 長	飛 田 裕 二 君
会 計 管 理 者	小 澤 祐 一 君	行 財 政 改 革 推 進 室 長	平 松 良 一 君
農 業 委 員 会 長 農 事 務 局 長	根 本 実 君	総 務 課 長	渡 邊 莊 一 君

議 会 事 務 局 職 員

事 務 局 長	寺 山 修 一 君	書 記	小 田 部 信 人 君
書 記	小 泉 隼 君		

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（君嶋寿男君） おはようございます。ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
-

◎諸般の報告

- 議長（君嶋寿男君） 議案等説明のため、地方自治法第121条第1項の規定に基づき、議場に出席を求めたものの職氏名は、今期定例会の冒頭に配付した出席者名簿のとおりであります。職務のため、議会事務局より、事務局職員が出席しております。
- 本日の議事日程については、別紙のとおりお手元に配付しております。
- 傍聴者の皆様をお願いいたします。会議中は静粛をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードにしてくださいようお願いいたします。
-

◎議案第1号～議案第29号、請願第1号及び請願第2号の各委員会審査報告、質疑、討論、採決

- 議長（君嶋寿男君） 日程第1、議案第1号から議案第29号までの以上29件及び請願を一括して議題といたします。

各常任委員会の審査の経過並びに結果について、各常任委員長の報告を求めます。

初めに、総務生活常任委員会萩谷俊行委員長、登壇願います。

〔総務生活常任委員会委員長 萩谷俊行君 登壇〕

- 総務生活常任委員会委員長（萩谷俊行君） 皆さん、おはようございます。

それでは、総務生活常任委員会よりご報告を申し上げます。本委員会の付託事件については、会議規則第110条の規定により、報告いたします。

まず、付託事件でございます。

議案第1号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の外10件です。

次に結果でございます。

付託された議案については、全て全会一致で原案のとおり、可決すべきものとなりました。請願第1号は、全会一致で原案のとおり、採択すべきものとなりました。

理由でございます。

議案第1号は、本条例の別表に規定する幼稚園医及び幼稚園歯科医の報酬について、市立ひまわり幼稚園の開園により、定員数が変更になることに伴う限度額の改正のほか、文言の整理をするものです。また、保育所医及び保育所歯科医の報酬について、定員数に基づく限度額に修正するものです。

議案第2号は、等級別基準職務表中の文言について、運用実態に沿った規定となるよう文言の整理を行うものです。

議案第3号は、平成31年4月に施行される学校教育法の一部を改正する法律に伴い、那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正するものです。

議案第9号の当委員会の所管部分は、特に問題なく妥当なものです。

議案第10号は、売却した瓜連駅北側市有地の契約額の減額変更に伴う補正予算であり、特に問題なく妥当なものです。

議案第17号の当委員会の所管部分は、特に問題なく妥当なものです。

議案第20号は、特に問題なく妥当なものです。

議案第25号は、公の施設の広域利用に関する協定において、対象施設の追加及び削除に伴い、改めて協議し協定を締結するために、地方自治法の規定に基づき、議会の議決を求めるものです。

議案第26号は、損害賠償請求に関する和解及び損害賠償額を決定するため、地方自治法の規定に基づき議会の議決を求めるものです。

議案第27号は、売却した瓜連駅北側市有地において、隠れた瑕疵（地中埋設物）があったことから、買い主からの求償に応じ売買価格を減額する必要があるため、地方自治法及び議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、議会の議決を求めるものです。

請願第1号は、全国一律最低賃金制度を確立するなど、地域間格差を縮小させるための施策を進めること。ワーキングプアをなくすため、最低賃金を当面は時給1,000円以上に引き上げること。将来目標として時給1,500円以上に引き上げること。賃金引き上げに伴う中小企業の負担を軽減するための支援策を拡充すること。以上3点について、政府や関係機関に意見書の提出を求めるもので、委員からは、茨城県の最低賃金が関東圏から見ると低いのではないかなどの意見があり、全会一致で採択すべきものとなりました。

以上、ご報告申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（君嶋寿男君） 続きまして、産業建設常任委員会木野広宣委員長、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長 木野広宣君 登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（木野広宣君） 産業建設常任委員会よりご報告を申し上げます。

本委員会の付託事件については、会議規則第110条の規定により、ご報告いたします。

まず、付託事件でございます。

執行部提出案件は、議案第6号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例外11件でございます。

次に結果でございます。

全て全会一致で原案のとおり、可決すべきものとなりました。

理由でございます。

議案第6号は、技術士法施行規則の改正に伴い、条例の該当箇所を改正するものです。

議案第7号は、水戸・勝田都市計画事業上菅谷駅前地区土地区画整理事業の完了に伴い、上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計を閉鎖することから条例の一部を改正するものです。

議案第9号、議案第17号の当委員会所管の部分は、特に問題なく妥当なものです。

議案第12号、第13号、第15号、第19号、第21号、第24号は、特に問題なく妥当なものです。

議案第28号は、市道路線12件を認定するものです。

議案第29号は、市道路線1件を変更するものです。

以上、ご報告いたします。よろしくお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 続きまして、教育厚生常任委員会筒井かよ子委員長、登壇願います。

〔教育厚生常任委員会委員長 筒井かよ子君 登壇〕

○教育厚生常任委員会委員長（筒井かよ子君） 教育厚生常任委員会よりご報告を申し上げます。本委員会の付託事件につきましては、会議規則第110条の規定により、報告いたします。まず、付託事件でございます。

議案第4号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例外11件でございます。

次に結果でございます。

付託された議案は、全て全会一致で原案のとおり、可決すべきものとなりました。

請願第2号は、全会一致で不採択とすべきものとなりました。

理由でございます。

議案第4号は、災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い、災害援護資金貸し付けについて、貸付利率、保証人の有無及び償還方法を市が定めることとなったため、市条例を改正し、被災者の状況に応じた災害援護資金の利用を可能とするものです。

議案第5号は、地域包括ケアシステム強化のための介護保険法の一部改正に伴い、市条例において、共生型地域密着型サービスに関する基準を定める改正を行うものです。

議案第8号は、瓜連体育館に加え、平成31年4月から新たに旧戸多小学校体育館を有料体育施設として管理するため、これまでの瓜連体育館の設置及び管理に関する条例を廃止し、那珂地区体育館の設置及び管理に関する条例を制定するものです。

議案第9号及び第17号の当委員会所管の部分については、特に問題なく妥当なものです。

議案第11号、第14号、第16号、第18号、第22号、第23号は、特に問題なく妥当なものです。

請願第2号は、国で世代間の負担の公平性を図るとして、後期高齢者医療の窓口自己負担を1割から2割にする負担増が審議されているが、高齢者の生活苦が限界を超えているとして、自己負担引き上げに反対するものです。

請願の趣旨は理解できるが、今後団塊の世代が順次後期高齢者医療の対象となり、保険給付がふえていくことに対する財源の手当てが明確でなく、制度が成り立たなくなることが予想されるため、ある程度の自己負担はやむを得ないという意見があり、全会一致で不採択とすべきものとなりました。

以上、報告いたします。よろしくお願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 以上で、各委員長からの報告は終わりました。

これより委員長報告に対する質疑を行います。

なお、委員長報告に対する質疑の回数は1人3回までとします。

質疑ございませんか。

古川議員。

○12番（古川洋一君） 総務生活常任委員長に質問させていただきます。

請願第1号 「最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意見書」について、2点お伺いいたします。

1点目は、意見書の2番のところに政治決断で最低賃金を時給1,500円以上にとごさいますが、1,500円を求める根拠については請願者から明確なご説明がございましたでしょうか。

2点目は、意見書の3番に中小企業への支援策を拡充するとごさいますが、それについてはどうやって支援するのか。つまり財源ということになりますが、具体的な方法について請願者から明確なご説明はございましたでしょうか。

2点お伺いします。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷委員長。

○総務生活常任委員会委員長（萩谷俊行君） どちらもございませんでした。

ただ、政府として最低賃金を引き上げようということは言われています。そういう意味で、花島議員が請願者の代弁としていろいろとお話しされたんですけども、そういう中ではやっぱりそういう意味のお話はありました。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 古川議員。

○12番（古川洋一君） わかりました。

では、もう一点なんです、委員会では全会一致で本請願を採択すべきという結果になったということでごさいますが、賛成理由として、先ほどの委員長報告の中にごさいましたとおり、茨城県の最低賃金に関東圏から見ると低いのではないかなというようなご意見があった

ということなのですが、ほかに賛成理由として何かご意見ございましたでしょうか。お願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） 萩谷委員長。

○総務生活常任委員会委員長（萩谷俊行君） 今ご指摘のとおり、最低賃金が関東圏で下から2番目ということが一番のあれでして、そのほかはございませんでした。

○議長（君嶋寿男君） よろしいですか。

外にありませんか。

笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 教育厚生常任委員長にご質問いたします。

請願の第2号です。後期高齢者の医療保険自己負担2割に引き上げに反対する請願です。

これ、常任委員長、ここにちょっと書いてあったんですけども、財源の手当てが明確でなく制度が成り立たなくなることが予想されるため、ある程度の自己負担はやむを得ないという意見があったので全会一致ということで、これは何を根拠にして委員の人たちから全会一致ということが、また不思議な話なんですけれども。異論がなかったんですか、それは。

○議長（君嶋寿男君） 筒井委員長。

○教育厚生常任委員会委員長（筒井かよ子君） 委員のほうからは特に異論という形ではありませんでした。花島委員が説明にいらしたときは……

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員、着席をお願いします。

○教育厚生常任委員会委員長（筒井かよ子君） 今後、後期高齢者の人口が急激に変動する可能性があることを考えますと、今の状況で1割負担というのでは保険制度が成り立たなくなるだろうという意見のもとに、このような結果になりまして、特別、委員の間からは違う意見という形では出ておりませんでした。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員。

○16番（笹島 猛君） 私も一般質問で2025年問題というのは質問したんですけども、一番やはり団塊の世代の人たちがピークに達するときだと。これ、結構この人たちというのは、病院をよく使う超高齢化社会なんですよね。その人たちにとっての年金生活のみになってきていて、現役並みの所得の方というのは3割、多分支払っていると思うんですよね。その他、一般の人は1割ということで明確にされているものですから、そういうわけで現役並みの所得の方もいらっしゃるといって維持できるんじゃないかという面と、公費負担、今は5割ですよね。それから国保から4割、被保険者が1割というように、これは国庫負担を1割でも負担すべきだと。要するに国・県のほうで負担すべきじゃないかという方向にという話はなかったんですか。

○議長（君嶋寿男君） 筒井委員長。

○教育厚生常任委員会委員長（筒井かよ子君） そのような意見は、特に出ませんでした。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 笹島議員、よろしいですか。

外に質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） なければ質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

なお、発言の前に反対、賛成の立場を明確にしてから討論をお願いいたします。

討論の順序については、会議規則第53条の規定により議長より指名します。

討論の通告がありましたので、古川洋一議員に発言を許します。古川洋一議員、自席でお願いいたします。

古川議員。

○12番（古川洋一君） 議席番号12番、古川洋一でございます。

請願第1号 「最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意見書」の採択に反対の立場から討論いたします。

本請願の趣旨である労働者の生活向上・安定という点については十分に理解ができます。また、国の日本一億総活躍プランにおいて、名目GDPの成長に配慮しつつ最低賃金は年率3%程度を目途として引き上げ、全国加重平均時給1,000円を目指すことが示されておりますから、早期に時給1,000円に引き上げてという意見だけであれば私も納得ができます。

しかし、政府主導で1,500円以上とすることまで求めるのはいかがなものかと思えますし、最低賃金1,500円を求める明確な根拠もなさそうであります。

委員長報告には、1,500円は将来目標といった記載もございますが、意見書にはそのような記載はございませんので、実際には1,500円への引き上げを今、求めることとなります。あくまでも、将来目標なんだということであれば、意見書にも将来目標としてという文言が欲しいですし、その記載のない意見書を今の要求として国に提出する必要性が感じられません。

それから、時給の引き上げが中小、零細企業の経営を圧迫するのは間違いなく、そのために企業支援策の拡充が必要だとのことのご主張ですが、その財源については明確な当てもないと思われまます。意見書の趣旨説明の中には、賃金助成や税・社会保険料の減免などと書かれておりますが、賃金の助成にどれだけの経費がかかるのか、また税制や社会保険制度を変えてまでというのは現実的な策とは思いません。

最低賃金は、国の中央最低賃金審議会が毎年地域別の最低賃金の目安を作成し、各都道府県の地方最低賃金審議会において、労使などの意見を聴取したりするなど、地域の雇用や経済状況などを反映させ決定しております。

最低賃金を全国一律にすることで地域間格差が縮小し、地域経済の発展につながると言いますが、時給が上がっても同時に地方の物価も上がってしまうことも懸念されます。

賃金を上げてという要求は、労働者の立場からすれば大いに結構ですし、一方経営者に対しても、そのための支援も要求するからと言えば聞こえはいいんですが、そのための財源や具体的な方法を提示せず、理想論でものを言うのはいかがなものかと思えます。

例えば、保険料を下げしてほしい、医療費を安くしてほしいといった要求も誰しものがあると思いますが、限られた財源の中でそれを実現すれば、どこかにしわ寄せが来ますし、誰かがそれを負担することにつながります。

以上のことから、そのような内容の意見書を一個人として提出するならいざ知らず、那珂市議会として国に提出することには賛成いたしかねます。意見書を出すのは、ただだからといった安易な考えはないと思いますが、議会として提出する意見書の重みを私は感じております。したがって、私の中での結論は、趣旨採択ならよろしいのですが、この意見書の提出には賛成ができないということでもあります。

那珂市は採択なのとびっくりして電話をしてきた方もおりましたが、本請願の採決は、県議会、ほかの市議会からも注目されております。議員各位の慎重なご判断をお願いいたします。請願第1号の反対討論といたします。

○議長（君嶋寿男君） 続きまして、花島 進議員に発言を許します。

花島議員については、請願1号、2号、2つ一括で発言を許します。自席でお願いいたします。

○7番（花島 進君） 2つの請願の紹介議員になりました花島です。

趣旨を踏まえて説明したいと思います。

まず、最低賃金に関するお話です。

古川議員の反対討論にありましたように1,500円に要求し、当面時給1,000円にという要求については、確かに私自身も将来という文言がなかったのは若干まずかったなと思いつつ、請願者の意図をそういう意味だと、将来ということで認識しまして、そのまま紹介議員となりました。

さて、基本的な考え方について述べたいと思います。

まず、時給1,000円とはどのくらいの報酬かということについて計算してみたいと思います。一月の労働日数を20日間、1日の労働時間を8時間とすると160時間の月の労働時間になります。時給1,000円ということは、それで16万円です。これは給与であって、要するに所得ではないですね。必要経費とか税金などを考えない数字で16万円です。フルタイムで1カ月働けば、せめてそのくらいの収入が得られるようにしたいという基準だとお考えください。

さて、茨城の最低賃金は今は822円です。東京は1,000円には行っていませんが985円。茨城の平均に比べて全国の加重平均は874円と、茨城よりも高いものになっています。この差は地域間の単なる差で、それぞれの物価とか何とかという反映もあるでしょうが、それだけではなく、労働に対してどのくらい対価を払うべしと考える基準の違いでもあると考えてい

ます。

時給1,000円というのは、せめてそのくらいの価値を1時間の労働にみなしてほしいという問題です。当然、古川議員のおっしゃるようなこういう賃上げにつながりますから、中小企業の給与、雇用負担はふえると思います。それについては、国の責任でいろいろな諸政策で充当すべきだと思っています。

例えば、介護関係では介護の仕事はきついのに収入は少ないということで、いろんな制度で補充するということになっています。ただ、そういうのは一時の話で、これは私個人の考えですけれども、基本的には先ほど言いましたように、労働の対価というものは、しかるべきつけるものであるという考えに立って、全ての経済が回るというふうにしていくべきかなと考えています。

財源の話がございました。財源は、あるといえあればあるないといえなければないと言えると思います。そもそも、先ほどの対価という点で考えましたら、我が国は、例えば証券取引等の収入に対する税は各国に比べてかなり優遇されています。そういうところの課税を考え直せば、直ちにこのくらいの額は得られます。あるいは、大企業への優遇税制等もそうです。ですから、単にここから、ここにありますがという話ではなくて、こういう施策をするという基本に立って行動すれば、財源はそれに沿ってつくっていく程度の額だと私は考えています。

次に、後期高齢者の保険制度への自己負担2割の引き上げに反対にする請願について意見を述べます。

まず、請願を支持するための基本的な考えです。これは私の考えですけれども、現在の保険制度は職域などで区分されて保険制度ができています。組合健保、協会けんぽ、共済組合、国民健康保険と職域によって区分されています。さらに、その上に年齢による区分で後期高齢者医療制度が設けられています。この各区分ごとに被保険者の収入が大きく異なるのに、そのような区分をして、基本的に区分ごとの会計である程度の収支を合わせようとしています。もちろん、完全に区分された会計ではありません。組合健保やその他から後期高齢者とか介護保険などにお金が流れているのは承知しています。ですが、その区分ごとにある程度の収支を合わせようとする考えは変わっていません。

その中で被保険者の実質的な負担が非常に大きくなるということが生じています。特に、後期高齢者に関しては年金暮らしの方々が多いです。収入が比較的少ないと言えます。けさ、厚生労働省のホームページを調べましたら、後期高齢者でも窓口負担3割の方がいます。現役並みの所得のある方についてはそういうことになってはいますが、わずか7%というふうな数字が出ていました。そのように収入が少ない方でも非常に負担が大きいということが言えます。

これは本来そういった区分ではなく、国が保険制度全体として維持すべきだと私は考えています。それは非常に大きな制度変更になりますので、当面はこの請願にありますように、せめて窓口負担を1割のまま維持してほしいということで、請願の趣旨だと私は解釈してい

ます。

それですが、まあ、そういうことです。一口に言えば所得が現役並みより少ない人の窓口負担が10%、それを維持してほしいということで私は賛成討論としたいと思います。

以上です。

○議長（君嶋寿男君） 以上で通告によります討論を終結いたします。

これより、議案第1号 那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例、議案第2号 那珂市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例、議案第3号 那珂市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例、議案第4号 那珂市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例、議案第5号 那珂市指定地域密着型サービスの事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例、議案第6号 那珂市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例、議案第7号 那珂市特別会計設置条例の一部を改正する条例、議案第8号 那珂市地区体育館の設置及び管理に関する条例、議案第9号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第7号）、議案第10号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第8号）、議案第11号 平成30年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第4号）、議案第12号 平成30年度那珂市下水道事業特別会計補正予算（第2号）、議案第13号 平成30年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計補正予算（第1号）、議案第14号 平成30年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算（第3号）、議案第15号 平成30年度那珂市上菅谷駅前地区土地区画整理事業特別会計補正予算（第2号）、議案第16号 平成30年度那珂市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）、議案第17号 平成31年度那珂市一般会計予算、議案第18号 平成31年度那珂市国民健康保険特別会計（事業勘定）予算、議案第19号 平成31年度那珂市下水道事業特別会計予算、議案第20号 平成31年度那珂市公園墓地事業特別会計予算、議案第21号 平成31年度那珂市農業集落排水整備事業特別会計予算、議案第22号 平成31年度那珂市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算、議案第23号 平成31年度那珂市後期高齢者医療特別会計予算、議案第24号 平成31年度那珂市水道事業会計予算、議案第25号 公の施設の広域利用に関する協議について、議案第26号 損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定について、議案第27号 土地売買契約の一部を変更することについて、議案第28号 市道路線の認定について、議案第29号 市道路線の変更について、以上29件を一括して採決いたします。

お諮りいたします。本案に対する委員長報告は可決すべきものであります。本案は委員長報告のとおり可決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。よって、議案第1号から議案第29号までの以上29件は、委員長報告のとおり、可決することに決定いたしました。

続きまして、請願第1号 「最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意

見書」採択の請願を採決いたします。

本件は、起立による採決を行います。

お諮りいたします。本件に対する委員長の報告は採択とすべきものであります。請願第1号は委員長報告のとおり採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（君嶋寿男君） 起立少数であります。よって、請願第1号は不採択とすることに決定をいたしました。

続きまして、請願第2号 後期高齢者の医療費自己負担2割への引き上げに反対する請願を採決いたします。

本件は、起立による採決を行います。

採決の前に、議員各位にあらかじめ申し上げます。本件に対する委員長の報告は不採択とすべきものであります。念のため申し上げます。これから行いますこの請願第2号の採決は、委員長報告に対するものではなく、請願第2号を採択にするのか不採択にするのかを問うものでございます。

お諮りいたします。この請願第2号を採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（君嶋寿男君） 起立少数であります。よって、請願第2号は、委員長報告のとおり、不採択とすることに決定いたしました。

◎報告第2号の上程、説明、質疑

○議長（君嶋寿男君） 日程第2、報告第2号 専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）を議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 議案書1ページをお開きください。報告第2号 専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）。

提案理由でございます。

平成30年11月8日に後台地内で発生した交差点を左折した際、前方から進行してきた自転車と接触した事故について、賠償額が決定し和解したので、地方自治法第180条第1項の規定により、議会において平成20年議決第3号により指定された事項について専決処分したので、同条第2項の規定に基づき議会に報告するものです。

よろしく申し上げます。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

なお、報告第2号につきましては、地方自治法第180条第2項の規定による報告事項となっておりますので、報告をもって終了といたします。

◎議案第30号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（君嶋寿男君） 日程第3、議案第30号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第9号）を議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 続きまして、平成30年度那珂市一般会計補正予算書をごらんください。議案第30号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第9号）。

提案理由でございます。

予算総額に歳入歳出それぞれ2,694万円を追加し、216億1,085万8,000円とするものであります。

歳出の内容として、民生費については国補正によるプレミアム付商品券事業を新設し、プレミアム付商品券発行にかかる経費を計上するものであります。

衛生費については、国補正による緊急風しん抗体検査等事業を新設し、緊急風しん抗体検査にかかる経費を計上するものであります。

また、歳入については歳出補正予算との関連において、国庫支出金を増額し繰入金を減額するものであります。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第30号につきましては、会議規則第37条第3項の規定により委員会の付託を省略したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第30号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

続いて、討論を行います。

討論の通告がありませんでしたので、討論を終結いたします。

これより議案第30号 平成30年度那珂市一般会計補正予算（第9号）を採決いたします。
お諮りいたします。本案は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第30号は、原案のとおり可決いたしました。

◎議案第31号の上程、説明、質疑、採決

○議長（君嶋寿男君） 日程第4、議案第31号 那珂市農業委員会委員の任命についてを議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 議案書の3ページをごらんいただきます。議案第31号 那珂市農業委員会委員の任命について、下記の者を那珂市農業委員会委員に任命したいから、農業委員会等に関する法律第8条第1項に規定により、議会の同意を求めるものであります。

氏名を申し上げます。順不同となります。

佐川 茂、山田義文、助川 操、鈴木久夫、竹林則男、福田和一、石崎甲一、峯島勝則、水野一男、根本 衛、助川良一、鈴木 洋、海野浩行、檜山眞弓、綿引桂太、池島義昭、會澤留美、小塚保男、飯田士朗。住所、生年月日は議案書のとおりでございます。

提案理由でございますが、那珂市農業委員会委員の任期が平成31年3月31日をもって任期満了となるため、認定農業者を含む19人を農業委員候補者として議会の同意を得て任命するものでございます。

よろしく願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第31号につきましては、会議規則第37条第3項の規定により委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第31号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

これより議案第31号についてを採決いたします。

お諮りいたします。本件はこれに同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第31号は、これに同意することに決定いたしました。

◎議案第32号の上程、説明、質疑、採決

○議長（君嶋寿男君） 日程第5、議案第32号 那珂市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 議案書の5ページをお開き願います。議案第32号 那珂市固定資産評価審査委員会委員の選任について、下記の者を那珂市固定資産評価審査委員会の委員に選任したいので、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意を求めるものです。

氏名、中村一三。住所、生年月日は議案書のとおりでございます。

提案理由でございますが、那珂市固定資産評価審査委員会の中村一三委員が、平成31年3月31日をもって任期満了となることに伴い、引き続き同委員を選任するに当たり議会の同意を求めるとでございます。

よろしく願います。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第32号につきましては、会議規則第37条第3項の規定により委員会の付託を省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第32号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

これより議案第32号について採決いたします。

お諮りいたします。本件はこれに同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第32号は、これに同意することに決定いたしました。

◎議案第33号の上程、説明、質疑、採決

○議長（君嶋寿男君） 日程第6、議案第33号 那珂市政治倫理審査会委員の委嘱についてを議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 議案書6ページをお開き願います。議案第33号 那珂市政治倫理審査会委員の委嘱について、下記の者を那珂市政治倫理審査会委員に委嘱したいので、那珂市政治倫理条例第7条第2項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

氏名を申し上げます。順不同となります。

小田部啓文、武井 登、綿引秀榮、鈴木一三、庄司元次郎、秋葉 泉。住所、生年月日は議案書のとおりでございます。

提案理由でございますが、那珂市政治倫理審査会委員の任期が平成31年3月31日をもって任期満了となることに伴い、識見者3人及び公募者3人の計6人について、委員を委嘱するに当たり、議会の同意を求めるものでございます。

よろしく願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第33号につきましては、会議規則第37条第3項の規定により委員会の付託を省略したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第33号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

これより議案第33号について採決いたします。

お諮りいたします。本件はこれに同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第33号は、これに同意することに決定いたしました。

◎議案第34号の上程、説明、質疑、採決

○議長（君嶋寿男君） 日程第7、議案第34号 那珂市教育委員会委員の任命についてを議題

といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 議案書7ページをお開き願います。議案第34号 那珂市教育委員会委員の任命について、下記の者を那珂市教育委員会委員に任命したいから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により、議会の同意を求めるものです。

氏名、小笠原聖華。住所、生年月日は議案書のとおりでございます。

提案理由でございますが、那珂市教育委員会の小笠原聖華委員が、平成31年3月31日付をもって任期満了となることに伴い、引き続き同委員を任命するに当たり議会の同意を求めるものでございます。

よろしく願いいたします。

○議長（君嶋寿男君） ただいま議案第34号について、地元議員を代表して推薦を申し上げたいとの申し出がありましたので、これを許します。

6番、富山 豪議員。

登壇願います。

〔6番 富山 豪君 登壇〕

○6番（富山 豪君） ただいま先崎市長から教育委員会委員に小笠原聖華氏を選任したい旨、提案がございましたが、議長のお許しをいただきましたので、僭越ではございますが、地元議員を代表いたしまして、ご推薦申し上げたいと思います。

小笠原聖華氏は昭和46年2月20日生まれ、現在48歳、瓜連にお住まいです。経歴につきましては、平成6年3月に東北大学理学部化学科を卒業後、学校法人水城高等学校において理科の教諭として教鞭を取られ、平成13年3月まで勤務なされました。同年4月実家がある社会福祉法人和順福祉会瓜連保育園に保育士として勤められ、平成19年4月には副園長に就任し、現在に至っております。

また平成28年度には、白鳥学園学校運営協議会委員に任命され、委員の一員として地域の子供たちの学力向上を図るために、瓜連小学校において放課後学習教室などの活動に携わっており、教育に対する熱意と高い志をお持ちの方です。あわせてすぐれたお人柄であるから地域の人望も厚く、教育委員として最適任であると考えております。

どうぞご理解の上、議員各位の同意をお願い申し上げます。

○議長（君嶋寿男君） これより質疑に入ります。

質疑の通告がありませんでしたので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第34号につきましては、会議規則第37条第3項の規定により委員会の付託を省略したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第34号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

これより議案第34号について採決いたします。

お諮りいたします。本件はこれに同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、議案第34号は、これに同意することに決定いたしました。

◎委員会の閉会中の継続調査申出について

○議長（君嶋寿男君） 日程第8、委員会の閉会中の継続調査申出についてを議題といたします。

会議規則第111条の規定によりお手元に配付いたしました申出書のとおり各委員長から閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りいたします。委員長から申し出のとおり閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○議長（君嶋寿男君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

◎閉会の宣告

○議長（君嶋寿男君） 以上で本会議に付議された案件は全部議了いたしました。

ここで、市長から発言の許可を求めていますので、これを許します。

市長。

〔市長 先崎 光君 登壇〕

○市長（先崎 光君） 平成31年第1回那珂市議会定例会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本定例会におきましては、平成31年度各種会計予算をはじめとする36件の議案等について、慎重なるご審議を賜り、全ての議案につきまして原案どおり可決をいただき、まことにありがとうございました。

また、各常任委員会におきましては、4日間にわたり、来年度の当初予算や各種議案につ

きまして、熱心にご審議いただき、また貴重なご意見を多数頂戴いたしました。

常任委員会の委員各位に対しましても、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。

さて、私が市長に就任して初めての議会が無事閉会を迎え、安堵をいたしております。これから約4年間、市勢の進展のため、職員ともども一丸となって精いっぱい取り組んでまいります。

本日ここに議決されました新年度予算につきましては、議員各位からいただきましたご意見やご要望について、留意をしながら適切、迅速、明朗な事務事業の執行に努めるとともに、市民生活の安全・安心の確率のため、これまで以上に力を注ぐべく、改めて決意をしているところでございます。

議員の皆様におかれましても、今後ますますご活躍されますことをご祈念申し上げますとともに、引き続き市民の皆様の声を私ども執行部にお届けいただき、ともに本市の輝かしい未来の発展ためにご尽力賜りますようお願い申し上げます、閉会のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（君嶋寿男君） これにて平成31年第1回那珂市議会定例会を閉会といたします。

20日間ご苦労さまでした。

閉会 午前10時54分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和 年 月 日

那珂市議会議長 君 嶋 寿 男

那珂市議会副議長 古 川 洋 一

那珂市議会議員 小 泉 周 司

那珂市議会議員 小 池 正 夫